

茨城県教育財団文化財調査報告第134集

(仮称)葛城地区特定土地地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書II

神田遺跡

平成10年3月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

作業室用

茨城県教育財団文化財調査報告第134集

(仮称)葛城地区特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

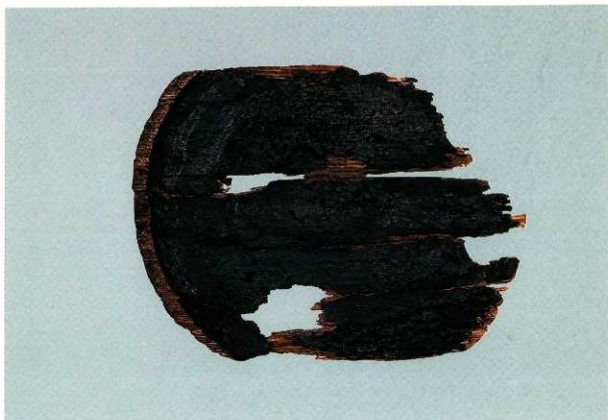
じん でん
神 田 遺 跡

平成10年3月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団



和鏡（松樹千鳥鏡）



漆器鏡筥

序

茨城県は、世界の科学技術をリードし世界に貢献する研究学園都市としてさらなる発展を期待されているつくば市において、国際交流の拠点としての国際都市にふさわしい町づくりを進めております。

新しい町づくりに欠かせない交通機関である常磐新線の整備は、つくばと東京圏を直結し、人・物・情報の交流を盛んにするだけでなく、地域活性化の大きな力になります。そこで、平成6年7月に県、市、地権者代表の三者協議が合意し、新線開発と沿線開発を一体的に進める土地区画整理事業が進められております。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県と常磐新線沿線地域の土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査事業について委託契約を結び、平成7年4月から発掘調査を実施してきました。その成果の一部は、既に「(仮称)葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」として刊行しました。

本書は、平成8年度に発掘調査を行った神田遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が、研究の資料としてはもとより、郷土史の理解を深めると共に、教育、文化の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお、発掘調査及び整理を進めるにあたり、委託者である茨城県からいただいた多大なる御協力に対し心から御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力をいただいたことに、衷心より感謝の意を表します。

平成10年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 橋本 昌

例 言

- 1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が、平成8年4月から平成9年3月まで発掘調査を実施した茨城県つくば市大字菊岡学上ノ前1,006番地に所在する神田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 神田遺跡の調査及び整理に関する当教育財団の組織は、次のとおりである。

理 事 長	橋 本 昌	平成7年4月～	
副 理 事 長	中 島 弘 光	平成7年4月～	
副 理 事 長	齋 藤 佳 郎	平成8年4月～	
常 務 理 事 長	梅 澤 秀 夫	平成8年4月～平成9年3月	
常 務 理 事	齋 藤 紀 彦	平成9年4月～	
事 務 局 長	小 林 隆 郎	平成8年4月～平成9年3月	
事 務 局 長	西 村 敏 一	平成9年4月～	
埋 蔵 文 化 財 部 長	沼 田 文 夫	平成8年4月～	
埋 蔵 文 化 財 部 長 代 理	河 野 佑 司	平成6年4月～	
企 画 管 理 課	課 長	小 幡 弘 明	平成8年4月～平成9年3月
	課 長	河 崎 孝 典	平成9年4月～
	課 長 代 理	根 本 達 夫	平成7年4月～
	課 長 代 理	清 水 薫	平成9年4月～ (平成8年4月～平成9年3月 係長)
	主 任 調 査 員	小 高 五 十 二	平成8年4月～
経 理 課	課 長	河 崎 孝 典	平成8年4月～平成9年3月
	課 長	鈴 木 三 郎	平成9年4月～
	主 査	田 所 多 佳 男	平成8年4月～
	課 長 代 理	大 高 春 夫	平成7年4月～平成9年3月
	主 任	小 池 孝 孝	平成7年4月～
	主 任	宮 本 勉	平成9年4月～
	主 任	柳 澤 松 雄	平成8年4月～平成9年3月
調 査 二 課	課 長	和 田 雄 次	平成8年4月～
	調 査 第 一 班 長	後 藤 哲 也	平成7年4月～平成9年3月
	主 任 調 査 員	長 岡 正 雄	平成8年4月～平成9年3月 調査
	主 任 調 査 員	江 幡 良 夫	平成8年4月～平成8年9月 調査
	主 任 調 査 員	菱 沼 良 幸	平成8年10月～平成9年3月 調査
整 理 課	課 長	小 泉 光 正	平成9年4月～
	首 席 調 査 員	川 井 正 一	平成8年4月～
	主 任 調 査 員	長 岡 正 雄	平成9年4月～平成10年3月 整理・執筆・編集

- 3 本書で使用した記号等については、凡例を参照されたい。
- 4 本書の作成にあたり、和鏡の鑑定については国学院大学講師青木豊氏、須惠器の年代と生産地については千代川村教育委員会の赤井博之氏に御指導を戴いた。
- 5 和鏡と鏡首の保存処理業務は財団法人岩手県文化振興事業団に委託した。
- 6 発掘調査及び整理に際して、御指導、御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。
- 7 遺跡の概略

ふりがな	(かしょう) かつらぎちくとくいてちかくせいりじぎょうちないまいぞうふんかざいちょうさほうこくしょ
書名	(仮称) 葛城地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書
副書名	神田遺跡
巻次	II
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第134集
著者名	長岡 正雄
編集機関	財団法人 茨城県教育財団
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587
発行年月日	1998 (平成10) 年3月20日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
じんてん 神田遺跡	いんかほら 茨城県つくば市大学 市間字上ノ前1,006 番地ほか	08220	36度	140度	19.5m	19960401	18,207㎡	(仮称) 葛城地区特定土地区画整理事業に伴う事前調査
		—	4分	5分	~	~		
		185	39秒	48秒	23.5m	19970331		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
神田遺跡	集落跡	旧石器		ナイフ形石器、銅片	古墳時代から平安時代の集落跡と、中世から近世の葛城が中心の複合遺跡である。調査区東側の葛城から、鎌倉時代初期の和鏡「松樹千鳥鏡」と漆器鏡首が出土している。			
		縄文	陥し穴 1基	縄文土器片、石鏃、凹石、石鏃				
		古墳	竪穴住居跡1軒	土師器、須惠器、砥石、支脚				
	奈良・平安	竪穴住居跡61軒 井戸 2基 大形竪穴状遺構 1基 竪穴状遺構 2基 埋葬施設 1基 土坑 1基	土師器、須惠器、墨書土器、灰釉陶器、土玉、紡錘車、支脚、砥石、鉄鏃、刀子、鉄弁					
葛城	中・近世	井戸 3基 土坑 22基	和鏡、鏡首、土師質土器、陶磁器片、短刀、煙管の吸い口、泥人形					
その他	不明	土坑 236基 溝 8条	土師器、須惠器、陶磁器片、砥石					

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標を原点とし、X軸=+8,680m, Y軸=+23,640mの交点を基準点(B3a1)とした。

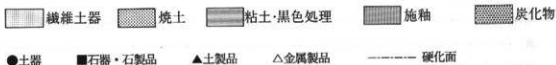
大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西、南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C……, 西から東へ1, 2, 3……とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は、北から南へa, b, c……j, 西から東へ1, 2, 3……0とし、名称は、大調査区の名称を冠し、「A1a1区」、「B2b2区」のように呼称した(第1図)。

- 2 遺構、遺物、土層に使用した記号は、次のとおりである。

遺構 住居跡-S I 溝-SD 井戸-SE 土坑-SK 埋葬施設-M
 遺物 土器-陶磁器-P 土製品-D P 石製品-Q 金属製品-M 木製品-W 拓本土器-T P
 土層 攪乱-K

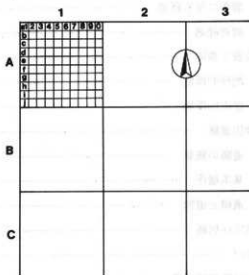
- 3 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。



- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 5 遺構・遺物実測図の作成方法及び掲載方法については、次のとおりである。

- (1) 遺跡の全体図は400分の1、竪穴住居跡、土坑は原則的に60分の1に縮尺して、掲載した。
- (2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては、個々に $S=1/\bigcirc$ と表示した。
- (3) 「主軸方向」は長軸(径)方向とし、その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 $N-10^{\circ}-E$, $N-10^{\circ}-W$)。なお、[]を付したものは推定である。
- (4) 土器の計測値は、A-口径、B-器高、C-底径、D-高台(脚)径、E-高台(脚)高、F-つまみ径、G-つまみ高とし、単位はcmである。なお、現存値は()で、推定値は[]を付して示した。
- (5) 遺物観察表の備考の欄は、土器の残存率、実測番号(P)、出土位置及び必要と思われる事項を記した。



第1図 調査区呼称方法概念図

目 次

序	
例 言	
凡 例	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	4
第3章 神田遺跡	8
第1節 遺跡の概要	8
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	10
1 竪穴住居跡	10
2 井戸	182
3 大形竪穴状遺構	192
4 竪穴状遺構	195
5 土坑	202
(1) 陥し穴	203
(2) 墓塚と考えられる土坑	203
(3) 墓塚の可能性のある土坑	206
(4) その他の土坑	211
6 埋葬施設	227
7 溝	228
8 遺構外出土遺物	230
神田遺跡遺構一覧表	236
第4節 まとめ	245

写真図版

插图 目 次

第1图	调查区称呼方法概念图	第36图	第94号住居跡実測図	50
第2图	周辺遺跡位置図	第37图	第94号住居跡出土遺物実測図	51
第3图	神田遺跡調査区割図	第38图	第95号住居跡実測図	52
第4图	調査C区基本土層図	第39图	第95号住居跡出土遺物実測図	53
第5图	第78号住居跡実測図	第40图	第96号住居跡実測図	55
第6图	第79号住居跡実測図	第41图	第96号住居跡出土遺物実測図	56
第7图	第79号住居跡出土遺物実測図	第42图	第97号住居跡実測図	57
第8图	第80号住居跡実測図	第43图	第97号住居跡出土遺物実測図	58
第9图	第80号住居跡出土遺物実測図	第44图	第98号住居跡実測図	60
第10图	第81号住居跡実測図	第45图	第98号住居跡出土遺物実測図	61
第11图	第81号住居跡出土遺物実測図	第46图	第99号住居跡実測図	63
第12图	第82号住居跡実測図	第47图	第99号住居跡出土遺物実測図	64
第13图	第82号住居跡出土遺物実測図	第48图	第100号住居跡実測図	66
第14图	第83号住居跡実測図	第49图	第100号住居跡電実測図	67
第15图	第83号住居跡出土遺物実測図	第50图	第100号住居跡出土遺物実測図(1)	68
第16图	第84号住居跡実測図	第51图	第100号住居跡出土遺物実測図(2)	69
第17图	第84号住居跡出土遺物実測図(1)	第52图	第100号住居跡出土遺物実測図(3)	70
第18图	第84号住居跡出土遺物実測図(2)	第53图	第101号住居跡実測図	73
第19图	第85号住居跡実測図	第54图	第101号住居跡出土遺物実測図	74
第20图	第85号住居跡出土遺物実測図	第55图	第102号住居跡実測図	76
第21图	第86号住居跡実測図	第56图	第102号住居跡出土遺物実測図	77
第22图	第86号住居跡出土遺物実測図	第57图	第103号住居跡実測図	79
第23图	第87号住居跡実測図	第58图	第103号住居跡出土遺物実測図	80
第24图	第87号住居跡出土遺物実測図	第59图	第104号住居跡実測図	82
第25图	第88号住居跡実測図	第60图	第104号住居跡出土遺物実測図	83
第26图	第88号住居跡出土遺物実測図	第61图	第105号住居跡実測図	85
第27图	第89号住居跡実測図	第62图	第105号住居跡出土遺物実測図	86
第28图	第89号住居跡出土遺物実測図	第63图	第106号住居跡実測図	87
第29图	第90号住居跡実測図	第64图	第106号住居跡出土遺物実測図	88
第30图	第91号住居跡実測図	第65图	第107号住居跡実測図	89
第31图	第91号住居跡出土遺物実測図	第66图	第107号住居跡出土遺物実測図	90
第32图	第92号住居跡実測図	第67图	第108号住居跡実測図	92
第33图	第92号住居跡出土遺物実測図	第68图	第108号住居跡出土遺物実測図	93
第34图	第93号住居跡実測図	第69图	第109号住居跡実測図	94
第35图	第93号住居跡出土遺物実測図	第70图	第109号住居跡出土遺物実測図	95

第71图	第110号住居跡実測図	97	第109图	第128号住居跡実測図	151
第72图	第110号住居跡出土遺物実測図	98	第110图	第128号住居跡出土遺物実測図	152
第73图	第111号住居跡出土遺物実測図	100	第111图	第130号住居跡実測図	153
第74图	第111号住居跡実測図	101	第112图	第130号住居跡出土遺物実測図	154
第75图	第112号住居跡実測図	103	第113图	第131号住居跡実測図	155
第76图	第112号住居跡出土遺物実測図	104	第114图	第131号住居跡出土遺物実測図	156
第77图	第113号住居跡実測図	106	第115图	第132-A号、第132-B号住居跡実測図	158
第78图	第114号住居跡実測図	107	第116图	第132-A号、第132-B号住居跡 出土遺物実測図	159
第79图	第114号住居跡電実測図	108	第117图	第133号住居跡実測図	162
第80图	第114号住居跡出土遺物実測図	109	第118图	第133号住居跡出土遺物実測図	163
第81图	第115号住居跡実測図	111	第119图	第134号住居跡実測図	164
第82图	第115号住居跡出土遺物実測図	112	第120图	第134号住居跡出土遺物実測図	165
第83图	第116号住居跡実測図	114	第121图	第135号住居跡実測図	167
第84图	第116号住居跡出土遺物実測図	115	第122图	第135号住居跡出土遺物実測図	168
第85图	第117号住居跡実測図	116	第123图	第136号住居跡実測図	169
第86图	第117号住居跡電実測図	117	第124图	第136号住居跡出土遺物実測図	170
第87图	第117号住居跡出土遺物実測図(1)	118	第125图	第137号住居跡実測図	172
第88图	第117号住居跡出土遺物実測図(2)	119	第126图	第137号住居跡出土遺物実測図	173
第89图	第118号住居跡実測図	122	第127图	第138号住居跡実測図	175
第90图	第118号住居跡出土遺物実測図	123	第128图	第138号住居跡出土遺物実測図(1)	176
第91图	第119号住居跡実測図	125	第129图	第138号住居跡出土遺物実測図(2)	177
第92图	第119号住居跡出土遺物実測図	126	第130图	第139号住居跡実測図	179
第93图	第120号住居跡実測図	128	第131图	第139号住居跡出土遺物実測図	180
第94图	第120号住居跡出土遺物実測図	129	第132图	第8号井戸実測図	182
第95图	第121号住居跡実測図	131	第133图	第8号井戸出土遺物実測図	183
第96图	第121号住居跡出土遺物実測図	132	第134图	第9号井戸実測図	184
第97图	第122号住居跡実測図	134	第135图	第10号井戸実測図	186
第98图	第122号住居跡出土遺物実測図	135	第136图	第10号井戸出土遺物実測図(1)	187
第99图	第123号住居跡実測図	136	第137图	第10号井戸出土遺物実測図(2)	188
第100图	第123号住居跡出土遺物実測図	137	第138图	第10号井戸出土遺物実測図(3)	189
第101图	第124号住居跡実測図	138	第139图	第11・12号井戸実測図	191
第102图	第124号住居跡出土遺物実測図	139	第140图	第12号井戸出土遺物実測図	192
第103图	第125号住居跡実測図	140	第141图	第3号大形竪穴状遺構実測図	193
第104图	第125号住居跡出土遺物実測図	141	第142图	第3号大形竪穴状遺構 出土遺物実測図	194
第105图	第126号住居跡実測図	144	第143图	第3号竪穴状遺構実測図	196
第106图	第126号住居跡出土遺物実測図	145	第144图	第4号竪穴状遺構実測図	197
第107图	第127号住居跡実測図	147			
第108图	第127号住居跡出土遺物実測図	148			

第145図	第4号竪穴状遺構 出土遺物実測図(1)	198	第165図	その他の土坑実測図(3)	214
第146図	第4号竪穴状遺構 出土遺物実測図(2)	199	第166図	その他の土坑実測図(4)	215
第147図	第4号竪穴状遺構 出土遺物実測図(3)	200	第167図	その他の土坑実測図(5)	216
第148図	第1号陥し穴実測図	203	第168図	その他の土坑実測図(6)	217
第149図	第605号土坑実測図	204	第169図	その他の土坑実測図(7)	218
第150図	第605号土坑出土遺物実測図	204	第170図	その他の土坑実測図(8)	219
第151図	第453号土坑実測図	205	第171図	その他の土坑実測図(9)	220
第152図	第453号土坑出土遺物実測図	205	第172図	その他の土坑実測図(10)	221
第153図	第497号土坑実測図	206	第173図	その他の土坑実測図(11)	222
第154図	第497号土坑出土遺物実測図	206	第174図	その他の土坑実測図(12)	223
第155図	第589号土坑実測図	207	第175図	その他の土坑実測図(13)	224
第156図	第590号土坑実測図	207	第176図	その他の土坑実測図(14)	225
第157図	第591号土坑実測図	208	第177図	第370・555号土坑出土遺物実測図	226
第158図	第597号土坑実測図	208	第178図	第1号埋葬施設実測図	227
第159図	第600号土坑実測図	208	第179図	第1号埋葬施設出土遺物実測図	228
第160図	第604号土坑実測図	209	第180図	第21～28号溝土層断面図	229
第161図	第492号土坑実測図	209	第181図	遺構外出土遺物実測図(1)	230
第162図	墓塚の可能性のある その他の土坑実測図	210	第182図	遺構外出土遺物実測図(2)	231
第163図	その他の土坑実測図(1)	212	第183図	遺構外出土遺物実測図(3)	232
第164図	その他の土坑実測図(2)	213	第184図	遺構外出土遺物実測図(4)	233
			第185図	時期別住居跡配置図(1)	248
			第186図	時期別住居跡配置図(2)	249
			付図	神田遺跡全体図	

表 目 次

表1	周辺遺跡一覧表	6	表7	墓塚と考えられる土坑一覧表	238
表2	住居跡一覧表	236	表8	墓塚の可能性のある土坑一覧表	238
表3	井戸一覧表	237	表9	その他の土坑一覧表	239
表4	大形竪穴状遺構一覧表	237	表10	埋葬施設一覧表	244
表5	竪穴状遺構一覧表	238	表11	溝一覧表	244
表6	陥し穴一覧表	238			

写真図版目次

- PL 1 神田遺跡遠景, 神田遺跡全景
- PL 2 遺構確認状況 (北側, 南側), 第78号住居跡
- PL 3 第79・80号住居跡, 第80号住居跡電遺物出土状況
- PL 4 第83・84・85号住居跡
- PL 5 第86・87・88号住居跡, 第88号住居跡電
- PL 6 第89号住居跡, 第89号住居跡電, 第90号住居跡
- PL 7 第90号住居跡出入り口施設, 第91・92号住居跡
- PL 8 第92号住居跡電, 第93号住居跡電遺物出土状況, 第95号住居跡
- PL 9 第97・98・99号住居跡
- PL10 第100号住居跡, 第100号住居跡遺物出土状況, 第100号住居跡電遺物出土状況
- PL11 第101号住居跡, 第101号住居跡電遺物出土状況, 第101号住居跡電
- PL12 第102・103・104号住居跡
- PL13 第105・106号住居跡, 第107号住居跡電遺物出土状況
- PL14 第108号住居跡, 第108号住居跡電遺物出土状況, 第109号住居跡
- PL15 第110・111・112号住居跡
- PL16 第112号住居跡電遺物出土状況, 第113・114号住居跡
- PL17 第115号住居跡, 第115号住居跡電遺物出土状況, 第116~119号住居跡
- PL18 第117号住居跡, 第117号住居跡電, 第118号住居跡遺物出土状況
- PL19 第119号住居跡, 第119号住居跡電遺物出土状況, 第120号住居跡
- PL20 第121号住居跡, 第121号住居跡電, 第122号住居跡
- PL21 第122・123・124・125号住居跡
- PL22 第125号住居跡電遺物出土状況, 第126・139号住居跡
- PL23 第127号住居跡, 第127号住居跡電遺物出土状況, 第128号住居跡
- PL24 第128号住居跡電, 第130・131号住居跡
- PL25 第132-A・B号住居跡, 第132-B号住居跡電, 第133号住居跡
- PL26 第134・135・136号住居跡
- PL27 第136号住居跡遺物出土状況, 第137号住居跡, 第137号住居跡電
- PL28 第138号住居跡, 第138号住居跡電, 第139号住居跡
- PL29 第453号土坑, 第453号土坑遺物出土状況
- PL30 第453号土坑遺物出土状況
- PL31 第8・9・10号井戸, 第4号竪穴状遺構, 第10号井戸遺物出土状況, 第3号大形竪穴状遺構, 第3号竪穴状遺構, 第4号竪穴状遺構遺物出土状況
- PL32 第4号竪穴状遺構, 第10号井戸, 第491・492・493・495・496号土坑, 第497号土坑遺物出土状況
- PL33 第497号土坑遺物出土状況, 第501・589・590・591・592・593・594号土坑
- PL34 第595・597・598・600・602・604・605号土坑, 第605号土坑遺物出土状況, 第606号土坑
- PL35 第589~591・598号土坑, 第609号土坑土層断面, 第609号土坑, 第562~580号土坑, 第1号埋葬施設遺物出土状況, 第1号埋葬施設土層断面
- PL36 第22号溝 (南側, 北側), 第21・23・27・28号溝
- PL37 第79~81・83・84号住居跡出土遺物
- PL38 第84・85号住居跡出土遺物
- PL39 第86~88号住居跡出土遺物
- PL40 第89・91~93号住居跡出土遺物
- PL41 第92・94~98号住居跡出土遺物
- PL42 第98~100号住居跡出土遺物
- PL43 第100号住居跡出土遺物
- PL44 第100~102号住居跡出土遺物

- PL45 第103~107号住居跡出土遺物
- PL46 第107・109・110・112号住居跡出土遺物
- PL47 第110・112・114号住居跡出土遺物
- PL48 第115~118号住居跡出土遺物
- PL49 第118・119号住居跡出土遺物
- PL50 第120~124号住居跡出土遺物
- PL51 第123~126号住居跡出土遺物
- PL52 第126~128号住居跡出土遺物
- PL53 第127・128・130~132-A・B号住居跡出土遺物
- PL54 第132-A・B・133・135~138号住居跡出土遺物
- PL55 第137~139号住居跡出土遺物
- PL56 第138・139号住居跡, 第10号井戸出土遺物
- PL57 第10号井戸出土遺物
- PL58 第10号井戸, 第3号大形竪穴状遺構, 第4号竪穴状遺構出土遺物
- PL59 第4号竪穴状遺構, 第370号土坑出土遺物
- PL60 第4号竪穴状遺構, 第1号埋葬施設, 遺構外出土遺物
- PL61 出土石器, 出土石製品
- PL62 出土石製品, 出土土製品
- PL63 出土土製品, 出土金屬製品
- PL64 出土金屬製品, 出土木製品
- PL65 出土金屬製品, 遺構外出土遺物

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経過

茨城県では、世界に開かれた国際交流の中心、世界の科学技術をリードする研究開発の拠点として、21世紀の新しい町づくりをつくば市において進めている。その一環として取り組んでいるのが、西暦2005年開業をめざしている常磐新線の建設とそれに伴う沿線開発である。

当遺跡のある葛城地区については、平成6年8月18日、茨城県知事が茨城県教育委員会あてに、常磐新線沿線地域の土地区画整理事業地域内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これに対して茨城県教育委員会は平成6年9月19日から27日にかけて現地踏査を行い、埋蔵文化財の存在を確認した。平成7年3月8日、茨城県教育委員会から茨城県知事あてに、常磐新線沿線地域の土地区画整理事業地域内に神田遺跡（葛城地区）が所在する旨回答した。平成8年2月5日、茨城県知事から茨城県教育委員会あてに、平成8年度の葛城特定土地区画整理事業に係る神田遺跡（18,207㎡）の取り扱いについて協議があり、文化財保護の立場から再三協議を行った。その結果、平成8年2月9日、茨城県教育委員会から茨城県知事あてに、神田遺跡を記録保存とする旨回答があった。埋蔵文化財の調査機関として、引き続き財団法人茨城県教育財団を紹介した。

そこで、茨城県から財団法人茨城県教育財団に神田遺跡の発掘調査の依頼があり、発掘調査について協議を行った結果、茨城県と神田遺跡の埋蔵文化財発掘調査の委託契約を結び、平成8年4月1日から発掘調査を開始することとなった。そして、財団法人茨城県教育財団は、平成7年度にはA区とB区、平成8年度にはC区の発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

神田遺跡C区の発掘調査を平成8年4月1日から平成9年3月31日までの1年間にわたって実施した。以下、調査経過について、その概要を記述する。

- 4月 発掘調査を開始するための諸準備を行う。5日に調査区内の現地踏査を行う。16日、18日に調査器材の搬入を行う。24日に茨城県土木部都市局都市整備課、茨城県つくば都市整備局、茨城県南都市建設事務所と平成8年度埋蔵文化財発掘調査打ち合わせ会議を開く。
- 5月 7日に県南都市建設事務所と境界杭の立ち会い確認を行う。9日に補助員を投入して現場作業を開始する。13日から人力による栗畑の伐採と調査C区（第2図）の試掘を開始した。
- 6月 3日に試掘を終了し、調査区の南東部分から人力による表土除去及び遺構確認作業を行う。5日から重機による昨年度の排土運搬作業、10日から表土除去を開始し、引き続き遺構確認作業を行う。
- 7月 16日に茨城県建設技術公社による方眼杭打ち測量を行う。18日に表土除去と遺構確認作業が終了し、竪穴住居跡66軒、土坑500基、溝28条、掘立柱建物跡3棟を確認した。19日から調査区北側の住居跡の遺構調査を開始する。
- 8月 引き続き遺構調査を行い、31日までに竪穴住居跡5軒、土坑1基、火葬基1基の遺構調査を終了した。降雨が少なく、土壌が粘土質のため、調査に困難を極めた。

- 9月 引き続き遺構調査を行い、30日までに竪穴住居跡6軒の遺構調査を終了した。
- 10月 降雨が少なく、乾きやすい土壌のため、堅くなった粘土を掘り込むことが困難であったが、竪穴住居跡19軒、土坑96基、井戸1基の遺構調査を終了した。
- 11月 引き続き遺構調査を行い、竪穴住居跡3軒、土坑5基、溝4条の遺構調査を終了した。
- 12月 継続して遺構調査を行い、竪穴住居跡9軒、土坑2基、テストピットの遺構調査を終了した。
- 1月 継続して遺構調査を行い、竪穴住居跡12軒、土坑1基の遺構調査を終了した。季節風の影響で土埃が舞い上がることが多く、補助員の健康管理だけでなく、遺構の安全対策にも苦慮することが多かった。
- 2月 17日に千代川村教育委員会の赤井博之氏を招聘して、班内研修会を開く。28日までに竪穴住居跡5軒、井戸3基、土坑2基の遺構調査を終了した。
- 3月 11日に委託者への報告会を行う。13日に航空写真撮影を実施し、午後から報道関係者への公開を行った。14日までに土坑39基、井戸2基の遺構調査を終了した。16日に現地説明会を開催し、遺構、遺物を一般に公開した。17日から補足調査として竪穴住居跡の竈の調査を実施し、並行して安全対策のために、人力による埋め戻し作業を行った。18日に出土遺物を整理センター園田分館に搬出する。19日に事務所と休憩所と倉庫等の整理を行い、現地調査を終了した。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

神田遺跡は、茨城県つくば市大字苧間字上ノ前1,006番地ほかに所在し、常磐自動車道・桜土浦インターチェンジの西北西約6.2kmの地点に位置している。

遺跡の所在するつくば市は、茨城県の南西部に位置し、北は真壁郡明野町、同郡真壁町、新治郡八郷町に、東は新治郡新治村、土浦市に、南は牛久市、稲敷郡笠崎町、筑波郡伊奈町、同郡谷和原村に、西は水海道市、結城郡石下町、同郡千代川村、下妻市に接している。

つくば市は、昭和62年11月に、筑波郡谷田部町、同郡豊里町、同郡大穂町、新治郡桜村が合併し誕生したが、その後、昭和63年1月には筑波郡筑波町が編入された。市域は、東西が約14km、南北が約25km、面積は約259.5km²であり、人口157,112人(平成9年4月1日現在)を擁している。なお、当遺跡は旧谷田部町に属していた。この地域は昔から自然に恵まれ、産業の中心も主に農業であったが、昭和40年代以降「研究学園都市」として、国際的な研究機関の中心としての大きな発展を遂げ、現在も常磐新線や周辺地域の開発と整備が進められ、首都圏との結びつきはますます強くなっている。

つくば市は、市の南東端から東方約5kmには霞ヶ浦が、北端には筑波山がそびえており、この地域一帯は水郷筑波国立公園に指定されている、風光明媚な場所として知られている。地形的には、北東部に筑波山塊の南西端が接し、その山塊の端を西茨城郡岩瀬町高峯南麓の鏡が池を水源とする桜川が、南下して霞ヶ浦へと注いでいる。また、市の西端を栃木県那須郡那須町を水源とする小貝川がほぼ南下し、利根川に合流して太平洋へと流入する。この両河川に挟まれた平坦な台地は、筑波・稲敷台地と呼ばれている。

筑波・稲敷台地は、千葉県北部から茨城県南部に広がる常総台地の一部であるが、地質的には、新生代第四期洪積世に作られた地層が見られる。下層は竜ヶ崎層と呼ばれる砂層・砂礫層が主体をなし、その上に板橋層または常総粘土層と呼ばれる灰白色粘土層(0.3~0.5m)、その上に関東ローム層(0.5~2.5m)が堆積し、最上部は腐植土層となっている。特に、関東ローム層全体から見ると、新期ロームに属し、武蔵野ローム、立川ローム、宝木ローム、田原ロームなどが堆積しており、軽石層の分布をみると、富士・箱根火山群の活動に由来するものと考えられる。

神田遺跡は、つくば市の中央部や南側に位置し、つくば市立葛城小学校から北西に約300m離れた、東谷田川の支流である蓮沼川の左岸の、支谷を望む標高19.5~23.5mの台地上に立地している。今回調査した調査C区は平坦な地形ではあるが、南側から北側に向かって緩やかに傾斜している。

当遺跡周辺の土地利用の現状は、主として宅地、畑地、一部の平地林となっており、蓮沼川流域の沖積低地は水田として利用されている。遺跡の現況は芝や麦作の畑地と栗林であった。

参考文献

- ・大山年次、蜂須紀夫「茨城県 地学のガイド」 1977年8月
- ・蜂須紀夫、大森昌衛「茨城の地質をめぐって」 1979年9月

第2節 歴史的環境

つくば市には、縄文時代から近世にかけての遺跡が数多く存在している。桜川、小貝川をはじめとした河川に挟まれた台地上は、古代から人々が生活を営む場としては絶好の舞台となってきたようである。ここでは、神田遺跡周辺の主な遺跡(第3図)について、すでに確認されている遺跡をもとに、時代を追って述べることにする。また、調査が行われていない遺跡については、時期を特定していない。

神田遺跡の所在する葛城地区周辺(つくば市旧谷田部地区北東部から隣接地域にかけて)では、西側の西谷田川、東谷田川、その支流である蓮沼川、東側の花室川、桜川などの流域に、数多くの遺跡が確認されている。ここ葛城地区でも昔から土器片や石鏃が出土することが伝えられている。

旧石器時代の遺跡はまだ確認されていないが、旧大隈町の¹¹¹前野遺跡、¹¹²大砂遺跡からは尖頭器が、旧豊里町の¹¹³大境遺跡からは尖頭器、ナイフ形石器などが、旧桜村の¹¹⁴柴崎遺跡〈7〉と旧筑波町の¹¹⁵中谷遺跡からはナイフ形石器などが、新治村の¹¹⁶高岡根遺跡から尖頭器が採集されている。いずれも表採や表土中から出土した資料であり、今後の調査が待たれる。

縄文時代になると、各河川流域で遺跡の存在が確認されている。花室川、桜川流域には、¹¹⁷台坪才十郎遺跡(中期)〈3〉、¹¹⁸大山遺跡(早期)〈4〉、¹¹⁹天神遺跡(中期)〈6〉、¹²⁰柴崎遺跡(早期～前期、後期)などが確認されている。また、西谷田川と東谷田川流域では、旧豊里地区に大境遺跡(前期～中期)、¹²¹八ヶ代遺跡(中期)〈14〉、¹²²酒丸遺跡(中期)〈15〉などが、また、旧谷田部地区においては¹²³福田遺跡(中期～後期)〈24〉、¹²⁴吉成井遺跡(中期)〈25〉、¹²⁵境松遺跡(前期～中期)〈31〉、小野川上流の¹²⁶小野崎遺跡(早期、中期)〈30〉などが確認されているが、埋没した遺跡やまだ学術調査が行われていない遺跡も多い。

弥生時代の遺跡は、あまり確認されていないのが現状である。桜川左岸の中台遺跡において後期後半の竪穴住居跡が確認され、花室川左岸の¹²⁷西坪遺跡〈10〉や西谷田川左岸の¹²⁸高山遺跡などで弥生土器の壺が出土している。

この地域で一番数多く確認されているのが、古墳時代の遺跡である。花室川、桜川流域では、¹²⁹玉取古墳群〈2〉、¹³⁰大山遺跡、¹³¹天神塚古墳〈5〉、¹³²天神遺跡、¹³³柴崎遺跡、¹³⁴西坪遺跡、¹³⁵倉掛遺跡〈13〉などがある。次に西谷田川と東谷田川流域では、旧谷田部地区が特に多く、古墳約300基が確認されており、¹³⁶高野古墳群〈16〉、¹³⁷高田遺跡〈17〉、¹³⁸関の古墳群〈18〉、¹³⁹馬名熊の山古墳群〈19〉、¹⁴⁰熊の山遺跡〈20〉、¹⁴¹薬師遺跡〈21〉、¹⁴²水船遺跡〈22〉、¹⁴³柳崎遺跡〈23〉、¹⁴⁴六千白遺跡〈26〉、¹⁴⁵河間遺跡〈27〉、¹⁴⁶河間古墳〈28〉、¹⁴⁷ツバタ遺跡〈32〉、¹⁴⁸高山古墳群〈33〉などがある。これらの遺跡の古墳は、ほとんどが小円墳を中心に構成されている。

奈良・平安時代になると、律令制度の確立に伴い、葛城地区は河内郡菅田郷に所属するようになり、のち12世紀後半にかけて、大井庄、続いて田中庄と呼ばれることになる。この時代の遺跡としては、確認されているものも少ないが、花室川と桜川流域の¹⁴⁹柴崎遺跡、¹⁵⁰九重庵寺跡〈9〉、¹⁵¹上ノ室桑皇遺跡、東谷田川流域の熊の山遺跡、¹⁵²薬師遺跡などがあげられる。また、手代木地区において、奈良時代の古瓦(鯉瓦)が出土しており、今後の調査研究が待たれるところである。

中世の遺跡としては、ほとんどが城館跡になる。鎌倉幕府の成立後、小田氏の支配下となった近隣一帯には、多くの城が築かれた。方應氏の¹⁵³方應故城跡〈1〉、沼尻氏の¹⁵⁴金田城跡〈8〉、大津氏の花室城跡〈11〉、吉原氏の上ノ室城跡〈12〉、平井手氏の¹⁵⁵面野井城跡、荒井氏の¹⁵⁶小野崎館跡〈29〉などが確認されている。特に注目したいのは、当遺跡の隣に位置していたとされる、野中瀬氏の¹⁵⁷河間城跡である。野中瀬氏は古河公方の旗本柳橋豊前守の妹婿であり、小田氏の忠臣として活躍したが、天承2年(1574)、小田氏滅亡の時、小田父子を追っ

て最後を遂げた。刈間城はその後に廃城となり、今でも土塁と思われる跡が残っている。当遺跡の平成7年度の調査でも城に関連していると思われる掘立柱建物跡と堀が確認されている。

参考文献

- ・茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 1990年3月
- ・城泉嶺『筑波郡郷土史 全(復刻版)』賢美閣 1979年12月
- ・谷田部の歴史編さん委員会『谷田部の歴史』谷田部町教育委員会 1975年9月
- ・大野慎『葛城の郷土史』常総史談会 1977年3月
- ・桜村史編さん委員会『桜村史 上巻』桜村教育委員会 1982年3月
- ・大徳町史編纂委員会『大徳町史』つくば市大徳地区教育事務所 1989年3月
- ・豊里町史編纂委員会『豊里の歴史』豊里町 1985年3月
- ・中山信名『新編常陸國誌』嶺書房 1978年12月
- ・茨城県教育財団『科学博関連道路谷田部野線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 ツバタ遺跡高山古墳群』『茨城県教育財団文化財調査報告第22集』 1983年3月
- ・茨城県教育財団『研究学園都市計画手子生工業団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書 大境遺跡』『茨城県教育財団文化財調査報告第34集』 1986年3月
- ・茨城県教育財団『研究学園都市計画大砂工業団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書 大久保A遺跡 大久保B遺跡』『茨城県教育財団文化財調査報告第37集』 1986年3月
- ・茨城県教育財団『主要地方道取手筑波線道路改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書 境松遺跡』『茨城県教育財団文化財調査報告第41集』 1987年3月
- ・茨城県教育財団『研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(IV) 柴崎遺跡』『茨城県教育財団文化財調査報告第93集』 1994年9月
- ・茨城県教育財団『(仮称)北条住宅団地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書 中台遺跡』『茨城県教育財団文化財調査報告第102集』 1995年12月

表1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	県遺跡 番号	時代					番号	遺跡名	県遺跡 番号	時代					
			旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 ・ 平				中 ・ 近 世	旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 ・ 平
◎	神田遺跡	5841		○		○	○	17	高田遺跡	2920				○		
1	方穂故城	5866					○	18	関の台古墳群	2112				○		
2	玉取古墳群	2163				○		19	島名熊の山古墳群	2120				○		
3	台坪才十郎遺跡	2876		○				20	熊の山遺跡					○	○	○
4	大山遺跡	2877		○		○		21	葉節遺跡	2105				○		○
5	天神塚古墳	2088				○		22	水堀遺跡	5838				○		
6	天神遺跡	2878		○		○		23	柳橋遺跡	5839				○		
7	柴崎遺跡	2897	○	○		○	○	24	福田遺跡	2099		○				
8	金田城跡	2891					○	25	台成井遺跡	2910		○				
9	九重麿寺跡	2890					○	26	六十目遺跡	5842				○		
10	西坪遺跡	2085			○	○		27	苅間遺跡	2917				○		
11	花室城跡	2893					○	28	苅間古墳	2922				○		
12	上ノ室城跡	2892					○	29	小野崎館跡	2913						○
13	倉掛遺跡	2886				○		30	小野崎遺跡	2918		○		○		
14	八ヶ代遺跡	2938		○		○		31	境松遺跡	2098		○	○	○		
15	酒丸遺跡	2939		○				32	ツバタ遺跡	2906				○		
16	高野古墳群	2142				○		33	高山古墳群	2114				○		

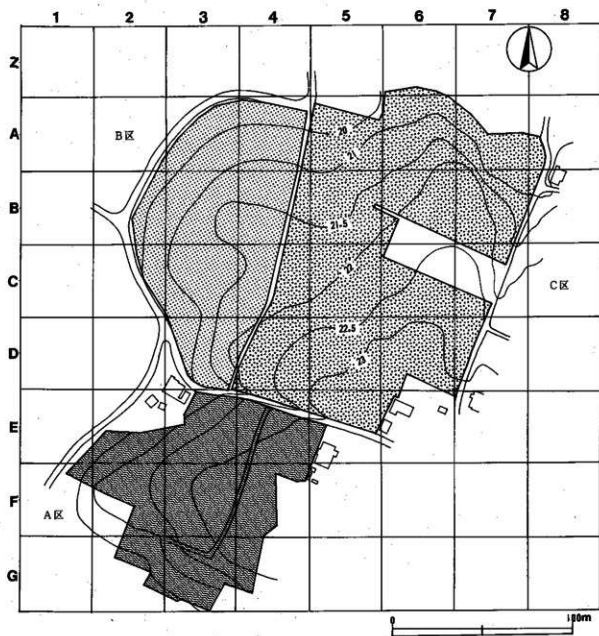


第2図 周辺遺跡位置図

第3章 神田遺跡

第1節 遺跡の概要

神田遺跡は、つくば市の中央部やや南、運沼川左岸の標高19.5～23.5mの台地上に位置している。調査区は、南北に約185m、東西に約120m、面積18,207㎡である。現況は畑地と平地林であり、畑地は主に芝畑と麦畑として利用されていた。調査区の南側を市道が通り、今回調査したC区は、平成7年度に調査した調査B区の東側にあたる。



第3図 神田遺跡調査区割図

今回の調査によって、竪穴住居跡62軒、井戸5基、大形竪穴状遺構1基、竪穴状遺構2基、土坑260基、溝8条、埋葬施設1基を確認した。このうち縄文時代の遺構は、調査区の北側で陥し穴1基が確認され、遺跡付近は狩猟の場として利用されていたと考えられる。古墳時代から平安時代の遺構は、竪穴住居跡62軒が確認され、ほとんどが竪を持って、調査区の東側に集中している。当時は多数の住居が繰り返し構築され、集落が形成されていたものとみられる。土坑は調査区の全域で中世以降のものが多く確認され、特に調査区北側の溝付近と調査区西側の長方形の土坑群は墓域として使用されていたものと思われる。また、溝は覆土が薄く、出土遺物がほとんどないことから、性格や時期は不明である。

遺物は、遺物収納箱(60×40×20cm)に103箱出土している。遺物の大部分は奈良時代から平安時代にかけての土器類、須恵器である。中近世の墓塚に関する遺物は、和鏡(松樹千鳥鏡)、漆器鏡筒、短刀、煙管の吸い口等が出土している。その他の遺物としては、銅片、縄文土器片、石鏡、墨書土器、灰釉陶器、土玉、紡錘車、支脚、磁石、鉄鏡、刀子、鉄斧、土師質土器、陶磁器片等が出土している。

第2節 基本層序

調査区内にテストピットを設定し、深さ2.0mまで掘り下げ、第4図に示すような土層の堆積状況を確認した。

第1層は、26~41cmの厚さの耕作土層で、黒褐色をしている。

第2層は、17~47cmの厚さで、暗褐色をしたソフトローム層である。

第3層は、6~33cmの厚さで、ローム中・小ブロックを中量含む、黒褐色をした黒色帯である。

第4層は、6~26cmの厚さで、暗褐色をしたハードローム層である。

第5層は、8~20cmの厚さで、黒色スコリアを多量に含む、褐色をした粘土層である。

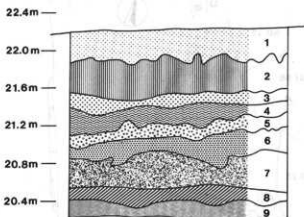
第6層は、10~38cmの厚さで、にぶい黄褐色をした粘土層である。

第7層は、16~43cmの厚さで、オリーブ黄色をした粘土層である。

第8層は、8~21cmの厚さで、砂混じりの明黄褐色をした粘土層である。

第9層は、9~20cmの厚さで、砂質を多量に含むにぶい黄褐色をした粘土層である。

住居跡などの遺構は、第2層上面で確認され、第2層から第3層にかけて掘り込まれている。



第4図 調査C区基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

当遺跡の竪穴住居跡は、古墳時代から平安時代に至るもので、重複や建て替えの住居跡も含み、62軒を検出した。以下、検出された竪穴住居跡の特徴や出土遺物について記載する。なお、遺構番号は平成7年度調査からの継続番号とした。

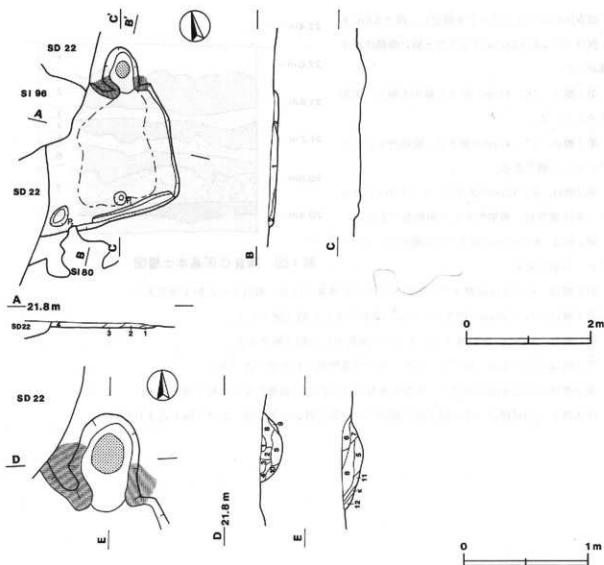
第78号住居跡 (第5図)

位置 調査区北東部, B7h7区。

重複関係 本跡は、第80・96号住居跡, 第22号溝と重複している。第80・96号住居跡, 第22号溝が本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸(2.37 m), 短軸2.25mの長方形と推定される。

主軸方向 N-0°



第5図 第78号住居跡実測図

壁 壁高は8~12cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南壁下の一部で確認した。上幅12~21cm, 下幅5~13cm, 深さ1~2cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、南壁付近から電手前まで踏み固められている。

竈 北壁の北東コーナー部寄りに、砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。東側の袖部は、北東コーナー部を利用して、粘土で作られている。規模は、煙道部から焚き口部まで78cm, 最大幅91cm, 壁外への掘り込みは55cmである。火床部は床面を11cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

- | | |
|---|--|
| 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 極暗褐色 砂中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量 |
| 2 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 砂微量 | 8 極暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量 |
| 4 極暗褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 10 暗赤褐色 焼土中ブロック中量, 焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 5 極暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土大・中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 11 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土中・小ブロック少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 6 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 12 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 |

ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₁は径22cmの円形, P₂は長径38cm, 短径24cmの楕円形で、いずれも深さ3~6cmで、性格は不明である。

覆土 4層からなり、不自然な堆積の状況がみられることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子中量, 砂少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子中量, 焼土中ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片24点, 須恵器片8点が出土している。覆土が浅かったことから、遺物が少なく、ほとんどが細片である。

所見 時期は、出土遺物と9世紀後葉の第96号住居跡との重複から、本跡は平安時代の9世紀後葉以前のもので考えられる。

第79号住居跡 (第6図)

位置 調査区北東部, B7h区。

重複関係 本跡は、第80号住居跡, 第22号溝と重複している。第80号住居跡, 第22号溝が本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸2.85m, 短軸(1.50)mで、方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は20cmほどで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南壁下と西壁下の一部で確認した。上幅[11~24]cm, 下幅[3~10]cm, 深さ[3~5]cmで、断面形はU字状と推定される。

床 平坦で、南壁付近から電手前にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、東側袖部は第22号溝によって掘り込まれているが、西側袖部は残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで94cm, 最大幅(85)cm, 壁外への掘り込みは39cmである。火床部は床面を3cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変しているが、

あまり硬化していない。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック少量
 4 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、焼土大・中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、粘土粒子微量
 5 黒褐色 焼土粒子中量、焼土大・小ブロック・ローム粒子少量
 3 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量

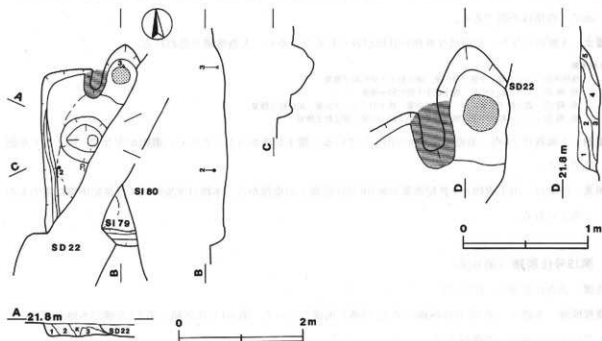
ピット 1か所 (P₁)。P₁は長径80cm、短径74cmの楕円形、深さ38cmで、性格は不明である。

覆土 3層からなり、不自然な堆積の状況がみられることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
 2 灰褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
 3 黒褐色 ローム粒子・粘土小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

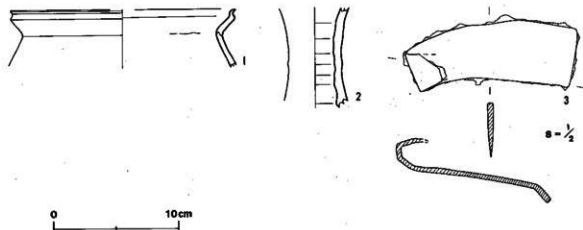
遺物 土師器片166点、須恵器片78点、鎌1点、および混入した陶器片5点が出土している。1の土師器小形壺が覆土中から、2の須恵器長頸瓶が西壁寄りの覆土中層から、3の鎌が竈内からそれぞれ出土している。
 所見 時期は、出土遺物と9世紀後葉の第80号住居跡との重複から、本跡は9世紀後葉以前の平安時代前期と考えられる。



第6図 第79号住居跡実測図

第79号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第7図 1	小形壺 土師器	A [17.9] B (4.5)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反し、唇部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 砂粒 褐色 普通	5% P5 覆土中
2	長頸瓶 須恵器	B (8.1)	頸部の破片。頸部はわずかに外反して立ち上がる。内面には強いロクロ目が残る。	頸部内・外面ロクロナデ。	長石 砂粒 緻密 黄灰色 良好	5% P7 覆土中層



第7図 第79号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第7図3	鉄 鏃	(9.6)	(3.4)	(0.3)	(37)	堀内	M1

第80号住居跡 (第8図)

位置 調査区北東部, B7h7区。

重複関係 本跡は, 第78・79号住居跡, 第22号溝と重複している。本跡は第22号溝に掘り込まれ, 第78・79号住居跡を掘り込んでいることから, 本跡は第22号溝より古く, 第78・79号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸3.95m, 短軸3.87mの方形である。

主軸方向 N-13°-W

壁 壁高は10~14cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 第22号溝に掘り込まれた北西コーナー部は確認できないが, ほぼ全周していると推定される。上幅 [10~37] cm, 下幅 [4~17] cm, 深さ [4~9] cmで, 断面形はU字状と推定される。

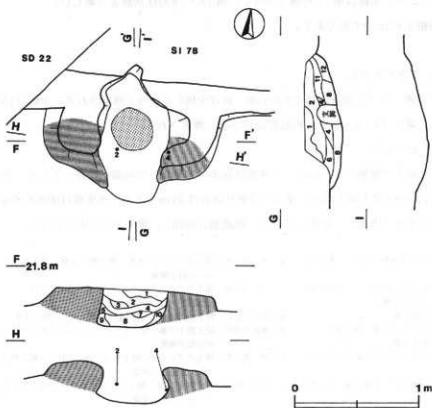
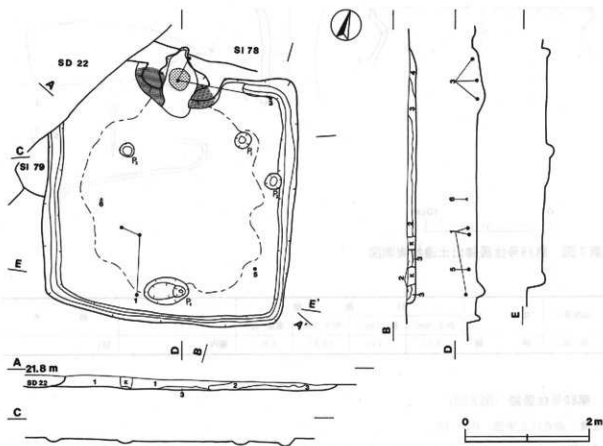
床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで110cm, 最大幅143cm, 壁外への掘り込みは35cmである。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変し, 硬化している。煙道部は外傾し, 緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|---|---|
| 1 暗褐色 砂中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 赤褐色 焼土大ブロック多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 粘土粒子多量, 砂中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子・砂少量 | 9 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土大ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量 | 10 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 極暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 11 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂少量, 炭化粒子微量 | 12 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土大・中ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子微量 |

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₄は長径73cm, 短径44cmの楕円形で, 深さ14cmの出入り口施設に伴うピットである。P₁~P₃は径25~28cmの円形で, いずれも深さは4~7cmで, 性格は不明である。



第 8 图 第 80 号住居跡実測図

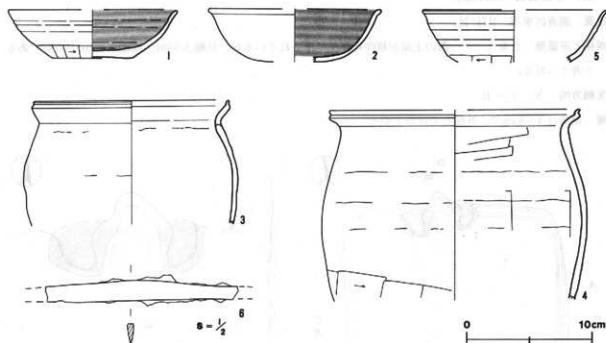
覆土 4層からなり、不自然な堆積の状況がみられることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
4 暗赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量、焼土中ブロック・炭化粒子微量

遺物 土師器片110点、須恵器片19点、刀子1点、角釘1点、土製支脚1点が出土している。ほとんどの遺物が竈内と南壁寄りに集中している。1の土師器坏が南壁寄りの覆土中層から、2の土師器坏、4の土師器甕が竈内から、3の土師器甕が竈内と竈東側の床面直上から、5の須恵器坏が東壁寄りの覆土中層から、6の刀子が西壁寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 電袖部の中や袖部の脇から遺物が出土していることから、それらは竈の補強材として使用されていたと考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後半と考えられる。



第9図 第80号住居跡出土遺物実測図

第80号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第9図 1	坏 土師器	A [13.6] B 3.9 C 6.2	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部は磨減のため不明。	長石 雲母 砂粒 にふい黄褐色 普通	70% P8 内面黒色処理 覆土中層
2	坏 土師器	A [13.9] B (4.2) C [6.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	30% P9 内面黒色処理 竈内
3	甕 土師器	A 15.6 B (9.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	30% P11 二次焼成 竈内 床面直上

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第9図 4	甕 土師器	A [20.0] B (15.3)	体部から口縁部の破片。体部は内筒気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナド。体部外面中位へラ削り。内面へラナド。輪襖み痕有り。	長石 雲母 砂粒 により褐色 普通	25% P12 覆内
5	坏 須恵器	A [14.6] B (4.2)	体部から口縁部の破片。体部は内筒気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナド。体部下端手持ちへラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 により褐色 普通	30% P10 覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
6	刀子	(10.3)	(1.1)	(0.3)	(11)	覆土中層	M2

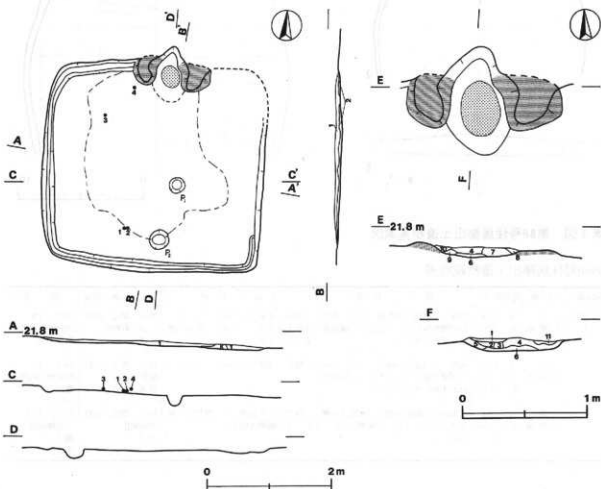
第81号住居跡 (第10図)

位置 調査区東部, B7j7区。

規模と平面形 北東コーナー部の上面が耕作により削平されているが, 長軸3.55m, 短軸3.38mの方形であると考えられる。

主軸方向 N-1°-E

壁 壁高は4~6cmで, 外傾して立ち上がる。



第10図 第81号住居跡実測図

壁溝 南東コーナー部から北壁下の西側にかけて半周している。上幅14~21cm, 下幅4~10cm, 深さ3~4cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、出入口施設から電手前にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで96cm, 最大幅125cm, 壁外への掘り込みは28cmである。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部は外傾し、立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 極暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 7 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 3 極暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 | 8 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 9 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 5 極暗褐色 焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム | 10 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子微量 |
| | 11 極暗褐色 炭化粒子・ローム粒子微量 |

ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₂は径32cmの円形で、深さ16cmの出入口施設に伴うピットである。P₁は径26cmの円形, 深さ16cmで、性格は不明である。

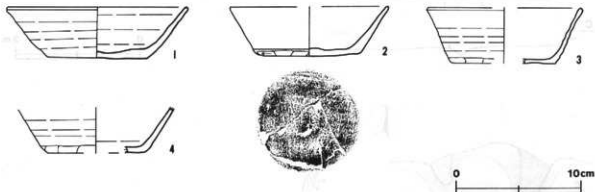
覆土 2層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|--|---|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック微量 | 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量 |
|--|---|

遺物 土師器片14点, 須恵器片15点が出土している。1, 2の須恵器環が南壁寄りの覆土下層から, 3, 4の須恵器環が電手前西側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀後半と考えられる。



第11図 第81号住居跡出土遺物実測図

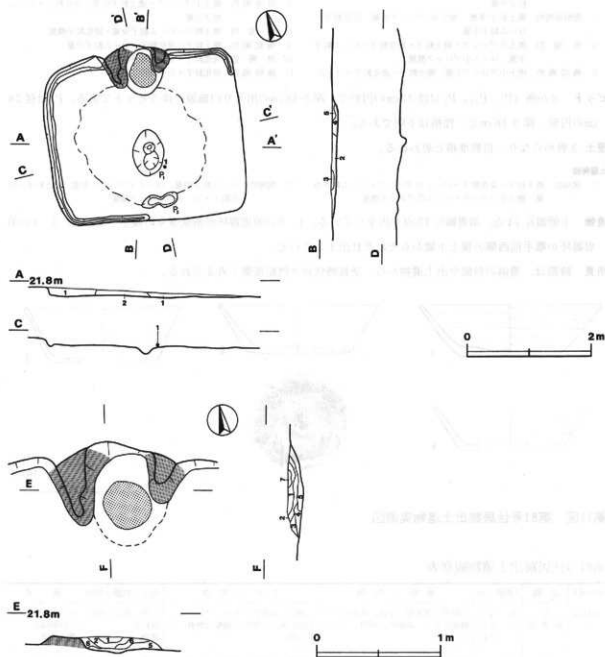
第81号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第11図 1	環 須恵器	A 14.4	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面口ロナダ。底部回転へら切り、調整は磨滅のため不明。	石英 雲母 砂粒 灰白色 普通	90% P15 二次焼成 覆土下層
		B 4.1				
		C 7.8				
2	環 須恵器	A [12.6]	体部、口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面口ロナダ。体部下端手持ちへら削り。底部回転へら切り後、手持ちへら削り。	長石 雲母 砂粒 灰黄褐色 普通	70% P16 覆土下層
		B 4.0				
		C 8.1				

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第11回 3	須恵器 環	A [12.2] B 4.4 C [8.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	長石 砂粒 灰色 良好	25% P17 覆土下層
4	須恵器 環	B (3.7) C [7.6]	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 灰黄褐色 普通	25% P19 覆土下層

第82号住居跡 (第12図)

位置 調査区東部, C7a7区。



第12図 第82号住居跡実測図

規模と平面形 長軸3.10m, 短軸2.74mの長方形である。

主軸方向 N-6°-E

壁 壁高は2~8cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁と南壁の一部を除いて、半周している。上幅8~23cm, 下幅3~15cm, 深さ1~3cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

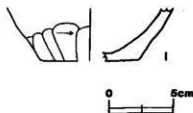
竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで84cm, 最大幅114cm, 壁外への掘り込みは14cmである。火床部は床面を7cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤灰色 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子中量, 炭化粒子・砂少量
- 3 濃い赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・砂少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 4 赤褐色 焼土小ブロック中量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₂は長径58cm, 短径9cmの不整形円形で、深さ8cmの出入り口施設に伴うピットである。P₁は長径74cm, 短径48cmの楕円形, 深さ9cmで、性格は不明である。

覆土 5層からなり、焼土ブロック・ロームブロックを含有し、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。



第13図 第82号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子中量, 焼土中ブロック少量
- 5 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量

遺物 土師器片13点, 須恵器片2点が出土している。覆土が浅かったことから、遺物が少なく、ほとんどが細片である。1の土師器壁が中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、遺物が少なく明確ではないが、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の前期と考えられる。

第82号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第13図 1	土師器	B (4.2) C [7.4]	底部から体部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外側へラ削り。内面ナデ。	灰石 炭母 砂粒 外面に濃い赤褐色 内面に濃い褐色 普通	5% P21 底部木炭成 覆土下層

第83号住居跡 (第14図)

位置 調査区北東部, B7h₃区。

重複関係 本跡は第587号土坑と重複している。第587号土坑が, 本跡の電付近を掘り込んでいることから, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.85m, 短軸3.82mの方形である。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は26~30cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北東コーナー部と, 攪乱を受けている南壁の一部は確認できないが, ほぼ全周していると推定される。上幅 [14~32] cm, 下幅 [3~9] cm, 深さ [3~5] cmで, 断面形はU字状と推定される。

床 平坦で, 出入り口施設から電手前まで踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 第587号土坑に掘り込まれており, 両袖部の一部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで130cm, 最大幅113cm, 壁外への掘り込みは53cmである。火床部は床面を6cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変しているが, あまり硬化していない。

壁土層解説

- | | |
|--|--|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土中ブロック・ローム粒子・砂少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 粘土小ブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土小ブロック少量, 焼土小ブロック微量 | 13 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 極暗赤褐色 ローム粒子・粘土小ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 14 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 極暗赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 5 黒褐色 焼土小ブロック中量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・炭化粒子微量 | 16 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 17 黒褐色 焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土小ブロック少量 |
| 7 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量・焼土粒子微量 | 18 黒褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 8 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・粘土小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 19 黒褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 9 暗赤褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子中量, 粘土小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 20 暗赤褐色 焼土小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 10 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 21 黒褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 11 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・砂少量, 炭化粒子微量 | |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は長径32~45cm, 短径26~39cmの楕円形で, 深さ9~16cmの主柱穴である。P₅は長径42cm, 短径32cmの楕円形で, 深さ23cmの出入り口施設に伴うピットである。

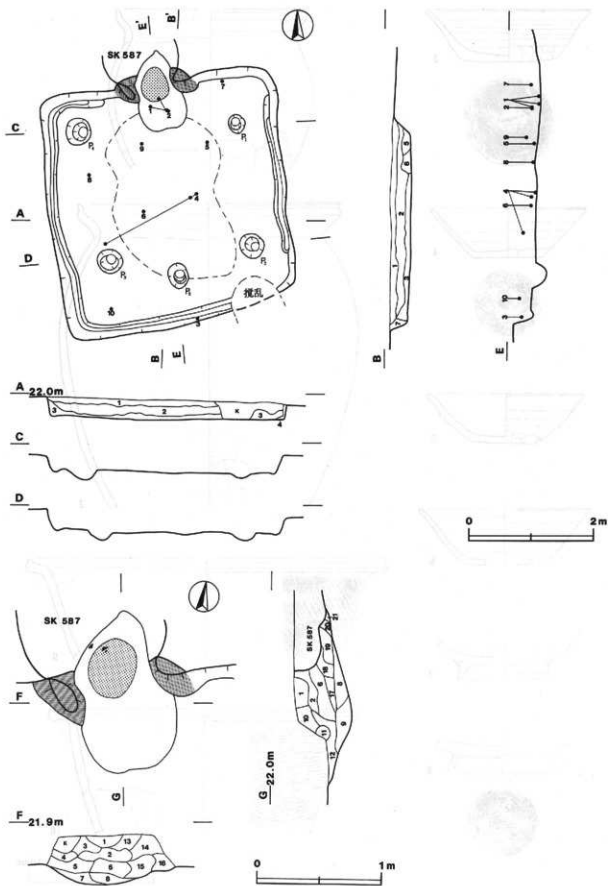
覆土 7層からなり, 不自然な堆積の状況が見られることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

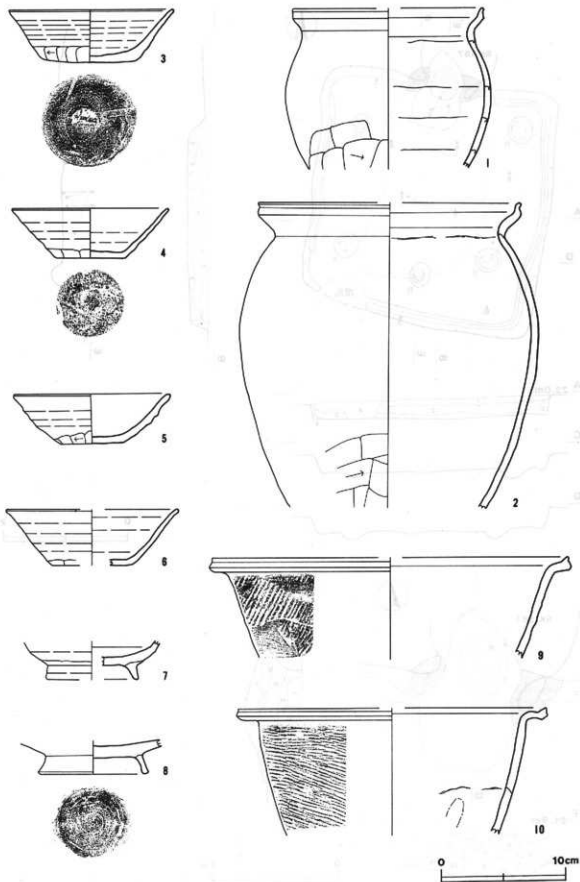
- | | |
|--|--|
| 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 粘土小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量 | 6 黒色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土小ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 7 極暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物 土師器片122点, 須恵器片302点が出土している。1の土師器小形甕, 2の土師器甕が竈内から, 3の須恵器杯が南壁寄りの覆土中層から, 4の須恵器杯が中央部の床面直上と西壁寄りの覆土中層から, 5の須恵器杯が中央部の覆土下層から, 6の須恵器杯が中央部の覆土中層から, 7の須恵器高台付杯が竈東側の覆土中層から, 8の須恵器高台付皿が西壁寄りの覆土下層から, 9の須恵器鉢が電手前の覆土中層から, 10の須恵器鉢が南西コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀後半と考えられる。



第14图 第83号住居跡実測图



第15図 第83号住居跡出土遺物実測図

第83号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第15回 1	小形 土師器	A [16.4] B (12.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎 気味に立ち上がる。口縁部は外反し、 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下 位ヘラ削り。内面ナデ。輪痕み或有 り。	灰石 雲母 砂粒 灰色 普通	25% P29 二次焼成 甕内
2	壺 土師器	A [21.1] B (24.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎 気味に立ち上がる。口縁部は外反し、 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下 位ヘラ削り。内面ヘラナデ。輪痕み 或有り。	灰石 雲母 砂粒 内よひ褐色 普通	20% P30 甕内 覆土中層
3	坏 須恵器	A 13.2 B 4.3 C 7.6	口縁部一部欠損。平底。体部から口 縁部にかけて、直線的に外傾して立ち 上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 砂粒 灰黄褐色 普通	灰石 石英 雲母 砂粒 覆土中層	90% P22 覆土中層
4	坏 須恵器	A 12.5 B 4.0 C 4.5	体部、口縁部一部欠損。平底。体部 から口縁部にかけて、直線的に外傾し て立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部回転 ヘラ切り後、ナデ。	灰石 雲母 砂粒 内よひ褐色 普通	90% P23 床面直上 覆土中層
5	坏 須恵器	A 12.5 B 4.2 C 5.0	底部から口縁部の破片。平底。体部 は内彎気味に立ち上がる。外面には 強いロクロ目が残る。口縁部はわず かに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部ナデ。	灰石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	40% P24 覆土下層
6	坏 須恵器	A [13.8] B 4.5 C [6.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部 は直線的に外傾して立ち上がる。口 縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部手持 ちヘラ削り。	灰石 雲母 砂粒 灰色 普通	20% P25 覆土中層
7	高台付 須恵器	B (3.1) D [7.3] E 1.2	高台部から体部の破片。高台部はハ の字状に開く。平底。体部は内彎気 味に立ち上がる。	底部回転ヘラ削り。高台部張り付け、 ロクロナデ。	灰石 雲母 砂粒 内よひ黄褐色 普通	20% P26 覆土中層
8	高台付 須恵器	A (2.7) D 8.8 E 1.5	高台部から体部の破片。高台部はハ の字状に開く。平底。	底部回転ヘラ削り。高台部張り付け、 ロクロナデ。体部断面全周に削り痕 有り。	灰石 石英 雲母 砂粒 内面内よひ褐色 外表面黒色 普通	20% P28 覆土下層
9	鉢 須恵器	A [28.8] B (8.1)	体部から口縁部の破片。体部は直線的 に外傾して立ち上がる。口縁部は 強く外反し、端部はつまみ上げられ ている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外 面平行叩き。内面ナデ。	灰石 雲母 砂粒 灰色 普通	5% P31 覆土中層
10	鉢 須恵器	A [24.8] B (10.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎 気味に立ち上がる。口縁部は強く外 反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外 面平行叩き。内面ナデ。輪痕み或有 り。	雲母 砂粒 灰黄色 普通	5% P32 覆土上層

第84号住居跡 (第16図)

位置 調査区北東部、B7e区。

重複関係 本跡は第1号埋葬施設と重複している。第1号埋葬施設が、本跡の甕の東側袖部の一部を掘り込んで
いることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.50m、短軸3.42mの方形である。

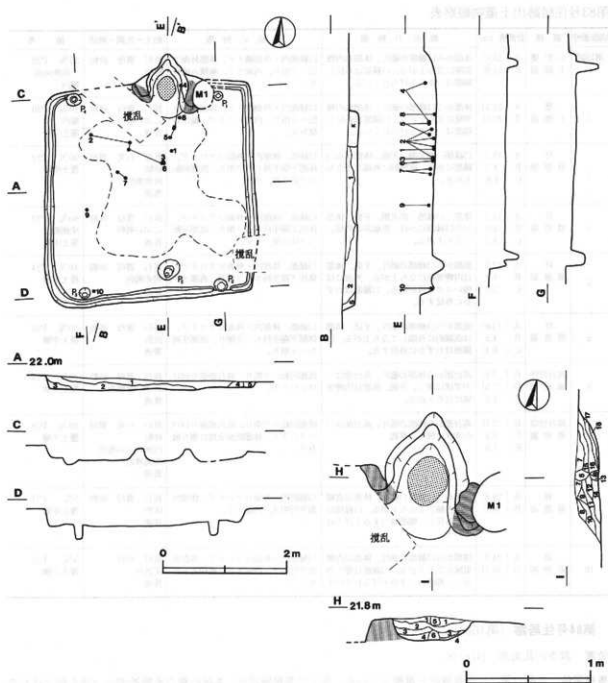
主軸方向 N-4°-W

壁 壁高は19~20cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 攪乱を受けている北壁と東壁の一部は確認できないが、ほぼ全周していると推定される。上幅 [13~22]
cm、下幅 [3~11] cm、深さ [3~5] cmで、断面形はU字状と推定される。

床 平坦で、出入り口施設から甕手前まで踏み固められている。

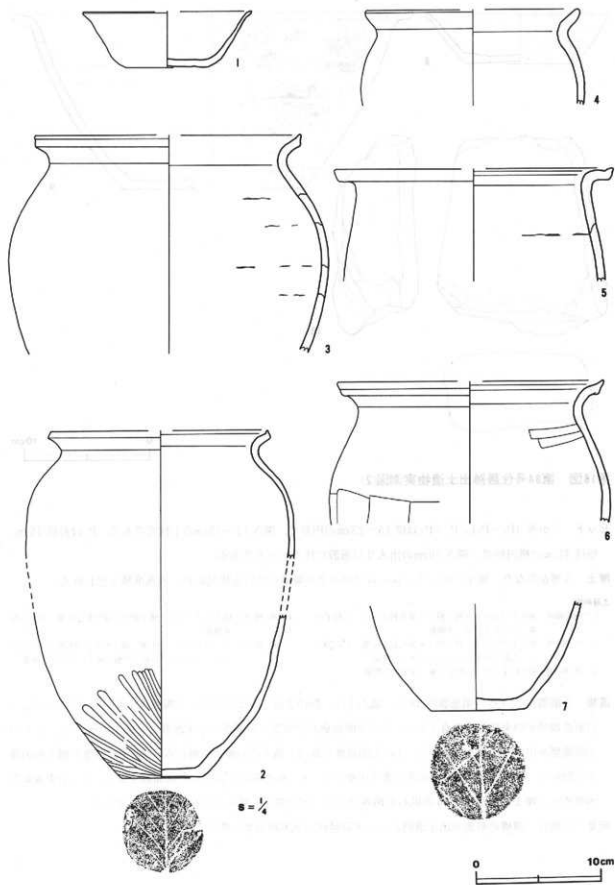
甕 北壁のやや東寄りに、砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存し
ている。規模は、甕道部から焚口部まで133cm、最大幅(98)cm、壁外への掘り込みは51cmである。火床部
は床面を3cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。



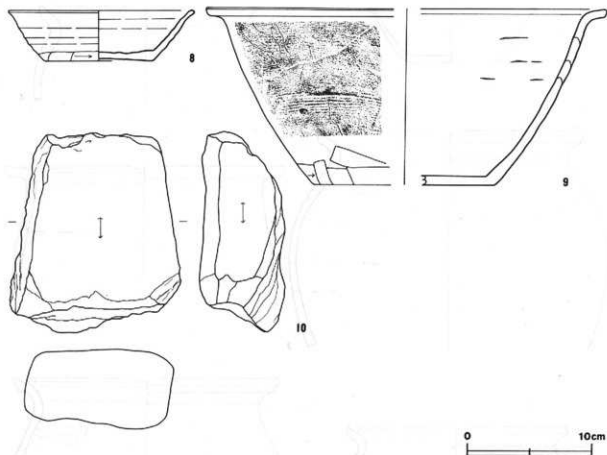
第16図 第84号住居跡実測図

甌土層解説

- | | | | |
|---------|---|----------|---|
| 1 暗 褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子・焼土小ブロック多量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 12 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子多量, 焼土中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 13 極暗赤褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 | 14 黒 褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 15 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 灰 褐色 | 粘土大ブロック多量 | 16 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 7 暗 褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 | 17 極暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 8 灰 褐色 | 粘土小ブロック中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量・焼土粒子微量 | 18 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 10 暗 褐色 | 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |



第17图 第84号住居跡出土遺物実測図(1)



第18図 第84号住居跡出土遺物実測図(2)

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径15~23cmの円形で、深さ17~25cmの主柱穴である。P₅は長径35cm、短径31cmの楕円形で、深さ20cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 5層からなり、焼土ブロック、ロームブロックの堆積している状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|--|---|
| 1 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 | 4 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量、炭化物・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 | 5 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | |

遺物 土師器片254点、須恵器片38点、砥石1点、鉄滓2点、および混入した陶器片1点が出土している。1の須恵器環が中央部の床面直上から、2の土師器甕が中央部と西壁寄りの床面直上と覆土下層から、3、6の土師器甕が中央部の覆土下層から、4の土師器甕が竈内と竈手前の覆土中層から、5の土師器甕が竈手前の覆土中層から、7の土師器甕が中央部の覆土中層から、8の須恵器環が竈手前の床面直上から、9の須恵器鉢が西壁寄りの覆土中層から、10の砥石が南西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀前葉と考えられる。

第84号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第17図	環須恵器	A [13.4] B 4.5 C 6.4	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。底部回転へラ切り後、緩ナデ。	長石 雲母 砂粒 赤色 普通	40% P35 二次焼成灰床面直上
2	壺土器	A [23.4] B (31.2) C 8.8	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下へラ磨き。内面横ナデ。	長石 雲母 砂粒 赤色 普通	45% P38 床面直上 覆土下層 底部木炭痕
3	壺土器	A [21.4] B (17.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内面に輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 赤色 スコリア 明褐色 普通	20% P39 覆土下層
4	壺土器	A [17.3] B (7.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	10% P40 地内 覆土中層
5	壺土器	A [22.4] B (9.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内面に輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 明褐色 普通	10% P41 覆土中層
6	壺土器	A [21.4] B (11.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨り。内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 灰より赤褐色 普通	10% P42 覆土下層
7	壺土器	B (8.5) C 7.7	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	30% P46 底部木炭痕 覆土中層
第18図	環須恵器	A 14.8 B 4.1 C 8.7	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちへラ磨り。底部一方向の手持ちへラ磨り。	長石 石英 雲母 砂粒 灰褐色 普通	90% P34 床面直上
9	鉢須恵器	A [41.6] B 19.0 C [18.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面クロコナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ、輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 灰より褐色 普通	30% P37 覆土中層

図版番号	種別	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
10	磁石	(16.1)	(13.7)	(6.9)	(2160)	砂岩	覆土下層	Q1

第85号住居跡 (第19図)

位置 調査区北部, B7a2区。

規模と平面形 長軸2.90m, 短軸2.50mの長方形である。

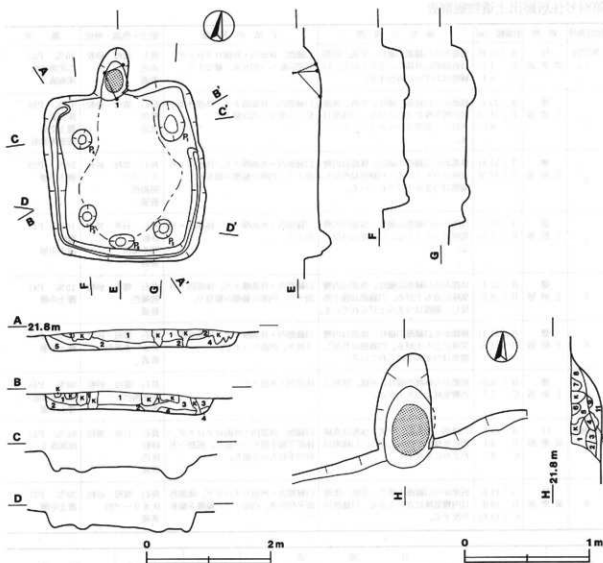
主軸方向 N-11'-W

壁 壁高は22~28cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 東壁下の中央から南壁下を経て、西壁下まで半周している。上幅19~32cm, 下幅2~11cm, 深さ5~7cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、出入り口施設から電手前まで踏み固められている。

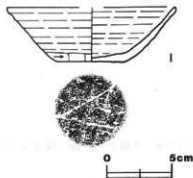
竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており残存していない。壁を外側へ掘り込んでいるため、袖部は特に作られていない。規模は、煙道部から焚口部まで91cm, 最大幅47cm, 壁外への掘り込みは72cmである。火床部は床面を4cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。



第19図 第85号住居跡実測図

埋土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 2 樹暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子多量、粘土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子・砂少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子・砂多量、焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量、焼土粒子・砂少量、炭化粒子微量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子・砂微量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子微量
- 9 樹暗赤褐色 焼土小ブロック中量、焼土粒子・ローム粒子少量
- 10 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子少量
- 11 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量



第20図 第85号住居跡出土遺物実測図

ビット 5か所 (P₁~P₅)。P₁, P₃は長径37~65cm, 短径26~42cmの楕円形, P₂, P₄は径32~33cmの円形で、いずれも深さ7~16cmの主柱穴である。P₅は長径40cm, 短径24cmの楕円形で、深さ20cmの出入り口施設に伴うビットである。

覆土 5層からなり、不自然な堆積の状況がみられることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・粘土粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量・ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片 27点, 須恵器片 21点が出土している。1の須恵器片が竪内から出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後半と考えられる。

第85号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20回 1	須恵器	A [13.5] B 4.3 C 5.6	体部、口縁部一部欠損。体部から口縁部にかけて、面線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ、体部下縁手持ちへう削り。底部一方両の手持ちへう削り。	胎土 黄褐色 砂粒 暗灰色 普通	50% P48 竪内

第86号住居跡 (第21図)

位置 調査区北部, B6b区。

規模と平面形 長軸 4.90m, 短軸 4.62m の方形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は 42~46cm で、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅 16~46cm, 下幅 7~16cm, 深さ 4~8cm で、断面形は U 字状である。

床 平坦で、出入り口施設から電手前まで踏み固められている。

竪 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで 126cm, 最大幅 142cm, 壁外への掘り込みは 38cm である。火床部は床面を 9cm ほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。煙道部は外傾し、急に立ち上がる。

土層解説

- | | | | |
|--------|--|---------|--|
| 1 灰褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子中量、ローム粒子・粘土小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子・粘土粒子中量、ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック・ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子・粘土小ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子多量、焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量、ローム粒子・粘土小ブロック少量 | 9 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子中量、ローム粒子少量、粘土小ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、粘土小ブロック微量 | 10 黒褐色 | 焼土粒子多量、ローム粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量 | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土中・小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 | 12 黒褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量 |

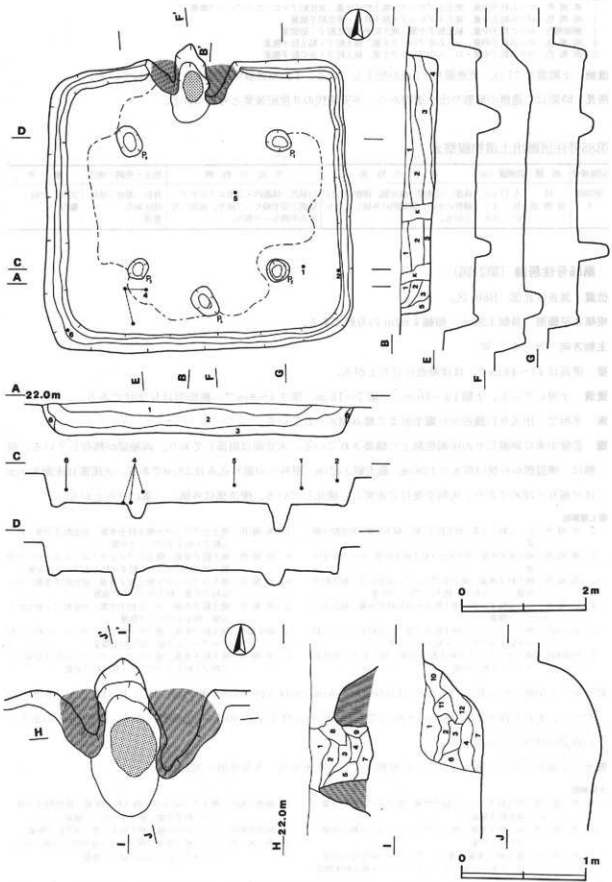
ビット 5か所 (P₁~P₅)。P₁とP₄は長径 42~50cm, 短径 32~35cmの楕円形, P₂とP₃は径 32~36cmの円形で、いずれも深さ 24~48cmの主柱穴である。P₅は長径 53cm, 短径 33cmの楕円形で、深さ 30cmの出入り口施設に伴うビットである。

覆土 6層からなり、焼土ブロックの堆積している状況から、人為堆積と思われる。

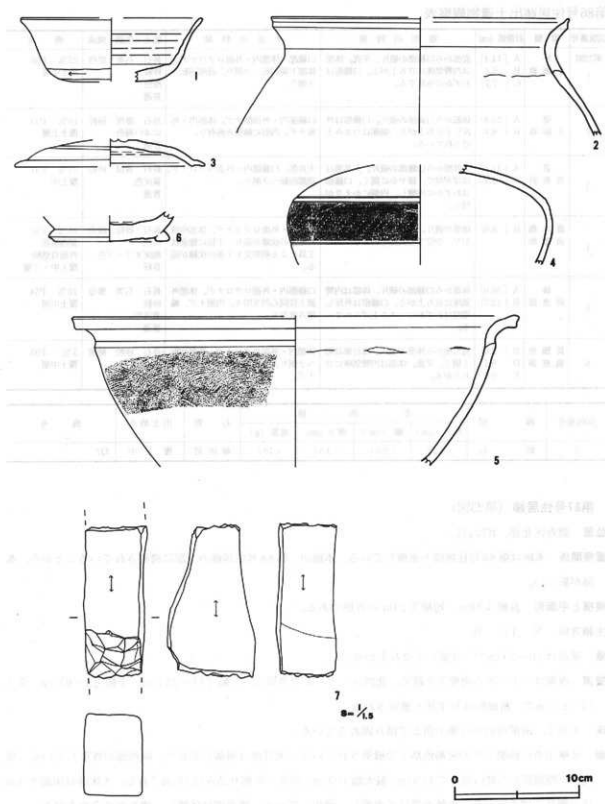
土層解説

- | | | | |
|-------|---|--------|---|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子中量、ローム粒子少量、粘土小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 5 暗赤褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック・粘土粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック微量 |

遺物 土師器片 433点, 須恵器片 93点, 砥石 1点, 角釘 1点, 植物の種子炭化物 1点, および混入した縄文土器片 1点, 陶器片 2点が出土している。ほとんどの遺物が南壁寄りに集中し, 1の土師器片, 6の須恵器片長頸



第21图 第86号住居跡実測図



第22図 第86号住居跡出土遺物実測図

壺が覆土中層から、2の土師器甕が覆土上層から、4の須恵器直口壺（湖西産）が覆土中層と下層から、3の須恵器蓋が覆土中からそれぞれ出土している。また、5の須恵器鉢が中央部の覆土中層から出土している。所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀前半と考えられる。

第86号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第22回 1	坏土師器	A [14.4] B 5.1 C [7.2]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 灰色 普通	25% P50 覆土中層
2	甕土師器	A [23.8] B (9.4)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がり、肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内面に輪痕み痕有り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	10% P53 覆土上層
3	蓋須恵器	A [15.2] B (2.3)	天井部から口縁部の破片。天井部はほぼ平坦で、緩やかに開く。口縁部はわずかに内彎し、内側にかえりが付く。	天井部、口縁部内・外面クロコナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	25% P51 覆土中
4	直口壺須恵器	B (8.0)	体部の破片。体部は内彎して立ち上がり、中位で最大径を有する。	体部内・外面クロコナデ。体部中位に2本の紋線が走り、下位に磨漉状工具による刺突文と1本の紋線が走る。良好	長石 砂粒 縞帯 灰色 輪灰オリープ色	20% P52 湖西家産 外瀬自然胎 覆土中・下層
5	鉢須恵器	A [36.0] B (12.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、肩部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面クロコナデ。体部外面上位同心円文叩き。内面ナデ、輪痕み痕有り。	長石 石英 雲母 砂粒 黄灰色 普通	10% P54 覆土中層
6	長頸壺須恵器	B (2.0) D 9.1 E 0.8	高台部から体部の破片。高台部は短く開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、クロコナデ。	長石 砂粒 縞帯 灰白色 普通	5% P55 覆土中層

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
7	磁石	(6.2)	(2.5)	(3.5)	(70)	凝灰岩	覆土中	Q2

第07号住居跡 (第23回)

位置 調査区北部、B7c1区。

重複関係 本跡は第88号住居跡と重複している。本跡が、第88号住居跡の上部に構築されていることから、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.30m、短軸3.23mの方形である。

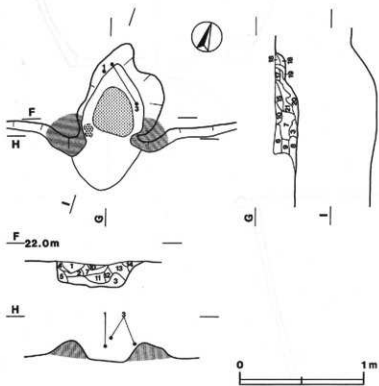
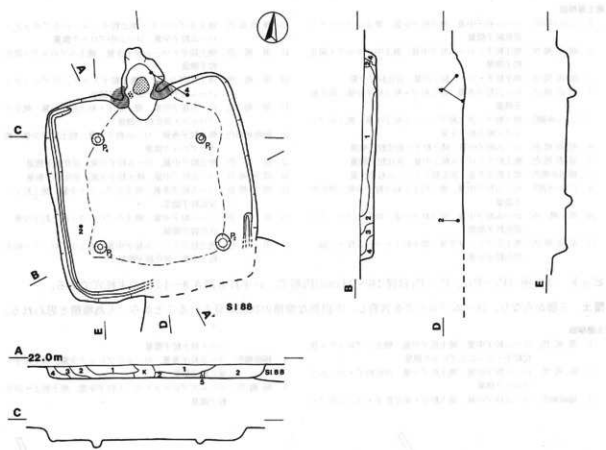
主軸方向 N-17'-W

壁 壁高は20~21cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南東コーナーから南壁下を経て、北西コーナーまで半周し、上幅 [11~23] cm、下幅 [3~6] cm、深さ [1~2] cmで、断面形はU字状と推定される。

床 平坦で、南壁付近から竈手前まで踏み固められている。

竈 北壁中央に砂漏じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで119cm、最大幅103cm、壁外への掘り込みは70cmである。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。



第23图 第67号居跡実測图

覆土層解説

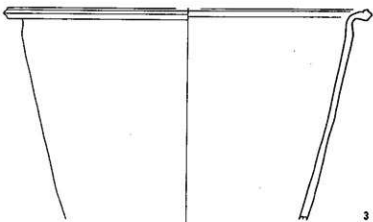
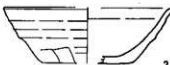
- | | | | | | |
|----|--------|-----------------------------------|----|-------|---|
| 1 | によい赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 12 | 極暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 |
| 2 | 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量 | 13 | 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 | 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 14 | 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 | 暗赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 15 | 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 | によい赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量 | 16 | 極暗赤褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量 |
| 6 | 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 | 黒褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 7 | 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 18 | 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 8 | 極暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子・ローム粒子少量 | 19 | 暗赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 | によい赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 20 | 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 10 | 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 21 | 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 11 | 暗赤褐色 | 焼土小ブロック多量, 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | | | |

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁~P₄は径16~24cmの円形で、いずれも深さ8~14cmの支柱穴である。

覆土 5層からなり、ロームブロックを含有し、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | | | |
|---|------|--|---|------|----------------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 4 | 極暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 5 | 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 | 極暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・粘土粒子微量 | | | |



第24図 第57号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片119点, 須恵器片51点, 支脚1点が出土している。1の土師器臺, 3の須恵器鉢が竈内から, 2の須恵器環が西壁寄りの覆土中層から, 4の須恵器甕が竈東側の床面直上と竈内からそれぞれ出土している。所見 4の須恵器甕は, 第88号住居跡の竈西側の覆土中層出土遺物と接合関係にある。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀中葉と考えられる。

第87号住居跡出土遺物観察表

採取番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第24図 1	臺 土師器	B (4.3)	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	長石 砂粒 にぶい褐色 普通	5% P60 二次焼成直 竈内
		C 7.5				
2	環 須恵器	A [13.5]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて, 直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面クロナデ。体部下端手持ちヘナリ。底端手持ちヘナリ。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	20% P56 覆土中層
		B 4.5				
		C [7.2]				
3	鉢 須恵器	A [29.6]	体部から口縁部の破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は強く外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面クロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	10% P57 内面附付着 竈内
		B (17.1)				
4	甕 須恵器	B (10.4)	底部から体部の破片。多孔式。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面平行叩き, 下位ヘナリ。内面ナデ, 下端ヘナリ。	長石 石英 雲母 砂粒 明褐色 普通	10% P61 二次焼成直 床面直上 竈内
		C [14.0]				

第88号住居跡 (第25図)

位置 調査区北部, B7d1区。

重複関係 本跡は第87号住居跡と重複している。第87号住居跡が, 本跡の上部に構築されていることから, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.30m, 短軸4.24mの方形である。

主軸方向 N-1'-W

壁 壁高は28~30cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅6~28cm, 下幅2~14cm, 深さ4~6cmで, 断面形はU字状である。

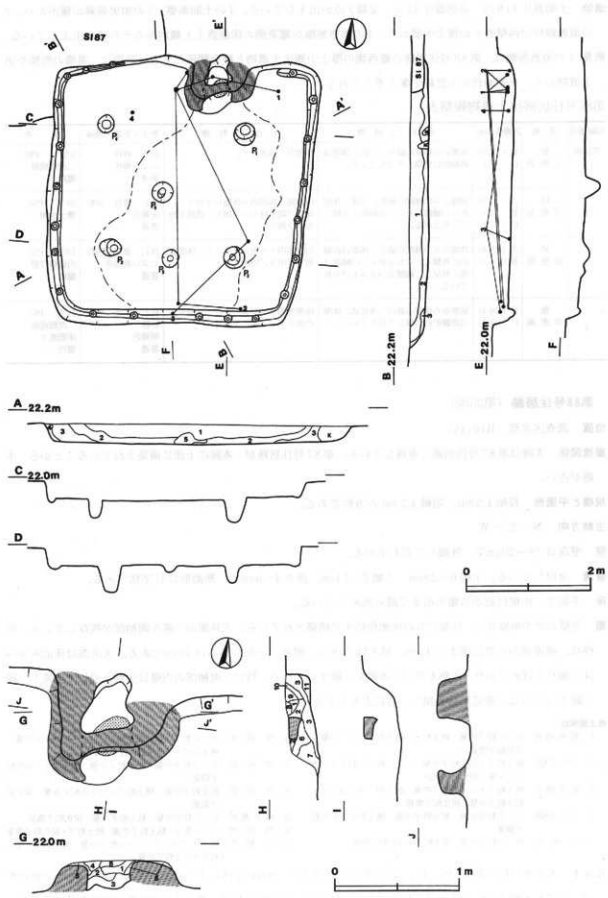
床 平坦で, 南壁付近から電手前まで踏み固められている。

竈 北壁のやや東寄りに, 砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部の一部と両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで91cm, 最大幅108cm, 壁外への掘り込みは10cmである。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変し, 硬化している。特に, 両袖部の内壁は火熱を受けて赤変し, 硬く締まっている。煙道部は外傾し, 急に立ち上がる。

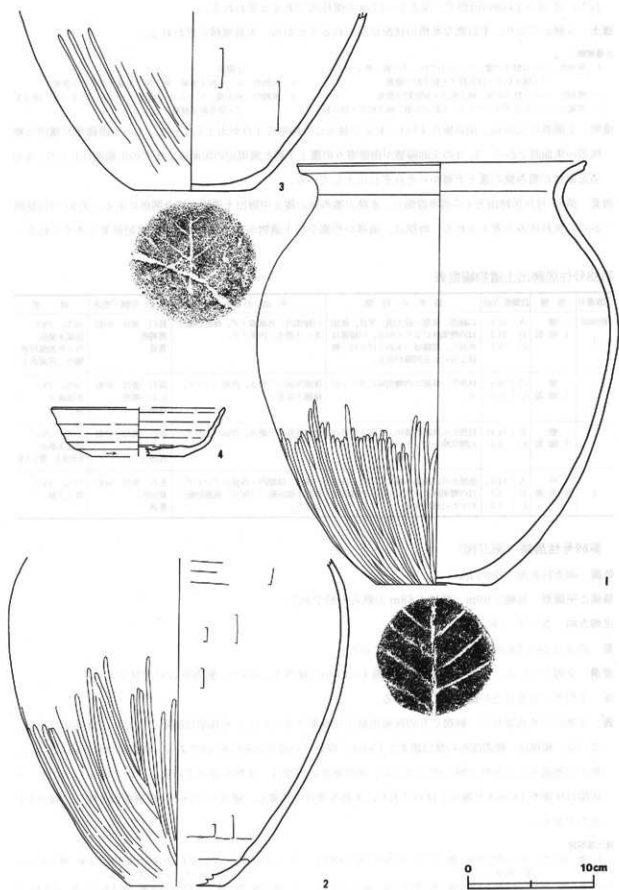
竈土層所収

1 暗赤褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土小ブロック少量, 炭化粒子微量	6 黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土小ブロック少量, 炭化粒子微量
2 にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量, ローム粒子・粘土小ブロック少量・炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗赤褐色	焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土中・小ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量	8 灰褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
4 にぶい赤褐色	ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗赤褐色	ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量
5 灰褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	10 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
		11 黒褐色	焼土小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

ピット 6か所 (P1~P6)。P1, P2, ならびにP4は径31~36cmの円形, P3は長径36cm, 短径26cmの楕円形で, いずれも深さ29~42cmの主柱穴である。P5は径30cmの円形で, 深さ11cmの出入り口施設に伴うピットである。P6は径34cmの円形, 深さ25cmで, 性格は不明である。また, 壁溝内に小ピットが21か所確認さ



第25图 第88号住居跡実測図



第26图 第88号住居跡出土遺物実測図

れた。径10~14cmの円形で、深さ5~12cmの壁柱穴であると思われる。

覆土 5層からなり、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | |
|-------|---|-------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子 | 5 黒褐色 |

遺物 土師器片220点、須恵器片43点、および混入した陶器片1点が出土している。1の土師器片が竈内と竈周辺の床面直上から、2、3の土師器片が南壁寄りの覆土下層と竈周辺の床面直上までの広範囲にわたり、4の須恵器片が竈西側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 第87号住居跡出土4の須恵器片が、本跡の竈西側の覆土中層出土遺物と接合関係にある。第87号住居跡からの流れ込みと考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀前半と考えられる。

第88号住居跡出土遺物観察表

図号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第26図 1	土師器	A 23.0	口縁部、体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられ、棒状工具による凹線が走る。	口縁部内・外面ナデ。体部外面下半へラ磨き。内面ナデ。	灰石 雲母 砂粒 黒褐色 普通	90% P63 底面木炭灰内・外面保付層内 床面直上
		B 34.3				
		C 9.0				
2	土師器	B (26.4) C [8.0]	体部片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面へラ磨き。内面へラナデ、輪痕み直有り。	灰石 雲母 砂粒 灰褐色 普通	20% P64 床面直上 覆土下層
		B (14.4) C 9.4	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面へラ磨き。内面へラナデ。	灰石 雲母 砂粒 灰色 普通	15% P65 底面木炭灰 床面直上 覆土下層
4	須恵器	A [14.0] B 4.0 C [7.3]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ログロナデ。体部下層回転へラ磨り。底部回転へラ磨り。	灰石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	20% P62 覆土下層

第89号住居跡 (第27図)

位置 調査区北部、B6c3区。

規模と平面形 長軸3.90m、短軸3.58mの隅丸方形である。

主軸方向 N-7-E

壁 壁高は48~54cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

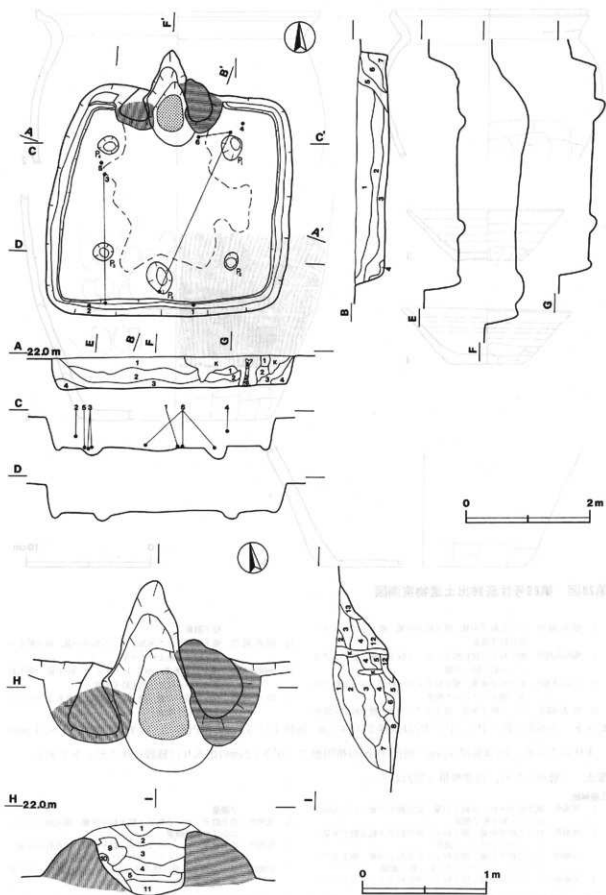
壁溝 全周している。上幅16~28cm、下幅4~14cm、深さ2~6cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央付近が踏み固められている。

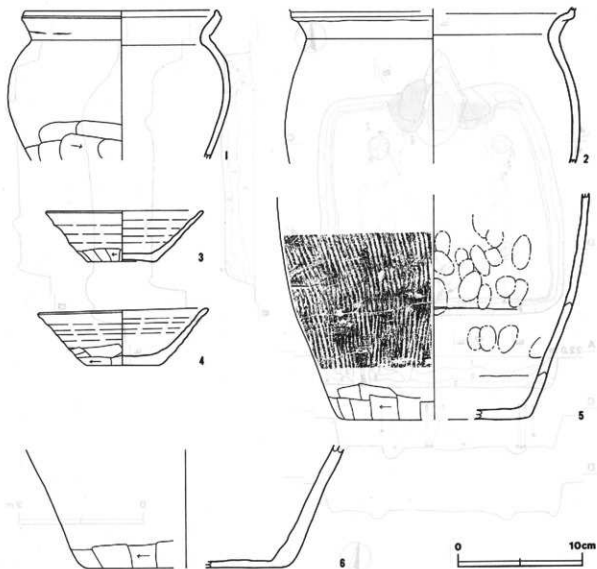
竈 北壁のやや西寄りに、砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで153cm、壁外への掘り込みは65cmである。両袖部は最大幅174cmで、粘土で袖部をしっかりと厚く作っている。東側袖部の内壁は、火熱を受けて赤変し、硬く締まっている。火床部は床面を11cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------------|--------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 灰褐色 | ローム粒子・砂中量、粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子・砂中量、粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | 焼土小ブロック多量、焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック・砂微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |



第27图 第89号住居跡実測图



第28図 第89号住居跡出土遺物実測図

- | | | |
|---------|--------------------------------------|----------|
| 7 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 粒子微量 |
| 8 極暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量 | 11 暗赤褐色 |
| 9 濃い赤褐色 | 粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック微量 | 12 極暗赤褐色 |
| 10 暗赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化 | 13 暗赤褐色 |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は長径27~40cm, 短径12~32cmの楕円形で, いずれも深さ11~21cmの主柱穴である。P₅は長径52cm, 短径39cmの楕円形で, 深さ12cmの出入口施設に伴うピットである。

覆土 7層からなり, 自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | |
|-------|---|-------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子少量, ローム小ブロック・粘土粒子微量 | ク微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, ローム中・小ブロック微量 | 5 黒褐色 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子微量 | 6 暗褐色 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブ | 7 暗褐色 |

遺物 土器器片344点, 須恵器片262点が出土している。3の須恵器坏が南壁と西壁寄りの床面直上から, 5の須恵器鉢が西壁寄りの床面直上から, 6の須恵器鉢が南壁寄りから東電側の床面直上までの広範囲にわたりそ

れぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後半と考えられる。

第89号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第28回 1	小形 壺 土 師 器	A 15.4 B (11.9)	底部、体部一部欠損。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位へラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 赤褐色 普通	60% P72 覆土下層
2	壺 土 師 器	B (12.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 明褐色 普通	10% P73 覆土中層
3	坏 須 恵 器	A 12.1 B 4.1 C 5.4	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部一方の手持ちへラ削り。	長石 雲母 砂粒 暗灰黄色 普通	65% P67 床面直上
4	坏 須 恵 器	A 13.3 B 4.1 C 5.8	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部手持ちへラ削り。	長石 雲母 砂粒 上よ褐色 普通	60% P68 覆土中層
5	鉢 須 恵 器	B (18.2) C [15.2]	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面平行叩き、下位へラ削り。内面に指摺狂風、輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 灰黄色 普通	20% P69 床面直上
6	鉢 須 恵 器	B (9.6) C [16.0]	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面平行叩き、下位へラ削り。内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 浅灰黄色 普通	20% P70 床面直上

第90号住居跡 (第29回)

位置 調査区中央部、B6is区。

規模と平面形 長軸2.85m、短軸2.77mの隅丸方形である。

主軸方向 N-22'-E

壁 壁高は28~40cmで、外傾して立ち上がる。

床 全面が粘土質で、平坦で締まっている。特に、中央部が踏み固められている。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁は長径39cm、短径31cmの楕円形、P₂は径33cmの円形で、いずれも深さ45~53cm、P₃は長径14cm、短径9cmの楕円形、P₄は径16cmの円形で、いずれも深さ7cmほどで、ともに性格は不明である。

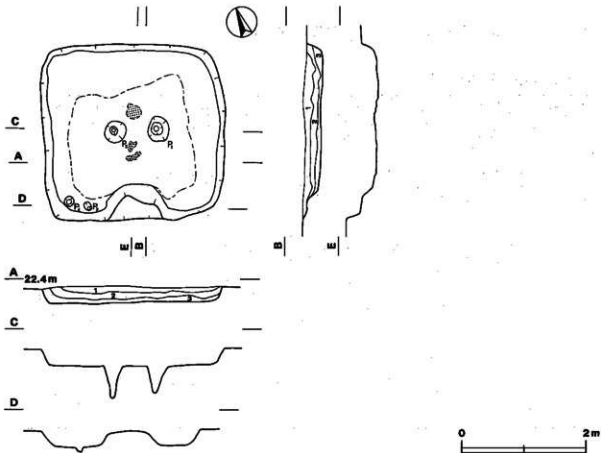
覆土 3層からなり、ロームブロック、粘土ブロックが堆積している状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム中・小ブロック・粘土中ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量、ローム中ブロック微量

遺物 土師器片45点、須恵器片34点が出土している。遺物が少なく、ほとんどが細片である。

所見 住居跡の中央部から、焼土塊と炭化物が確認されている。焼土塊は床面を掘り込んだものではないことから、炉として使用された可能性は低いと思われる。南西壁の中央部にある硬く締まったステップは、出入り口部の付帯施設と思われる。地山の粘土質の多いローム土を掘り残して作られている。時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代から平安時代の前期と考えられる。



第29図 第90号住居跡実測図

第91号住居跡 (第30図)

位置 調査区中央部, B6h₃区。

重複関係 本跡は第92号住居跡と重複している。第92号住居跡が、本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.05m, 短軸(2.60)mである。本跡の南壁が調査区域外のため、平面形は不明である。

主軸方向 N-14°-W

壁 壁高は14~16cmで、外傾して立ち上がる。

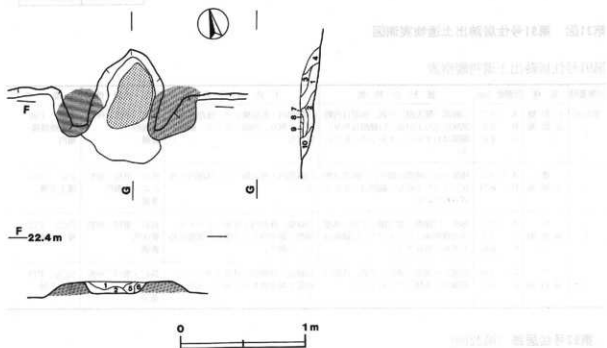
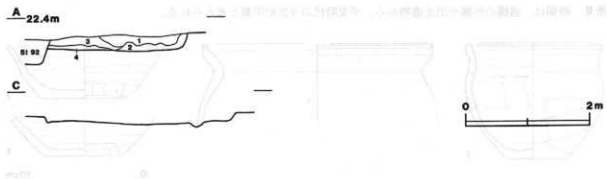
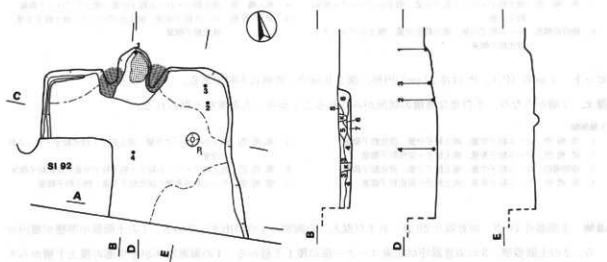
壁溝 北西コーナー部下の一部で確認した。上幅[10~18]cm, 下幅[2~8]cm, 深さ[1~3]cmで、断面形はU字状と推定される。

床 平坦で、各コーナー部を除き、踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで90cm, 最大幅116cm, 壁外への掘り込みは33cmである。火床部は火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|---|---|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 4 黒褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |



第30图 第91号住居跡実測図

- 7 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
 8 極暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
 9 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
 10 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量

ピット 1か所 (P₁)。P₁は径21cmの円形、深さ9cmで、性格は不明である。

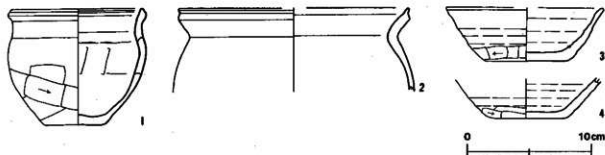
覆土 7層からなり、不自然な堆積の状況がみられることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
 3 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
 4 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
 5 黒褐色 焼土小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
 6 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
 7 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片70点、須恵器片29点、および混入した陶器片1点が出土している。1の土師器小形壺が竈内から、2の土師器壺、3の須恵器環が北東コーナー部の覆土下層から、4の須恵器環が中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀中葉と考えられる。



第31図 第91号住居跡出土遺物実測図

第91号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第31図 1	小形壺 土師器	A 10.5 B 9.3 C 4.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、頸部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面下半へラ削り。内面ヘラナダ、輪轆み痕有り。	長石 雲母 砂粒 赤褐色 普通	95% P80 二次焼成 竈内
2	壺 土師器	A [18.5] B (6.7)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がり、頸部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナダ。体部内・外面ナダ。	長石 雲母 砂粒 灰褐色 普通	5% P81 覆土下層
3	環 須恵器	A [12.7] B 4.3 C 6.6	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロクロナダ。体部下端手持ちへラ削り。底部手持ちへラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰褐色 普通	70% P77 覆土下層
4	環 須恵器	B (3.0) C 6.2	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロクロナダ。体部下端手持ちへラ削り。底部ヘラナダ。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	40% P79 覆土下層

第92号住居跡 (第32図)

位置 調査区中央部、B6h区。

重複関係 本跡は第91号住居跡と重複している。本跡が第91号住居跡を掘り込んでいることから、本跡が新しい。

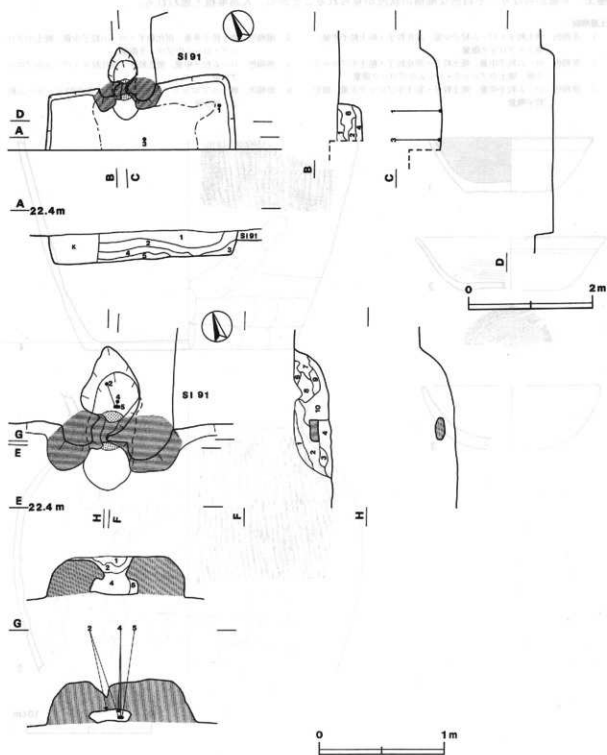
規模と平面形 長軸3.04m、短軸(1.20)mである。本跡の南壁が調査区域外のため、平面形は不明である。

主軸方向 N-17°-W

壁 壁高は29~35cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、竈手前が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部の一部と両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで116cm、最大幅119cm、壁外への掘り込みは64cmである。火床部は火熱を受けて赤変し、硬化している。特に、天井部の内壁と煙道部付近が赤変し、硬く締まっている。煙道部は外傾し、立ち上がる。



第32図 第92号住居跡実測図

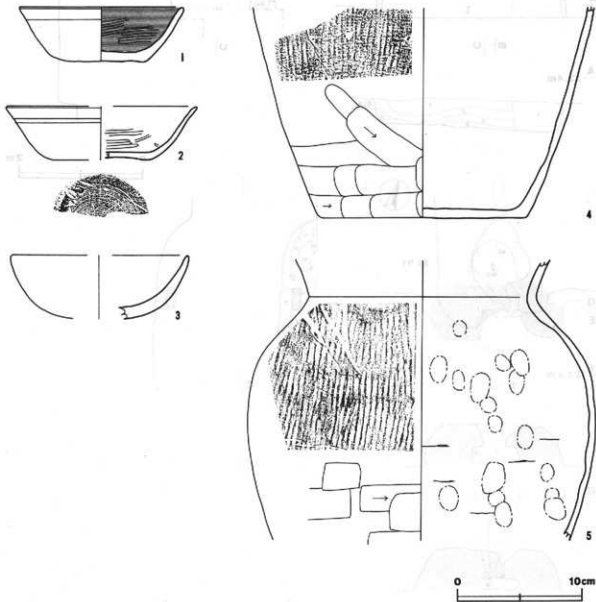
覆土層解説

- | | | | |
|----------|---|---------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、
焼土小ブロック・ローム小ブロック微量 | 6 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、
焼土小ブロック・粘土小ブロック微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土中ブロック中量、ローム粒子微量 |
| 3 赤褐色 | 焼土小ブロック多量、焼土粒子中量、炭化粒子・
ローム粒子・粘土粒子少量 | 8 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子
少量 |
| 4 によい赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子・ローム
粒子・粘土小ブロック少量 | 9 極暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土中ブロック中量、炭化粒子少
量、ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量 | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、炭化粒子少
量、ローム粒子微量 |

覆土 6層からなり、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--|-------|--|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量、
焼土小ブロック微量 | 4 暗褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブ
ロック・ローム中ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロッ
ク少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロッ
ク少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・粘土小ブロック少量、炭化
粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒
子・砂少量 |



第33図 第92号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片 84 点, 須恵器片 14 点が出土している。1 の土師器坏が北東コーナー部の覆土下層から, 3 の土師器坏が中央部の覆土下層から, 2 の土師器坏, 4 の須恵器鉢, 5 の須恵器甕が竈内からそれぞれ出土している。

所見 3 の土師器坏は古く, 時期的な違いがあることから, 流れ込みと考えられる。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の 9 世紀後半と考えられる。

第92号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第33図 1	土師器 坏	A 13.2	体部・口縁部一徹欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面クロナダ。体部内面へう磨き。底部へうナダ。	長石 雲母 砂粒 外面褐色 内面陶灰色 普通	90% P82 内面黒色泥環 二次焼成痕 覆土下層
		B 4.5				
		C 6.8				
2	土師器 坏	A [15.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面クロナダ。体部内面へう磨き。底部回転糸切り。	長石 雲母 砂粒 内面褐色 普通	30% P83 竈内
		B 4.2				
		C [7.6]				
3	土師器 坏	A [14.4]	底部から口縁部の破片。丸底。体部から口縁部にかけて, 内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面磨ナダ。体部内・外面ナダ。体部外面摩滅のため, 調査不明。	長石 砂粒 褐色 普通	30% P84 覆土下層
		B (5.1)				
4	須恵器 鉢	B (17.0)	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面格子叩き, 下位へう削り。内面ナダ。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	20% P85 竈内
		C 16.5				
5	須恵器 甕	B (22.6)	体部から頸部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 頸部はくの字状に屈曲する。	体部外面平行叩き, 下位へう削り。内面に指頭圧痕, 輪痕み痕有り。	長石 石英 雲母 砂粒 上位黒褐色 下位によい褐色 普通	20% P87 内・外面厚付層 竈内

第93号住居跡 (第34図)

位置 調査区北部, A6g区。

規模と平面形 長軸 [3.12] m, 短軸 2.90m の方形と推定される。

主軸方向 N-2'-W

壁 東壁から北壁の一部にかけて残存しているのみであり, 壁高は 3cm ほどで, 外傾して立ち上がる。

床 やや凹凸で, 中央付近が踏み固められている。

竈 上面が耕作により削平され, 覆土が薄く, 残存している部分は少ないが, 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。規模は, 煙道部から焚口部まで 105cm, 最大幅 124cm, 壁外への掘り込みは 23cm である。火床部は床面を 6cm ほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変しているが, あまり硬化していない。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径 27~30cm の円形で, いずれも深さ 12~20cm の支柱穴である。P₅は長径 30cm, 短径 25cm の楕円形で, 深さ 10cm の出入り口施設に伴うピットである。

覆土 覆土が薄く, 単一層であり, 人為堆積か自然堆積かは不明である。

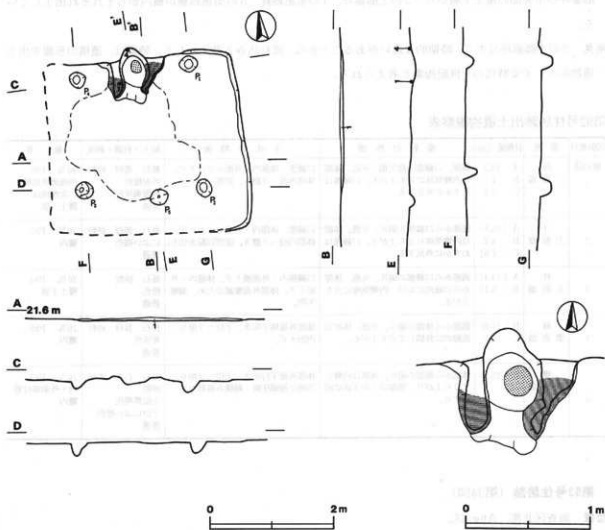
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 黄土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量

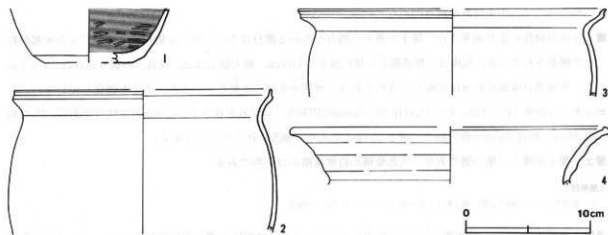
遺物 土師器片 34 点, 須恵器片 13 点が出土している。1 の土師器坏が竈の西側袖部の中から, 2, 3 の土師器甕が覆土中から, 4 の須恵器甕が竈内からそれぞれ出土している。

所見 竈袖部の中と竈内から遺物が出土しており, 土器片を竈の補強材として使用していた可能性がある。時

期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後半と考えられる。



第34図 第93号住居跡実測図



第35図 第93号住居跡出土遺物実測図

第93号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第36図 1	坏 土師器	B (4.3) C (7.0)	底部から体部の破片。平底。体部は内湾気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。	灰石 骨母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	15% P88 内面黒色処理 内部内
2	壺 土師器	A [20.5] B (11.6)	体部から口縁部の破片。体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	灰石 骨母 砂粒 にぶい褐色 普通	10% P89 覆土中
3	壺 土師器	A [24.6] B (7.0)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がり、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	灰石 骨母 砂粒 褐色 普通	5% P90 覆土中
4	壺 須恵器	A [25.0] B (4.5)	口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がり、端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。	灰石 骨母 砂粒 灰褐色 普通	5% P91 壺内

第94号住居跡 (第36図)

位置 調査区北部, A6h3区。

規模と平面形 長軸4.56m, 短軸4.03mの長方形である。

主軸方向 N-6°-E

壁 壁高は8~12cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、全面が粘土質で、硬く締まっている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで105cm, 最大幅140cm, 壁外への掘り込みは20cmである。火床部は床面を6cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

壺土層解説

- | | | | |
|--------|--|--------|--|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 粘土小ブロック少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 6 暗赤褐色 | ローム粒子多量, 砂中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子・砂多量, 焼土粒子少量 | 7 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子多量, ローム粒子・砂中量, 焼土中ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子多量, 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 灰褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・砂・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・砂少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 9 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・砂少量, 炭化粒子微量 | | |

ビット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は径24~35cmの円形で、いずれも深さ17~46cmの支柱穴である。P5は長径53cm, 短径30cmの楕円形で、深さ6cmの出入り口施設に伴うビットである。

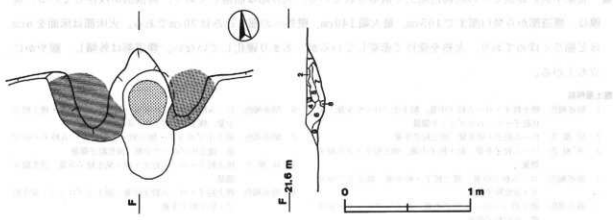
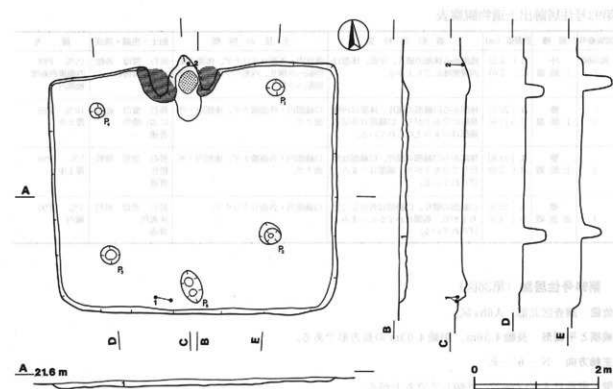
覆土 覆土が薄く、単一層であり、人為堆積か自然堆積かは不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片132点, 須恵器片52点, 砥石1点, および混入した陶器片1点が出土している。1の土師器片が南壁寄りの覆土下層から, 2の須恵器鉢が竈内から, 3の砥石が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺物の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀後半と考えられる。

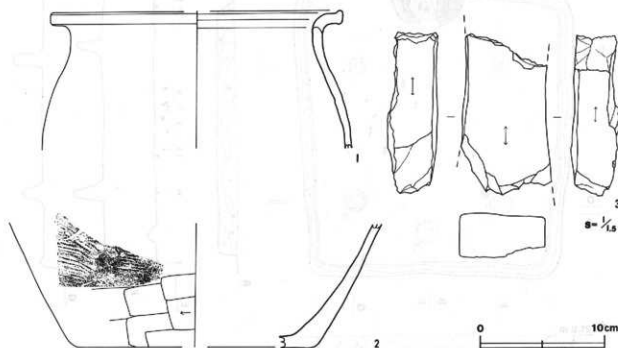


第36図 第94号住居跡実測図

第94号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第37図 1	甕 土器 器	A [23.2] B (11.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	灰石 雲母 砂粒 にふい橙色 普通	10% P94 覆土下層
2	鉢 須恵 器	B (10.0) C [18.8]	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面平行叩き、下位へう刷り。内面ナデ。	灰石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	5% P93 壺内

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第37図3	砥石	(6.5)	(3.7)	(2.0)	(60)	凝灰岩	覆土中	Q4



第37図 第94号住居跡出土遺物実測図

第95号住居跡 (第38図)

位置 調査区北部, B6a7区。

規模と平面形 長軸4.76m, 短軸4.30mの長方形である。

主軸方向 N-14°-W

壁 壁高は21~32cmで, 外傾して立ち上がる。

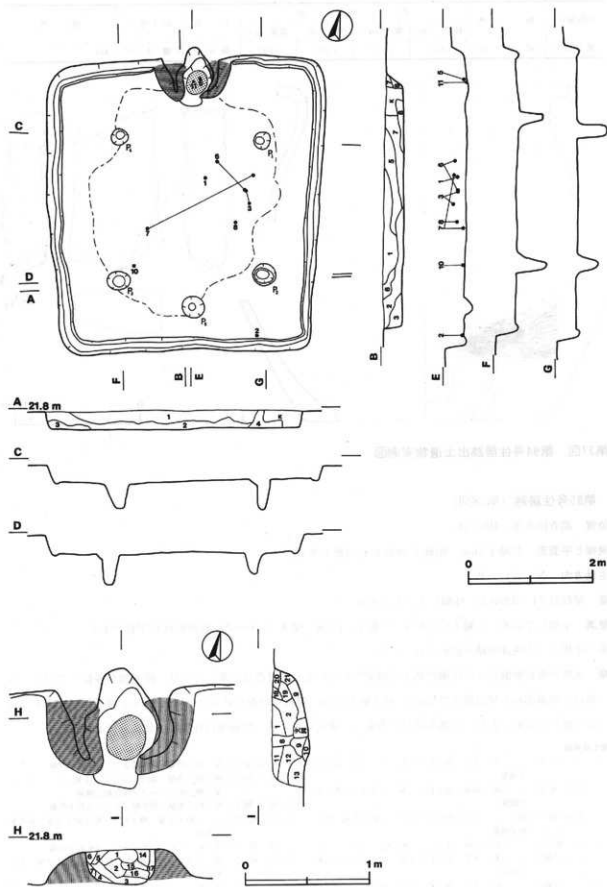
壁溝 全周している。上幅12~28cm, 下幅4~13cm, 深さ2~4cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで95cm, 最大幅125cm, 壁外への掘り込みは17cmである。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変し, 硬化している。煙道部は外傾し, 急に立ち上がる。

竈土層解説

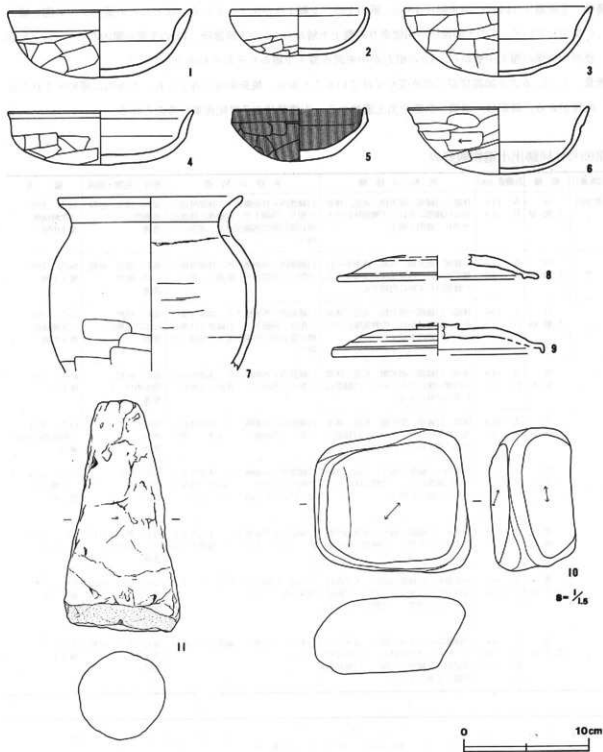
- | | | | |
|----------|--|---------|--------------------------------------|
| 1 灰褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子多量, 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 4 灰褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 11 灰褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 におい赤褐色 | ローム粒子多量, 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 6 におい赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 13 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 7 におい赤褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 14 灰褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| | | 15 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・砂少量, 炭化粒子微量 |
| | | 16 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |



第38图 第95号住居跡実測図

- 17 暗赤褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量、炭化粒子微量
 18 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
 19 黒褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量、焼土中ブロック微量
 20 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
 21 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック微量

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁, P₂, ならびに P₄ は径 27~38cm の円形, P₃ は長径 38cm, 短径 28cm の楕円形で、いずれも深さ 34~50cm の支柱穴である。P₅ は径 36cm の円形、深さ 14cm で、出入り口施設に伴うピットである。



第39図 第95号住居跡出土遺物実測図

覆土 8層からなり、焼土ブロックを含有し、不自然な堆積の状況がみられることから、人為堆積と思われる。

土層解説

1	黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量	5	黒褐色	焼土中ブロック中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
2	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム中・小ブロック微量	6	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7	黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量
4	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子少量、ローム小ブロック微量	8	暗褐色	焼土粒子・ローム粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片 341点、須恵器片 48点、砥石 1点、支脚 1点が出土している。ほとんどの遺物が中央部と竈内に集中している。2の土師器片が南壁寄りの覆土下層から、5の土師器片、11の支脚が竈内から、7の土師器片が中央部の覆土中層から、10の砥石が中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 1, 3, 6の土師器片が二次焼成を受けていることから、焼失家屋と考えられ、人為的に埋め戻された可能性はある。時期は、遺構の形態や出土遺物から、古墳時代の7世紀後葉と考えられる。

第95号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第39図 1	土師器	A 14.6	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部から口縁部にかけて、内湾気味に立ち上がり、器内を増す。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へナダ削り。内面ナダ。口縁部と体部の境に部分的に凹線が走る。底部へナダ削り。	灰石 雲母 砂粒 赤褐色 普通	90% P95 二次焼成或 覆土中層
		B 5.4				
2	土師器	A 11.0	口縁部一部欠損。丸底。体部から口縁部にかけて、内湾気味に立ち上がる。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へナダ削り。内面ナダ。器部へナダ削り。	灰石 雲母 砂粒 赤褐色 普通	90% P96 覆土下層
		A 4.3				
3	土師器	A 15.0	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部から口縁部にかけて、内湾気味に立ち上がり、器内を増す。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へナダ削り。内面ナダ。口縁部と体部の境に部分的に凹線が走る。底部へナダ削り。	灰石 砂粒 赤褐色 普通	70% P97 二次焼成或 覆土中層
		A 5.5				
4	土師器	A 14.8	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へナダ削り。内面ナダ。器部へナダ削り。	灰石 砂粒 明赤褐色 普通	60% P98 覆土中
		A 4.3				
5	土師器	A [10.5]	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部と体部の境に凹線を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へナダ削り。内面ナダ。器部へナダ削り。	雲母 砂粒 黒色 普通	60% P99 内外面黒色処理 竈内
		A 4.2				
6	土師器	A 14.5	底面から口縁部の破片。丸底。体部から口縁部にかけて、内湾気味に立ち上がり、器内を増す。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へナダ削り。内面ナダ。口縁部と体部の境に部分的に凹線が走る。底部へナダ削り。	雲母 砂粒 明赤褐色 普通	50% P100 二次焼成或 覆土中層
		B 5.4				
7	須恵器	A 14.8	体部から口縁部の破片。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へナダ削り。内面ナダ。輪縁も直有する。	灰石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	30% P103 覆土中層
		B (14.0)				
8	須恵器	A [16.2]	天井部から口縁部の破片。天井部はほぼ平直で、腰やかに開く。口縁部はわずかに内湾し、内側にかえりが付く。	天井部、口縁部内・外面クロコナダ。頂部回転へナダ削り。	灰石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	30% P101 覆土中層
		B (2.0)				
9	須恵器	A [16.8]	口縁部からつまみの破片。扁平なボタン状のつまみが付く。天井部はほぼ平直で、腰やかに開く。口縁部は屈曲して垂下する。	つまみ、天井部、口縁部内・外面クロコナダ。	灰石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	25% P102 覆土中
		B (2.6)				
		F (3.3)				
		G (0.4)				

図版番号	種別	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
10	砥 石	(5.8)	(6.2)	(3.5)	(180)	砂 岩	覆土下層	Q6

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)		
第39図11	支脚	(18.6)	(9.3)	(850)	壺内	DP1 80%

第96号住居跡 (第40図)

位置 調査区北東部, B7g6区。

重複関係 本跡は, 第78号住居跡, 第588号土坑, 第22号溝と重複している。本跡は第78号住居跡, 第588号土坑を掘り込み, 第22号溝に掘り込まれているので, 第78号住居跡, 第588号土坑より新しく, 第22号溝より古い。

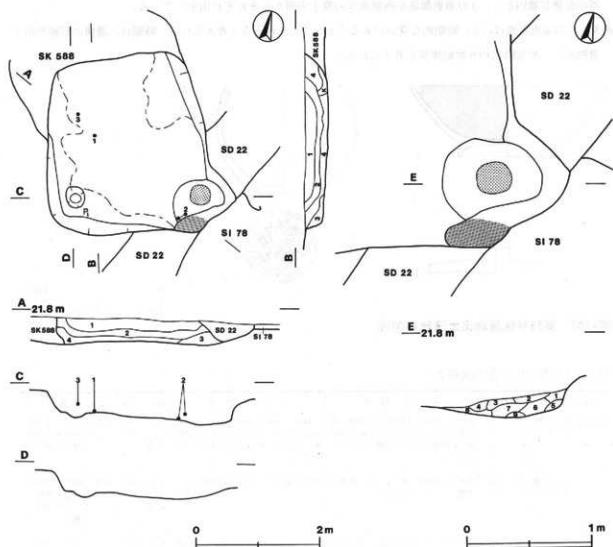
規模と平面形 長軸2.81m, 短軸2.53mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-77°-E

壁 壁高は30~36cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 北壁から電手前まで踏み固められている。

竈 東壁の南東コーナー部付近に, 砂混じりの灰褐色粘土で構築されているが, 第22号溝に掘り込まれており, 残存している部分は少ない。南側袖部は南東コーナー部を利用して, 粘土で作っている。規模は, 煙道部か



第40図 第96号住居跡実測図

ら焚口部まで101cm, 最大幅(106)cm, 壁外への掘り込みは60cmである。火床部は床面を11cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変しているが, あまり硬化していない。煙道部は外傾して, 急に立ち上がる。

覆土層解説

- | | | | |
|--------|--|---------|---------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 極暗赤褐色 | 焼土中・小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・砂少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土中・小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 | 9 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子多量, 焼土中ブロック少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土中ブロック中量, 焼土大ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 | | |

ピット 1か所 (P₁)。P₁は長径35cm, 短径28cmの楕円形, 深さ10cmで, 性格は不明である。

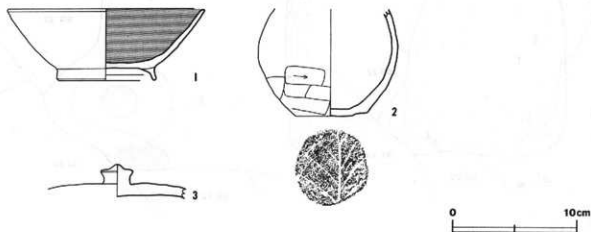
覆土 4層からなり, 自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--|-------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量, 焼土小ブロック微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |

遺物 土師器片67点, 須恵器片42点が出土している。1の土師器高台付椀が中央部の覆土下層から, 2の土師器小形甕が竈内から, 3の須恵器蓋が西壁寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 3の須恵器蓋は古く, 時期的な違いがあることから, 流れ込みと考えられる。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀後半と考えられる。



第41図 第96号住居跡出土遺物実測図

第96号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第41図 1	高台付椀 土師器	A	7.9	高台部, 体部, 口縁部一部欠損。高台部はハの字状に開く。平底。体部から口縁部にかけて, 内彎気味に立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面クロロナデ。体部内面にヘラ磨き痕有り。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け, ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 内面黒色処理 普通	85% P104 内面黒色処理 覆土下層
		B	5.8				
		C	7.8				
		E	1.1				
2	小形甕 土師器	B (8.6)	底部から体部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面下位ヘラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 内面赤褐色 普通	60% P106 底部木炭灰 二次焼成 竈内	
		C					5.8
3	蓋 須恵器	B (2.7)	天井部からつまみの破片。蓋宝珠状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦である。	つまみ, 天井部クロロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石 砂粒 灰色 普通	10% P105 覆土中層	
		F					2.5
		G					1.6

第97号住居跡 (第42図)

位置 調査区北部, A6is区。

規模と平面形 長軸3.14m, 短軸2.80mの長方形である。

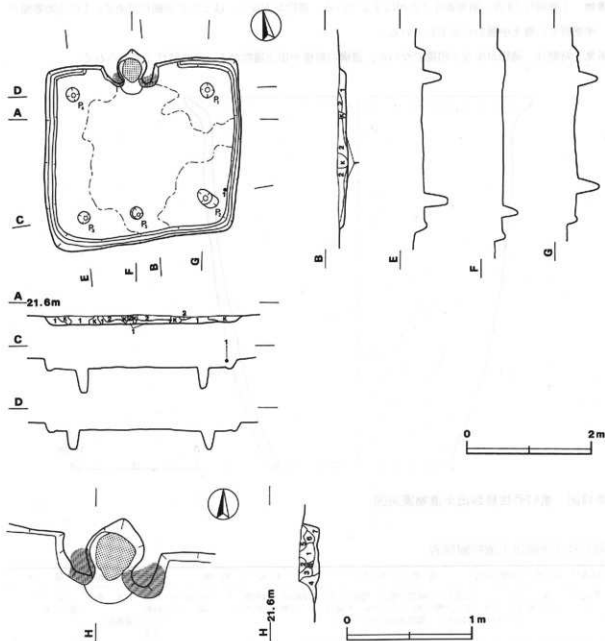
主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は12~18cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅10~27cm, 下幅4~7cm, 深さ3~5cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 南壁から竈手前と東壁付近まで踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで72cm, 最大幅93cm, 壁外への掘り込みは24cmである。火床部は床面を4cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変しているが, あまり硬化していない。煙道部は外傾し, 立ち上がる。



第42図 第97号住居跡実測図

覆土層観察

- | | | | |
|----------|------------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 | 6 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 におい赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 灰褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | | |
| 5 におい赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | | |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁, P₃, P₄は径19~23cmの円形, P₂は長径37cm, 短径20cmの楕円形で、いずれも深さ31~40cmの主柱穴である。P₅は径19cmの円形で、深さ29cmの出入り口施設に伴うピットである。

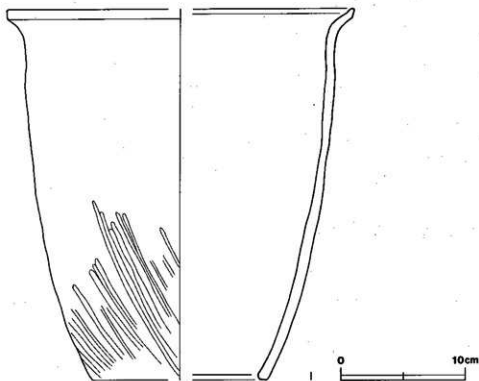
覆土 2層からなり、自然堆積と思われる。

土層観察

- | | |
|-------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 |

遺物 土器器片38点, 須恵器片3点が出土している。遺物が少なく、ほとんどが細片である。1の土器器片が東壁寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は、遺物が少なく明確でないが、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代と考えられる。



第43図 第97号住居跡出土遺物実測図

第97号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第43図 1	甕 土器器	A [27.7] B 29.9 C [14.0]	底部から口縁部の破片。無底式。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下半へテ磨き。内面ナデ、下端へテ削り。	呉石 石英 雲母 砂粒 におい黄褐色 普通	15% P107 覆土中層

第98号住居跡 (第44図)

位置 調査区北部, B6as区。

規模と平面形 長軸4.67m, 短軸4.65mの隅丸方形である。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は31~34cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 南壁の一部を除いて, ほぼ全周している。上幅15~41cm, 下幅3~13cm, 深さ3~5cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで119cm, 最大幅178cm, 壁外への掘り込みは15cmである。火床部は床面を2cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変し, 硬化している。西側の袖部は東側の袖部に比べて, 厚く粘土で作られている。煙道部は外傾し, 緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---|----------|---|
| 1 におい赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 におい赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・砂・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 灰褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 暗赤褐色 | 砂多量, 焼土粒子中量, 焼土中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土小ブロック多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土中ブロック微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土中ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量, 砂少量, 炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・砂少量, 焼土小ブロック微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・砂少量, 焼土大ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土中ブロック少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | | |

ピット 6か所 (P₁~P₆)。P₁とP₄は長径59~66cm, 短径44~48cmの楕円形, P₂とP₃は径31~40cmの円形で, いずれも深さ15~39cmの主柱穴である。P₅は長径85cm, 短径66cmの不整楕円形で, 深さ29cmの出入り施設に伴うピットである。P₆は径35cmの円形, 深さ41cmで, 性格は不明である。

覆土 6層からなり, 焼土ブロックの堆積の状況が見られることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

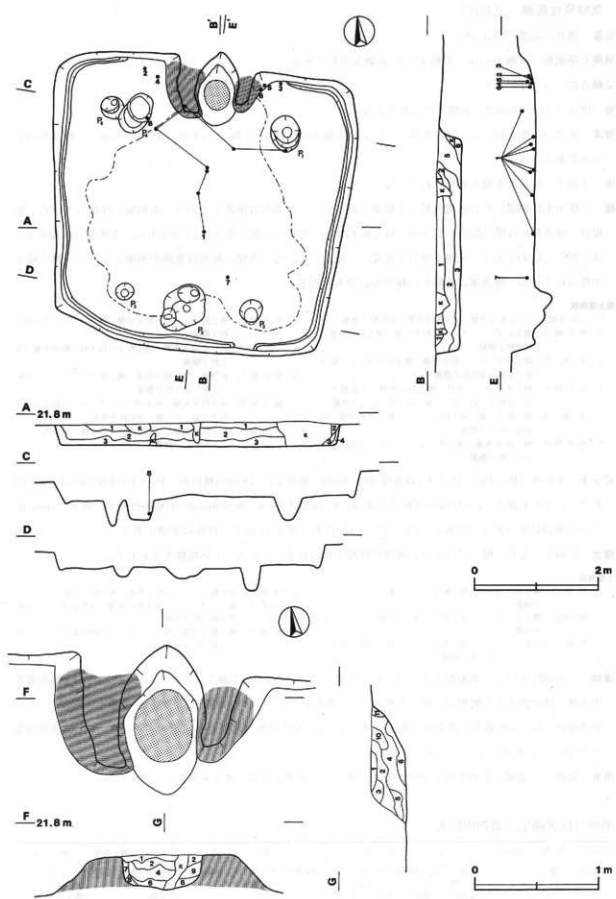
- | | | | |
|--------|--------------------------------------|-------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | 炭化粒子・ローム粒子多量, 焼土粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 | 5 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |

遺物 土師器片642点, 須恵器片329点, および混入した凹石1点, 石鏃1点が出土している。1の土師器蓋が中央部の床面直上から竈周辺の覆土下層までの広範囲にわたり, 4の須恵器帯が竈西側の覆土下層から, 5の須恵器帯, 6の須恵器蓋が竈東側の覆土中層から, 7の須恵器蓋が南壁寄りの覆土中層から, 8の須恵器高盤がP₄内からそれぞれ出土している。

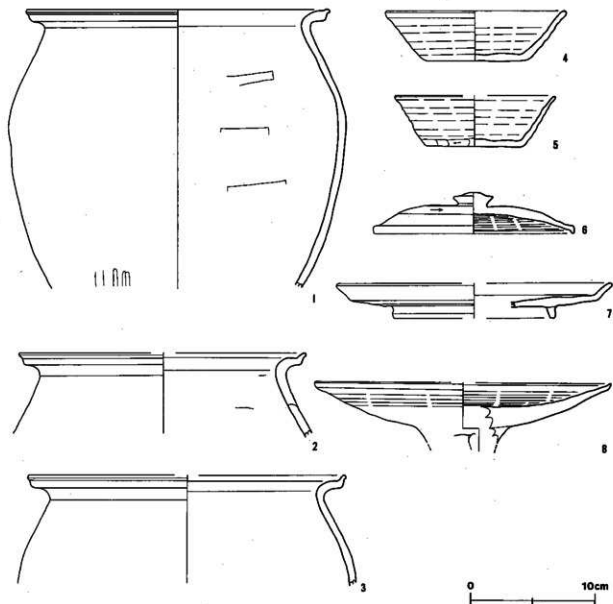
所見 時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 奈良時代の8世紀後半と考えられる。

第98号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 1	土師器	A 24.3 B (22.5)	底薄, 体軽, 口縁部一部欠損。体部は内灣して立ち上がる。口縁部は強く外反し, 端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外両側ナデ。外部外面下位へラ磨き。内面へラナデ。	長石 雲母 砂粒 におい褐色 普通	60% P113 床面直上 覆土下層



第44图 第98号住居跡実測图



第45図 第98号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 2	甕 土師器	A [22.8] B (6.5)	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナダ。体部内・外面ナダ。内面に輪模み直有り。	長石 雲母 砂粒 明褐色 普通	5% P114 覆土中 覆土下層
3	甕 土師器	A [25.4] B (8.7)	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナダ。体部内・外面ナダ。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	5% P115 覆土下層
4	坏 須恵器	A 14.4 B 4.1 C 7.9	体部、口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナダ。底部回転ヘラ切り後、手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰白色 普通	65% P108 覆土下層
5	坏 須恵器	A [12.8] B 4.1 C 7.8	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナダ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、一方方向の手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	60% P109 覆土中層

図取番号	階層	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 6	葦 須 恵 子	A [16.0]	口縁部、天井部一部欠損。扁平なボ タン状のつまみが付く。天井部はほ ぼ平坦で、緩やかに開く。口縁部は 屈曲して垂下する。	つまみ、天井部、口縁部内・外面ロ クロナデ。頂部回転ヘラ磨り。	灰石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	60% P110 覆土中層
		B 3.3				
		F 3.1				
		G 1.2				
7	葦 須 恵 子	A [21.9]	高台部から口縁部の破片。高台部は ハの字状に開く。平底。体部は直線 的に外傾して立ち上がり、口縁部の 境に鋭を持つ。口縁部はわずかに外 反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端回転ヘラ磨り。底部回転ヘ ラ磨り。高台部貼り付け、ロクロナ デ。	灰石 砂粒 灰色 良好	25% P111 覆土中層
		B 2.8				
		D [13.0]				
		E 1.0				
8	高 須 恵 子	A [23.8]	脚部から口縁部の破片。底部は尖み を持った平底。体部は内彎筒状に立 ち上がり、口縁部はつまみ上げら れている。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 脚部貼り付け、ロクロナデ。	灰石 砂粒 灰色 良好	15% P112 P ₁ 内
		B (4.9)				

第99号住居跡 (第46図)

位置 調査区北部, B6a区。

規模と平面形 長軸4.37m, 短軸4.32mの方形である。

主軸方向 N-14°-E

壁 壁高は34~42cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅10~25cm, 下幅5~10cm, 深さ3~8cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、各コーナー部付近を除き、踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から突口部まで102cm, 最大幅145cm, 壁外への掘り込みは13cmである。火床部は床面を4cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。特に、東側の袖部の内壁が赤変し、硬く締まっている。煙道部は外傾し、急に立ち上がる。

土層解説

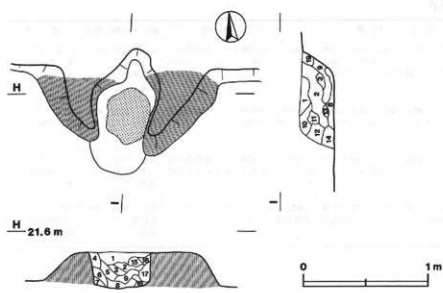
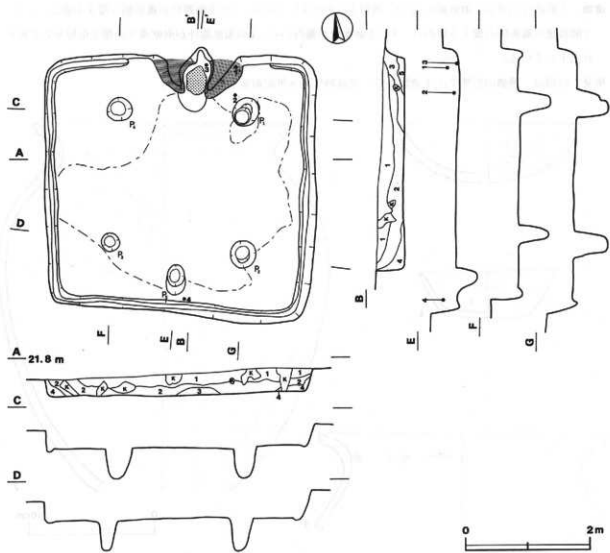
- | | |
|---|---|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 11 黒褐色 ローム粒子中量, 砂少量, 炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 12 暗赤褐色 ローム粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 13 赤褐色 焼土粒子少量, 焼土中ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 4 じい赤褐色 砂少量, ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 黒褐色 ローム粒子・砂中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土小ブロック少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 15 暗赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 6 暗赤褐色 焼土粒子少量, ローム粒子中量, 炭化粒子・砂少量 | 16 暗赤褐色 ローム粒子・砂中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂微量 | 17 灰褐色 砂少量, ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量 |
| 8 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子・砂中量, 炭化粒子少量 | 18 黒褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・砂少量, 炭化粒子微量 |
| 9 じい赤褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・砂中量, 炭化粒子微量 | 19 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・砂少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 10 灰褐色 ローム粒子少量, 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁は長径49cm, 短径40cmの楕円形, P₂~P₄は径30~45cmの円形で、いずれも深さ47~53cmの主柱穴である。P₅は長径49cm, 短径30cmの楕円形で、深さ33cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 5層からなり、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

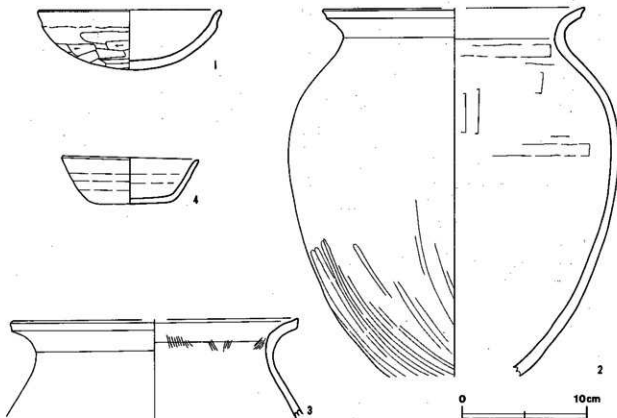
- | | |
|---|---|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量 | 3 暗褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム大・中ブロック微量 |
| | 5 黒褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |



第46图 第99号住居跡実測图

遺物 土師器片119点、須恵器片19点、角釘1点が出土している。1の土師器坏が竈東側の覆土中層から、2の土師器甕が竈東側の覆土下層から、3の土師器甕が竈内から、4の須恵器坏が南壁寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀前半と考えられる。



第47図 第99号住居跡出土遺物実測図

第99号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器型	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第47図 1	坏 土師器	A 14.5 B 4.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に襷を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面ヘラ削り。内面横ナダ。底部ヘラ削り。	灰石 雲母 砂粒 ヘスコリア 明赤褐色 普通	90% P116 覆土中層
2	甕 土師器	A [20.8] B (29.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面下半ヘラ削き。内面ヘラナダ。	灰石 雲母 砂粒 褐色 普通	35% P118 覆土下層
3	甕 土師器	A [22.9] B (8.0)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がり、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナダ。体部内・外面ナダ。内面腹部に刷毛目状工具痕が残る。	灰石 雲母 砂粒 灰白色 普通	10% P119 二次焼成 竈内
4	坏 須恵器	A 10.9 B 3.9 C 6.4	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。底部手持ちヘラ削り。	灰石 雲母 砂粒 灰白色 普通	90% P117 二次焼成 覆土中層

第100号住居跡 (第48・49図)

位置 調査区北部、B6b区。

規模と平面形 長軸 6.38m、短軸 6.30mの隅丸方形である。

主軸方向 N-2'-W

壁 壁高は24~29cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁の西側を除いて、ほぼ全周している。上幅26~48cm、下幅5~18cm、深さ5~10cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで164cm、最大幅192cm、壁外への張り込みは73cmである。火床部は床面を4cmほど張りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。東側の袖部は西側の袖部に比べて、厚く粘土で作られている。煙道部は外傾し、階段状に立ち上がる。

粘土層解説

1 暗赤褐色	焼土粒子中量、焼土大・中・小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量	13 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土大ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
2 黒褐色	焼土小ブロック中量、焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量	14 暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子・粘土粒子少量
3 極暗赤褐色	焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、焼土大・中ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量	15 極暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
4 極暗赤褐色	焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量	16 極暗赤褐色	焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
5 暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子少量、ローム粒子微量	17 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量
6 極暗赤褐色	焼土小ブロック中量、焼土粒子・ローム粒子少量	18 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
7 黒褐色	焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、ローム粒子少量	19 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子・ローム粒子微量
8 極暗赤褐色	焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、焼土中ブロック少量、ローム粒子微量	20 暗赤褐色	焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、ローム粒子・砂少量、炭化粒子微量
9 暗褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量	21 黒褐色	焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
10 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土大・中ブロック少量、ローム粒子微量	22 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
11 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量	23 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土大・中ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
12 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子中量、炭化粒子少量		

ピット 7か所(P₁~P₇)。P₁、P₂、ならびにP₄は長径110~143cm、短径65~79cmの楕円形、P₃は長径137cm、短径70cmの不定形で、いずれも深さ58~76cmの主柱穴である。P₅は長径87cm、短径77cmの楕円形で、深さ32cmの出入口施設に伴うピットである。P₆とP₇は長径95~167cm、短径94~110cmの不整形楕円形で、いずれも深さ23~28cmで、性格は不明である。

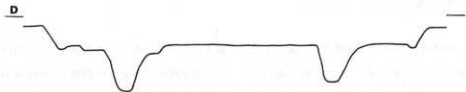
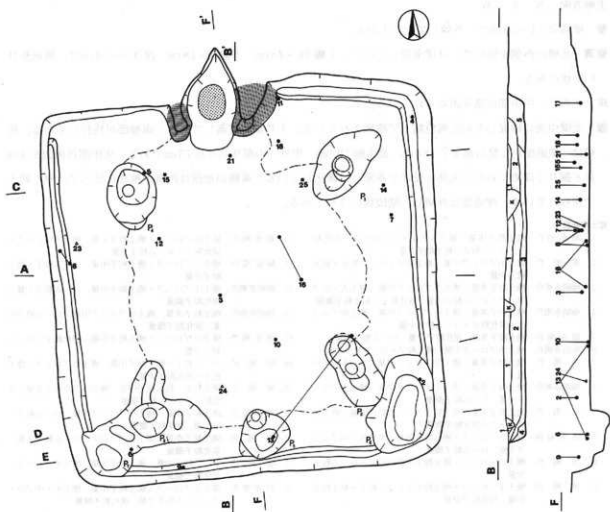
覆土 5層からなり、焼土ブロックを含有している状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

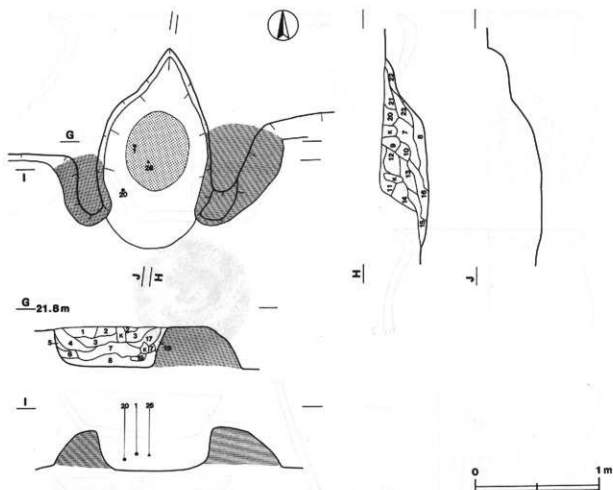
1 暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量	4 暗褐色	焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	焼土小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、炭化物微量	5 黒褐色	焼土小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
3 極暗褐色	焼土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量		

遺物 土師器片1348点、須恵器片905点、鉄鏝2点、砥石1点、支脚1点、および混入した陶器片1点が出土している。1の土師器壺、20の須恵器鉢、26の支脚が竈内から、8の須恵器坏が西壁寄りの覆土中層から床面直上にかけて、21の須恵器壺が甕手前の覆土下層から、22の須恵器円面碗が覆土中から、23の刀子が西壁寄りの覆土下層から、24の鉄鏝が南壁寄りの覆土下層から、25の砥石がP₁西側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀中葉と考えられる。



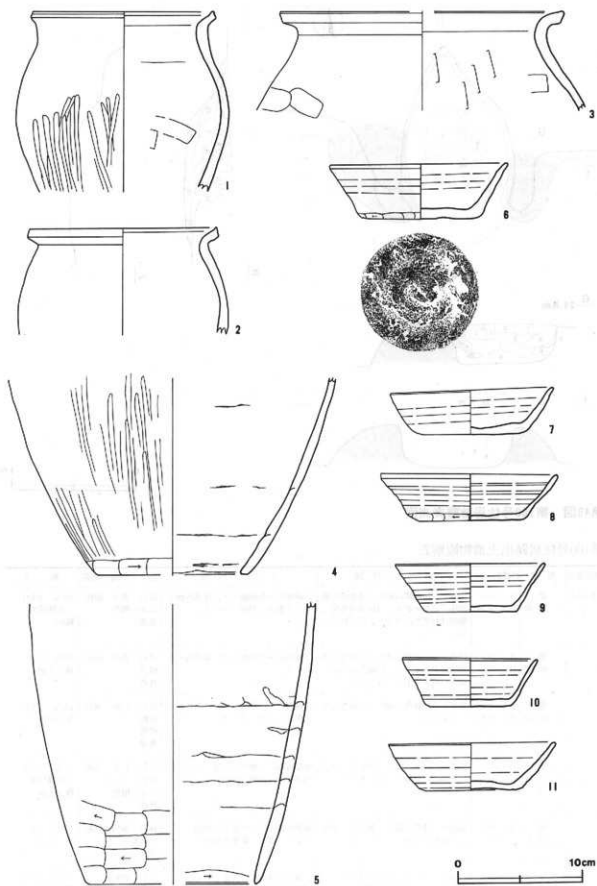
第48图 第100号住居跡実測图



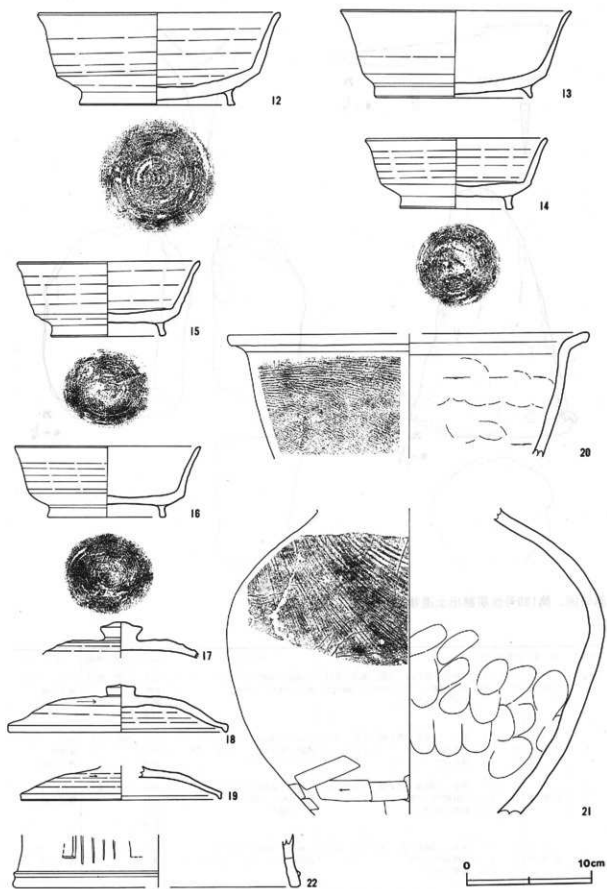
第49図 第100号住居跡実測図

第100号住居跡出土遺物観察表

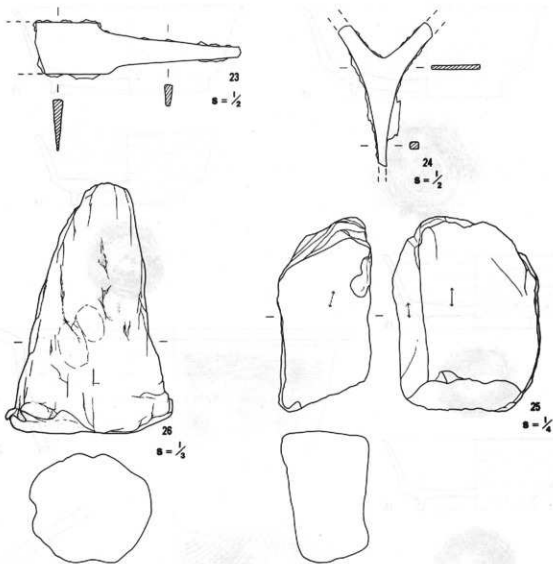
図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第50図 1	甕 土器器	A 14.5 B (14.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下平ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 および褐色 普通	30% P121 二次焼成 甕内
2	甕 土器器	A 15.0 B (8.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	20% P122 甕土上層
3	甕 土器器	A [22.6] B (8.1)	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	15% P123 甕土中層
4	甕 土器器	B (15.8) C [12.0]	底部から体部の破片。無底式。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ磨き、下端ヘラ削り。内面ナデ、輪積み痕有り。	長石 石英 雲母 砂粒 スコリア および褐色 普通	15% P126 外面保付層 甕土上層
5	甕 土器器	B (22.5) C [13.6]	底部から体部の破片。無底式。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面下位ヘラ削り。内面ナデ、下端ヘラ削り、輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	15% P127 甕土上層
6	坏 須臾器	A 14.4 B 4.6 C 9.4	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、兼な手持ちヘラ削り。	長石 砂粒 灰色 普通	95% P128 甕土下層



第50图 第100号住居跡出土遺物実測図(1)



第51图 第100号住居跡出土遺物実測図(2)



第52図 第100号住居跡出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第50図 7	環 須 恵 器	A 12.9	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部。体部内・外面クロコナダ。底部手持ちへら削り。	長石 石英 雲母 砂粒 黄灰色 普通	95% P129 覆土上層
		B 3.8				
		C 7.8				
8	環 須 恵 器	A 14.1	体部。口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は強く外反する。	口縁部。体部内・外面クロコナダ。体部下端手持ちへら削り。底部一方向の手持ちへら削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	90% P130 床面直上 覆土中層
		B 3.9				
		C 8.3				
9	環 須 恵 器	A 12.0	体部。口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部。体部内・外面クロコナダ。底部回転へら切り後、一方向の手持ちへら削り。	長石 石英 雲母 砂粒 灰色 普通	70% P131 覆土上層
		B 3.9				
		C 7.1				
10	環 須 恵 器	A 10.8	体部。口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部。体部内・外面クロコナダ。底部一方向の手持ちへら削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	70% P132 覆土下層
		B 4.0				
		C 6.8				
11	環 須 恵 器	A 13.5	体部。口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部。体部内・外面クロコナダ。体部下端回転へら削り。底部回転へら削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	70% P133 覆土中層
		B 3.9				
		C 7.2				

図版番号	種 別	計測値 (cm)	形 状 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第51回 12	高台付坏 須 恵 器	A 19.5	体部、口縁部一部欠損。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、下位に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。底部回転へら削り。高台部貼り付け、クロコナダ。	長石 砂粒 灰色 青透	85% P134 覆土中層
		B 7.5				
		D 12.4				
		E 1.4				
13	高台付坏 須 恵 器	A 18.5	高台部、体部、口縁部一部欠損。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、下位に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。底部回転へら削り。高台部貼り付け、クロコナダ。	長石 雲母 砂粒 灰色 青透	85% P135 覆土下層
		B 7.0				
		D 12.4				
		E 1.0				
14	高台付坏 須 恵 器	A 14.5	体部、口縁部一部欠損。高台部は直線的に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、下位に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。底部回転へら削り。高台部貼り付け、クロコナダ。	長石 砂粒 灰色 青透	80% P136 覆土中層
		B 5.7				
		D 8.9				
		E 1.1				
15	高台付坏 須 恵 器	A 14.5	体部、口縁部一部欠損。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、下位に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。底部回転へら削り。高台部貼り付け、クロコナダ。	長石 砂粒 灰色 青透	70% P137 覆土中層
		B 6.0				
		D 9.1				
		E 1.2				
16	高台付坏 須 恵 器	A 15.0	高台部、体部、口縁部一部欠損。高台部は直線的に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、下位に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。底部回転へら削り。高台部貼り付け、クロコナダ。	長石 砂粒 灰色 青透	70% P138 覆土下層
		B 5.7				
		D 9.5				
		E 0.9				
17	蓋 須 恵 器	B (2.8)	天井部の破片。ボタン状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦で、緩やかに開く。	つまみ、天井部内・外面クロコナダ。頂部回転へら削り。	長石 雲母 砂粒 スクリア に多い褐色 青透	15% P120 覆土中
		F 3.4				
		G 1.5				
18	蓋 須 恵 器	A 17.3	口縁部一部欠損。扁平なボタン状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦で、緩やかに開く。口縁部は屈曲して垂下する。	つまみ、天井部、口縁部内・外面クロコナダ。頂部回転へら削り。	長石 砂粒 黄灰色 青透	70% P139 覆土上層
		B 3.6				
		F 2.3				
		G 1.0				
19	蓋 須 恵 器	A 16.0	つまみ、天井部、口縁部一部欠損。天井部はほぼ平坦で、内湾気味に開く。口縁部は屈曲して垂下する。	天井部、口縁部内・外面クロコナダ。頂部回転へら削り。	長石 雲母 砂粒 灰色 青透	70% P140 覆土中
		B (2.7)				
20	鉢 須 恵 器	A [38.0]	体部から口縁部の破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面クロコナダ。体部外面平行叩き。内面ナダ、当て具痕。輪痕み痕有り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 青透	10% P141 壺内
		B (13.4)				
21	蓋 須 恵 器	B (24.6)	体部の破片。体部は内湾して立ち上がり、上位で最大径を有する。	体部外面平行叩き、下位へら削り。内面ナダ、当て具痕有り。	長石 石英 雲母 砂粒 灰色 青透	60% P142 二次焼成 覆土下層
22	円 面 破 須 恵 器	B (4.3)	脚部片。透かし窓の間に4本の刻みがある。下位に1条の隆帯が通る。	脚部内・外面クロコナダ。透かし窓へら切り。	長石 雲母 砂粒 灰色 青透	5% P143 覆土中
		D [22.5]				

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第52回23	刀 子	(10.7)	(2.8)	(0.5)	(30)	覆土下層	M6
24	鉄 鏝	(7.7)	(5.0)	(0.4)	(16)	覆土下層	M7 80%

図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
25	砥 石	20.7	10.0	15.5	4520	砂 岩	覆土下層 Q6 100%	

図版番号	種 別	計 測 値			出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)		
26	支 脚	20.2	13.3	1470	壺内	DP2 100%

第101号住居跡 (第53図)

位置 調査区北部, A6i区。

規模と平面形 長軸4.54m, 短軸3.80mの長方形である。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は35~43cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北東コーナー部を除いて, ほぼ全周している。上幅12~38cm, 下幅6~11cm, 深さ5~8cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで124cm, 最大幅185cm, 壁外への掘り込みは48cmである。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変し, 硬化している。特に, 両袖部の内壁が赤変し, 硬く締まっている。煙道部は外傾し, 階段状に立ち上がる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量		炭化粒子・粘土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック微量	10 灰褐色	ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
3 灰褐色	ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量	11 暗赤褐色	焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子・砂中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
5 極暗赤褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量	13 暗赤褐色	焼土粒子多量, 粘土粒子・砂中量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
6 ぶい赤褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子微量	14 暗赤褐色	焼土粒子・ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量
7 暗赤褐色	焼土粒子多量, 焼土中ブロック中量, 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量	15 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子・砂少量, 炭化粒子微量
8 暗赤褐色	焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量	16 極暗赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・砂少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
9 暗赤褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック		

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁とP₂は長径48~58cm, 短径27~34cmの楕円形, P₃は径33cmの円形で, いずれも深さ37~49cmの主柱穴である。P₄は径27cmの円形で, 深さ14cmの出入り口施設に伴うピットである。

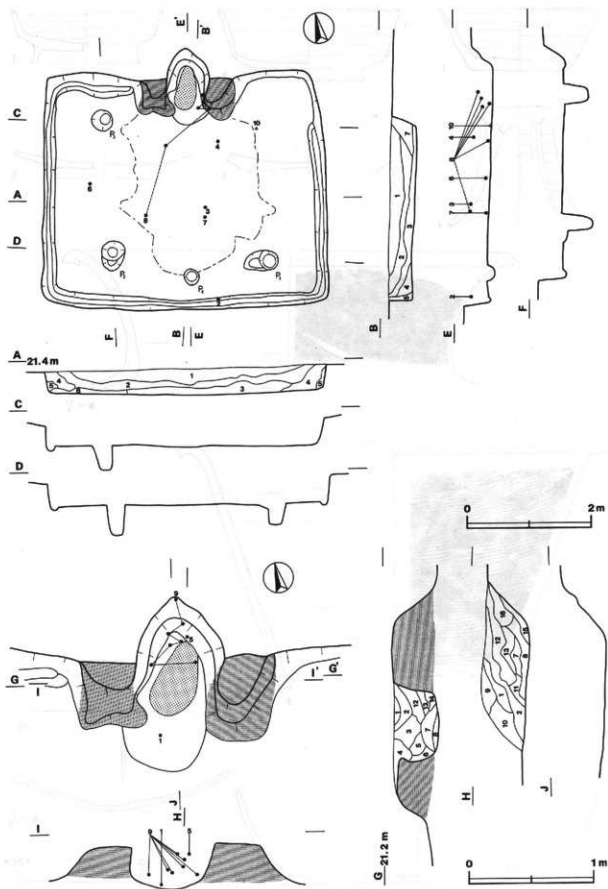
覆土 7層からなり, 不自然な堆積の状況がみられることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

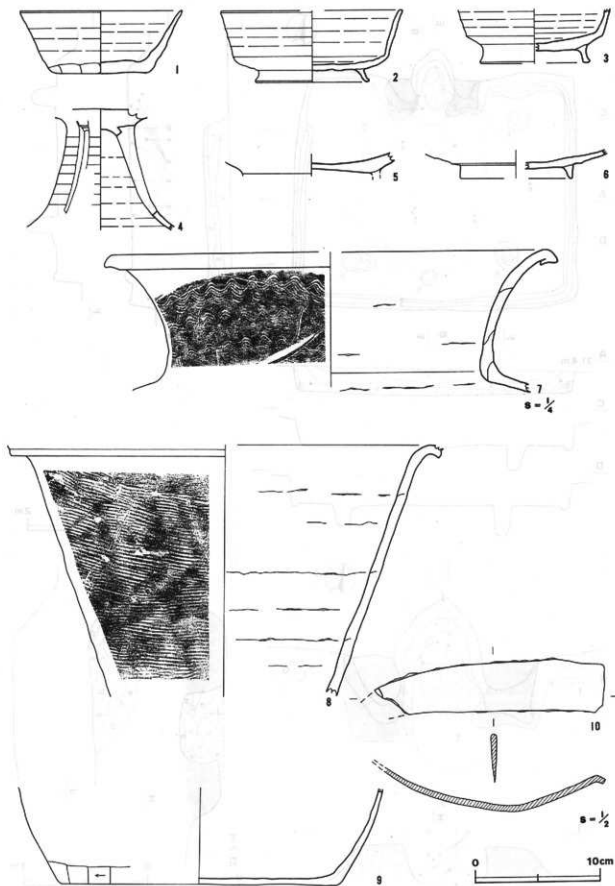
1 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量	5 褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
2 黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量	6 黒褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
3 灰褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量	7 暗褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
4 黒褐色	炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量,		

遺物 土師器片214点, 須恵器片124点, 鎌1点, 鉄滓4点, および混入した陶器片5点が出土している。1の須恵器片が逆位で, 5の須恵器盤, 9の須恵器甕が竈内から, 6の須恵器盤が西壁寄りの覆土下層から, 7の須恵器甕が中央部の覆土下層から, 8の須恵器鉢が中央部の覆土上層から竈内までの広範囲にわたり, 10の鎌が竈手前東側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 1の須恵器片は竈内から出土しているが, 二次焼成を受けていないことから, 電器記に使用された可能性がある。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 奈良時代の8世紀後半と考えられる。



第53图 第101号住居跡実測图



第54图 第101号住居跡出土遺物実測図

図101 住居跡出土遺物実測図

第101号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第54図	須恵器	A 13.0	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、雑な手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	95% P144 電内
		B 5.1				
		C 8.0				
2	高台付坏須恵器	A [14.5]	高台部から口縁部の破片。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、下位に壁を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	40% P145 覆土上層
		B 5.8				
		D 9.0				
		E 1.0				
3	高台付坏須恵器	B (4.4)	高台部から体部の破片。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、下位に壁を持つ。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 石英 砂粒 灰色 普通	30% P146 覆土上層
		D [8.6]				
		E 1.4				
4	高 盤須恵器	B (9.8)	脚部から底部の破片。脚部はラップ状に開き、3孔を有する。	脚部貼り付け、ロクロナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	15% P147 覆土上層
5	盤須恵器	B (1.7)	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	20% P148 電内
6	須恵器	B (2.3)	高台部から体部の破片。高台部は直線的に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 におい黄褐色 普通	15% P149 覆土下層
		C [9.0]				
7	要須恵器	A [45.8]	体部から口縁部の破片。頸部はくの字状に強く屈曲する。頸部直下は折り返されている。	口縁部外面に7本単位の華歯状工具による波状文が3条造られている。内面ナデ、輪痕み痕有り。	長石 雲母 砂粒 におい黄褐色 普通	15% P150 二次焼成直 覆土下層
		B (14.5)				
8	鉢須恵器	B (20.1)	体部から口縁部の破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ、輪痕み痕有り。	長石 砂粒 灰色 普通	15% P151 電内 覆土上層
9	要須恵器	B (7.9)	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面摩滅のため調製不明。外面下位ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 におい黄褐色 不良	20% P152 電内
		C 22.5				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
10	鉄 鏝	(12.3)	(2.7)	(0.3)	(33)	覆土下層	M8

第102号住居跡 (第55図)

位置 調査区北部, B6a1区。

重複関係 本跡は、第103・104号住居跡と重複している。第103・104号住居跡が、本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.65m, 短軸(3.10)mの方形または長方形と推定される。

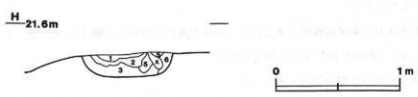
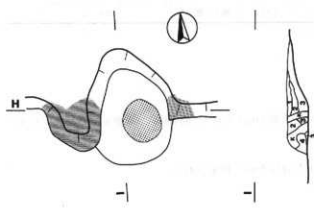
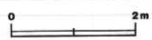
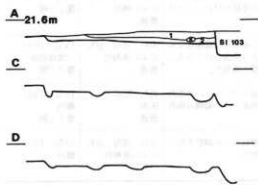
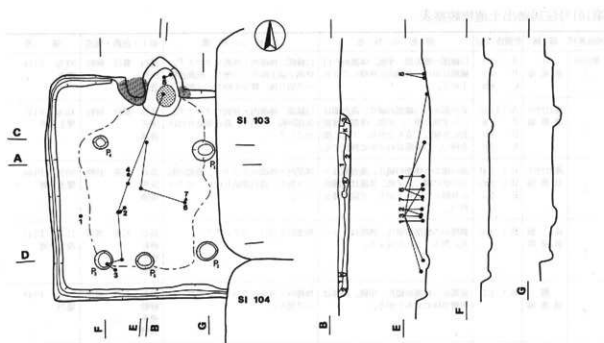
主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は10~16cmで、外傾して立ち上がる。

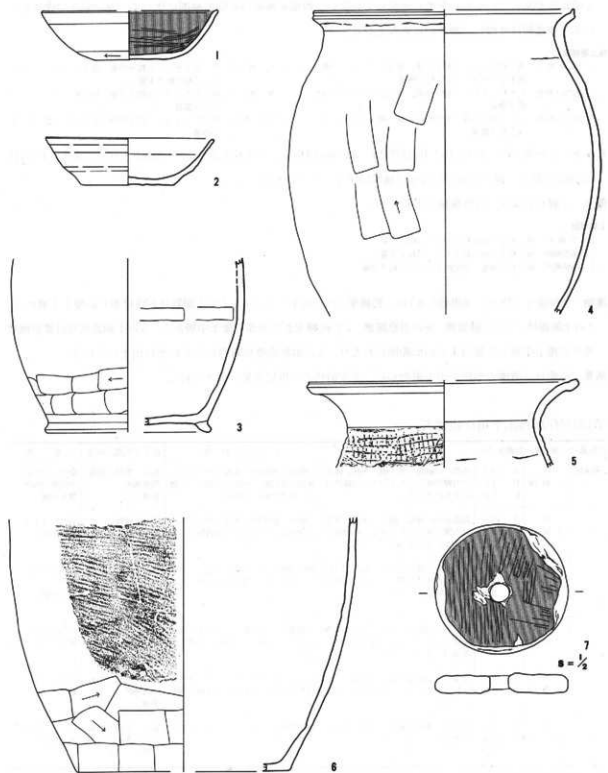
壁溝 第103・104号住居跡に掘り込まれた東壁は確認できないが、ほぼ半周している。上幅[2~8]cm, 下幅[10~28]cm, 深さ[3~8]cmで、断面形はU字状と推定される。

床 平坦で、出入り口施設から電手前にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央付近に、砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで94cm, 最大幅123cm, 壁外への掘り込みは43cmである。火床部は火熱



第55图 第102号住居跡実測図



第56图 第102号住居跡出土遺物実測図

を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。西側の袖部は東側の袖部に比べて、厚く粘土で作られている。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量、焼土小ブロック少量、焼土中ブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 2 極暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量 |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径24~34cmの円形で、いずれも深さ8~13cmの主柱穴である。P₅は径29cmの円形で、深さ6cmの入り口施設に伴うピットである。

覆土 3層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 極暗褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量

遺物 土師器片238点、須恵器片63点、紡錘車1点が出土している。1の土師器片が西壁寄りの覆土下層から、2の土師器片、4の土師器蓋、6の須恵器蓋、7の紡錘車が中央部の覆土中層から、3の土師器高台付壺が南壁寄りの覆土中層から竈内までの広範囲にわたり、5の須恵器蓋が竈内からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後半と考えられる。

第102号住居跡出土遺物観察表

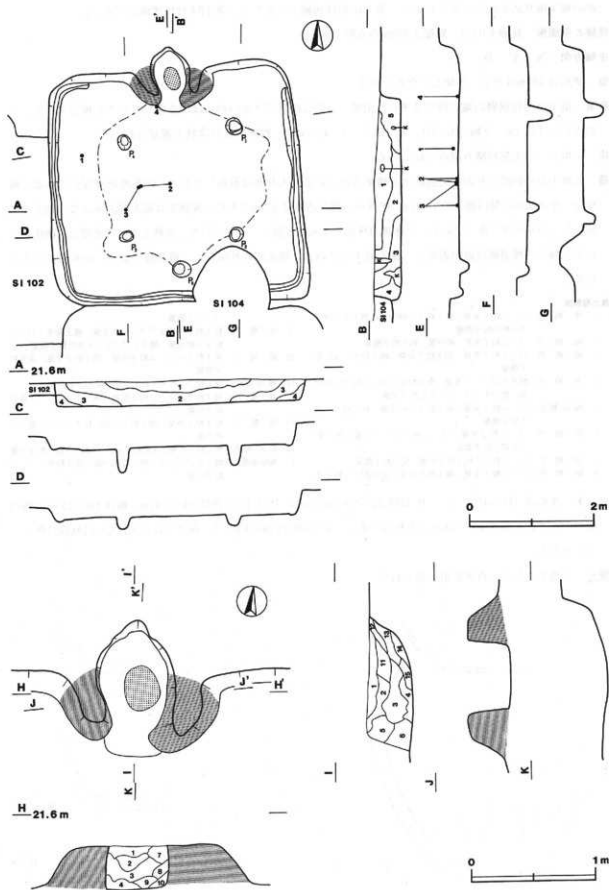
図版番号	種別	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第56図 1	坏土師器	A [14.2]	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転へう削り。内面へう磨き。底部回転へう削り。	長石 黄母 砂粒 明赤褐色 普通	60% P153 内面黒色処理 覆土下層
		B 4.0				
		C 5.4				
2	坏土師器	A 13.5	底部から口縁部の破片。平底。体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転へう切り後、無調整。	長石 砂粒 褐色 普通	50% P154 覆土中層
		B 3.9				
		C 7.6				
3	高台付壺土師器	A (14.0)	高台部から体部の破片。高台部は短く、ハの字状に開く。平底。体部は内湾気味に立ち上がる。	体部外面ナデ、下位へう削り。内面へうナデ。高台部粘り付け後、ナデ。	長石 黄母 砂粒 スコリア 明褐色 普通	25% P156 竈内 覆土中層
		D [12.8]				
		E 0.9				
4	壺土師器	A [21.0]	体部から口縁部の破片。体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は外反し、短部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう削り。内面ナデ。頸部に輪痕み痕有り。	長石 黄母 砂粒 明赤褐色 普通	20% P157 覆土中層
		B (24.5)				
5	須恵器	A [21.6]	体部から口縁部の破片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面粘り厚き。内面ナデ、輪痕み痕有り。	長石 黄母 砂粒 灰黄褐色 普通	10% P155 竈内
		B (6.9)				
6	須恵器	B (20.3)	底部から体部の破片。平底。体部は内湾気味に立ち上がる。	体部外面平行叩き、下位へう削り。内面ナデ。	長石 黄母 砂粒 明赤褐色 普通	20% P158 覆土中層
		C [17.0]				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
7	紡錘車	7.1	1.0	1.0	(64)	覆土中層 DP3 土師器転用 黒色処理 へう磨き痕有り	95%

第103号住居跡 (第57図)

位置 調査区北部、A6j区。

重複関係 本跡は、第102・104号住居跡と重複している。本跡は第102号住居跡を掘り込み、第104号住居



第57图 第103号住居跡実測図

跡の竈に掘り込まれていることから、第102号住居跡より新しく、第104号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸4.03m、短軸3.89mの方形である。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は36cmほどで、外傾して立ち上がる。

壁溝 第104号住居跡の竈に掘り込まれた南壁の一部は確認できないが、ほぼ全周していると推定される。上幅[13~33]cm、下幅[4~10]cm、深さ[3~6]cmで、断面形はU字状と推定される。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

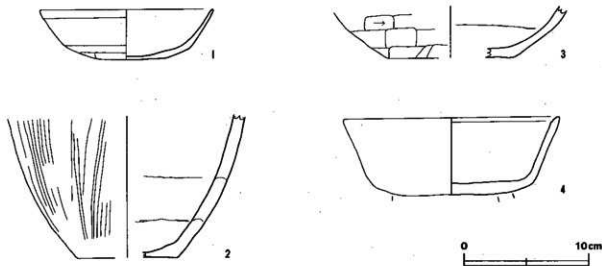
竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで109cm、壁外への掘り込みは43cmである。両袖部は最大幅136cmで、粘土で袖部をしっかりと厚く作っている。火床部は床面を4cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。特に、煙道部付近が赤変し、硬く締まっている。煙道部は外傾して、最初緩やかで、のち急に立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---|----------|--|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量、粘土粒子・砂少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 9 灰褐色 | 粘土粒子・粘土小ブロック多量、焼土粒子・ローム粒子・砂少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量、砂少量、粘土粒子微量 | 10 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量、粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 極暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土小ブロック多量、焼土粒子・ローム粒子・砂中量、焼土中ブロック・炭化粒子少量 | 12 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 5 極暗褐色 | ローム粒子多量、粘土粒子・砂少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量、炭化粒子微量 | 15 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・粘土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子・粘土小 | | |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁とP₂は径22~28cmの円形、P₃とP₄は長径24~26cm、短径16~21cmの楕円形で、いずれも深さ18~39cmの主柱穴である。P₅は径28cmの円形で、深さ14cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 5層からなり、自然堆積と思われる。



第58図 第103号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 4 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
 5 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片46点、須恵器片12点が出土している。1の土師器片が西壁寄りの覆土中層から、2、3の土師器片が中央部の覆土下層から、4の須恵器高台付片が竪手前の床面直上からそれぞれ出土している。

所見 4の須恵器高台付片は古く、時期的な違いがあることから、流れ込みと考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後半と考えられる。

第103号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第58図 1	坏 土師器	A 13.8	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内湾気味に立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。	灰石 雷母 砂粒 黄灰色 普通	80% P161 二次焼成 覆土中層
		B 4.1				
		C 5.3				
2	壺 土師器	B (11.2)	底部から体部の破片。平底。体部は内湾気味に立ち上がる。	体部外面へラ磨き。内面ナデ、輪痕み痕有り。	灰石 雷母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	10% P163 覆土下層
		C [8.0]				
3	壺 土師器	B (3.7)	底部から体部の破片。平底。体部は内湾気味に立ち上がる。	体部外面へラ削り。内面ナデ。	灰石 雷母 砂粒 褐色 普通	10% P164 覆土下層
		C [10.0]				
4	高台付坏 須恵器	A [17.3]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。口縁部内面に1条の沈線が走る。底部平縁のため調整痕不明。	灰石 雷母 砂粒 黄灰色 普通	50% P162 床面直上
		B (6.2)				

第104号住居跡 (第59図)

位置 調査区北部、B6a2区。

重複関係 本跡は第102・103号住居跡と重複している。本跡が、第102・103号住居跡を掘り込んでいることから、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸4.23m、短軸3.92mの方形である。

主軸方向 N-0°

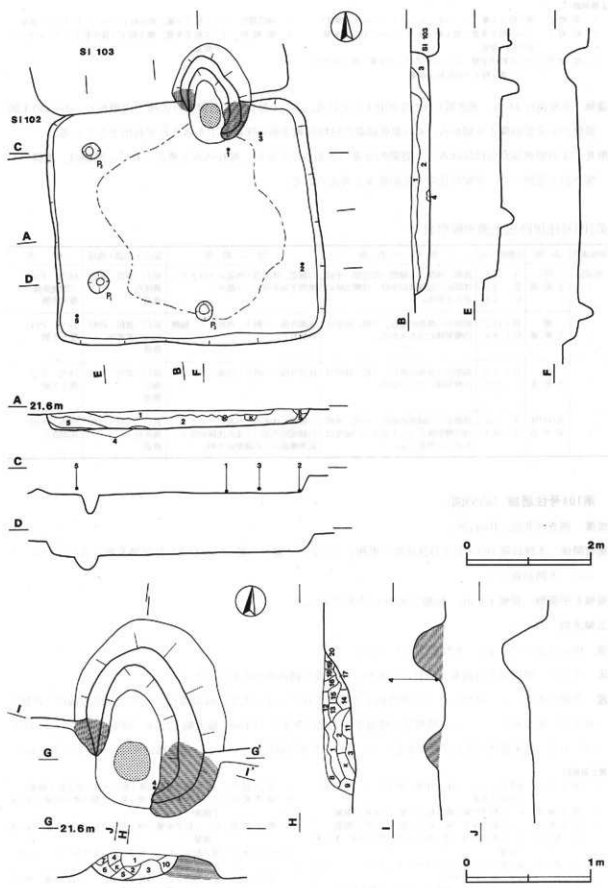
壁 壁高は26~28cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、東壁付近は攪乱を受けているが、中央部が踏み固められている。

竈 北壁の東寄りに、砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、東側の袖部と西側の袖部の一部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで114cm、最大幅123cm、壁外への掘り込みは52cmである。火床部は火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部は外傾し、急に立ち上がる。

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子微量
 2 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
 3 暗赤褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
 4 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量
 5 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子中量、焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
 6 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土中ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
 7 暗赤褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
 8 暗赤褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量、粘土粒子微量
 9 暗赤褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・粘土粒子中量、炭化粒子微量
 10 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
 11 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
 12 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量、粘土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
 13 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子微量



第59图 第104号位居跡実測图

- 14 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 15 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量・焼土小ブロック微量
 16 灰褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子微量
 17 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
 18 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
 19 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
 20 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁は径34cmの円形, P₂は長径30cm, 短径24cmの楕円形で, いずれも深さ25~34cmの主柱穴である。P₃は径32cmの円形で, 深さ25cmの出入り口施設に伴うピットである。

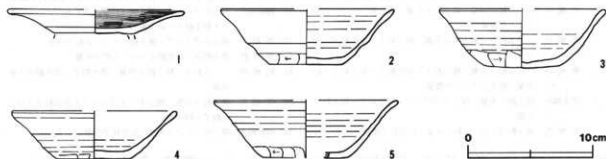
覆土 5層からなり, 自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量, 炭化物微量
 3 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
 4 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 5 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片188点, 須恵器片161点, 鉄滓1点が出土している。1の土師器高台付皿が電手前の覆土下層から, 2の須恵器が東壁寄りの床面直上から, 3の須恵器が竈東側の覆土下層から, 4の須恵器が竈内から, 5の須恵器が南西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀後半と考えられる。



第60図 第104号住居跡出土遺物実測図

第104号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第60図 1	高台付皿 土師器	A [14.1] B (1.9)	高台部, 体部, 口縁部一部欠損, 平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面クロコナデ。体部内面へう磨き。底部回転へう磨り。	長石 石英 雲母 砂粒 灰褐色 普通	60% P169 内面黒色処理 覆土下層
2	坏 須恵器	A [6.8] B 4.5 C 5.7	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちへう磨り。底部手持ちへう磨り。	長石 雲母 砂粒 灰褐色 普通	50% P165 床面直上
3	坏 須恵器	A [13.2] B 4.7 C 5.8	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちへう磨り。底部回転へう磨り後, 確なへうナデ。	長石 雲母 砂粒 灰褐色 普通	40% P166 覆土下層
4	坏 須恵器	A [13.2] B 4.7 C [5.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちへう磨り。底部手持ちへう磨り。	長石 雲母 砂粒 灰褐色 普通	25% P167 二次焼成 竈内
5	坏 須恵器	A [14.6] B 4.7 C [6.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちへう磨り。	長石 雲母 砂粒 灰褐色 普通	20% P168 覆土中層

第105号住居跡 (第61図)

位置 調査区北部, B6d₂区。

重複関係 本跡は第106号住居跡と重複している。本跡が第106号住居跡の上部に構築されていることから、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸4.18m, 短軸3.95mの隅丸方形である。

主軸方向 N-16°-E

壁 壁高は32~37cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁の一部は確認できないが、ほぼ全周していると推定される。上幅 [21~36] cm, 下幅 [3~9] cm, 深さ [2~5] cmで、断面形はU字状と推定される。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで150cm, 壁外への掘り込みは46cmである。両袖部は最大幅194cmで、粘土で袖部をしっかりと厚く作っている。火床部は床面を2cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。煙道部は外傾して、最初緩やかで、のち急に立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|--|---|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 10 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂少量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂少量 | 11 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂少量, 焼土小ブロック微量 | 12 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 6 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 13 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂少量 |
| 7 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 14 黒褐色 焼土粒子中量, 焼土・小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・砂少量 |
| | 15 暗赤褐色 焼土大ブロック多量, 炭化粒子少量 |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁, P₂, P₄は長径44~65cm, 短径32~38cmの楕円形, P₃は径30cmの円形で、いずれも深さ16~31cmの主柱穴である。P₅は径26cmの円形で、深さ9cmの出入り口施設に伴うピットである。

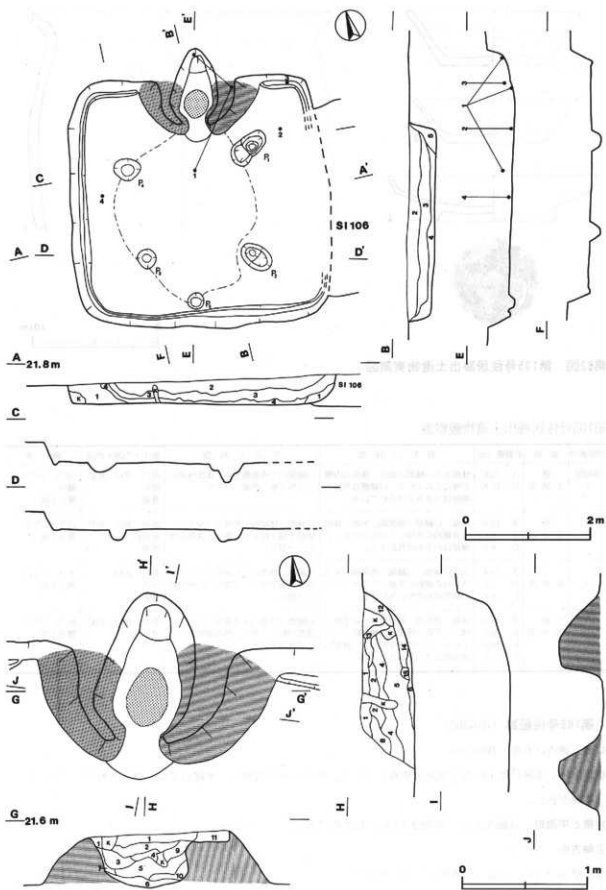
覆土 5層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

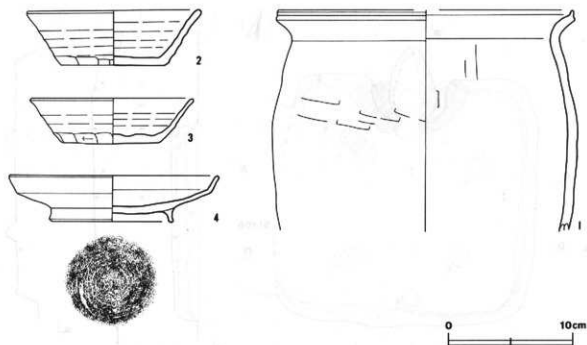
- 1 極暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量

遺物 土師器片182点, 須恵器片76点, 鉄滓10点, および混入した陶器片1点が出土している。1の土師器片が竈手前の覆土下層と竈内から、2の須恵器片が東壁寄りの覆土下層から、3の須恵器片が北東コーナー部の覆土中層から、4の須恵器片が西壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀前葉と考えられる。



第61图 第105号住居跡実測图



第62図 第105号住居跡出土遺物実測図

第105号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第62図 1	土師器	A [23.6]	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面にへう当て痕。内面ヘラナダ。	長石 橙色 普通	砂粒 20% P173 甕内 甕土下層
		B (17.8)				
2	坏須恵器	A 13.8	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。体部下端手持ちへう削り。底部手持ちへう削り。	長石 黄母 灰白色 普通	砂粒 70% P170 甕土下層
		B 4.5				
		C 8.2				
3	坏須恵器	A 13.4	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。体部下端手持ちへう削り。底部回転へう削り。	長石 砂粒 灰色 普通	60% P171 甕土中層
		B 3.7				
		C 8.0				
4	甕須恵器	A 16.8	体部一部欠損。高台部はハの字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、上位に横を持つ。口縁部は直線的に立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。底部回転へう削り。高台部貼り付け、クロコナダ。	長石 黄母 黄灰色 普通	砂粒 95% P172 甕土下層
		B 3.7				
		D 10.0				
		E 1.2				

第106号住居跡 (第63図)

位置 調査区北部, B6d3区。

重複関係 本跡は第105号住居跡と重複している。第105号住居跡が、本跡の上部に構築されていることから、本跡が古い。

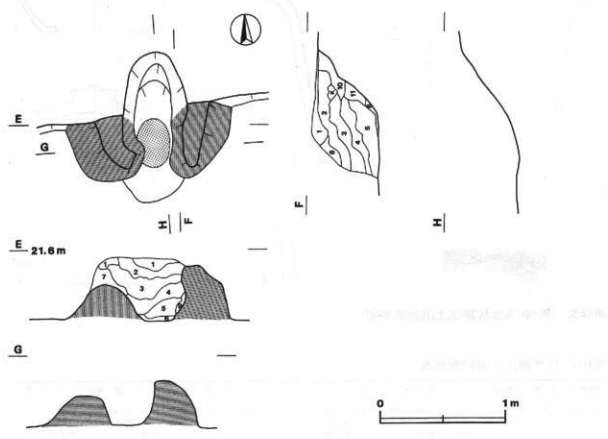
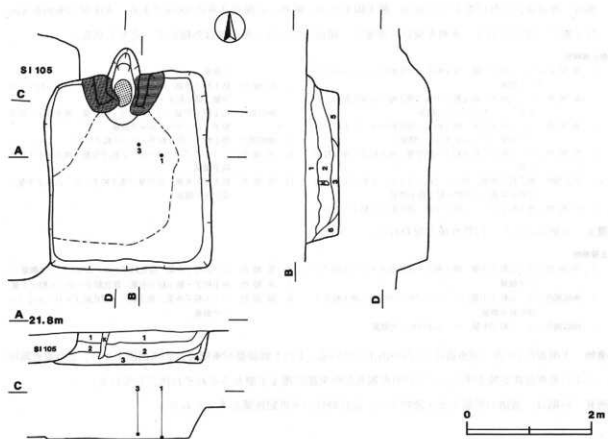
規模と平面形 長軸3.22m, 短軸2.61mの長方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は48~52cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部から西壁付近にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規



第63图 第106号住居跡実測图

模は、煙道部から焚口部まで120cm、最大幅131cm、壁外への掘り込みは48cmである。火床部は床面を4cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。煙道部は外傾して、立ち上がる。

覆土層解説

- | | | | |
|--------|--|--------|--|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 7 暗褐色 | 粘土粒子多量、粘土小ブロック中量、ローム粒子・砂少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂少量、ローム小ブロック微量 | 8 極暗褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・砂少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 | 9 極暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量、炭化物・粘土粒子微量 | 11 暗褐色 | 粘土粒子多量、砂中量、焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子・粘土小ブロック微量 | | |

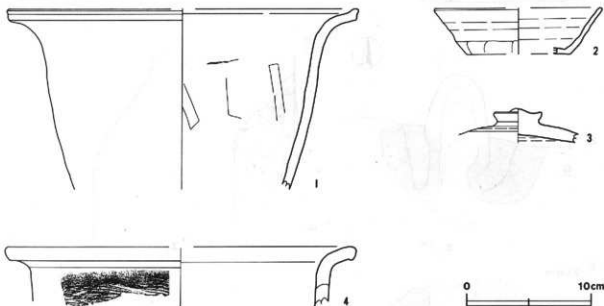
覆土 6層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |

遺物 土師器片70点、須恵器片23点が出土している。1の土師器鉢が東壁寄りの床面直上から、2の須恵器杯と4の須恵器鉢が覆土中から、3の須恵器蓋が中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀後半と考えられる。



第64図 第106号住居跡出土遺物実測図

第106号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第64図 1	土師器	A [28.3] B (14.5)	体部から口縁部の破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられ、棒状工具による凹線が流る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	20% P176 二次焼成 床面直上

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第64図 2	坏 須臾器	A [13.3] B 3.8 C [8.2]	底部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	長石 曹母 砂粒 灰色 普通	15% P174 覆土中
3	蓋 須臾器	B (2.1) F [3.9] G 1.2	つまみから天井部の破片。扁平なボタン状のつまみが付く。天井部は内彎気味に開く。	つまみ、天井部内・外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石 曹母 砂粒 黄灰色 普通	20% P175 覆土下層
4	鉢 須臾器	A [25.7] B (4.4)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。頸部、体部外面平行印き。内面ナデ。	長石 曹母 砂粒 灰色 普通	5% P177 覆土中

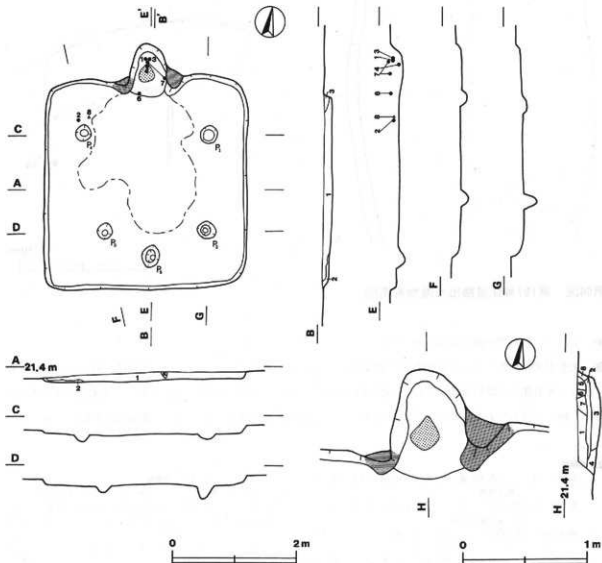
第107号住居跡 (第65図)

位置 調査区北西部, B5b₀区。

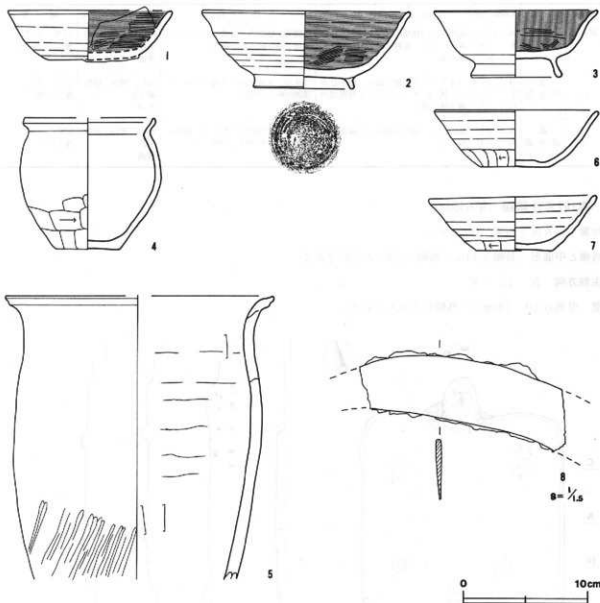
規模と平面形 長軸3.44m, 短軸3.25mの方形である。

主軸方向 N-12°-W

壁 壁高は10~16cmで、外傾して立ち上がる。



第65図 第107号住居跡実測図



第66図 第107号住居跡出土遺物実測図

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで89cm、最大幅121cm、壁外への掘り込みは55cmである。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部は外傾し、立ち上る。

甕土層解説

- | | |
|---|---------------------------------------|
| 1 赤灰色 ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子・砂少量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 焼土小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・砂少量、炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 極暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 7 極暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 4 灰褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子・砂少量、焼土小ブロック微量 | 8 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径25~31cmの円形で、いずれも深さ9~23cmの主柱穴である。P₅は長

径 36 cm, 短径 28 cm の楕円形で、深さ 13 cm の出入り口施設に伴うピットである。

覆土 3層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 柿崎褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片 72 点、須恵器片 24 点、鎌 1 点、および混入した陶器片 1 点が出土している。4 の土師器小形甕は竈の火床面に逆位で置かれ、その上部に 1 の土師器環と 7 の須恵器環がそれぞれ逆位で重なり合っている。また、5 の土師器甕が覆土中から、8 の鎌が北西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。所見 重なり合っている 4 の土師器小形甕、1 の土師器環、7 の須恵器環の間には粘土が充填されており、二次焼成を受けていることから、支脚として利用していたと考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の 9 世紀後半と考えられる。

第107号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第60図 1	坏 土師器	A 13.2	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内筒気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転へら削り。内面へら磨き。底部一方の手持ちへら削り。	長石 雲母 砂粒 灰褐色 普通	65% P180 内面黒色処理 二次焼成 内・底面粘土付着 甕内
		B 4.0				
		C [6.4]				
2	高台付 土師器	A 16.8	体部、口縁部一部欠損。高台部はハの字状に開く。平底。体部は内筒気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。内面へら磨き。底部回転へら削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 砂粒 黒褐色 普通	80% P181 内面黒色処理 二次焼成 覆土下層
		B 6.3				
		D 7.9				
		E 0.9				
3	高台付 土師器	A 13.2	高台低。体部、口縁部一部欠損。高台部は長く、ハの字状に開く。平底。体部は内筒気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。内面へら磨き。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 砂粒 によい黄褐色 普通	60% P182 内面黒色処理 二次焼成 甕内
		B 5.4				
		D 7.3				
		E 1.5				
4	小形 土師器	A [10.4]	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内筒気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位へら削り。内面横ナデ。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	70% P183 二次焼成 外面粘土付着 甕内
		B 10.6				
		C 5.1				
5	甕 土師器	A [21.5]	底低。体部、口縁部一部欠損。体部は内筒気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられ、棒状工具による凹線が通る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位へら磨き。内面へらナデ。輪轆み痕有り。	長石 石英 雲母 砂粒 によい褐色 普通	60% P184 覆土中
		B (22.9)				
6	坏 須恵器	A 13.2	平底。体部は内筒気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部手持ちへら削り。	長石 雲母 砂粒 によい褐色 普通	100% P178 覆土中層
		B 4.6				
		C 5.6				
7	坏 須恵器	A 13.5	底低。体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内筒気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部手持ちへら削り。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	80% P179 二次焼成 内・外面粘土付着 甕内
		B 4.5				
		C 5.9				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
8	鉄 鎌	(8.6)	(2.5)	(0.2)	(24)	覆土下層	M9

第108号住居跡 (第67図)

位置 調査区北西部, A5g7区。

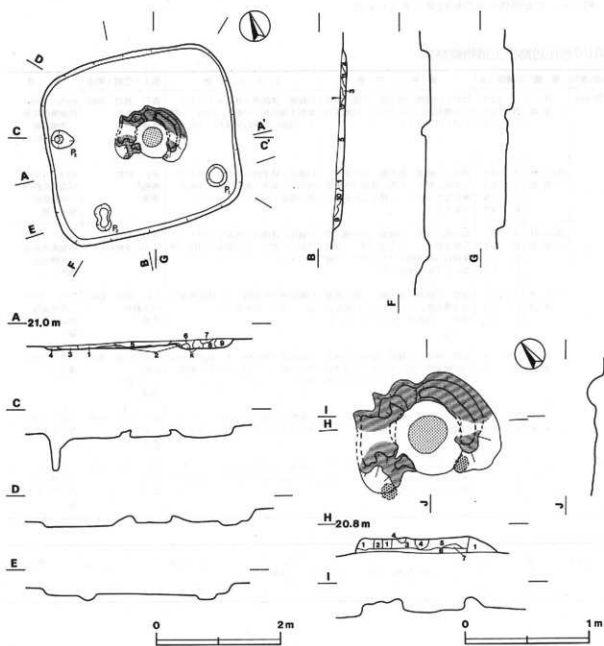
規模と平面形 長軸3.05m, 短軸2.88mの隅丸方形である。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は10~18cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 特に踏み固められている部分はない。

竈 竈状の遺構で, 床面の中央部に付設されている。規模は, 焚口部からの長さ80cm, 最大幅114cm, 高さ10cmほどで, 砂混じりの粘土で, 南側の開いた馬蹄形状に構築されている。火床部は床面を2cmほど掘りくぼめており, 皿状をしている。内壁および火床部は火熱を受けて赤変しているが, あまり硬化していない。



第67図 第108号住居跡実測図

覆土層解説

- 1 褐灰色 粘土粒子・砂少量、ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子・粘土粒子中量、砂少量
- 3 灰褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 橙褐色 焼土小ブロック少量
- 5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・粘土小ブロック少量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量
- 7 黒褐色 焼土中ブロック中量、焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量

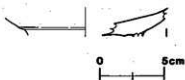
ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁は径34cmの円形で、深さ10cmの主柱穴である。P₂とP₃は長径35~43cm、短径18~28cmの不定形で、いずれも深さ12~53cmで、性格は不明である。

覆土 11層からなり、不自然な堆積の状況がみられることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|----------|--|--------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 | 8 暗赤褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 4 灰褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量 | 11 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 |
| 6 におい赤褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・粘土小ブロック少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量 | | |

遺物 土師器片56点、須恵器片16点が出土している。1の須恵器盤が西壁寄りの覆土中層から出土している。



所見 本跡は、小形の建物跡で、粘土を馬蹄形状に積み上げて構築した竪状の遺構を有している。時期は、遺物が少なく明確ではないが、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀と考えられる。

第68図 第108号住居跡出土遺物実測図

第108号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第68図 1	須恵器	B (1.5)	高台部から体部の破片。平底。体部は内湾気味に立ち上がる。	体部内・外周ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 石英 費母 砂粒 におい黄褐色 普通	15% P186 覆土中層

第109号住居跡 (第69図)

位置 調査区中央部, B6h2区。

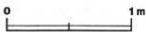
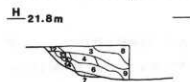
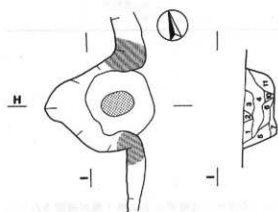
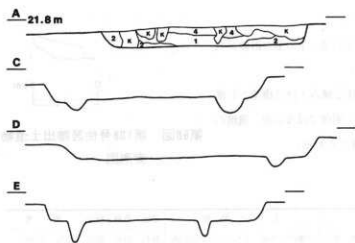
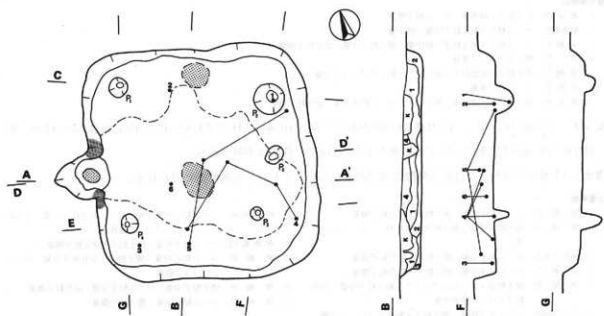
規模と平面形 長軸3.79m, 短軸3.61mの隅丸方形である。

主軸方向 N-76°-E

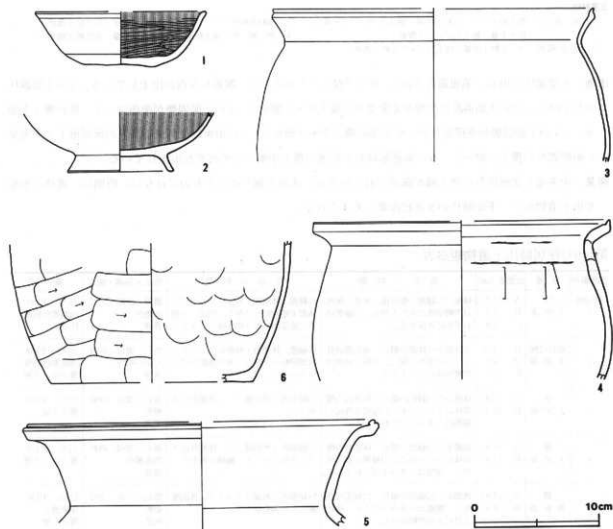
壁 壁高は26cmほどで、外傾して立ち上がる。

床 やや凹凸で、東壁付近から電手前まで踏み固められている。中央部と北壁寄りから焼土塊が確認されている。

竪 西壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。壁に砂混じりの粘土を貼って、袖部として利用している。規模は、煙道部から焚口部まで87cm, 最大幅141cm, 壁外への掘り込みは60cmである。火床部は床面を2cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部は外傾し、立ち上がる。



第69图 第109号住居跡实测图



第70図 第109号住居跡出土遺物実測図

陶土層解説

- | | |
|--|--|
| 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 9 極暗褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量 | 10 暗褐色 粘土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 | 11 極暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土中・小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 4 極暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 12 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量 | 13 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 6 極暗赤褐色 炭化物・炭化粒子・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 | 14 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土中・小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 7 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | |
| 8 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂少量, 炭化粒子微量 | |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁, P₃, P₄は径22~32cmの円形で, いずれも深さ16~34cmの支柱穴である。P₅は長径30cm, 短径24cmの楕円形で, 深さ16cmの出入り口施設に伴うピットである。P₂は径51cmの円形, 深さ27cmで, 性格は不明である。

覆土 4層からなり, 不自然な堆積の状況が見られることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化
粒子少量, 粘土小ブロック微量
2 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 極暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片 230点, 須恵器片 55点, および混入した剝片 1点, 陶器片 5点が出土している。1の土師器片がP₂内から, 2の土師器高台付碗が北壁寄りの覆土中・下層から, 3の土師器壺が南西コーナー部の覆土下層から, 4の土師器壺が東壁寄りから中央部の覆土中・下層から, 5の須恵器壺が東壁寄りの床面直上と中央部と南壁寄りの覆土上層から, 6の須恵器鉢が中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 中央部と北壁寄りに焼土塊が確認されているが, 床面を掘り込んだものではない。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀後半と考えられる。

第109号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第70図 1	坏 土師器	A [13.7] B 4.5 C 5.8	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内灣気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転へう削り。内面へう磨き。底部回転へう切り後, へうナデ。	雲母 砂粒 灰褐色 普通	70% P187 内面黒色処理 内内
2	高台付碗 土師器	B (4.7) D 8.2 E 1.5	高台部から体部の破片。高台部は長く, ハの字状に開く。平底。体部は内灣気味に立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部回転へう削り。高台部貼り付け, ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	30% P188 内面黒色処理 覆土中・下層
3	壺 土師器	A [25.8] B (12.3)	体部から口縁部の破片。体部は内灣気味に立ち上がる。口縁部は外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 橙黄色 普通	10% P189 覆土下層
4	壺 土師器	A [23.8] B 12.9	体部から口縁部の破片。体部は内灣気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面へうナデ, 輪痕み痕有り。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	15% P190 覆土中・下層
5	壺 須恵器	A [27.6] B (8.5)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反し, 端部はつまみ上げられ, 棒状工具による凹線が走る。	口縁部内・外面ロクロナデ。外面摩滅のため調整痕不明。	長石 石英 雲母 砂粒 灰色 普通	10% P191 床面直上 覆土上層
6	鉢 須恵器	B (11.3) C [16.2]	底部から体部の破片。平底。体部は内灣気味に立ち上がる。	体部外面へう削り。内面ナデ, 当て具痕有り。	長石 雲母 砂粒 オリブ黒色 普通	10% P192 覆土中層

第110号住居跡 (第71図)

位置 調査区中央部, C6b1区。

規模と平面形 長軸 4.87m, 短軸 (2.90)mである。本跡の東壁が調査区域外のため, 平面形は不明である。

主軸方向 N-20°-E

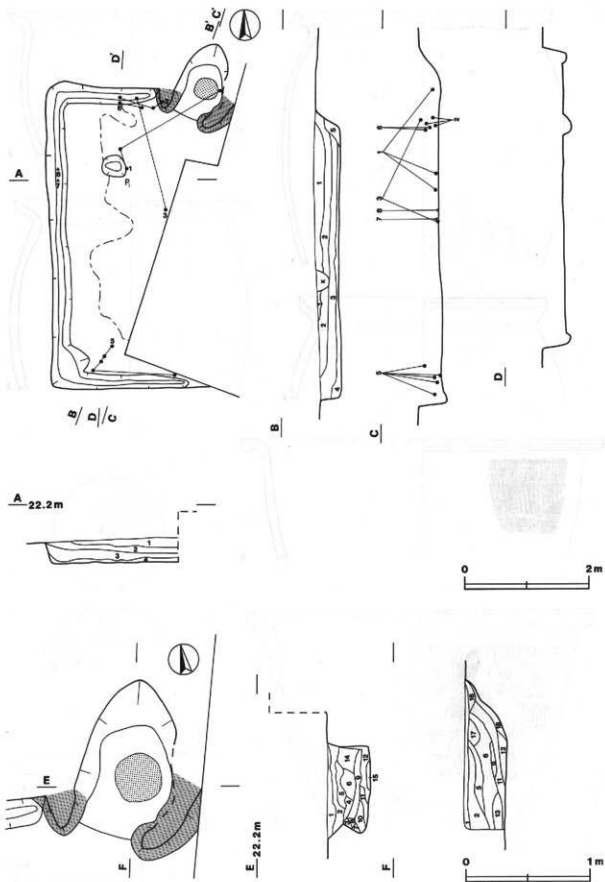
壁 壁高は32~37cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 半周している。上幅 15~72cm, 下幅 5~32cm, 深さ 5~7cmで, 断面形はU字状である。

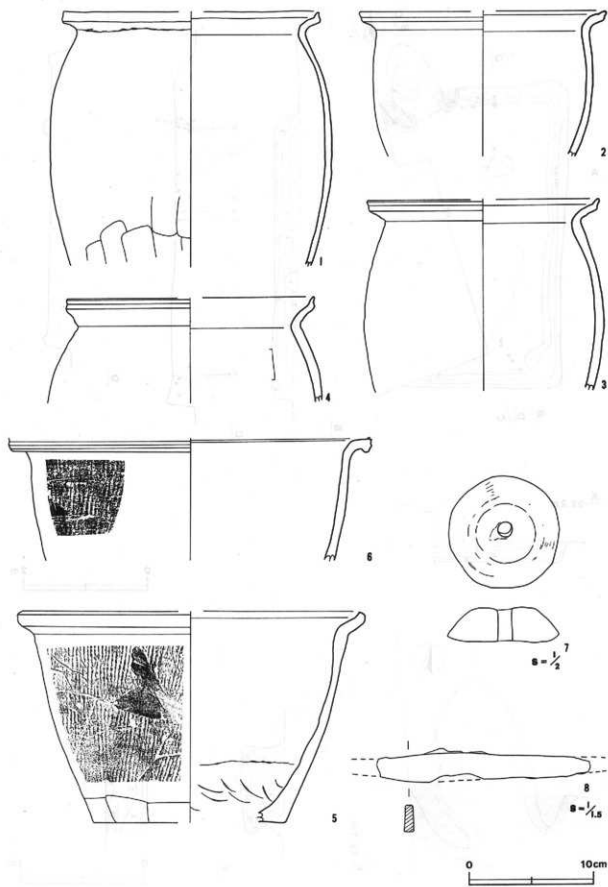
床 平坦で, 南壁付近から電手前まで踏み固められている。

竈 北壁中央付近に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。

規模は, 煙道部から焚口部まで126cm, 最大幅127cm, 壁外への掘り込みは84cmである。火床部は床面を4cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変し, 硬化している。焚口部は北壁に対して, 斜めに作られており, 東側袖部の内壁が赤変し, 硬く締まっている。煙道部は外傾し, 立ち上がる。



第71图 第110号住居跡实测图



第72图 第110号住居跡出土物実測図

覆土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------------------|----------|---|
| 1 黒褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・砂少量、焼土粒子微量 | 11 極暗赤褐色 | 子・砂中量、ローム粒子少量
焼土粒子多量、炭化粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 砂少量、焼土粒子・ローム粒子微量 | 12 極暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子中量、焼土小ブロック・砂少量 |
| 3 極暗褐色 | 砂中量、焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 | 13 黒褐色 | 粘土粒子・砂少量、ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 粘土粒子・砂少量、焼土粒子・ローム粒子中量、焼土小ブロック少量 | 14 暗褐色 | 粘土粒子・砂少量、ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | 砂少量、焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量、ローム粒子少量 | 15 極暗赤褐色 | 焼土中・小ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子・粘土粒子・砂中量、ローム粒子少量 |
| 6 暗褐色 | 粘土粒子・砂少量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 | 16 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子多量、焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂中量 |
| 7 褐色 | 焼土小ブロック・粘土粒子・砂少量、焼土粒子中量、ローム粒子少量 | 17 にい赤褐色 | 粘土粒子・砂少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 8 暗赤褐色 | 焼土大ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子・粘土粒子・砂中量、ローム粒子少量 | 18 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量、ローム粒子・砂少量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土中ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂中量 | | |
| 10 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒 | | |

ピット 1か所 (P₁)。P₁は径42cmの円形で、深さ14cmの支柱穴である。

覆土 5層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量
- 5 黒褐色 粘土粒子多量、焼土大・小ブロック中量、焼土粒子・ローム粒子少量

遺物 土師器片217点、須恵器片94点、紡錘車1点、刀子1点、および混入した陶器片2点が出土している。1の土師器甕が竈内とP₁付近の覆土下層から、2の土師器甕、6の須恵器鉢が竈西側の覆土中・下層から、3の土師器甕が中央部の床面直上と竈西側の覆土上層から、5の須恵器鉢が南西コーナー部の覆土上層から下層にかけて、7の紡錘車、8の刀子が竈壁下の壁溝付近からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀中葉と考えられる。

第110号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第72図 1	甕 土師器	A [20.5] B (20.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位へタ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 に い い 赤 褐 色 普通	30% P193 外部煤片着 竈内覆土下層
2	甕 土師器	A [19.7] B (11.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 に い い 赤 褐 色 普通	15% P194 覆土中～下層
3	甕 土師器	A [18.5] B (15.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 に い い 赤 褐 色 普通	10% P195 二次焼成 床面直上 覆土上層
4	甕 土師器	A [19.8] B (8.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 に い い 赤 褐 色 普通	5% P196 覆土中
5	鉢 須恵器	A [27.0] B (17.0)	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、肩部はつまみ上げられ、棒状工具による凹線が張る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面格子叩き。下位へタ削り。内面ナデ。当て具痕有り。	長石 雲母 砂粒 黒 褐 色 普通	40% P197 覆土上～下層
6	鉢 須恵器	B (9.8)	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反して立ち上がり、肩部は上下につまみ出されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂 粒 黄 灰 色 普通	5% P198 覆土中～下層

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		長径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第72図7	紡 錘 車	6.0	1.8	0.7	(63)	壁溝	DP4 90%

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
8	刀 子	8.5	1.2	0.4	(10)	壁溝	M10

第111号住居跡 (第74図)

位置 調査区中央部, B5j8区。

規模と平面形 長軸3.24m, 短軸3.05mの方形である。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は4~10cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 全面が粘土質で締まっている。また, 出入口施設周辺と北側の竈周辺が, やや高くなっている。

竈 天井部と両袖部のほとんどが削平され, 残存していない。しかし, 袖部と思われる粘土痕や焼土塊が確認されたことにより, 北壁中央に構築されていたと推定される。規模は, 煙道部から焚口部まで95cm, 最大幅[85]cm, 壁外への掘り込みは52cm, 火床部は床面を7cmほど掘りくぼめている。火床部と思われる部分の覆土を取り除くと, 長径34cm, 短径28cm, 深さ20cmの楕円形の掘り込みが確認されたが, 性格は不明である。煙道部は外傾し, 立ち上がる。

覆土層解説

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 極暗赤褐色 炭化物少量 | 6 暗赤褐色 焼土中ブロック微量 |
| 2 極暗褐色 焼土大ブロック・砂微量 | 7 黒褐色 焼土粒子・砂少量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子少量 | 8 黒褐色 炭化物少量 |
| 4 極暗赤褐色 焼土粒子少量, ローム小ブロック微量 | 9 暗赤褐色 焼土粒子・砂少量 |
| 5 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子微量 | 10 極暗赤褐色 焼土大ブロック少量, 粘土粒子微量 |

ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₂は径35cmの円形で, 深さ10cmの出入口施設に伴うピットである。P₁は径26cmの円形, 深さ5cmで, 性格は不明である。

覆土 5層からなり, ブロック状の堆積の状況が見られることから, 人為堆積と思われる。



■ = 1/2

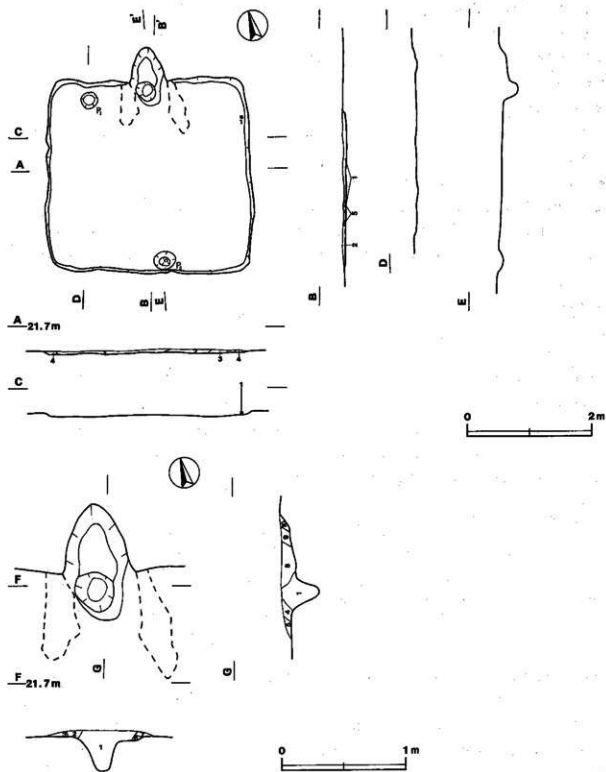
土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック中量

遺物 土師器片80点, 須恵器片1点, 紡錘車1点, および混入した陶器片2点が出土している。1の紡錘車が東壁寄りの覆土下層から出土している。

所見 覆土が浅かったことから, 遺物が少なく, ほとんどが細片である。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の前期と考えられる。

第73図 第111号住居跡
出土遺物実測図



第74图 第111号住居跡実測図

第111号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値			材質	出土地点	備考
		外径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)			
第73图1	紡錘車	5.2	1.8	0.8	(70)	粘板岩 覆土下層	Q7 90%

第112号住居跡 (第75図)

位置 調査区西部, C4a区。

規模と平面形 長軸3.76m, 短軸3.72mの方形である。

主軸方向 N-28°-E

壁 壁高は22~30cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 東コーナー部を除いて, ほぼ全周している。上幅8~35cm, 下幅4~11cm, 深さ3~6cmで, 断面形はU字状である。

床 凹凸で, 全面が粘土質で締まっている。また, 南西部から北東部にかけてやや傾斜している。

竈 北東壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで155cm, 最大幅158cm, 壁外への掘り込みは52cmである。火床部は床面を3cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変しているが, あまり硬化していない。煙道部は外傾し, 緩やかに立ち上がる。

竈土層構成

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂少量 | 6 黒褐色 粘土粒子少量 |
| 2 褐色 粘土粒子・砂少量, 焼土粒子少量 | 7 褐色 焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 粘土粒子・砂・焼土粒子少量 | 8 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 焼土粒子少量 | 9 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 粘土小ブロック・焼土粒子少量 | 10 灰褐色 粘土粒子・砂少量 |

ピット 6か所 (P₁~P₆)。P₁~P₃は径22~33cmの円形, P₄は長径30cm, 短径22cmの楕円形で, いずれも深さ8~23cmの主柱穴である。P₅は長径30cm, 短径23cmの楕円形で, 深さ19cmの出入り口施設に伴うピットである。P₆は長径40cm, 短径30cmの楕円形, 深さ22cmで, 性格は不明である。

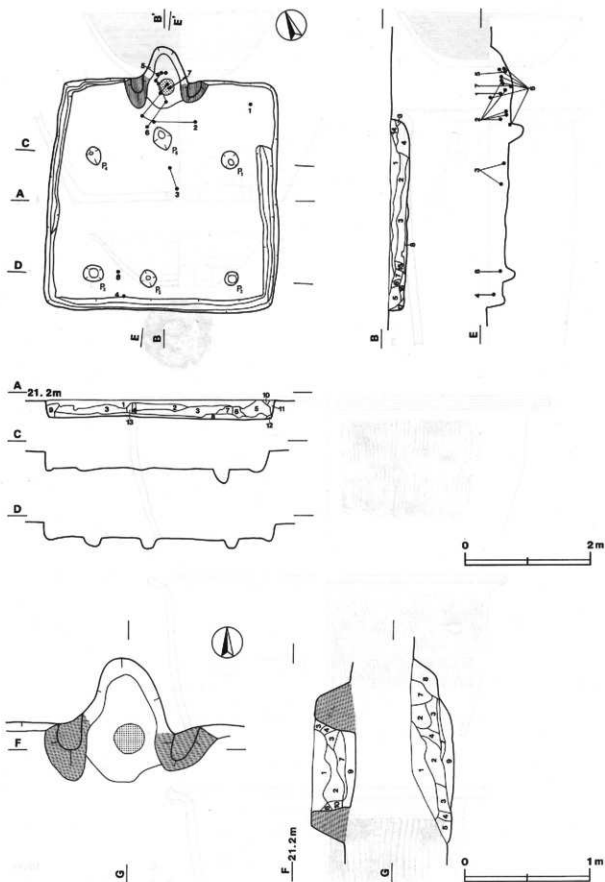
覆土 17層からなり, 不自然な堆積の状況がみられることから, 人為堆積と思われる。

土層構成

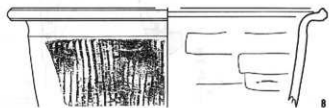
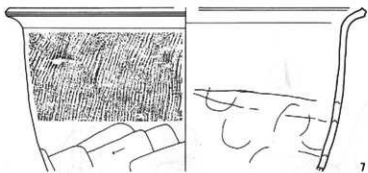
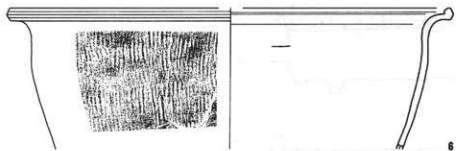
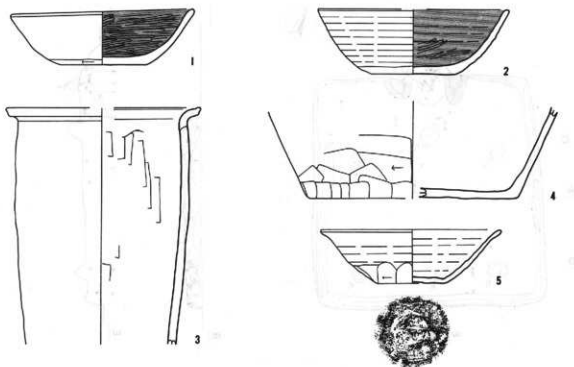
- | | |
|-------------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 | 10 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック少量 | 11 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子・焼土小ブロック・ローム粒子少量 | 12 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 濃い黄褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量 | 13 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・焼土小ブロック微量 | 14 黒褐色 焼土中ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量 |
| 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 15 黒褐色 焼土中ブロック微量 |
| 7 褐色 焼土粒子・ローム粒子微量 | 16 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 8 褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量 | 17 褐色 ローム粒子微量 |
| 9 褐色 ローム粒子中量 | |

遺物 土師器片112点, 須恵器片60点, 鉄滓2点, および混入した陶器片1点が出土している。1の土師器片が, 東コーナー部の覆土中層から, 2の土師器片, 6の須恵器片が竈内と電手前の覆土中・下層から, 3の土師器片が中央部の覆土下層から, 4の土師器片, 8の須恵器片が南西壁寄りの覆土中・下層から, 5の須恵器片, 7の須恵器片が竈内からそれぞれ出土している。

所見 6の須恵器片は, 竈の崩落ともない, 口縁部が煙道部から焚口部にかけて散乱している。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀後半と考えられる。



第75图 第112号住居跡実測图



第76图 第112号住居跡出土遺物実測図

第112号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第76図 1	坏土器器	A 14.5 B 4.5 C 6.7	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面ヘラ削き。底部回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 浅黄褐色 普通	85% P200 内風黒色処理 覆土中層
2	坏土器器	A [15.1] B 5.2 C 6.9	体部、口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面ヘラ削き。底部手持ちヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 赤褐色 普通	70% P201 内風黒色処理 電内 覆土中～下層
3	壺土器器	A [15.6] B (19.0)	体部から口縁部の破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は強く外反し、端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ヘラナデ、輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 灰赤褐色 普通	10% P202 覆土下層
4	壺土器器	B (7.0) C [16.8]	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 灰赤褐色 普通	15% P207 覆土中～下層
5	坏須恵器	A 14.4 B 4.3 C 5.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、鍍金手持ちヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	95% P203 二次焼成直 電内
6	鉢須恵器	A [35.3] B (11.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、端部はつまみ上げられ、内面に凹線が通る。	口縁部内・外面クロコナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 灰白色 普通	15% P204 電内 覆土中～下層
7	鉢須恵器	A [28.2] B (13.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面クロコナデ。体部外面平行叩き、下位ヘラ削り。内面ナデ。当て具痕、輪積み痕有り。	長石 砂粒 灰色 普通	10% P205 電内
8	鉢須恵器	A [25.0] B (7.9)	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反して立ち上がり、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面クロコナデ。体部外面平行叩き。内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 黒色 普通	5% P206 覆土中～下層

第113号住居跡 (第77図)

位置 調査区南西部, D4e3区。

重複関係 本跡は第585号土坑と重複している。第585号土坑が、本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.60m, 短軸4.15mの長方形である。

主軸方向 N-18°-E

壁 覆土が浅く、床面が露出しており、壁は確認できなかった。

壁溝 全周している。上幅19~31cm, 下幅8~16cm, 深さ4~8cmで、断面形はU字状である。

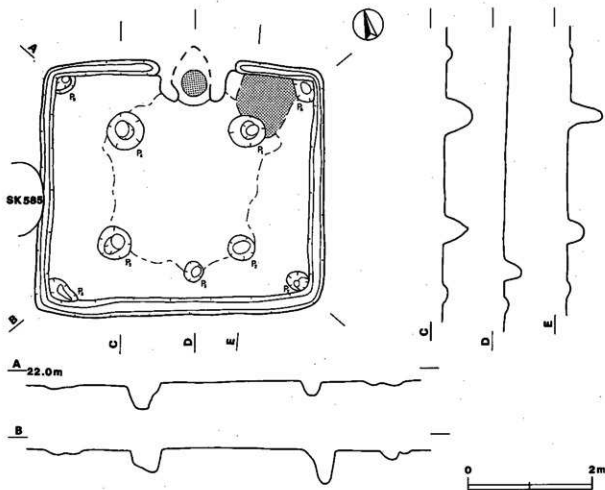
床 平坦で、中央部に床面が残存しており、踏み固められている。電の東側から多量の焼土が確認されている。

竈 北壁中央に構築されていたと推定される。火床部の焼土塊と、両袖部の粘土痕が残存しており、規模は、煙道部から焚口部まで [95] cm, 最大幅133cm, 壁外への掘り込みは [33] cmと推定される。

ピット 9か所 (P1~P9)。P1は長径62cm, 短径50cmの楕円形, P2~P4は径40~60cmの円形で、いずれも深さ29~55cmの主柱穴である。P5は径34cmの円形で、深さ29cmの出入り口施設に伴うピットである。P6~P9は長径35~54cm, 短径28~30cmの楕円形または不定形で、いずれも深さ8~13cmの補助柱穴である。

遺物 土師器片3点, 須恵器片2点が出土している。覆土が浅かったことから、遺物が少なく、ほとんどが細片である。

所見 遺構のほとんどが削平され、床面が露出していたものと思われる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の前期と考えられる。



第77図 第113号住居跡実測図

第114号住居跡 (第78・79図)

位置 調査区東部, C7ii区。

規模と平面形 長軸6.50m, 短軸5.70mの方形である。

主軸方向 N-1°-W

壁 壁高は32~40cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

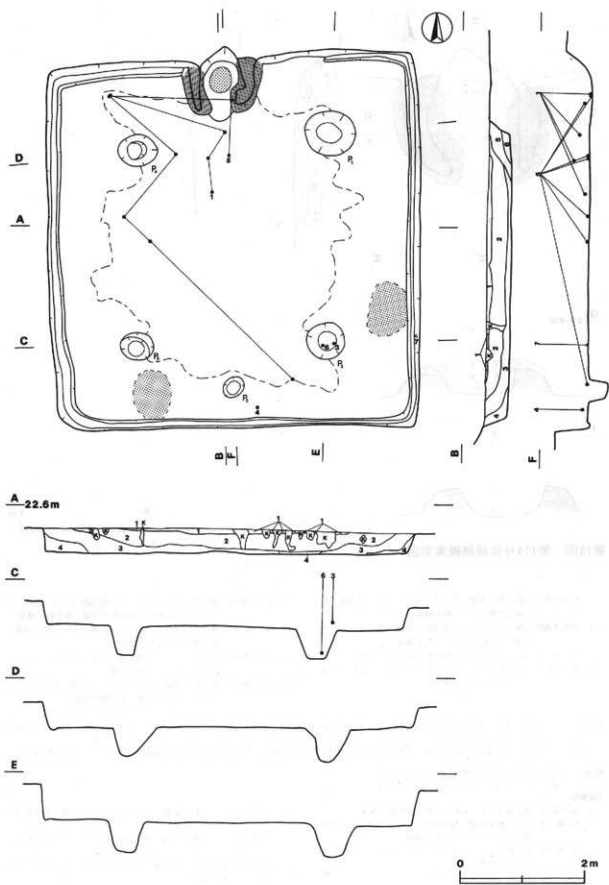
壁溝 全周している。上幅9~33cm, 下幅4~13cm, 深さ1~4cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、出入口施設から電手前にかけて、踏み固められている。東壁沿いと南壁沿いに、焼土塊が確認されている。

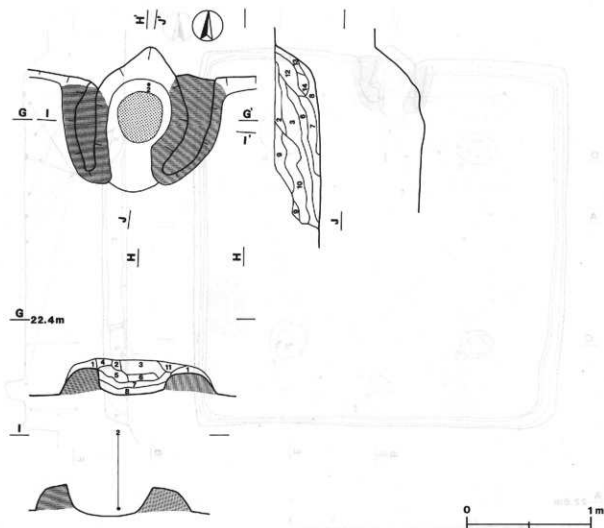
竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで121cm, 最大幅135cm, 壁外への掘り込みは21cmである。火床部は床面を3cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。煙道部は外傾し、急に立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---|---------|--|
| 1 黒褐色 | 粘土粒子・砂中量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 4 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 2 極暗赤褐色 | 焼土粒子少量, 炭土小ブロック中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 | 5 極暗赤褐色 | 焼土粒子少量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 粘土粒子・砂少量, 焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |



第78图 第114号住居跡实测图



第79図 第114号住居跡竈突測図

- | | |
|---|---|
| 7 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土大・中・小ブロック中量、粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 11 暗赤褐色 焼土大・中・小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 8 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック少量、炭化粒子・ローム粒子微量 | 12 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 9 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子中量、焼土大ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 10 極暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量 | 14 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、焼土中ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |

ビット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は長径52~82cm、短径44~72cmの楕円形で、いずれも深さ46~51cmの主柱穴である。P₅は長径35cm、短径28cmの楕円形で、深さ32cmの出入り口施設に伴うビットである。

覆土 6層からなり、自然堆積と思われる。

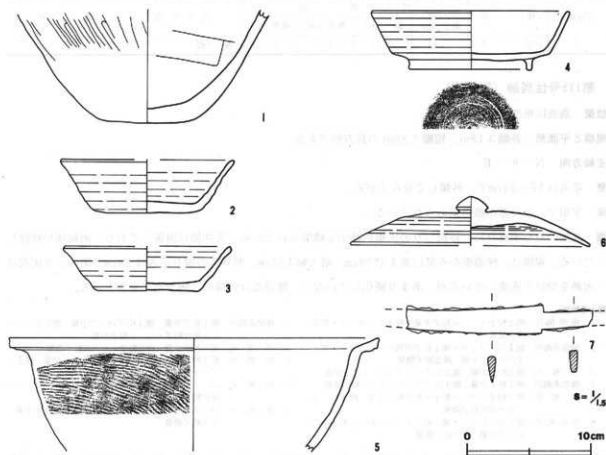
土層解説

- | | |
|--|--|
| 1 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子中量、焼土中・小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 粘土粒子・砂中量、焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |

遺物 土器器片133点、須恵器片90点、刀子1点、鉄滓1点、および混入した磁器片1点が出土している。1の土器器片が北西コーナー部の床面直上と竈手前の覆土中・下層から、2の須恵器片が竈内から、3の須恵器

坏がP₂付近の覆土下層から、4の須恵器高台付坏が南壁寄りの覆土下層から、5の須恵器鉢が南壁寄りから竈内までの床面直上と覆土下層の広範囲にわたり、6の須恵器蓋がP₂内から、7の刀子が東壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 東壁沿いと南壁沿いに、焼土塊が確認されており、床面直上から出土している5の須恵器鉢が二次焼成を受けていることから、焼失家屋の可能性はある。時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀後半と考えられる。



第80図 第114号住居跡出土遺物実測図

第114号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第80図 1	土器 鉢	B (9.1) C 7.5	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面へラ磨き。内面へラナデ。	長石 雲母 砂粒 にふい褐色 普通	20% P209 床面直上 覆土中～下層
2	坏 須恵器	A [13.7] B 4.3 C [8.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちへラ削り。	長石 雲母 砂粒 にふい黄褐色 普通	40% P210 二次焼成 竈内
3	坏 須恵器	A [13.2] B 3.6 C 8.2	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちへラ削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	20% P211 覆土下層
4	高台付坏 須恵器	A [15.8] B 4.7 D [9.6] E 1.0	高台部から口縁部の破片。高台部は直線的に開く。平底。体部は下位に傾を持ち、口縁部にかけて直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部へラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	40% P212 覆土下層

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第80図 5	須恵器	A 14.4	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面クロナダ。体部外面平行叩き。内面ナダ。	壁母 砂粒 明赤褐色 普通	45% P213 二次焼成直 床面直上 覆土下層
		B 4.3				
		C 5.3				
6	須恵器	A [19.4]	口縁部からつまみの破片。完結状のつまみが付く。天井部はほぼ平直で、緩やかに開く。	つまみ、天井部、口縁部内・外面クロナダ。頂部回転ヘラ削り。	長石 砂粒 灰色 普通	40% P214 P ₂ 内
		B 3.9				
		F 2.6				
		G 1.2				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
7	刀子	(7.4)	(1.1)	(0.3)	(7)	覆土下層	M11

第115号住居跡 (第81図)

位置 調査区東部, C7h₂区。

規模と平面形 長軸 3.18m, 短軸 2.86mの長方形である。

主軸方向 N-8°-E

壁 壁高は17~24cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁のやや東寄りに、砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで79cm, 最大幅133cm, 壁外への掘り込みは38cmである。火床部は火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

土層解説

1 暗褐色	焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量	7 暗赤褐色	焼土粒子少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子・ローム粒子少量
2 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・粘土中ブロック少量, 炭化粒子微量	8 黒褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量
3 黒褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量	9 暗褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
4 暗赤褐色	焼土粒子少量, 焼土小ブロック・ローム粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
5 黒褐色	焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量	11 黒褐色	ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
6 暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土中ブロック少量, 炭化粒子微量		

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁, P₂は長さ25~30cm, 短径19~22cmの楕円形, P₃, P₄は径23~25cmの円形で、いずれも深さ8~10cmの支柱穴である。P₅は径29cmの円形で、深さ17cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 5層からなり、自然堆積と思われる。

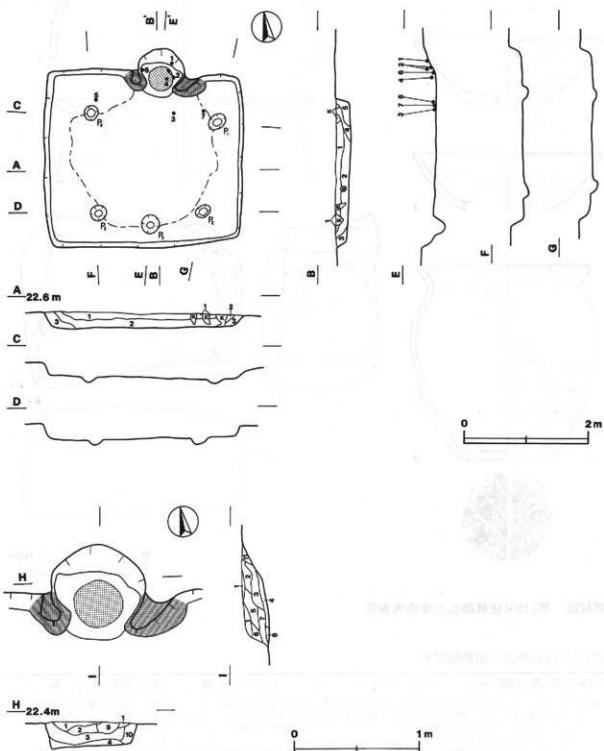
土層解説

1 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量	4 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量
2 暗赤褐色	焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量	5 暗褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土中ブロック・粘土粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック微量		

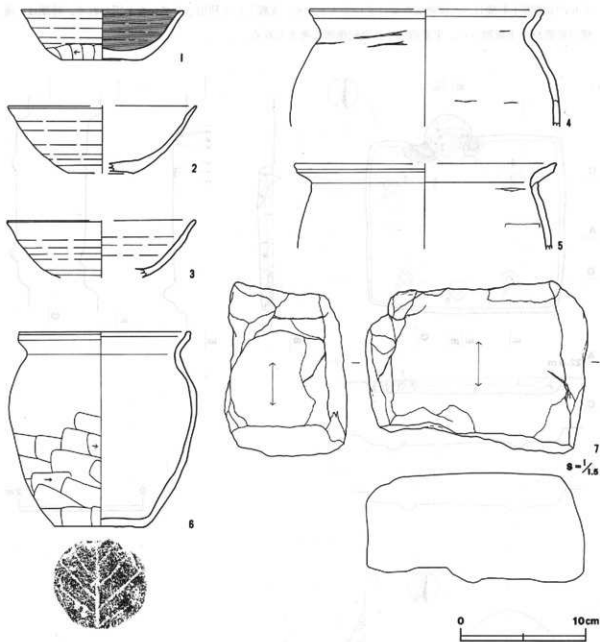
遺物 土師器片182点, 須恵器片66点, 砥石1点, および混入した陶器片4点が出土している。ほとんどの遺物は竈内と竈周辺に集中している。1, 2の土師器片, 4の土師器甕が竈内から, 6の土師器小形甕が逆位で, 3の土師器片, 7の砥石が竈手前の覆土下層から, 5の土師器甕が竈西側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 竈の火床部の状況から、短期間しか使用されなかった住居跡と考えられる。竈内から逆位で出土してい

る6の土師器小形壺は、二次焼成を受けていることから、支脚として利用されていたと思われる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後半と考えられる。



第81図 第115号住居跡実測図



第82図 第115号住居跡出土遺物実測図

第115号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第82図 1	坏 土器	A 13.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎 気味に立ち上がる。口縁部はわずかに 外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部一方 向の手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	95% P215 内面黒色処理 甕内
		B 4.2				
		C 6.5				
2	坏 土器	A [15.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部 は内彎気味に立ち上がる。口縁部は わずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 外面にぶい黄褐色 内面暗灰黄色 普通	45% P216 甕内
		B 5.5				
		C [5.1]				
3	坏 土器	A [15.0]	体部から口縁部の破片。体部は内彎 気味に立ち上がる。口縁部はわずかに 外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 スコリア 褐色 普通	30% P217 甕上下層
		B (4.6)				

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第82図 4	壺 土器 器	A [18.9] B (9.4)	体部から口縁部の破片。体部は内湾 気味に立ち上がる。口縁部は外反し、 肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナガ。体部外面ナ ガ。肩部にヘラ当て痕。内面ナガ、 輪痕も痕有り。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	15% P218 二次焼成痕 壺内
5	壺 土器 器	A [19.9] B (6.8)	体部から口縁部の破片。口縁部は強 く外反して立ち上がる。肩部はつま み上げられている。	口縁部内・外面横ナガ。体部外面ナ ガ。内面ヘラナガ、輪痕も痕有り。 普通	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	15% P219 覆土下層
6	小形壺 土器 器	A 13.7 B 15.7 C 7.2	体部、口縁部一部欠損。平底。体部 は内湾して立ち上がる。口縁部は外 反し、肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナガ。体部外面下 半ヘラ削り。内面ナガ。	長石 石英 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	90% P220 底部木炭痕 二次焼成痕 壺内

図版番号	種別	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
7	磁 石	(7.0)	(8.9)	(4.4)	(470)	砂 岩	覆土下層	Q8

第116号住居跡 (第83図)

位置 調査区東部, C7h1区。

重複関係 本跡は第22号溝, 第117号住居跡と重複している。本跡は第22号溝に掘り込まれ, 第117号住居跡の上部に構築されていることから, 第22号溝より古く, 第117号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸5.57m, 短軸5.44mの隅丸方形である。

主軸方向 N-5'-E

壁 壁高は5~10cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁のやや西寄りに, 砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 西側の袖部と東側の袖部の一部が残存している。規模は, 煙道部から突口部まで102cm, 最大幅 [170] cmである。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変しているが, あまり硬化していない。煙道部は外傾し, 緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

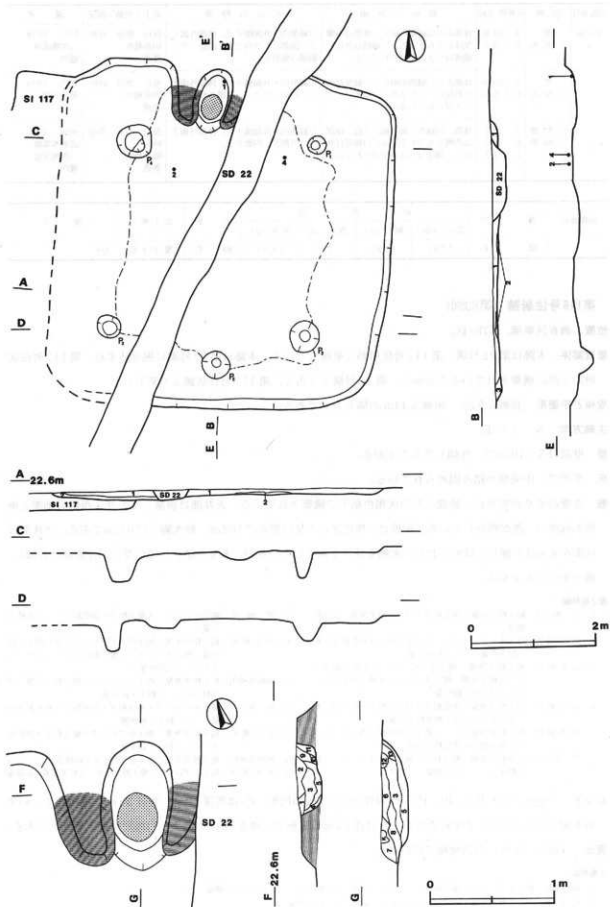
- | | |
|--|--|
| 1 黒褐色 粘土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量, 炭化物微量 | 7 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土大・中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量, ローム粒子少量 | 8 暗赤褐色 粘土粒子多量, 焼土中・小ブロック・炭化粒子・砂中量, 焼土大ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 粘土粒子多量, 焼土中・小ブロック・炭化粒子・ローム粒子中量, 焼土大ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・砂少量 | 9 暗赤褐色 粘土粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・砂少量 |
| 4 暗赤褐色 粘土粒子多量, 炭化粒子・ローム粒子・砂中量, 焼土中・小ブロック・焼土粒子少量 | 10 黒褐色 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量, ローム粒子・砂少量 |
| 5 暗赤褐色 粘土粒子多量, ローム粒子・砂中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 11 暗赤褐色 粘土粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂少量 |
| 6 黒褐色 炭化粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子微量 | 12 暗赤褐色 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・砂微量 |
| | 13 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 砂微量 |

ピット 5か所 (P1~P5)。P1, P2, P4は径28~54cmの円形, P3は長径40cm, 短径34cmの楕円形で, いずれも深さ32~45cmの主柱穴である。P5は径44cmの円形で, 深さ29cmの出入り口施設に伴うピットである。

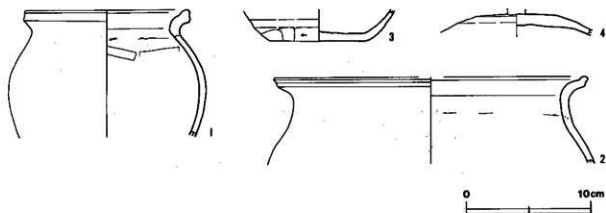
覆土 3層からなり, 自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム大・中ブロック中量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量



第83图 第116号住居跡実測図



第84図 第116号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片202点，須恵器片102点が出土している。1の土師器甕が甕内から，2の土師器甕が甕手前の覆土下層から，3の須恵器環が覆土中から，4の須恵器蓋がP1付近の覆土下層からそれぞれ出土している。
 所見 時期は，遺構の形態や出土遺物から，奈良時代の8世紀後半と考えられる。

第116号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第84図 1	甕 土師器	A 13.3 B (10.2)	体部から口縁部の破片。体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は器内を増しながら外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ，輪襷み痕有り。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	30% P22 甕内
2	甕 土師器	A [25.2] B (7.0)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がり，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 によい褐色 普通	10% P223 覆土下層
3	環 須恵器	B (2.6) C [8.0]	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰黄褐色 普通	30% P224 覆土中
4	蓋 須恵器	B (1.8)	天井部の破片。天井部はほぼ平坦で，上位に装を待ち開く。	天井部内・外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 暗灰黄色 普通	15% P226 覆土下層

第117号住居跡 (第85・86図)

位置 調査区東部，C6h₃区。

重複関係 本跡は第22号溝，第116・118号住居跡と重複している。本跡は第22号溝に掘り込まれ，本跡の上部に第116・118号住居跡が構築されていることから，本跡が古い。

規模と平面形 長軸7.40m，短軸7.37mの方形である。

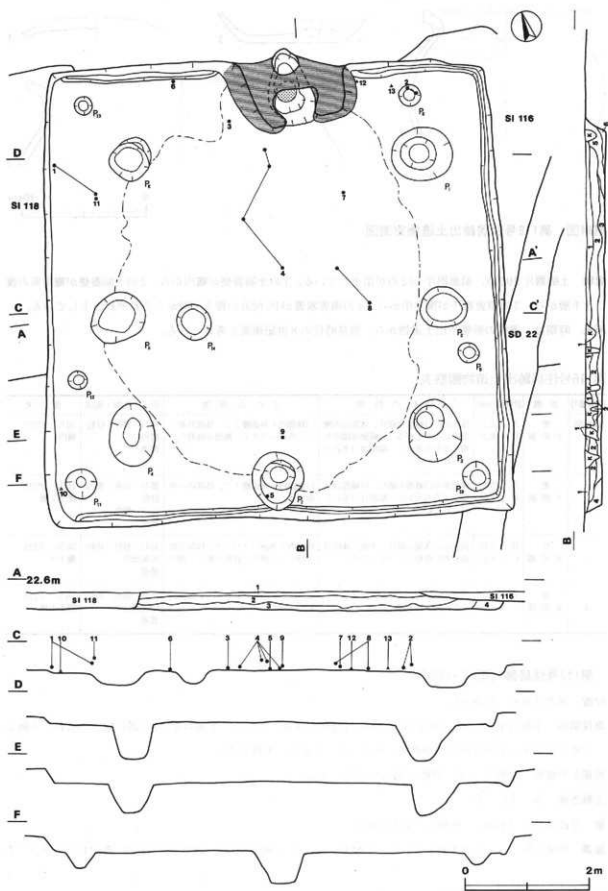
主軸方向 N-17°-E

壁 壁高は20~31cmで，外傾して立ち上がる。

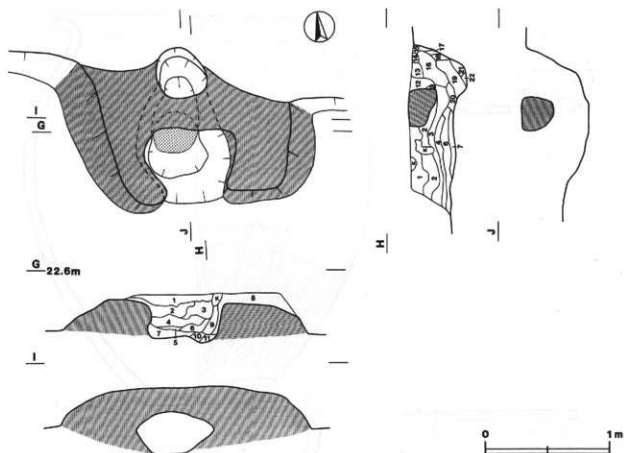
壁溝 西壁を除いて，ほぼ半周している。上幅10~37cm，下幅3~7cm，深さ2~7cmで，断面形はU字状である。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部，煙道部と両袖部が残存しているが，焚口部



第85图 第117号住居跡実測図

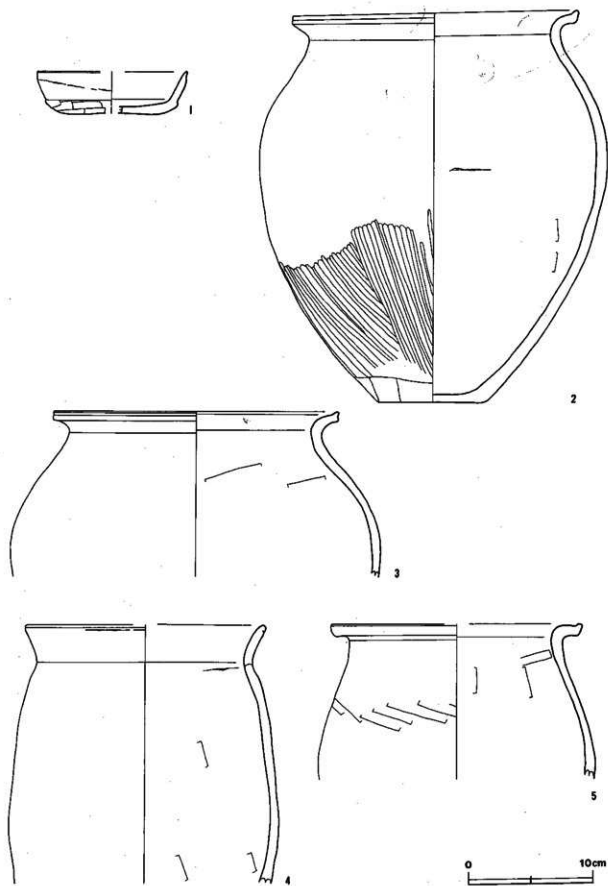


第86図 第117号住居跡実測図

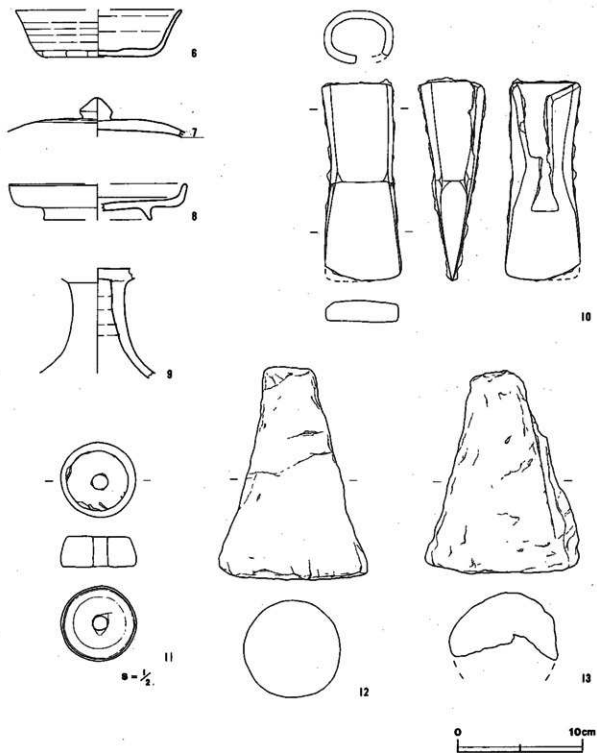
付近の天井が崩落している。規模は、煙道部から焚口部まで125cm、壁外への掘り込みは26cm、天井幅150～170cm、奥行き33～52cmの長方形をしている。火床面から天井部までの高さ28cm、残存する天井部の厚さ33～35cmである。両袖部は最大幅206cm、東側袖部幅62～75cm、西側袖部幅40～61cmで下部が厚く、上部はやや細くなる形状をしている。両袖部の内壁は火熱を受けて赤変し、硬く締まっている。東側袖部は西側袖部に比べて、粘土で厚く作られている。火床部は床面を16cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。煙道部は外傾し、急に立ち上がる。

土層解説

- | | | | |
|---------|--|-----------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土小ブロック中量、焼土中ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 | 10 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | 粘土粒子・砂多量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、焼土中ブロック・ローム粒子微量 | 11 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 3 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 12 黒褐色 | 焼土粒子・砂・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土中・小ブロック中量、焼土大ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 13 黒褐色 | 焼土粒子少量、炭化粒子・砂微量 |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子多量、炭化物中量、焼土粒子少量 | 14 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化物少量、粘土小ブロック微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、焼土中ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 15 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量、砂微量 |
| 7 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 16 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量、砂微量 |
| 8 暗褐色 | 粘土粒子・砂多量、焼土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 17 暗赤褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・砂微量 |
| 9 極暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、粘土小ブロック少量、ローム粒子微量 | 18 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化物少量、砂微量 |
| | | 19 黒褐色 | 焼土粒子・砂少量 |
| | | 20 にぶみ赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・砂・粘土粒子微量 |
| | | 21 黒褐色 | 焼土粒子少量、砂微量 |
| | | 22 暗褐色 | 砂・粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |



第87图 第117号住居跡出土遺物実測図(1)



第88図 第117号住居跡出土遺物実測図(2)

ピット 14か所 (P₁~P₁₄)。P₁~P₆は長径70~101cm, 短径66~86cmの楕円形または不整楕円形で、いずれも深さ21~56cmの主柱穴である。P₇は長径93cm, 短径83cmの不整楕円形で、深さ57cmの出入り口施設に伴うピットである。P₈~P₁₃は径30~50cmの円形で、深さ9~30cmの補助柱穴である。P₁₄は長径58cm, 短径52cmの楕円形、深さ22cmで、性格は不明である。

覆土 6層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

1 暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量	4 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	焼土粒子・ローム粒子中量、焼土小ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量	5 暗褐色	粘土粒子・粘土中ブロック・砂少量、焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量	6 極暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・粘土中ブロック・砂中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量

遺物 土師器片419点、須恵器片182点、鉄弁1点、紡錘車1点、支脚2点、および混入した石鏝1点、陶器片1点が出土している。2の土師器壺がP₈付近の覆土下層から、3の土師器壺が東西側の床面直上から、8の須恵器盤が中央部の床面直上と覆土下層から、10の鉄弁が南西コーナー部の床面直上から、11の紡錘車が西壁寄りの覆土中層から、12の支脚が東側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀前半と考えられる。

第117号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第87回 1	坏 土師器	A [12.0] B 3.4 C [7.6]	底部から口縁部の破片。丸みのある平底。体部は内彎気味に立ち上がり、下位に縁を持つ。口縁部は外彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部下位へラ削り。内面横ナデ。底部へラ削り。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	35% P229 覆土中～下層
2	壺 土師器	A 22.8 B 31.5 C 8.5	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下半へラ削り後、下端を除きへラ磨き。内面へラナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 におい褐色 普通	90% P230 二次焼成 覆土下層
3	壺 土師器	A 22.9 B (13.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、端部はつまみ上げられ、棒状工具による凹線が走る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面へラナデ。	長石 雲母 砂粒 におい褐色 普通	30% P232 床面直上
4	壺 土師器	A [19.0] B (20.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面へラナデ。輪痕み痕有り。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	15% P233 覆土中～下層
5	壺 土師器	A [20.2] B (12.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面にへラ当て後、内面へラナデ。	長石 雲母 砂粒 におい褐色 普通	15% P234 覆土下層
第88回 6	坏 須恵器	A [13.8] B 3.4 C 9.0	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部回転へラ削り後、手持ちへラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰黄色 普通	70% P240 覆土下層
7	壺 須恵器	F (3.0) B (2.6) G 1.3	天井部からつまみの破片。宝珠状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦である。	つまみ、天井部内・外面クロコナデ。頂部回転へラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰黄色 普通	20% P244 覆土下層
8	盤 須恵器	A [14.4] B 2.9 D [8.7] E 0.9	高台部から口縁部の破片。高台部は直線的に開く。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。高台部貼り付け、クロコナデ。	長石 雲母 砂粒 灰黄色 普通	25% P246 床面直上 覆土下層
9	高 須恵器	B (8.8)	脚部から底部の破片。脚部はラップ状に開く。	脚部貼り付け、クロコナデ。	長石 砂粒 灰白色 良好	15% P247 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
10	鉄 弁	16.0	5.2	4.3	(710)	床面直上	M12 95%

図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
		長径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第88図11	紡 錐 車	4.0	1.7	0.8	40	粘板岩	覆土中層	Q9 100%

図版番号	種 別	計 測 値			出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)		
12	支 脚	17.2	12.0	(1260)	覆土下層	DF5 95%
13	支 脚	16.4	12.4	(810)	覆土下層	DF6 50%

第118号住居跡 (第89図)

位置 調査区東部, C6g区。

重複関係 本跡は第117・119号住居跡と重複している。本跡は第117・119号住居跡の上部に構築されていることから、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸4.92m, 短軸4.43mの長方形である。

主軸方向 N-3°-E

壁 壁高は18~20cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁と西壁の一部で確認した。上幅 [16~24] cm, 下幅 [3~6] cm, 深さ [3~5] cmで、断面形はU字状と推定される。

床 平坦で、出入り口施設から電付近にかけて、踏み固められている。

竈 北壁のやや東寄りに、砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで116cm, 最大幅148cm, 壁外への掘り込みは54cmである。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。特に、両袖部の内壁から煙道部にかけてはしっかりと焼けて、赤変している。煙道部は外傾し、緩やかな階段状に立ち上がる。

壁土層解説

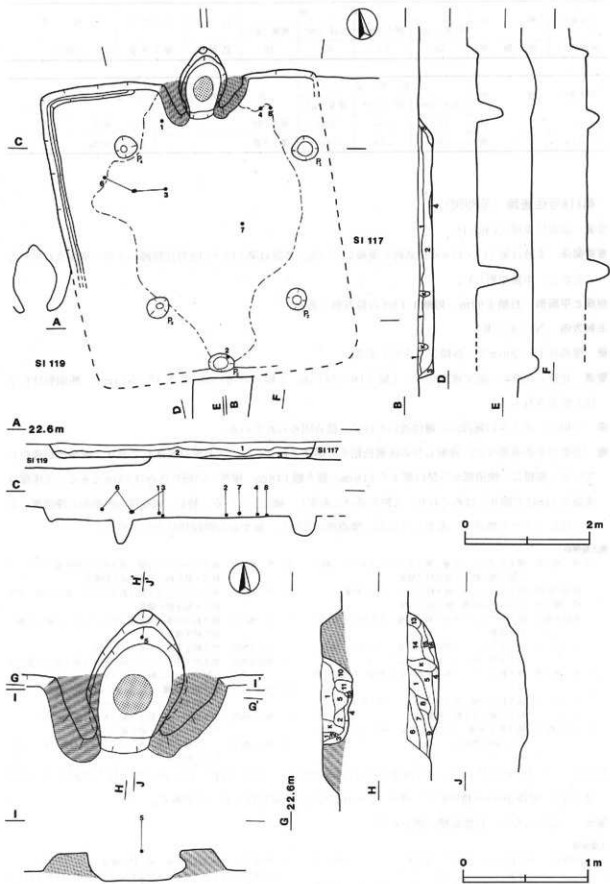
- | | |
|--|--|
| 1 黒褐色 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化物微量 |
| 2 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 | 10 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 11 黒褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 | 12 暗赤褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土中ブロック微量 | 13 暗赤褐色 焼土中・小ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子・ローム粒子・砂少量 |
| 6 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 14 暗赤褐色 粘土粒子少量, 炭化粒子・砂中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 7 黒褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 15 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量, 焼土中ブロック・ローム粒子・砂少量 |
| 8 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック・ローム粒子微量 | 16 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂少量 |

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は径30~42cmの円形で、いずれも深さ32~50cmの支柱穴である。P5は長径41cm, 短径30cmの楕円形で、深さ10cmの出入り口施設に伴うピットである。

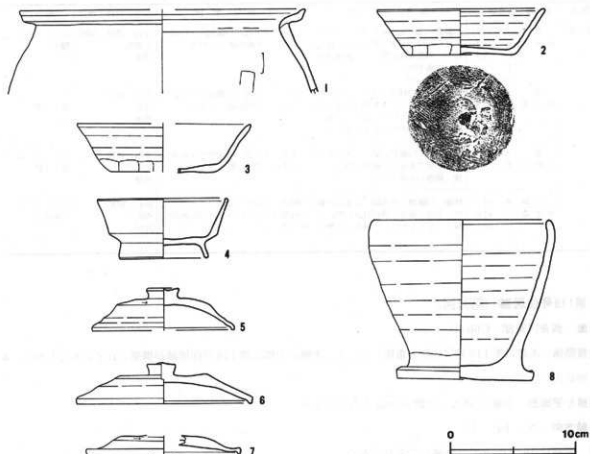
覆土 5層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|------------------------------------|---|
| 1 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | |



第89图 第118号住居跡実測图



第90図 第118号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片228点，須恵器片119点が出土している。1の土師器甕が電西側の覆土下層から，2の須恵器環が南壁寄りの覆土下層から，3の須恵器環が中央部の覆土中・下層から，4の須恵器高台付環が電東側の覆土下層から，5の須恵器蓋が竈内から，6の須恵器蓋が西壁寄りの覆土上層から，7の須恵器蓋が中央部の覆土下層から，8の須恵器こね鉢が電東側の床面直上からそれぞれ出土している。

所見 時期は，遺構の形態や出土遺物から，奈良時代の8世紀中葉と考えられる。

第118号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第90図 1	甕 土師器	A [23.0] B (6.6)	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反して立ち上がり，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 黄褐色 普通	10% P249 覆土下層
2	環 須恵器	A 13.5 B 3.7 C 8.6	体部，口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて，直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，手持ちヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	85% P250 二次焼成或 覆土下層
3	環 須恵器	A [14.0] B 3.9 C 8.5	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	20% P251 覆土中〜下層
4	高台付環 須恵器	A 10.6 B 4.9 D 7.2 E 1.3	高台部は長く，ハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，下位に横を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。口縁部，体部内・外面ロクロナデ。高台部貼り付け，ロクロナデ。	長石 砂粒 灰色 普通	100% P252 覆土下層

図取番号	器種	寸法 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第90図 5	須恵器	A [11.5]	口縁部一部欠損。扁平なボタン状のつまみが付く。天井部は中に段を持ち、内筒気味に開く。口縁部は屈曲して垂下する。	つまみ、天井部、口縁部内・外面ロクロナダ。頂部回転へう割り。	長石 黄緑 砂粒 灰黄色 青濁	80% P253 窠内
		B 3.4				
		G 0.9				
		F 2.6				
6	須恵器	A 14.0	つまみから口縁部の破片。ボタン状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦で、中に段を持ち、緩やかに開く。口縁部は屈曲して垂下する。	つまみ、天井部、口縁部内・外面ロクロナダ。頂部回転へう割り。	黄緑 砂粒 灰黄色 青濁	40% P254 覆土上層
		B 3.3				
		F 2.4				
		G 1.0				
7	須恵器	A [12.3]	天井部から口縁部の破片。天井部はほぼ平坦である。口縁部は外反した後、屈曲して垂下する。	つまみ、天井部、口縁部内・外面ロクロナダ。頂部回転へう割り。	長石 砂粒 黄灰色 青濁	40% P255 覆土下層
		B (1.7)				
8	こね鉢 須恵器	A 14.2	体部、口縁部一部欠損。底部は円盤状の平底である。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部は内彎する。	口縁部、底部内・外面ロクロナダ。口縁部外面平行叩き。体部外面平行叩き。ロクロナダ。	長石 砂粒 黄灰色 良好	70% P256 床面直上
		B 13.0				
		C 11.0				

第119号住居跡 (第91図)

位置 調査区東部、C6h7区。

重複関係 本跡は第118号住居跡と重複している。本跡の上部に第118号住居跡が構築されていることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.56m、短軸5.28mの方形である。

主軸方向 N-14'-E

壁 壁高は30~38cmで、外傾して立ち上がる。

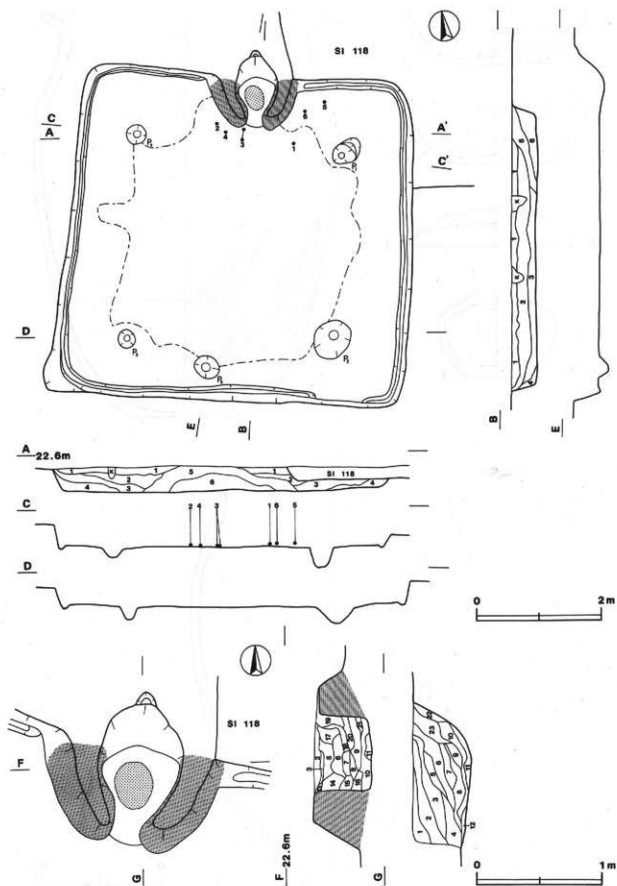
壁溝 南壁の一部を除き、ほぼ全周している。上幅13~50cm、下幅2~10cm、深さ3~5cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

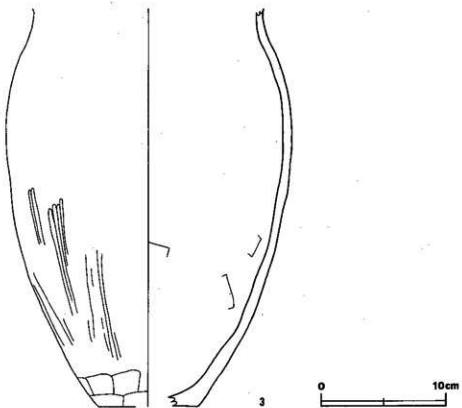
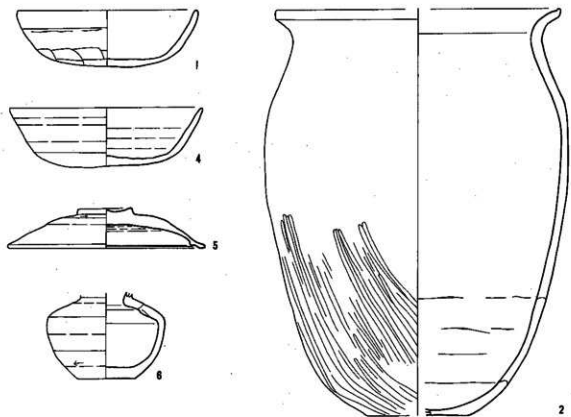
竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、煙道部と両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで122cm、最大幅150cm、壁外への掘り込みは43cmである。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。煙道部は外傾し、急に立ち上がる。

土層解説

- | | |
|--|--|
| 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化物微量 | 14 におい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・砂・粘土小ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子・粘土小ブロック少量、ローム小ブロック微量 | 15 暗赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子・砂・粘土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子・炭化物・砂・粘土粒子少量、焼土小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック微量 | 16 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・砂少量 |
| 4 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・砂少量、焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量 | 17 褐色 粘土粒子・砂少量、炭化粒子・ローム粒子中量、炭化物少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量 |
| 5 におい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・砂・粘土粒子少量、炭化物・炭化粒子微量 | 18 黒褐色 粘土粒子・砂中量、焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 6 褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック・砂微量 | 19 暗褐色 粘土粒子・砂中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 7 におい赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・砂微量 | 20 暗赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子・砂少量 |
| 8 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック・砂少量 | 21 極暗褐色 粘土粒子・砂中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 9 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量 | 22 暗赤褐色 炭化粒子・砂中量、焼土中・小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 10 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量 | 23 暗赤褐色 炭化粒子・ローム粒子中量、焼土大・小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂少量 |
| 11 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子多量、焼土大・中ブロック中量、炭化粒子少量 | |
| 12 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量 | |
| 13 暗赤褐色 焼土小ブロック・砂少量、焼土粒子微量 | |



第91图 第118号住居跡実測図



第92图 第119号住居跡出土遺物実測図

ビット 5か所 (P₁~P₅)。P₁, P₂は長径51~65cm, 短径36~54cmの楕円形, P₃, P₄は径26~31cmの円形で、いずれも深さ20~37cmの主柱穴である。P₅は長径43cm, 短径35cmの楕円形で、深さ16cmの出入り口施設に伴うビットである。

覆土 6層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 粘土粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 極暗褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, ローム小ブロック微量
- 6 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック・粘土粒子中量, 炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片268点, 須恵器片25点, 支脚1点が出土している。ほとんどの遺物が甕周辺に集中している。

1の土師器坏, 2, 3の土師器甕, 4の須恵器坏が甕手前の覆土下層から, 5の須恵器蓋, 6の須恵器趾が甕東側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 甕内や袖部の脇から遺物が出土していることから、それらは甕の補強材として使用されていたと考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀前葉と考えられる。

第119号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第92図 1	坏 土師器	A 14.6	口縁部一部欠損。丸底。体部から口縁部にかけて、内湾気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部下位へラ削り、内面横ナデ。底部へラ削り。	長石 砂粒 褐色 普通	90% P257 覆土下層
		B 4.6				
2	甕 土師器	A [22.8]	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内湾して立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下半へラ磨き。内面ナデ、輪痕も残っている。	長石 雲母 砂粒 灰白色 普通	60% P258 底部木炭痕 覆土下層
		B 32.7				
		C [8.1]				
3	甕 土師器	B (32.0)	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内湾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下半へラ削り後、下層を除きへラ磨き。内面へラナデ。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	66% P259 二次焼成痕 覆土下層
		C [8.0]				
4	坏 須恵器	A 15.4	口縁部一部欠損。丸みのある平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下端回転へラ削り。底部回転へラ削り。	長石 石英 砂粒 灰色 普通	95% P262 覆土下層
		B 4.8				
		C 6.5				
5	蓋 須恵器	A 15.9	口縁部一部欠損。扁平なボタン状のつまみが付く。天井部から口縁部にかけて、内湾気味に開く。口縁部は外反し、内側にかえりが付く。	つまみ、天井部、口縁部内・外面クロコナデ。頂部回転へラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	85% P263 覆土下層
		B 3.3				
		G 0.6				
		F 4.3				
6	甕 須恵器	B (6.9)	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内湾気味に立ち上がる。上位に最大径を有し、強く内傾する。	体部内・外面クロコナデ。体部外面下位から底部回転へラ削り。	長石 砂粒 灰色 普通	80% P264 覆土下層
		C 4.7				

第120号住居跡 (第93図)

位置 調査区中央部, C6es区。

規模と平面形 長軸3.82m, 短軸(2.93)mである。本跡の北壁が調査区域外のため、平面形は不明である。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は16~19cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南東コーナー部から、西壁下まで半周し、上幅[18~29]cm, 下幅[3~10]cm, 深さ[3~6]cmで、断面形はU字状と推定される。

床 全面が粘土質で、平坦で締まっている。特に、中央部が踏み固められている。中央部と西壁沿いに焼土塊

と炭化物が確認されている。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁~P₃は長径24~32cm, 短径17~25cmの楕円形で、いずれも深さ26~38cmの主柱穴である。P₄は長径38cm, 短径30cmの楕円形で、深さ16cmの出入り口施設に伴うピットである。各ピットとも、底部は粘土層を掘り込んでいる。

覆土 3層からなり、焼土ブロック、ロームブロックの堆積している状況から、人為堆積と思われる。

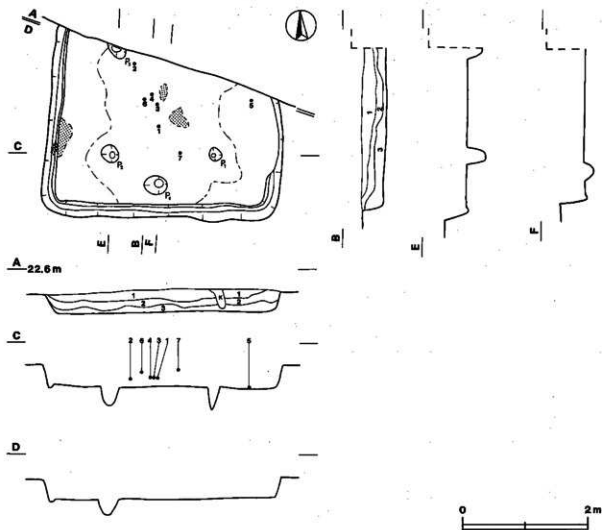
土層解説

- 1 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量

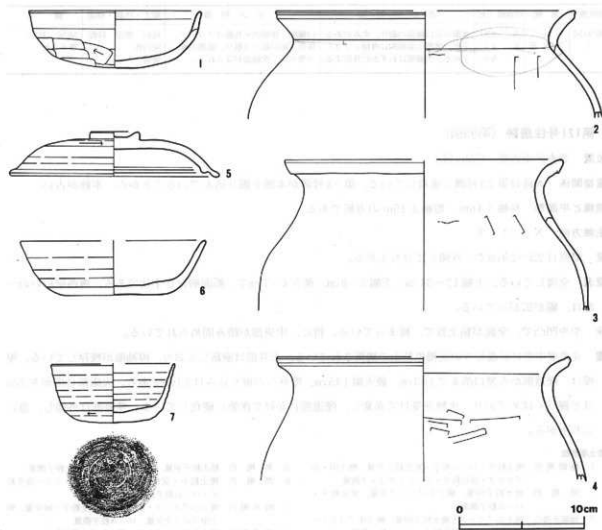
遺物 土師器片150点, 須恵器片19点, 支脚1点が出土している。ほとんどの遺物が中央部に集中している。

1の土師器環, 2~4の土師器壺が中央部の覆土中層から, 5の須恵器蓋が東壁寄りの床面直上から, 6の須恵器環が中央部の覆土上層から, 7の須恵器環がP₁付近の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 中央部と西壁沿いに焼土塊と炭化物が確認されていることから、焼失家屋の可能性はある。時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀前半と考えられる。



第93図 第120号住居跡実測図



第94図 第120号住居跡出土遺物実測図

第120号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第94図 1	坏 土器	A [14.0] B 4.7	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部下平ヘラ削り。内面横ナデ。底部ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 明黄褐色 普通	60% P265 覆土中層
2	罐 土器	A [24.0] B (8.6)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がり、端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ、輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 明黄褐色 普通	10% P268 覆土中層
3	罐 土器	A [22.1] B (12.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ、輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 ふいば褐色 普通	15% P269 二次地成底 覆土中層
4	罐 土器	A [23.7] B (10.0)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	10% P270 覆土中層
5	蓋 須臾器	A 16.9 B 3.6 G 0.8 F 3.9	口縁部一部欠損。扁平なボタン状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦で、内彎気味に開く。口縁部は外反し、内側にかえりが付く。	つまみ、天井部、口縁部内・外面クロコナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 明黄褐色 普通	90% P267 二次地成底 床面直上
6	坏 須臾器	A [15.0] B 4.4 C [8.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰黄色 普通	45% P271 覆土上層

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第94図 7	環 須恵器	A [9.9] B 4.7 C 6.9	底部から口縁部の破片。丸みのある平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外周ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底面回転ヘラ削り。二次底面が見られる。	長石 黄母 砂粒 灰白色 普通	50% P272 覆土上層

第121号住居跡 (第95図)

位置 調査区南西部, C5h4区。

重複関係 本跡は第23号溝と重複している。第23号溝が本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.46m, 短軸3.25mの方形である。

主軸方向 N-23°-E

壁 壁高は25~29cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅12~31cm, 下幅3~8cm, 深さ4~7cmで、断面形はU字状である。南西壁沿いの一部は、幅が広がっている。

床 やや凹凸で、全面が粘土質で、締まっている。特に、中央部が踏み固められている。

竈 北東壁中央に砂浜じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで103cm, 最大幅145cm, 壁外への掘り込みは53cmである。火床部は床面を2cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、煙道部にかけて次第に硬化している。煙道部は外傾し、急に立ち上がる。

覆土層解説

- | | | | |
|---------|--|--------|---|
| 1 藍暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土中・小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 5 黒褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子・炭化物少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 3 暗暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土中ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 4 暗暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック少量, 焼土大ブロック・炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P3は径18~29cmの円形, P4は長径30cm, 短径23cmの楕円形で、いずれも深さ8~22cmの主柱穴である。P5は長径30cm, 短径22cmの楕円形で、深さ32cmの出入り口施設に伴うピットである。

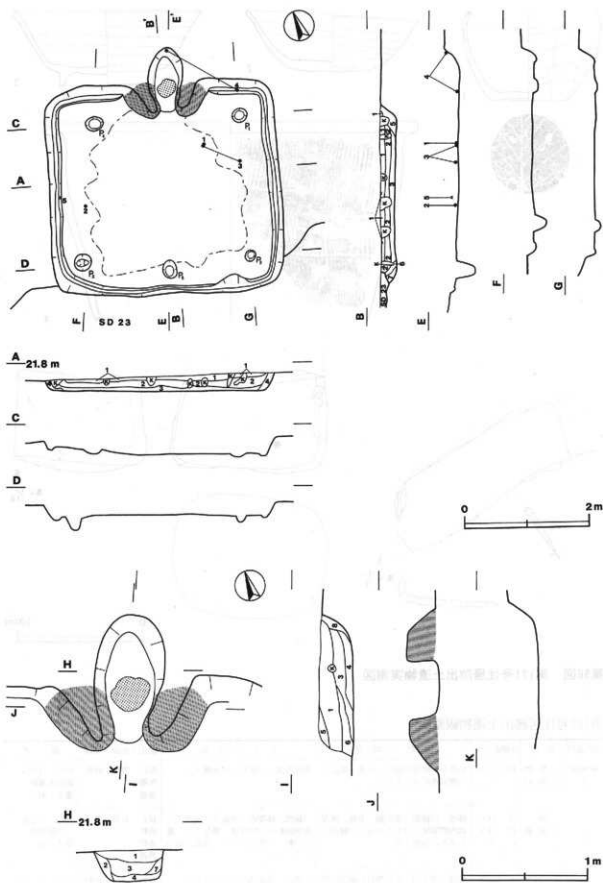
覆土 7層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

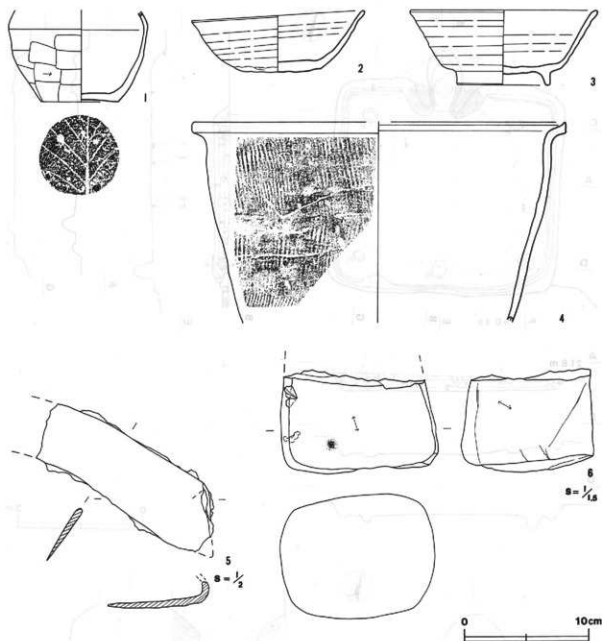
- | | | | |
|--------|--|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 5 黒褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 暗暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量 | 6 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物 土師器片62点, 須恵器片37点, 鎌1点, 砥石1点が出土している。1の土師器小形甕が中央部の覆土下層から, 2の土師器環が北西壁寄りの覆土下層から, 3の須恵器高台付環が南東壁寄りの覆土下層から, 4の須恵器鉢が竈内と竈東側の覆土下層から, 5の鎌が北西壁寄りの覆土中層から, 6の砥石が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 重複している第23号溝の深さが住居跡より浅かったため、重複している南西壁付近も住居跡の壁が確認されている。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後半と考えられる。



第95图 第121号住居跡実測图



第96図 第121号住居跡出土遺物実測図

第121号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第96図 1	小形 土器	B (7.4) C 6.2	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面へラ削り。内面横ナデ。	長石 蜜母 砂粒 黒褐色 普通	60% P274 底部木炭灰 覆土下層
2	环 土器	A 14.0 B 4.5 C 6.7	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ切り後、雑なナデ。雑な回転へラ切りのため、底部は突出している。	長石 石英 蜜母 砂粒 赤色 普通	75% P276 二次焼成灰 覆土下層
3	高台付环 須恵器	A 14.8 B 6.1 D 7.3 E 1.1	体部一部欠損。高台部は直線的に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 蜜母 砂粒 灰色 普通	95% P275 覆土下層

図版番号	種類	計測値 (cm)	形状の特徴	手法の特徴	土・色調・焼成	備考
第97図 4	鉢 須臾器	A [30.0] B (16.1)	体部から口縁部の破片。体部は内蔵 気味に立ち上がる。口縁部は強く外 反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外 面平行叩き。内面ナデ。	灰石 黄母 砂粒 灰色 青濁	15% P27 電内 覆土下層

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
5	鉄 鏝	(9.4)	(3.8)	(0.3)	(46)	覆土中層	M13

図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
6	砥 石	(4.2)	(6.3)	(5.3)	(210)	凝灰岩	覆土中	Q10

第122号住居跡 (第97図)

位置 調査区南部, D5f6区。

重複関係 本跡は第123号住居跡と重複している。本跡が、第123号住居跡の上部に構築されていることから、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.72m, 短軸3.55mの方形である。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は17~20cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁の一部と南東コーナー部は確認できないが、ほぼ全周していると推定される。上幅 [8~23] cm, 下幅 [1~10] cm, 深さ [2~5] cmで、断面形はU字状と推定される。

床 やや凹凸で、全面が粘土質で、締まっている。特に、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで88cm, 最大幅133cm, 壁外への掘り込みは33cmである。火床部は床面を3cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。西側の袖部は東側の袖部に比べて、粘土で厚く作られており、焚口部は北壁に対して、斜めに作られている。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

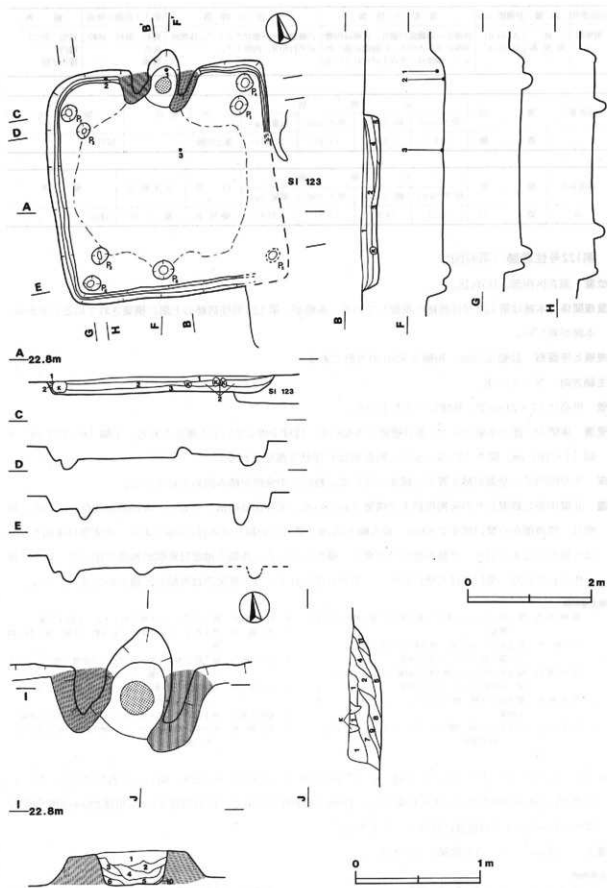
- | | | | |
|--------|---|----------|--|
| 1 昏暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 粘土粒子・砂中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量 | 7 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土中・小ブロック少量, ローム粒子微量 | 9 暗褐色 | 粘土粒子・砂少量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | 10 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| | | 11 暗褐色 | 砂少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量 |

ピット 8か所 (P₁~P₈)。P₁~P₃は径25~31cmの円形で、いずれも深さ20~34cmの支柱穴である。P₄~P₇は径25~30cmの円形で、いずれも深さ15~18cmの補助柱穴である。P₈は長径34cm, 短径29cmの楕円形で、深さ13cmの出入り口施設に伴うピットである。

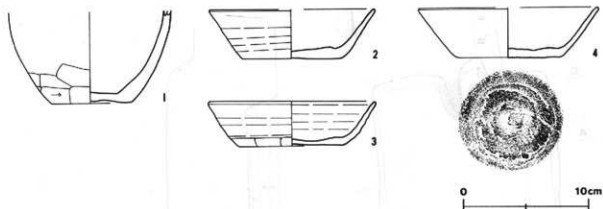
覆土 5層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|--|-------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 5 暗褐色 | 粘土粒子・砂中量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | | |



第97图 第122号住居跡実測図



第98図 第122号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片46点、須恵器片27点が出土している。1の土師器小形壺が竈内から、2の須恵器環が竈西側の床面直上から、3の須恵器環が中央部の床面直上から、4の須恵器環が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀中葉と考えられる。

第122号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第98図 1	小形壺 土師器	B (7.4) C 6.3	底部から体部の破片。平底。体部は内湾気味に立ち上がる。	体部外面下位へ削り。内面ナデ。	灰石 雲母 砂粒 におい・赤褐色	20% P279 竈内
2	環 須恵器	A [13.4] B 4.0 C 7.8	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 底部一方の手持ちへ削り。	灰石 石英 雲母 砂粒 灰黄褐色 普通	75% P278 床面直上
3	環 須恵器	A 13.4 B 3.6 C 8.2	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちへ削り。底部回転へ削り後、手持ちへ削り。	灰石 砂粒 灰色 普通	70% P280 床面直上
4	環 須恵器	A [14.3] B 4.0 C 10.2	体部、口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 底部回転へ削り後、縦ナデ。	灰石 石英 雲母 砂粒 におい・黄褐色 普通	65% P281 二次焼成炭 覆土中

第123号住居跡 (第99図)

位置 調査区南部、D5f7区。

重複関係 本跡は第122号住居跡と重複している。第122号住居跡が、本跡の上部に構築されていることから、本跡が古い。

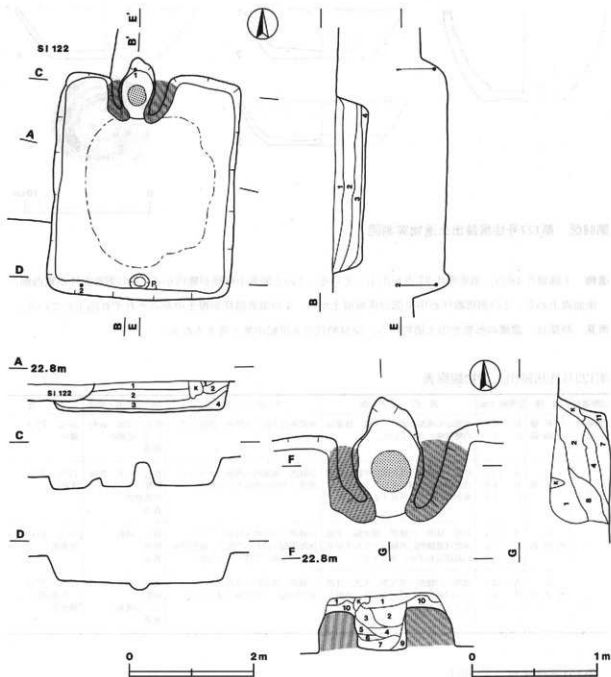
規模と平面形 長軸3.61m、短軸2.93mの長方形である。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は48~50cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁のやや西寄りに、砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、東側の袖部と西側の袖部の一部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで97cm、最大幅(115)cm、壁外への掘り込みは33cmである。火床部は床面を2cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化し

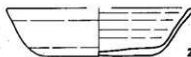
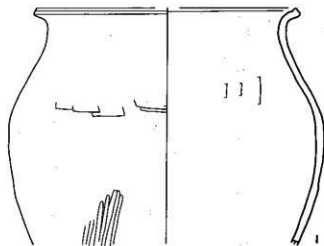


第99図 第123号住居跡実測図

ていない。煙道部は外傾し、急に立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---|---------|---------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、焼土中ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量 | 7 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、焼土中ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 9 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| | | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |



第100図 第123号住居跡出土遺物実測図

ピット 1か所 (P1)。P1は長径31cm、短径23cmの楕円形で、深さ10cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 4層からなり、自然堆積と思われる。

土層構成

- | | | | |
|-------|--------------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子微量 |

遺物 土師器片49点、須恵器片9点が出土している。1の土師器壺が甕内から、2の須恵器が南西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀前葉と考えられる。

第123号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第100図 1	壺 土師壺	A [20.8]	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、肩部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位にヘラ当て痕。下位へラ磨き。内面ヘラナデ。	長石・雲母・砂粒 しぶい黄褐色 普通	20% P283 二次焼成底 甕内
		B (19.0)				
2	坏 須恵器	A [14.9]	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。底面回転へら切り後、ヘラナデ。	長石・雲母・砂粒 スコリア 外面にぶい黄褐色 内面褐色 普通	70% P285 覆土中層
		B 3.9				
		C 9.2				

第124号住居跡 (第101図)

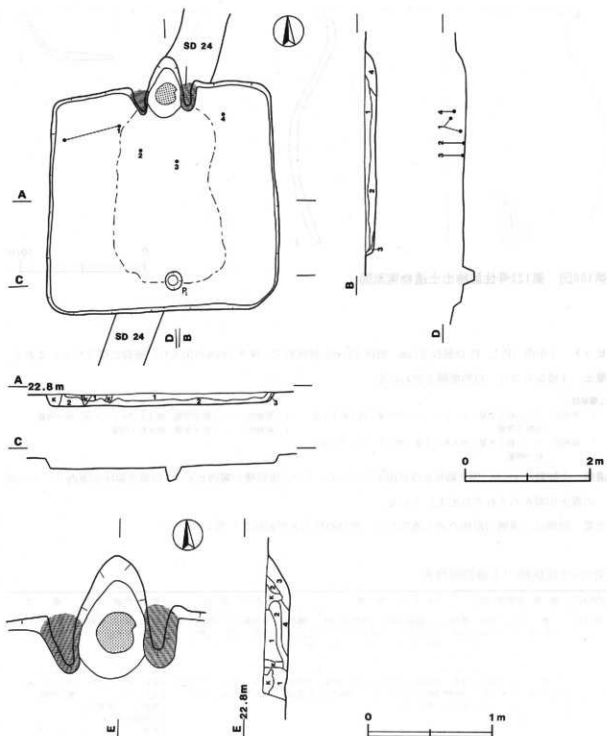
位置 調査区南部, D5g区。

重複関係 本跡は第24号溝と重複している。第24号溝が、本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.75m、短軸3.69mの方形である。

主軸方向 N-6°-E

壁 壁高は12~15cmで、外傾して立ち上がる。



第101図 第124号住居跡実測図

床 やや凹凸で、出入口施設から竈手前にかけて、踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで99cm、最大幅113cm、壁外への掘り込みは43cmである。火床部は床面を3cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

- 1 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック少量

ピット 1か所 (P₁)。P₁は長径29cm、短径25cmの楕円形で、深さ23cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 4層からなり、自然堆積と思われる。

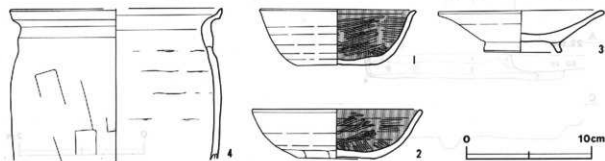
土層解説

- 1 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 焼土粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子微量

遺物 土器器片83点、須恵器片32点、鉄滓2点が出土している。1の土器器片が竈西側の覆土中・下層から、2の土器器片、3の土器器高台付皿が中央部の床面直上から、4の土器器片が竈東側の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 第24号溝の深さが本跡より浅かったため、溝が掘り込んでいる範囲は、土層からは確認できなかった。

時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後半と考えられる。



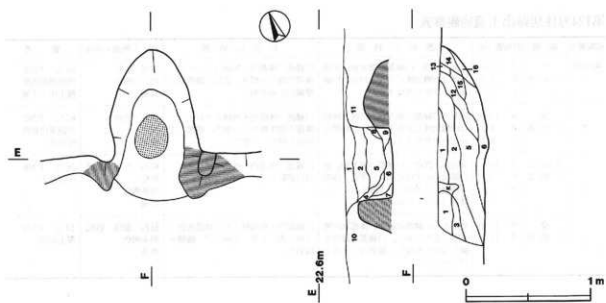
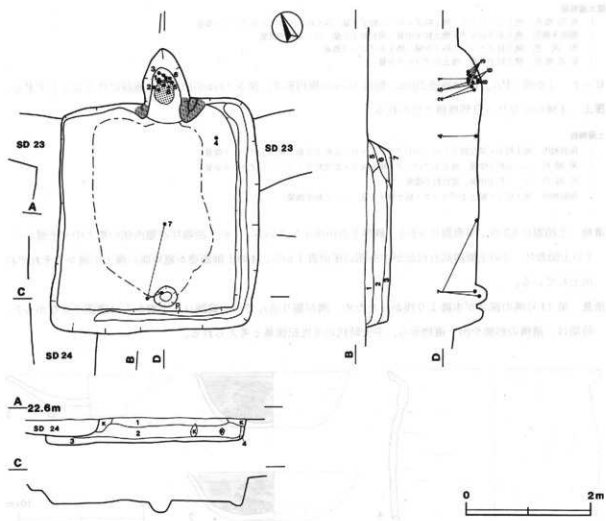
第102図 第124号住居跡出土遺物実測図

第124号住居跡出土遺物観察表

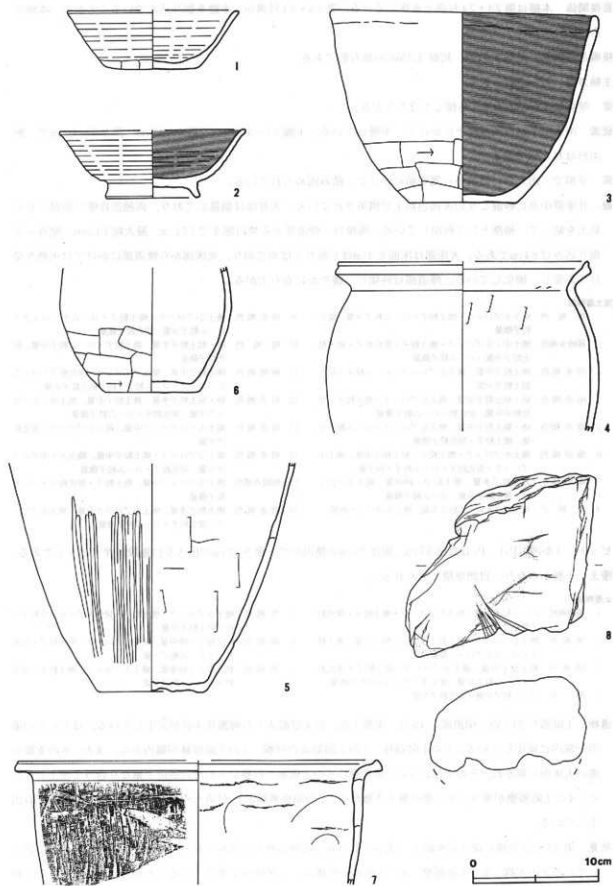
図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第102図 1	土器器片	A 12.5 B 4.3 C 6.5	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部内部へク磨き。底部の調整痕は摩滅のため不明。	雲母 砂粒 に濃い褐色	65% P286 内面黒色処理 覆土中～下層
2	土器器片	A 13.5 B 4.0 C 6.3	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへク削り。底部一方の手持ちへク削り。	長石 砂粒 褐色 普通	65% P287 内面黒色処理 床面直上
3	土器器片	A 13.4 B 3.4 D 6.2 E 0.9	高台部、底部、口縁部一部欠損。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	70% P288 床面直上
4	土器器片	A [17.0] B (12.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は器内を減じながら外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へク削り後、ナデ。内面ナデ、輪襷も痕有り。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	10% P289 覆土中層

第125号住居跡 (第103図)

位置 調査区南部、D5c8区。



第103图 第125号住居跡実測图



第104图 第125号住居跡出土遺物実測図

重複関係 本跡は第23・24号溝と重複している。第23・24号溝が、本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.72m、短軸3.25mの長方形である。

主軸方向 N-26°-E

壁 壁高は23~33cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南東壁下から南西壁下にかけて、半周している。上幅27~42cm、下幅4~22cm、深さ6~10cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、出入り口施設から電手前にかけて、踏み固められている。

竈 北東壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部は壁に砂混じりの粘土を貼って、袖部として利用している。規模は、煙道部から焚口部まで121cm、最大幅145cm、壁外への掘り込みは84cmである。火床部は床面を4cmほど掘りくぼめており、火床部から煙道部にかけては火熱を受けて赤変し、硬化している。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

壁土層解説

- | | |
|---|---|
| 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 9 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 極暗赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂・粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 10 暗褐色 砂・粘土粒子中量、焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子・砂・粘土粒子少量 | 11 極暗褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・砂・粘土粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 砂・粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、炭化物・ローム粒子微量 | 12 暗赤褐色 砂・粘土粒子多量、焼土粒子中量、焼土中・小ブロック少量、炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 砂・粘土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 暗赤褐色 焼土大・中ブロック中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量、焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 14 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土大・中ブロック少量、炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 粘土粒子多量、焼土粒子・砂中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 15 極暗赤褐色 焼土小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 8 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量 | 16 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック少量、焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量 |

ピット 1か所(P₁)。P₁は長径37cm、短径32cmの楕円形で、深さ17cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 7層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|--|--|
| 1 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂・粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量 | 6 暗褐色 粘土粒子・砂中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、焼土中ブロック・炭化物微量 | 7 黒褐色 粘土粒子・砂多量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 4 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量 | |

遺物 土器器片211点、須恵器片48点、支脚1点、および混入した陶器片4点が出土している。ほとんどの遺物が竈内に集中している。1の土器器片、2の土器器高台付碗、3の土器器鉢が竈内から、また、8の支脚が竈の火床面に置かれ、その上部に5の土器器壺と6の土器器小形甕がそれぞれ逆位で重なり合って出土している。4の土器器壺が東コーナー部の覆土下層から、7の須恵器鉢がP₁付近と中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 第23・24号溝の深さが本跡より浅かったため、遺物の残りが良かったと考えられる。重なり合って出土している8の支脚、5の土器器壺、6の土器器小形甕は、二次焼成を受けていることから、共に支脚として利用していたと思われる。時期は、遺物の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後半と考えられる。

第125号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第104図 1	坏 土器器	A [13.7] B 4.7 C 7.3	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘナリ。底部一方の手持ちヘナリ。	長石 砂粒 にぶい・橙色 普通	65% P291 壺内
2	高台付碗 土器器	A [14.8] B 5.4 D 7.3 E 1.3	高台部から口縁部の破片。高台部はハの字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘナリ。高台部貼り付け、ロクロナデ。	霞母 砂粒 橙色 普通	55% P294 内面黒色処理 二次焼成底 壺内
3	鉢 土器器	A 21.6 B 15.6 C 8.6	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘナリ。内面横ナデ。	長石 砂粒 明赤褐色 普通	60% P295 内面黒色処理 壺内
4	甕 土器器	A [20.0] B (13.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘナナデ。	長石 石英 霞母 砂粒 にぶい・橙色 普通	30% P296 覆土下層
5	甕 土器器	B (18.4) C 8.5	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面ヘナリ後、ヘナ磨き。内面ヘナナデ、輪痕あり。	長石 霞母 砂粒 橙色 普通	45% P297 二次焼成底 壺内
6	小形甕 土器器	B (10.1) C 7.5	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面下位ヘナリ。内面ナデ。	長石 霞母 砂粒 にぶい・黄褐色 普通	40% P298 二次焼成底 壺内
7	鉢 須恵器	A [28.9] B (9.9)	体部から口縁部の破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は強く外反し、肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ、当て具痕、輪痕も痕あり。	長石 霞母 砂粒 黄灰色 普通	20% P299 覆土下層

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)		
8	支脚	(14.8)	(12.3)	(1280)	壺内	DP7

第126号住居跡 (第105図)

位置 調査区東部, C6j9区。

重複関係 本跡は、第22号溝、第139号住居跡と重複している。第22号溝、第139号住居跡が、本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸6.13m, 短軸6.10mの方形である。

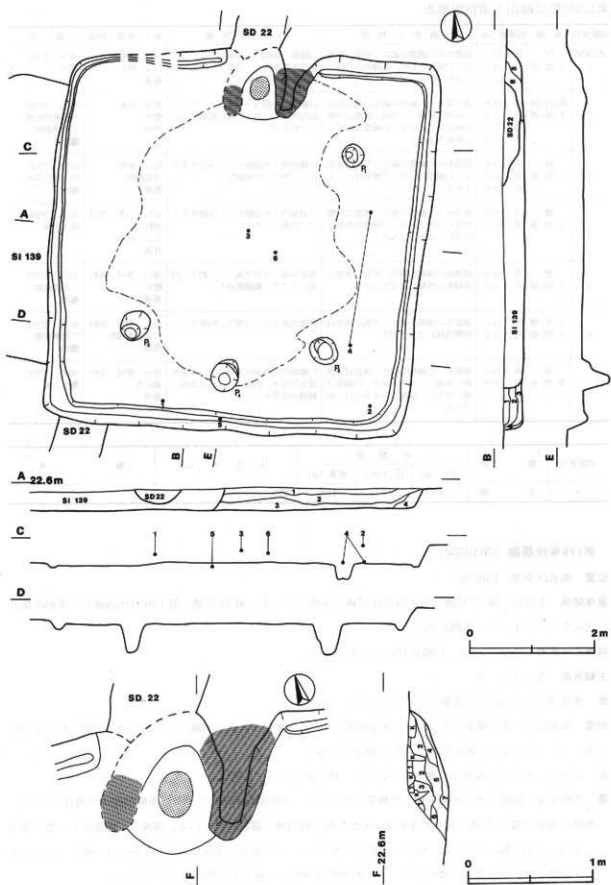
主軸方向 N-16°-E

壁 壁高は25~32cmで、外傾して立ち上がる。

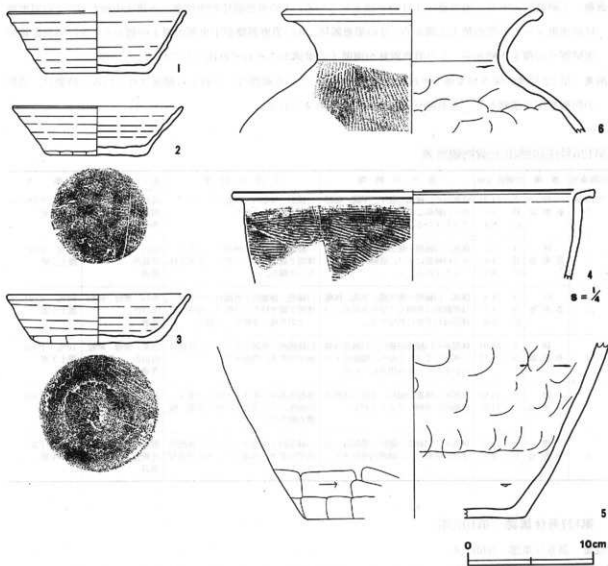
壁溝 竈西側の一部は確認できないが、ほぼ全周していると推定される。上幅 [12~42] cm, 下幅 [4~28] cm, 深さ [3~10] cmで、断面形はU字状と推定される。

床 平坦で、出入り口施設から竈手前にかけて、踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、東側の袖部が残存している。西側の袖部は第22号溝に掘り込まれているが、粘土痕が薄く確認されている。規模は、煙道部から焚口部まで114cm, 最大幅 [144] cm, 壁外への掘り込みは [8] cmである。火床部は床面を6cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。煙道部は外傾し、緩やかな階段状に立ち上がる。



第105图 第126号住居跡実測图



第106図 第126号住居跡出土遺物実測図

壘土層解説

- | | | | |
|---------|--|-----------------|-------------------------------------|
| 1 極暗褐色 | 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量 | 炭化粒子・ローム小ブロック微量 | |
| 2 極暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 3 極暗褐色 | 焼土小ブロック・ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量、粘土粒子微量 | 6 暗褐色 | 粘土粒子・砂多量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 4 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子少量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 |

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁は径36cmの円形、P₂、P₃は長径48~51cm、短径40~45cmの楕円形で、いずれも深さ28~50cmの主柱穴である。P₄は長径54cm、短径42cmの楕円形で、深さ43cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 6層からなり、ロームブロック、焼土ブロックの堆積している状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------|--------|-------------------------------------|
| 1 極暗褐色 | 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量 | 4 極暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化物微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック・炭化物微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |

遺物 土師器片 329点, 須恵器片 334点が出土している。1の須恵器環が南壁寄りの覆土中層から, 2の須恵器環が南東コーナー部の覆土上層から, 3の須恵器環, 6の須恵器壺が中央部の覆土中層から, 4の須恵器鉢が東壁寄りの覆土下層から, 5の須恵器鉢が南壁下の壁溝からそれぞれ出土している。

所見 第22号溝の深さが本跡より浅く, 溝が掘り込んである範囲は, 土層から確認されている。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 奈良時代の8世紀中葉と考えられる。

第126号住居跡出土遺物観察表

図記番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第106図 1	環 須恵器	A [14.3] B 5.0 C 8.4	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて, 直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナダ。底部手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 明黄褐色 普通	40% P300 覆土中層
2	環 須恵器	A 13.7 B 4.0 C 8.0	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて, 直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナダ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰白色 普通	75% P302 覆土上層
3	環 須恵器	A 14.8 B 4.0 C 9.6	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて, 直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナダ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後, 手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰白色 普通	80% P303 覆土中層
4	鉢 須恵器	A [38.0] B (9.7)	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反して立ち上がり, 端部は上下にわずかにつまみ出されている。	口縁部内・外面ロクロナダ。体部外面平行印き。内面ナダ。	石英 雲母 砂粒 灰白色 普通	10% P305 覆土下層
5	鉢 須恵器	B [14.0] C [17.6]	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面平行印き, 下位ヘラ削り。内面指ナダ, 部分的に当て具痕, 輪痕み痕有り。	長石 砂粒 灰白色 良好	30% P306 壁溝
6	壺 須恵器	A [10.0] B (9.9)	体部から口縁部の破片。頸部はくの字状に屈曲し, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナダ。体部外面平行印き。内面ナダ, 当て具痕有り。	雲母 砂粒 灰黄色 普通	20% P307 覆土中層

第127号住居跡 (第107図)

位置 調査区東部, D6b区。

重複関係 本跡は第22号溝と重複している。第22号溝が, 本跡を掘り込んでいることから, 本跡が古い。

規模と平面形 本跡の南東壁が第22号溝に掘り込まれているため, 規模や平面形は明確ではないが, 長軸4.80m, 短軸(4.10)mの方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-24°-E

壁 壁高は18~25cmで, 外傾して立ち上がる。

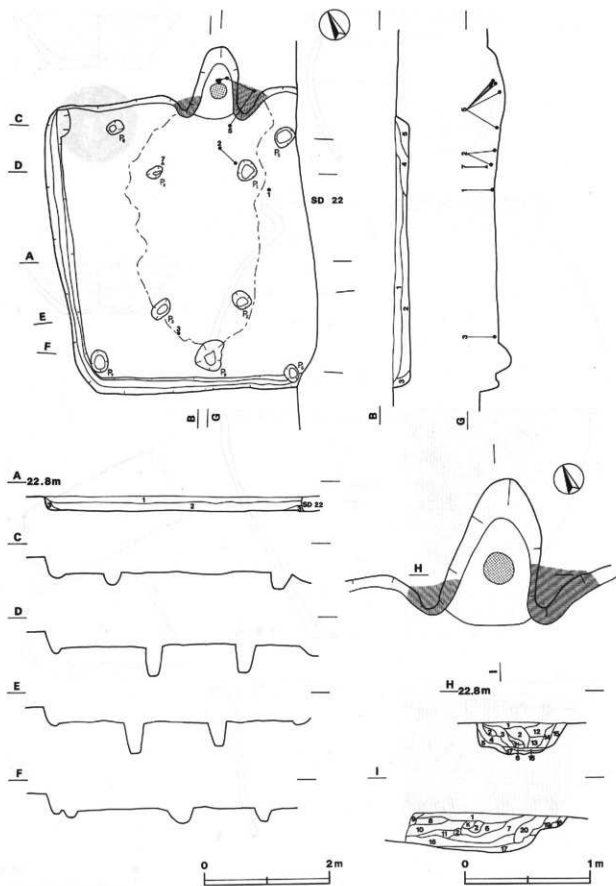
壁溝 南西壁下から, 北西壁下まで半周し, 上幅 [16~29] cm, 下幅 [6~13] cm, 深さ [4~8] cmで, 断面形はU字状と推定される。

床 平坦で, 出入口施設から離手前にかけて, 踏み固められている。

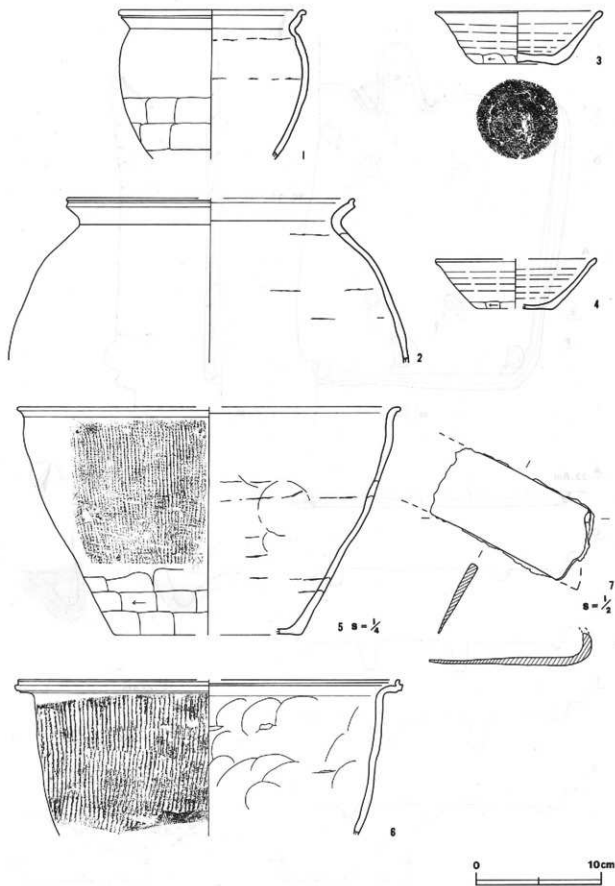
竈 北東壁中央付近に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで118cm, 最大幅155cm, 壁外への掘り込みは68cmである。火床部は床面を18cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変し, 煙道部にかけて硬化している。煙道部は外傾し, 最初緩やかで, のち急に立ち上がる。

壁土層解説

- | | |
|---|---|
| 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子少量 | 3 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土大ブロック・焼土粒子中量 | 4 極暗褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子少量 |



第107图 第127号住居跡実測图



第108图 第127号住居跡出土遺物実測図

- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
 6 暗褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
 7 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量
 8 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 粘土粒子微量
 9 暗褐色 粘土粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
 10 黒褐色 焼土粒子・炭化物中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
 11 黒褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
 12 極暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
 13 極暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
 14 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子・砂微量
 15 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
 16 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量
 17 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
 18 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量
 19 暗褐色 粘土粒子・砂中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子微量
 20 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量

ピット 9か所 (P₁~P₉)。P₁は径32cmの円形, P₂~P₄は長径28~38cm, 短径18~24cmの楕円形で, いずれも深さ38~52cmの支柱穴である。P₅~P₈は長径28~36cm, 短径20~28cmの楕円形で, いずれも深さ10~25cmの補助支柱穴である。P₉は長径54cm, 短径40cmの不整楕円形で, 深さ25cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 5層からなり, 自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
 2 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 焼土粒子微量
 4 黒褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
 5 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片508点, 須恵器片217点, 鎌1点が出土している。1の土師器小形壺が南東壁寄りの覆土下層から, 2の土師器甕が電手前の覆土下層から, 3の須恵器坏が南西壁寄りの覆土下層から, 4の須恵器坏が覆土中から, 5の須恵器鉢, 6の須恵器鉢が竈内と東側の袖部内から, 7の鎌がP₄付近の覆土中層から, それぞれ出土している。

所見 竈内や袖部内から土師器片が出土していることから, それらは竈の補強材として使用されていたと考えられる。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀中葉と考えられる。

第127号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第108図 1	小形壺 土師器	A 15.1	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し, 端部はつまみ上げられ, 棒状工具による凹線が走る。	口縁部内・外面ナデ。体部外面下位へラ削り。内面ナデ, 輪痕み痕有り。	長石 雲母 砂粒 灰褐色 普通	65% P310 覆土下層
		B (12.0)				
2	甕 土師器	A [22.8]	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外面ナデ。内面に輪痕み痕有り。	長石 雲母 砂粒 灰褐色 普通	10% P311 覆土下層
		B (13.2)				
3	坏 須恵器	A 13.5	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部凹線へラ切り後, 一方の手持ちへラ削り。	長石 雲母 砂粒 暗灰色 普通	85% P314 覆土下層
		B 4.3				
		C 6.6				
4	坏 須恵器	A [12.9]	底面から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部凹線へラ切り後, 一方の手持ちへラ削り。	長石 雲母 砂粒 暗灰色 普通	50% P315 覆土中
		B 4.0				
		C [6.0]				

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第108図 5	鉢 須恵器	A [40.0] B 24.4 C 19.5	底部から口縁部の破片。平底。体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き、下位へラ削り。内面ナデ、当て具痕、輪痕み痕有り。	長石 石英 雲母 砂灰 にぶい黄褐色 青透	30% P308 二次焼成痕 甕内 袖部内
6	鉢 須恵器	A [30.5] B (12.4)	体部から口縁部の破片。体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は強く外反する。端部はつまみ上げられた後、内側に折り返され、さらに上方へつまみ上げられている。端部と直下は押状工具による凹線が走る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ、当て具痕有り。	長石 雲母 砂灰 オリブ黒色 青透	10% P309 二次焼成痕 甕内 袖部内

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
7	鉄 鉢	(10.3)	(4.2)	(0.4)	(45)	覆土中層	M14

第128号住居跡 (第109図)

位置 調査区南東部, D6a3区。

重複関係 本跡は第3号竪穴状遺構と重複している。本跡が、第3号竪穴状遺構を掘り込んでいることから、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸5.12m, 短軸4.61mの長方形である。

主軸方向 N-3°-E

壁 壁高は37~40cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北壁の一部を除き、ほぼ全周している。上幅19~32cm, 下幅4~14cm, 深さ2~4cmで、断面形はU字状である。

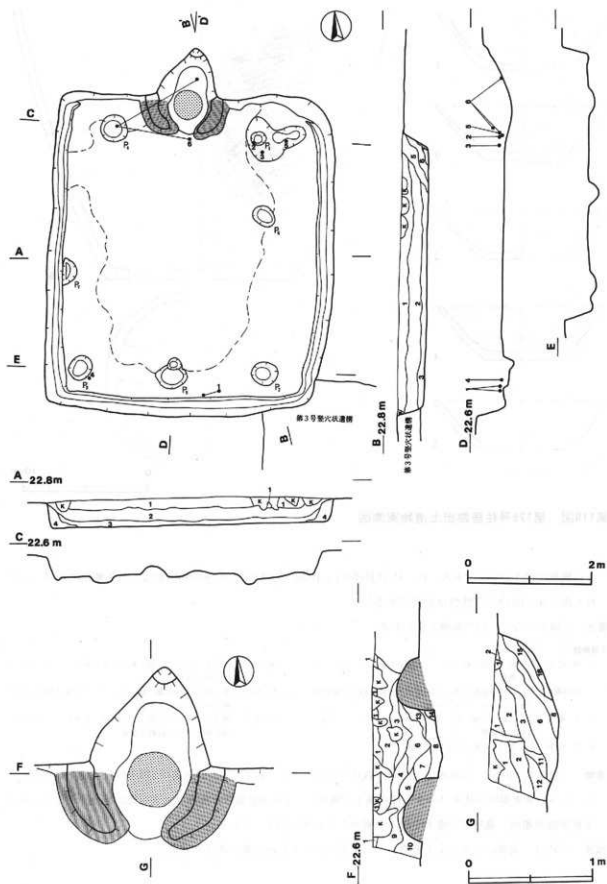
床 平坦で、出入り口施設から電手前にかけて、踏み固められている。電の東側に、長軸96cm, 短軸75cm, 深さ6cmの不定形の掘り込みが見られる。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、煙道部と両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで138cm, 最大幅145cm, 壁外への掘り込みは76cmである。火床部は床面を12cmほど掘りほめており、火熱を受けて赤変し、煙道部にかけて硬化している。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

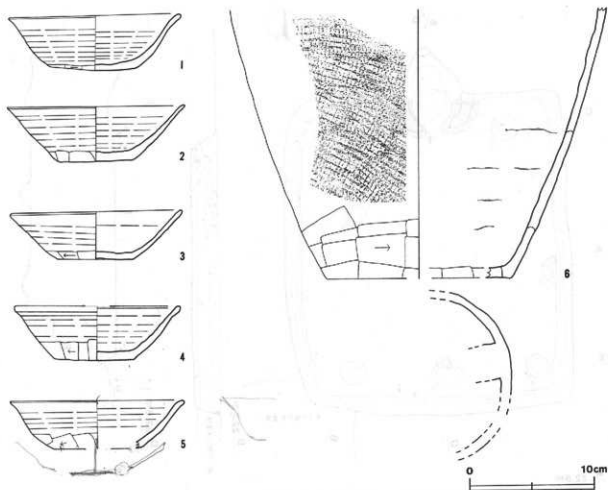
甕土層構成

- | | |
|--|--|
| 1 黒褐色 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量 | 9 暗褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 10 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 11 暗褐色 粘土粒子・砂中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 粘土小ブロック中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量 | 12 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土小ブロック微量 |
| 5 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土粒子・ローム中ブロック少量 | 13 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 6 灰褐色 粘土粒子・砂少量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 14 暗赤褐色 焼土粒子少量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 焼土粒子少量, 焼土中・小ブロック中量, 焼土大ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 15 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂少量 |
| 8 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子少量 | 16 暗赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂少量 |

ピット 7か所 (P1~P7)。P1, P4は径26~44cmの円形, P2, P3は長径40~43cm, 短径32~37cmの楕円形で、いずれも深さ11~16cmの支柱穴である。P5は長径50cm, 短径39cmの不整楕円形で、深さ18cmの出入



第109图 第128号住居跡実測图



第110図 第128号住居跡出土遺物実測図

り口施設に伴うピットである。P₆, P₇は長径44~49cm, 短径21~30cmの楕円形または不整楕円形で、いずれも深さ9~10cmで、性格は不明である。

覆土 7層からなり、自然堆積と思われる。

土層解明

- | | |
|--|--|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 | 5 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量 | 6 暗褐色 粘土粒子・砂中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、粘土粒子・砂少量、炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量 | |

遺物 土師器片468点、須恵器片222点、鉄滓3点が出土している。1の須恵器環が南壁寄りの覆土下層から、2, 3, 5の須恵器環が北東コーナー部の覆土中層から、4の須恵器環が南西コーナー部の覆土下層から、6の須恵器瓶が竈内と竈周辺の覆土中層・下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀中葉と考えられる。

第128号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第110図 1	坏 須恵器	A 14.0 B 4.5 C 7.0	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。 口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 褐色 不良	100% P317 覆土下層
2	坏 須恵器	A 14.2 B 4.5 C 5.8	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	90% P318 覆土中層
3	坏 須恵器	A 13.6 B 4.0 C 6.0	体部、口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	85% P319 覆土中層
4	坏 須恵器	A [13.2] B 4.4 C 6.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。体部一方方向の手持ちヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 黄灰色 普通	80% P320 覆土下層
5	坏 須恵器	A 14.0 B 4.0 C [7.2]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 黒色 不良	45% P321 覆土中層
6	甗 須恵器	B (21.6) C [14.9]	底部から体部の破片。多孔式。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面格子叩き、下位ヘラ削り。内面ナデ、下端ヘラ削り。輪積み或有り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	30% P322 覆土中～下層

第130号住居跡 (第111図)

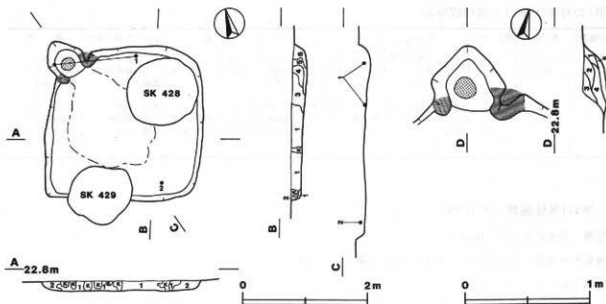
位置 調査区東部, D6b区。

重複関係 本跡は第428・429号土坑と重複している。第428・429号土坑が、本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

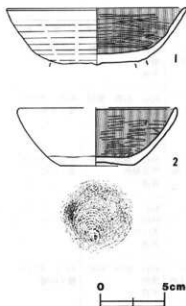
規模と平面形 長軸2.53m, 短軸2.47mの方形である。

主軸方向 N-17°-W

壁 壁高は37cmほどで、外傾して立ち上がる。



第111図 第130号住居跡実測図



第112図 第130号住居跡
出土遺物実測図

床 やや凹凸で、中央部から竈手前にかけて、踏み固められている。
竈 北西コーナー部に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、コーナー部を利用して、粘土で袖部を作っている。規模は、煙道部から焚口部まで50cm、最大幅65cm、壁外への掘り込みは41cmである。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部は外傾し、急に立ち上がる。

竈土層解説

- 1 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 粘土粒子多量、焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・粘土粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量

覆土 6層からなり、ロームブロックを含有し、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 極暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 6 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片132点、須恵器片21点、および混入した陶器片2点が出土している。1の土師器高台付坏が竈内と北壁寄りの床面直上から、2の土師器坏が南東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 第428・429号土坑が掘り込んでいる範囲は、土層からは確認できなかった。竈の火床部の状況から、短期間しか使用されなかった住居跡と考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後半と考えられる。

第130号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第112図 1	高台付土師器坏	A 14.3	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロロナダ。内面へラ磨き。底部回転へラ切り後、回転へラ削り。	長石 雲母 砂粒 内面黒色処理 霽土色	60% P323 竈内床面直上
		B 4.6				
		C 6.5				
2	坏土師器坏	A [12.7]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロロナダ。体部下端回転へラ削り。内面へラ磨き。底部回転へラ切り後、外周回転へラ削り。	霽土 砂粒 霽土色 霽土色	50% P324 内面黒色処理 覆土下層
		B 4.7				
		C 6.0				

第131号住居跡 (第113図)

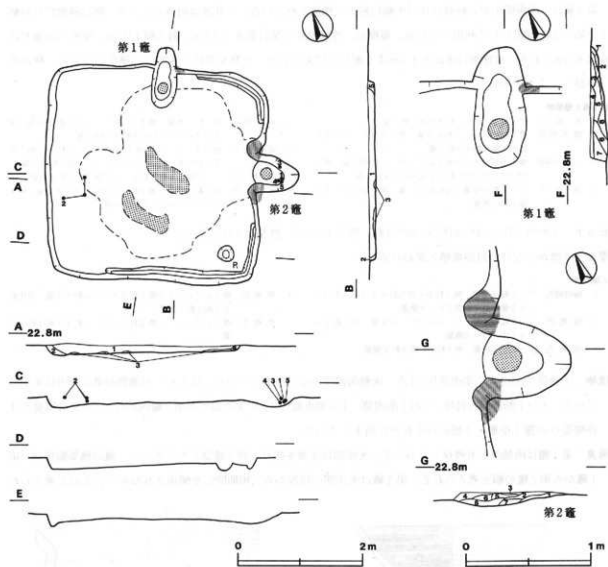
位置 調査区南東部、D6e区。

規模と平面形 長軸3.54m、短軸3.46mの隅丸方形である。

主軸方向 N-21°-E

壁 壁高は10~19cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東コーナー部から、南コーナー部を経て、西コーナー部の手前まで、半周している。上幅11~24cm、下



第113図 第131号住居跡実測図

幅4~6cm、深さ3~8cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 2か所。第1竈は、残存部分が少なく明確ではないが、北東壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されていると考えられる。両袖部とも残存しておらず、火床部は床面を掘り下げて確認した。規模は、煙道部から焚き口部まで98cm、最大幅(54)cm、壁外への掘り込みは31cmである。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめており、火熱を受けてわずかに赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上る。

第1竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------------|--------|--|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・砂中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂中量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・砂中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量 | 7 極暗褐色 | 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂少量、焼土粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | 炭化粒子・ローム粒子中量、焼土粒子・砂少量 | 8 極暗褐色 | 粘土粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂中量、焼土中ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂少量、焼土小ブロック微量 | | |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂少量 | | |

第2竈は、南東壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、壁に砂混じりの粘土を貼って、袖部として利用している。規模は、煙道部から焚口部まで72cm、最大幅110cm、壁外への掘り込みは61cmである。火床部は床面を12cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。煙道部は外傾し、立ち上がる。

第2竈土層解説

- | | | | |
|----------|--|--------|--|
| 1 赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量、砂少量 | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土大ブロック・炭化粒子中量、焼土中ブロック・ローム粒子・砂少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土大ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂中量、焼土中・小ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子中量、焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂中量、焼土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土中ブロック・焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・砂中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量 |

ビット 1か所 (P₁)。P₁は径26cmの円形、深さ12cmで、性格は不明である。

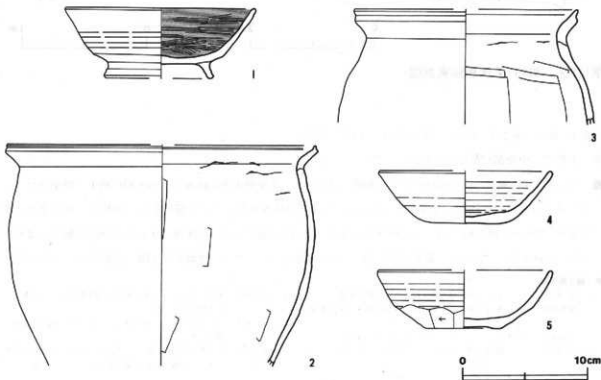
覆土 5層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|---|-------|----------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 | 4 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子中量、炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・ローム中ブロック微量 | 5 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物 土師器片199点、須恵器片32点、灰釉陶器片1点が出土している。ほとんどの遺物が第2竈内に集中している。1の土師器高台付环、3の土師器甕、4の須恵器环、5の須恵器环が第2竈内から、2の土師器甕が北西壁寄りの覆土中層・下層からそれぞれ出土している。

所見 第1竈は両袖部とも残存しておらず、火床部は床面を掘り下げて確認したことから、竈の構築順序は、第1竈から第2竈の順と考えられる。第1竈は火床部の状況から、短期間しか使用されなかったものと考えられ



第114図 第131号住居跡出土遺物実測図

る。床面の中央部に焼土塊が確認されているが、性格は不明である。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後半と考えられる。

第131号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第114図 1	高台付 土師器	A 15.2 B 5.6 D [8.4] E 1.4	高台部、体部、口縁部一部欠損。高台部はハの字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、下位に横を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底面回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 赤褐色 普通	80% P329 内面黒色処理 第2電内
2	壺 土師器	A [24.8] B (17.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面磨ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ、輪襖も有り。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	15% P325 覆土中〜下層
3	壺 土師器	A [17.8] B (9.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面磨ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ、輪襖も有り。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	10% P326 第2電内
4	坏 須恵器	A [13.6] B 4.3 C 6.7	底面から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底面ヘラナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 灰黄色 普通	55% P327 第2電内
5	坏 須恵器	A [13.9] B 4.6 C 6.0	底面から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底面一方方向の手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	55% P328 二次焼成底 第2電内

第132-A号、第132-B号住居跡 (第115図)

位置 調査区南東部、D6d区。

重複関係 第132-A号住居跡と第132-B号住居跡は重複している。床面の高さがほぼ同じことや電と壁溝と柱穴を共用していることから、第132-A号住居跡を利用して第132-B号住居跡が構築されている。よって、第132-A号住居跡が古く、第132-B号住居跡が新しい。

規模と平面形 第132-A号住居跡は長軸3.75m、短軸 [3.43] mの方形と推定される。第132-B号住居跡は長軸4.77m、短軸3.60mの隅丸長方形で、南側に拡張している。

主軸方向 N-23'-E

壁 壁高は16~24cmで、外傾して立ち上がる。

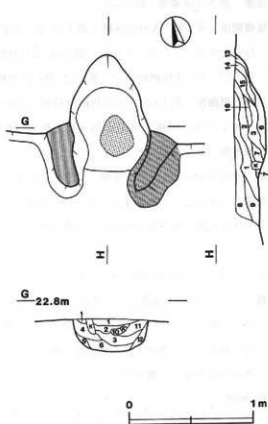
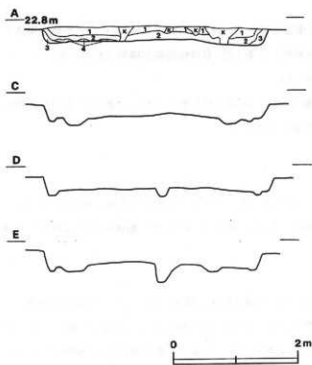
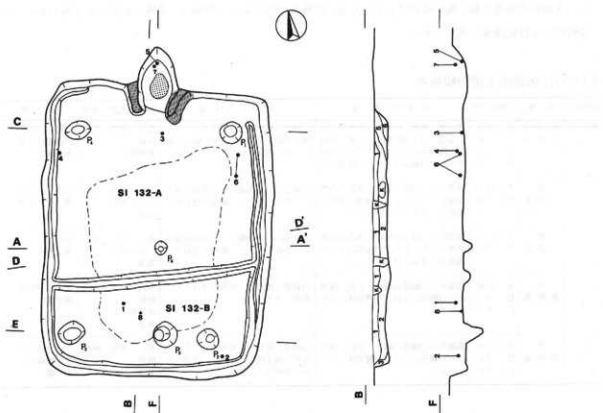
壁溝 南東壁沿いと北西壁沿いの一部が共通し、どちらもほぼ全周している。中央やや南側の壁溝は、第132-A号住居跡に伴うものである。上幅18~33cm、下幅4~11cm、深さ4~12cmで、断面形はU字状で、共通している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

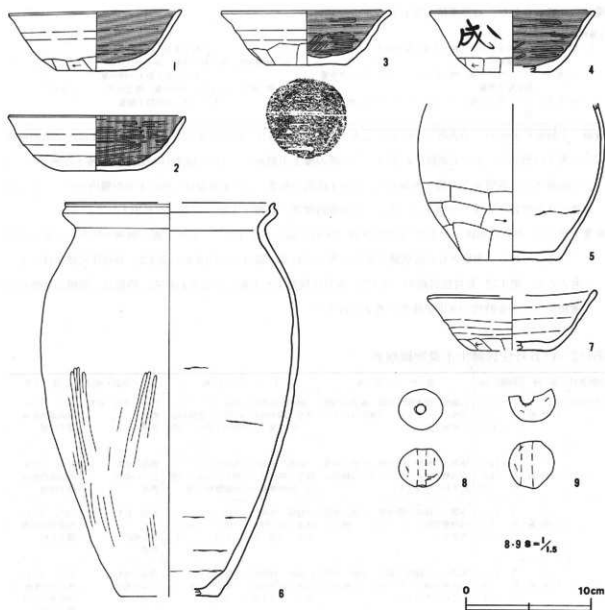
竈 第132-B号住居跡に伴う竈は、北東壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで93cm、最大幅118cm、壁外への掘り込みは67cmである。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、煙道部にかけて硬化している。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

壁土層解説

- | | |
|---|--|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂中量、焼土大・中・小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 4 暗褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 粘土粒子・砂多量、焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、焼土大ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量 | 6 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土中・小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子微量 |



第115图 第132-A号, 第132-B号住居跡実測图



第116図 第132-A号, 第132-B号住居跡出土遺物実測図

- | | | | |
|--------|-----------------------------------|---------|-------------------------------------|
| 7 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂少量 | 13 極暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 9 極暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 14 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 10 灰褐色 | 粘土粒子・砂多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | 15 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 11 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 16 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |

ピット 6か所 (P₁~P₆)。P₁は径34cmの円形, P₄は長径40cm, 短径30cmの楕円形で, いずれも深さ10~25cmの第132-A・B号住居跡共用の主柱穴である。P₂, P₃は長径35~43cm, 短径29~34cmの楕円形で, いずれも深さ8~12cmの第132-B号住居跡の主柱穴である。P₅は径42cmの円形で, 深さ35cmの第132-B号住居跡の出入り口施設に伴うピットであり, P₆は径21cmの円形で, 深さ15cmの第132-A号住居跡の出入り口施設に伴うピットである。

覆土 6層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|-------|--|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | 粘土粒子・砂中量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |

遺物 土師器片466点、須恵器片183点、土玉2点、灰釉陶器片7点が出土している。1の土師器が南西壁寄りの覆土中層から、2の土師器が南コーナー部の覆土中層から、3の土師器が電手前の覆土下層から、4の土師器が北西壁寄りの覆土中層から、5の土師器小形甕、7の須恵器片、9の土玉が竈内から、6の土師器甕が北東壁寄りの覆土下層から、8の土玉が南西壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 第132-A号住居跡と第132-B号住居跡は床面の高さがほぼ同じであり、竈と壁溝と柱穴の一部が共通していることから、増築された住居跡であると考えられる。竈はその向きから第132-B号住居跡に伴うものと考えられ、第132-B号住居跡が、第132-A号住居跡よりも新しいと思われる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後半と考えられる。

第132-A・B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第116図 1	土師器	A 13.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部回転へラ削り後、一方向の手持ちへラ削り。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	95% P330 内面黒色処理 覆土中層
		B 5.0				
		C 6.2				
2	土師器	A 14.2	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。内面へラ磨き。底部厚縁のため調整不明。	雲母 砂粒 赤い褐色 普通	90% P331 内面黒色処理 覆土中層
		B 4.5				
		C 7.2				
3	土師器	A 13.3	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。内面へラ磨き。底部一方向の手持ちへラ削り。	雲母 砂粒 スコリア 明赤褐色 普通	70% P332 内面黒色処理 覆土下層
		B 4.3				
		C 6.5				
4	土師器	A 13.3	底面から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。内面へラ磨き。底部手持ちへラ削り。	雲母 砂粒 赤い褐色 普通	55% P333 体部外面磨き [或] 内面黒色処理 覆土中層
		B 4.9				
		C [6.1]				
5	小形 甕 土師器	B (12.6)	底面から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面下位へラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	50% P334 底面木炭灰 二次焼成 竈内
		C 7.6				
6	土師器	A [16.8]	底面から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、脛部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部外面下平へラ磨き。内面ナデ、輪痕み痕有り。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	60% P335 二次焼成 覆土下層
		B 31.7				
		C [8.0]				
7	須恵器	A [13.4]	底面から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部へラナデ。	石英 雲母 砂粒 灰黄色 普通	45% P336 竈内
		B 4.9				
		C [6.5]				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
8	土玉	1.7	1.6	0.4	3.58	覆土下層	DP8 100%
9	土玉	1.8	1.9	0.5~0.6	(2.92)	竈内	DP9 50%

第133号住居跡 (第117図)

位置 調査区南東部, D6d区。

規模と平面形 長軸3.54m, 短軸3.48mの方形である。

主軸方向 N-13°-E

壁 壁高は20~23cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅12~30cm, 下幅4~9cm, 深さ2~7cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 出入り口施設から電手前にかけて, 踏み固められている。

竈 北壁のやや西寄りに, 砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで96cm, 最大幅105cm, 壁外への掘り込みは65cmである。火床部は床面を2cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変しているが, あまり硬化していない。煙道部は外傾し, 立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---|----------|---|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 11 暗赤褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土中・小ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 12 暗赤褐色 | 粘土粒子多量, 焼土小ブロック・ローム粒子・砂中量, 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 13 暗赤褐色 | 粘土粒子多量, ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土大ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 14 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子多量, 焼土大ブロック・炭化粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・砂少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂少量 |
| 6 暗褐色 | 粘土粒子・砂中量, 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 16 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土中ブロック・炭化粒子少量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂少量, ローム粒子微量 |
| 8 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂少量 | 18 暗赤褐色 | 焼土大ブロック・焼土粒子多量 |
| 9 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂中量 | 19 暗赤褐色 | 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂少量 |
| 10 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂少量 | 20 極暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・砂少量 |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径30~36cmの円形で, 深さ11~21cmの主柱穴である。P₅は長径33cm, 短径26cmの楕円形で, 深さ8cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 4層からなり, ロームブロック, 焼土ブロックの堆積している状況であり, 人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 灰褐色 | 粘土粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |

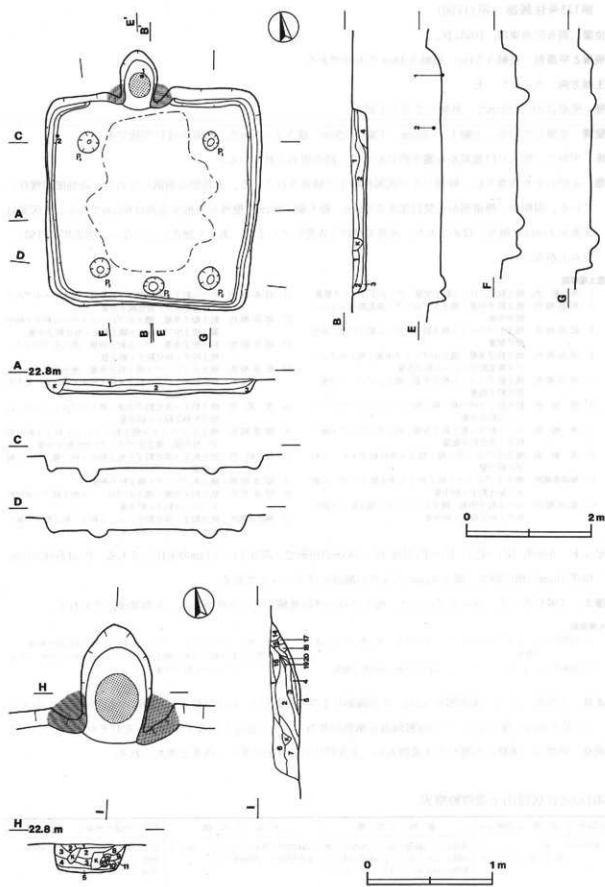
遺物 土師器片67点, 須恵器片53点, 灰軸陶器片1点, 支脚1点, および混入した陶器片2点が出土している。

1の須恵器鉢が竈内から, 2の灰軸陶器長頸瓶が北西コーナー部寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

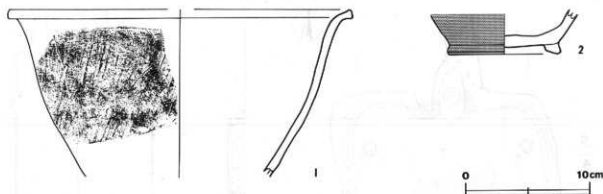
所見 時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀中葉から後葉と考えられる。

第133号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第118図 1	鉢 須恵器	A [27.3] B (13.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し, 頸部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面横ナデ。	灰石 雲母 砂粒 褐色 普通	10% P338 竈内



第117图 第133号住居跡実測图



第118図 第133号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第118図 2	長頸瓶 灰胎陶器	B (3.5) C 9.0	高台部から体部の破片。高台部は短く、直線的に開く。平底。	体部内・外面ロクロナデ。高台部貼り付け、ロクロナデ。体部から高台部外面灰胎脱落。	長石 砂粒 磁器 に上り黄褐色 良好	10% P340 黒置90号高式 覆土中層

第134号住居跡 (第119図)

位置 調査区南東部, D6d₄区。

重複関係 本跡は第23号溝と重複している。第23号溝が、本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.50m, 短軸3.48mの隅丸方形である。

主軸方向 N-12°-E

壁 壁高は20~28cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅16~45cm, 下幅4~12cm, 深さ4~11cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

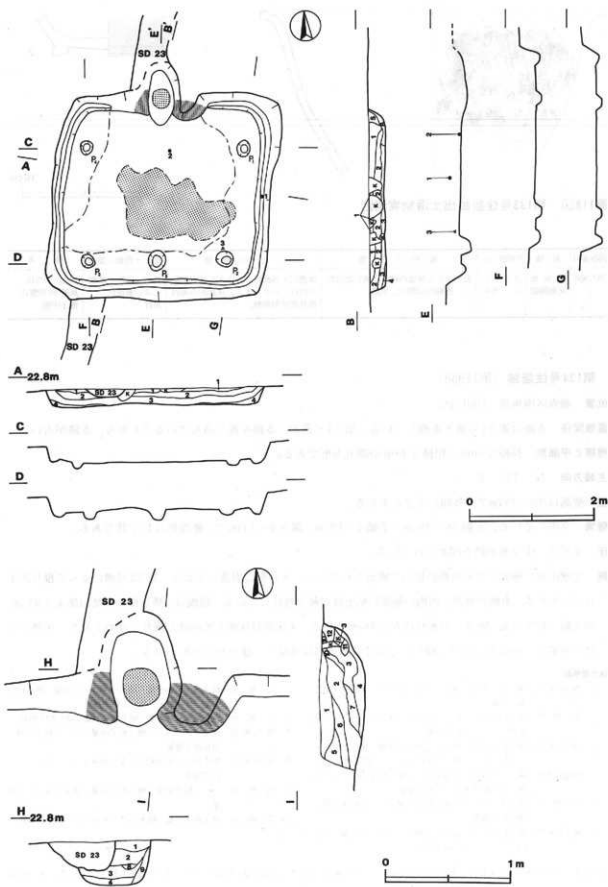
竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、第23号溝によって掘り込まれているため、東側の袖部と西側の袖部の粘土痕が薄く残存している。規模は、煙道部から焚口部まで93cm, 最大幅 [125] cm, 壁外への掘り込みは46cmである。火床部は床面を6cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、煙道部にかけて硬化している。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

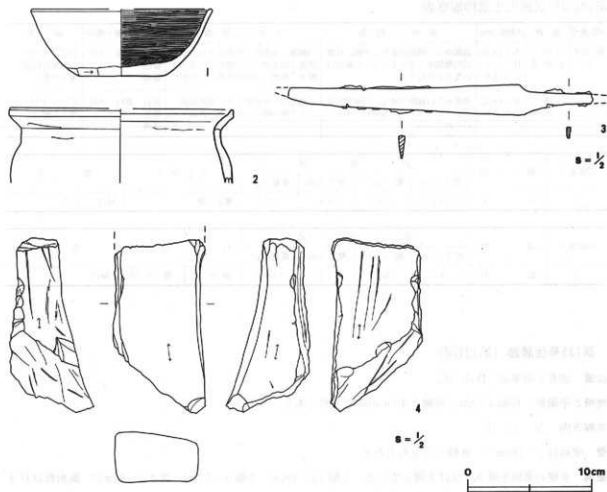
- | | |
|--|---|
| 1 極暗褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量 | 7 暗褐色 粘土粒子・砂多量, 焼土小ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 8 暗褐色 粘土粒子・砂多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | 9 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | 10 極暗褐色 焼土粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量 |
| 6 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量 |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径23~28cmの円形で、いずれも深さ11~12cmの主柱穴である。P₅は長径32cm, 短径27cmの楕円形で、深さ18cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 6層からなり、自然堆積と思われる。



第119图 第134号住居跡実測图



第120図 第134号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- 1 極暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量、焼土中ブロック・炭化粒子微量
 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量、炭

- 土粒子・炭化物微量
 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
 5 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
 6 暗赤褐色 粘土粒子・砂中量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片 229点、須恵器片 101点、刀子 1点、砥石 1点、および混入した陶器片 3点が出土している。1の土師器環が東壁寄りの覆土中層から、2の土師器壺が竪手前の覆土下層から、3の刀子が南東コーナー部の覆土下層から、4の砥石が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 第23号溝の深さが本跡より浅く、溝が掘り込んでいる範囲は、土層から確認されている。床面の中央部から焼土塊が確認されているが、性格は不明である。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後葉と考えられる。

第134号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第120図 1	坏 土 部 器	A [14.3]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナダ。体部下端手持ちへラ削り。内面へラ磨き。底部一方向の手持ちへラ削り。	長石 燻色 普通	50% P341 内面黒色処理 覆土中層
		B 5.4				
		C 6.8				
2	壺 土 部 器	A [18.0]	体部から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がり、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナダ。頸部外面へラ当て痕が残る。体部内・外面横ナダ。	長石 燻色 普通	5% P342 覆土下層
		B (6.0)				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
3	刀子	(16.2)	(1.6)	(0.3)	(22)	覆土下層	M15 95%

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
4	磁石	(9.3)	(5.0)	(4.5)	(180)	凝灰岩	覆土中 Q11	

第135号住居跡 (第121図)

位置 調査区南東部, D7h1区。

規模と平面形 長軸 3.52m, 短軸 3.35mの隅丸方形である。

主軸方向 N-1'-E

壁 壁高は2~10cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁の東側を除き、ほぼ全周している。上幅 15~29cm, 下幅 5~12cm, 深さ 5~9cmで、断面形はU字状である。

床 やや凹凸で、出入口施設から電手前にかけて、踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで 82cm, 最大幅 126cm, 壁外への掘り込みは 51cmである。火床部は床面を 5cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。焚口部は北壁に対して、斜めに作られている。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

出土層解説

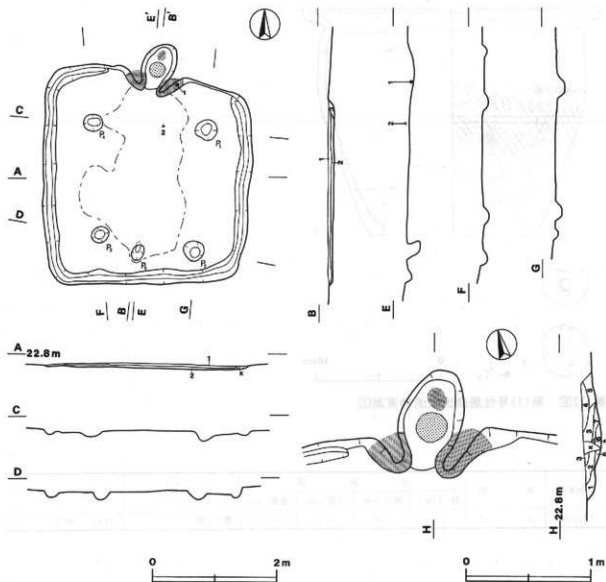
- | | |
|---|--|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 5 暗褐色 子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒 | 8 暗褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径 29~35cmの円形で、深さ 9~14cmの主柱穴である。P₅は長径 26cm, 短径 18cmの楕円形で、深さ 21cmの出入口施設に伴うピットである。

覆土 3層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 暗褐色 ローム中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 灰褐色 粘土粒子中量, 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂少量



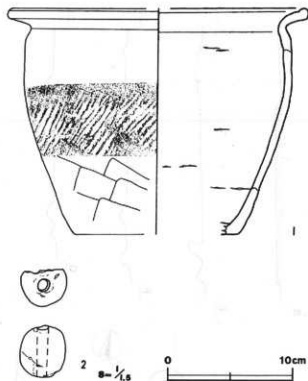
第121図 第135号住居跡実測図

遺物 土師器片35点、須恵器片19点、土玉1点が出土している。1の須恵器鉢が竈の東側袖部内から、2の土玉が竈手前の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 覆土が浅かったことから壁の残存率が悪く、遺物も少なくほとんどが細片である。竈の袖部内から遺物が出土していることから、それらは竈の補強材として使用されていたと考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後半と考えられる。

第135号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第122図 1	鉢 須恵器	A [23.2] B 18.4 C [13.1]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面クロコナデ。体部外面平行叩き、下位へラ削り。内面ナデ、輪痕み痕有り。	長石 石英 費母 砂粒 灰色 普通	20% P344 袖部内



第122図 第135号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第122図2	土玉	1.9	2.0	0.4	(4.36)	覆土下層	DP10 60%

第136号住居跡 (第123図)

位置 調査区南東部, D6e区。

規模と平面形 長軸3.31m, 短軸3.31mの隅丸方形である。

主軸方向 N-19°-E

壁 壁高は18cmほどで, 外傾して立ち上がる。

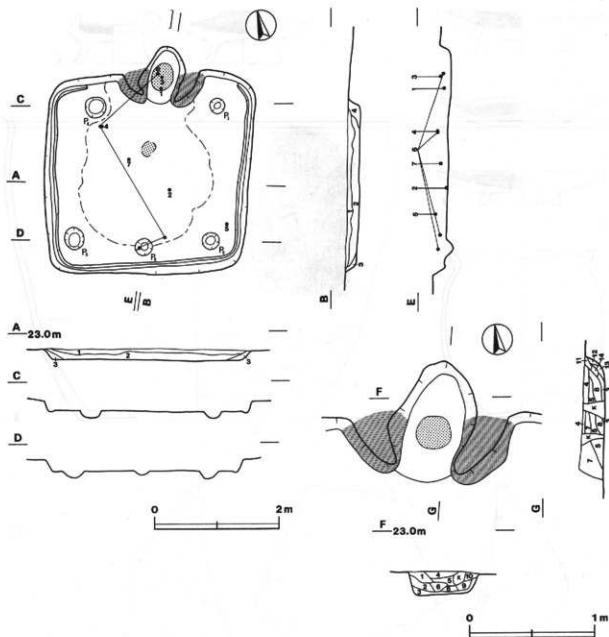
壁溝 ほぼ全周している。上幅12~22cm, 下幅2~6cm, 深さ2~4cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで98cm, 最大幅150cm, 壁外への掘り込みは43cmである。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変し, 硬化している。焚口部は北壁に対して, やや斜めに作られている。煙道部は外傾し, 急に立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|--|---|
| 1 暗赤褐色 焼土小ブロック中量, 焼土粒子・ローム粒子・砂少量, 炭化粒子微量 | 3 暗赤褐色 粘土粒子少量, ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂少量 |
| 2 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂・粘土粒子少量 | 4 暗褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・砂少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量 |

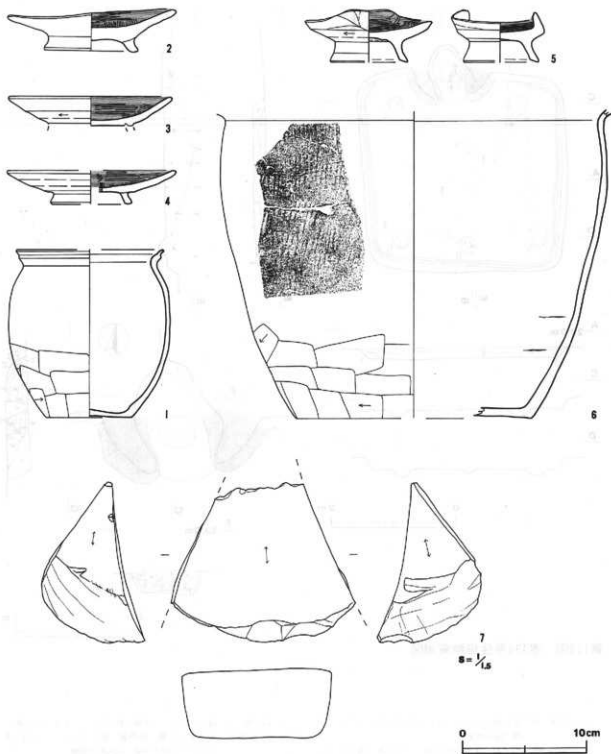


第123図 第136号住居跡実測図

- | | | | |
|----------|--------------------------------------|-----------|--|
| 5 黒褐色 | 炭化粒子・ローム粒子・砂少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | 焼土中ブロック・焼土粒子・ローム粒子・砂少量 |
| 6 におい赤褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子・砂中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 11 暗赤褐色 | 粘土粒子多量、砂中量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・砂中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 12 におい赤褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂少量 |
| 8 暗赤褐色 | 粘土粒子多量、焼土小ブロック・ローム粒子・砂中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 13 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量、炭化粒子・砂・粘土粒子少量 |
| 9 暗赤褐色 | 炭化粒子・ローム粒子・砂・粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量 | 14 暗赤褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・砂・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径26~37cmの円形で、深さ9~13cmの主柱穴である。P₅は径27cmの円形で、深さ12cmの出入口施設に伴うピットである。

覆土 4層からなり、自然堆積と思われる。



第124図 第136号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|---|-------|--------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量 | 4 暗褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |

遺物 土師器片126点, 須恵器片97点, 砥石1点が出土している。1の土師器小形甕, 3の土師器高台付皿が甕内から, 2の土師器高台付皿が中央部の床面直上から, 4の土師器高台付皿がP₄付近の覆土上層から, 5の土師器耳皿が南東コーナー部の覆土上層から, 6の須恵器鉢が南壁寄りの覆土中層から甕内までの広範囲にわたり, 7の砥石が中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 中央部に焼土塊が確認されているが, 性格は不明である。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀後半と考えられる。

第136号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第124図 1	小形甕 土師器	A [11.7]	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面積ナデ。体部外面下位へラ削り。内面横ナデ。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	75% P345 二次焼成 甕内
		B 13.6				
		C 7.0				
2	高台付皿 土師器	A 13.5	体部、口縁部一部欠損。高台部はハの字状に開く。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面積ナデ。体部内面へラ磨き。底部回転へラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 ぶい黄色 普通	95% P346 内面黒色処理 床面直上
		B 3.5				
		D 7.5				
		E 1.1				
3	高台付皿 土師器	A 12.8	高台部欠損。口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面積ナデ。体部下位回転へラ削り。内面へラ磨き。底部回転へラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	90% P347 内面黒色処理 甕内
		B (2.4)				
4	高台付皿 土師器	A [13.5]	高台部から口縁部の破片。高台部はハの字状に開く。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部、体部内・外面積ナデ。体部内面へラ磨き。底部回転へラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 ぶい黄褐色 普通	40% P348 内面黒色処理 覆土上層
		B 2.8				
		D [6.2]				
		E 1.0				
5	耳皿 土師器	AH10.3	高台部、口縁部一部欠損。高台部は長く、ハの字状に開く。平底。体部は、二か所が内側に丸く折り曲げられている。	口縁部、体部内・外面積ナデ。体部下位回転へラ削り。内面へラ磨き。底部回転へラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 ぶい黄褐色 普通	90% P349 内面黒色処理 覆土上層
		B 5.4				
		D 4.2				
		E 1.6				
		E 6.2				
6	鉢 須恵器	B (24.8)	底部から頸部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。頸部は外反する。	体部外面平行叩き。下位へラ削り。内面下位指ナデ。輪轆み痕有り。	長石 雲母 砂粒 ぶい黄褐色 普通	30% P350 甕内 覆土中層
		C [19.0]				

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
7	砥石	(7.3)	(6.5)	(4.0)	(160)	凝灰岩	覆土中層	Q12

第137号住居跡 (第125図)

位置 調査区南部, D6e₁区。

規模と平面形 長軸5.11m, 短軸4.76mの方形である。

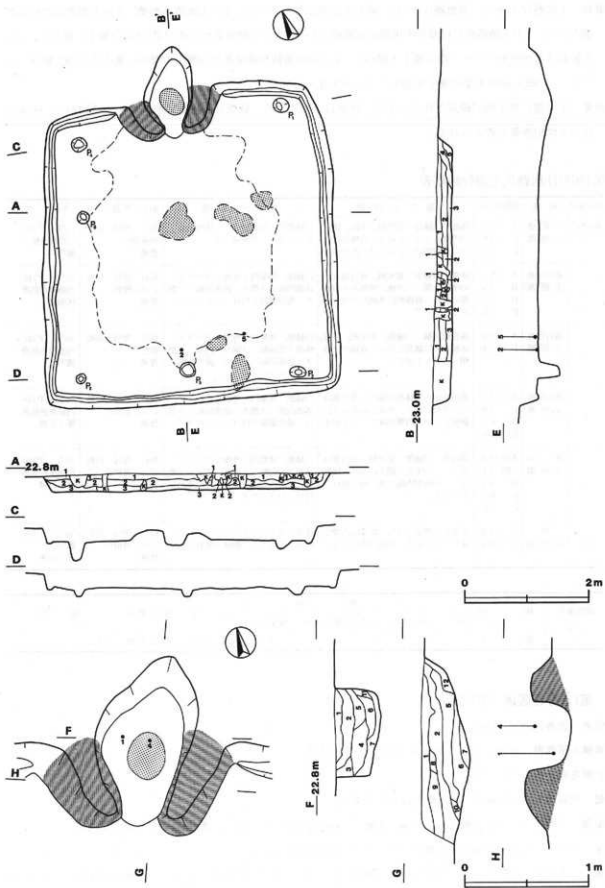
主軸方向 N-21°-E

壁 壁高は26~30cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

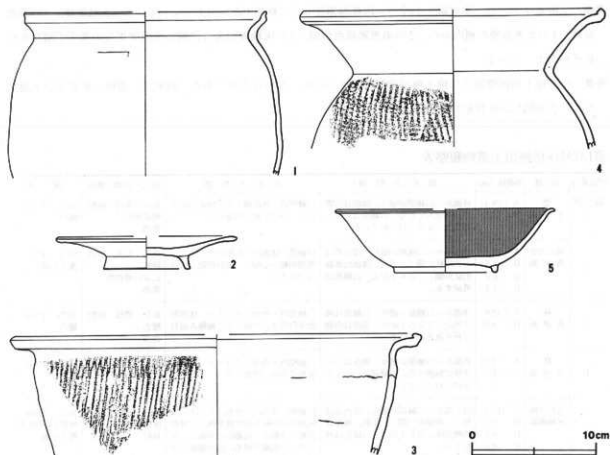
壁溝 全周している。上幅14~29cm, 下幅4~10cm, 深さ3~5cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、出入り口施設から電手前にかけて、踏み固められている。

竈 北東壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで139cm, 壁外への掘り込みは70cmである。両袖部は最大幅163cmで、粘土で袖部をしっかりと厚く作られている。火床部は床面を12cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化



第125图 第137号住居跡実測図



第126図 第137号住居跡出土遺物実測図

している。煙道部は外傾し、最初緩やかに、のち急に立ち上がる。

甕土層解説

- | | |
|--|---|
| 1 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 | 8 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子・粘土粒子少量 | 9 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量、粘土粒子・砂微量 |
| 3 暗褐色 粘土粒子多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 10 黒褐色 焼土粒子中量、焼土中ブロック少量、炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 11 暗褐色 粘土粒子・砂中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・ローム粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子・砂少量、ローム粒子微量 | 12 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、焼土中ブロック・ローム粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 ローム粒子多量、焼土粒子中量、炭化粒子微量 | |
| 7 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量 | |

ピット 6か所 (P₁~P₆)。P₁, P₃, P₄は径17~25cmの円形、P₂は長径26cm、短径17cmの楕円形で、いずれも深さ11~31cmの主柱穴である。P₅は径25cmの円形で、深さ34cmの出入り口施設に伴うピットである。P₆は径20cmの円形、深さ26cmで、性格は不明である。

覆土 5層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|---------------------------------------|---|
| 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中・小ブロック微量 | 5 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土中・小ブロック・粘土粒子・砂中量、炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | |

遺物 土師器片 365点, 須恵器片 187点, 灰軸陶器片 5点, 鉄滓 1点が出土している。1の土師器甕, 3の須恵器鉢, 4の須恵器甕が竈内から, 2の須恵器高台付皿, 5の灰軸陶器高台付碗が南西壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 中央部と南西壁寄りに焼土塊が確認されているが, 性格は不明である。時期は, 遺物の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀後半と考えられる。

第137号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第126図 1	壺 土師器	A [19.4]	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位にヘラ当て痕。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	10% 竈内 P351
		B (13.2)				
2	高台付皿 須恵器	A [14.0]	高台部から口縁部の破片。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、クロコナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 砂粒 灰白 黄褐色 普通	60% 覆土下層 P353
		B 2.6				
		D 6.9				
		E 1.1				
3	鉢 須恵器	A [32.0]	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反して立ち上がり、端部は内側に折り返されている。	口縁部内・外面クロコナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ、輪痕み痕有り。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	10% 竈内 P354
		B (9.8)				
4	壺 須恵器	A [24.0]	体部から口縁部の破片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面クロコナデ。体部外面楕円叩き。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 灰白 普通	20% 竈内 P355
		B (11.2)				
5	高台付碗 灰軸陶器	A [17.4]	高台部から口縁部の破片。高台部はくの字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。底部中央回転糸切り痕を残し、外周回転ヘラ削り。底部内・外面に三又トチンの痕跡が残る。高台部貼り付け、クロコナデ。口縁部から底部内面灰軸陶軸。	長石 砂粒 鐵屑 灰白色 灰白 良好	30% 黒灰14号窯式 覆土下層 P356
		B 5.1				
		D 8.3				
		E 0.6				

第130号住居跡 (第127図)

位置 調査区南部, D6g2区。

規模と平面形 長軸 4.66m, 短軸 4.63m の方形である。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は 48cm で, ほぼ垂直に立ち上がる。

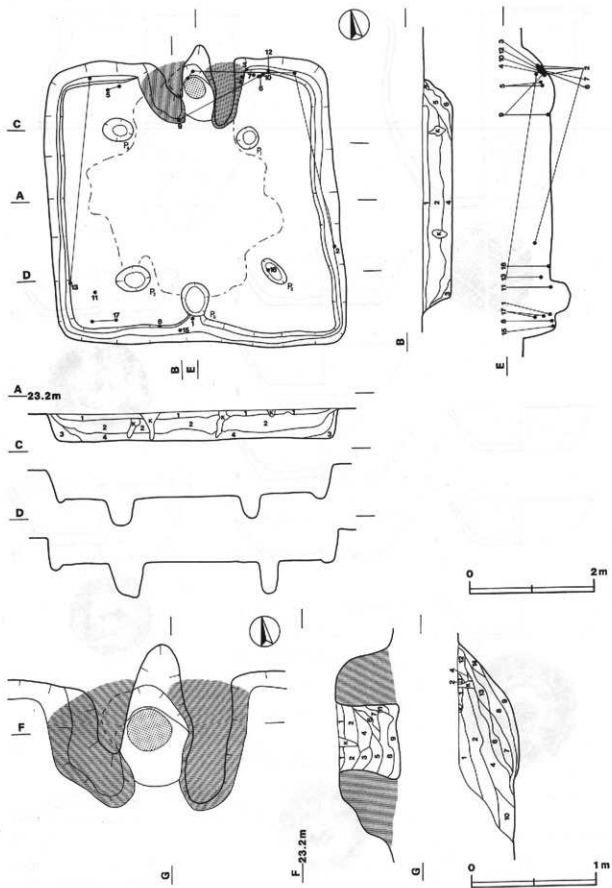
壁溝 全周している。出入り口施設に伴うピット付近は幅が広がっている。上幅 16~41cm, 下幅 2~15cm, 深さ 5~11cm で, 断面形は U 字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

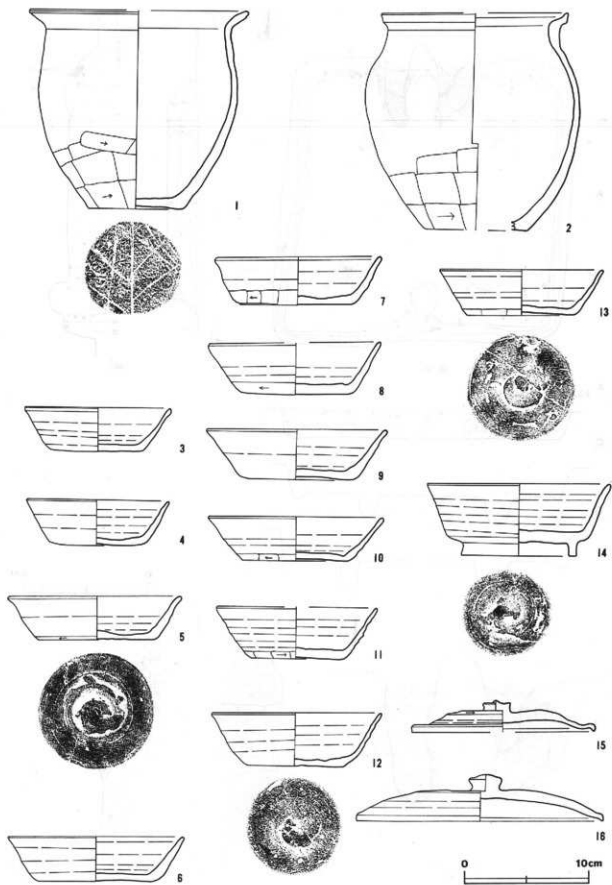
竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで 113cm, 壁外への掘り込みは 30cm である。両袖部は最大幅 175cm で, 粘土で袖部をしっかりと厚く作られている。火床部は床面を 8cm ほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変し, 硬化している。煙道部は外傾し, 急に立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|--|--|
| 1 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 粘土粒子微量 | 4 黒褐色 焼土粒子・粘土中ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土中・小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | 6 灰褐色 焼土粒子・粘土中ブロック少量, 焼土中ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |

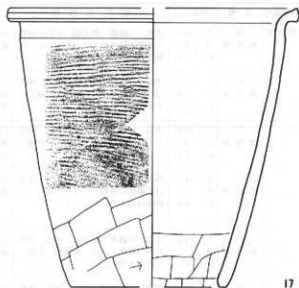


第127图 第138号住居跡実測図



第128图 第138号住居跡出土遺物実測図(1)

- 7 極暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・粘土中ブロック少量
 8 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土中・小ブロック中量, 炭化粒子少量
 9 極暗赤褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
 10 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子微量
 11 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量
 12 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
 13 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
 14 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量



ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁は径36cmの円形, P₂~P₄は長径49~56cm, 短径26~42cmの楕円形で、いずれも深さ37~56cmの支柱穴である。P₅は長径54cm, 短径41cmの楕円形で、深さ33cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 6層からなり、自然堆積と思われる。

第129図 第138号住居跡出土遺物実測図(2)

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量
 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 4 黒褐色 炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量
 5 黒褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物微量
 6 極暗褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量

遺物 土師器片279点, 須恵器片221点, 支脚1点, 鉄滓4点が出土している。ほとんどの遺物が北壁と南壁寄りに集中している。1の土師器小形甕が南壁寄りの床面直上から, 2の土師器小形甕が東壁寄りの覆土中層と北東コーナー部の床面直上から竈内までの広範囲にわたり, 3, 4, 6, 7, 10, 12の須恵器が竈東側袖部脇の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀中葉と考えられる。

第138号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第128図 1	小形土師器	A [17.4]	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部直下に1条の沈線が走る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位へラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 赤褐色 普通	85% P357 底部木葉痕 床面直上
		B 16.0				
		C 7.7				
2	小形土師器	A 15.0	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は器内を増しながら外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位へラ削り。内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 灰黄色 赤褐色 普通	80% P358 二次焼成痕 竈内/床面直上 覆土中層
		B 17.7				
		C [8.2]				
3	須恵器	A 11.8	平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。底部手持ちへラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰黄色 普通	100% P360 覆土下層
		B 3.6				
		C 7.3				
4	須恵器	A 11.5	平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。底部手持ちへラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰白色 普通	100% P361 覆土下層
		B 3.7				
		C 7.4				
5	須恵器	A 13.9	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下部回転へラ削り。底部回転へラ切り後、回転へラ削り。	長石 雲母 砂粒 赤褐色 普通	90% P362 覆土中層
		B 3.5				
		C 9.3				

図版番号	種類	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第128図 6	環 須 恵 器	A 14.2	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。底部手持ちへら削り。	長石 霰母 砂粒 灰黄色 普通	90% P363 覆土下層
		B 3.7				
		C 9.4				
7	環 須 恵 器	A 13.3	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。体部下端手持ちへら削り。底部手持ちへら削り。	長石 霰母 砂粒 灰黄色 普通	85% P364 覆土下層
		B 3.9				
		C 10.0				
8	環 須 恵 器	A [13.8]	体部、口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。体部下端回転へら削り。底部回転へら削り。	長石 霰母 砂粒 灰黄色 普通	80% P365 壁溝
		B 4.3				
		C 8.8				
9	環 須 恵 器	A 14.5	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。底部手持ちへら削り。	長石 石英 霰母 砂粒 灰黄色 普通	80% P366 覆土下層
		B 4.1				
		C 9.0				
10	環 須 恵 器	A 14.0	体部、口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。体部下端手持ちへら削り。底部回転へら削り後、手持ちへら削り。	長石 霰母 砂粒 黄灰色 普通	70% P367 覆土下層
		B 3.5				
		C 8.3				
11	環 須 恵 器	A [12.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。体部下端手持ちへら削り。底部手持ちへら削り。	長石 霰母 砂粒 黄灰色 普通	60% P368 覆土下層
		B (4.1)				
		C 7.6				
12	環 須 恵 器	A 13.7	底部から口縁部の破片。平底。体部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。底部回転へら削り後、手持ちへら削り。	長石 霰母 砂粒 灰黄色 普通	60% P369 覆土下層
		B 4.4				
		C 7.8				
13	環 須 恵 器	A 13.3	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。体部下端手持ちへら削り。底部回転へら削り後、手持ちへら削り。	長石 霰母 砂粒 灰白色 普通	60% P370 覆土中層
		B 3.7				
		C 8.6				
14	高台付環 須 恵 器	A 14.8	体部、口縁部一部欠損。高台部は直線的に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。底部回転へら削り。高台部貼り付け、クロコナダ。	長石 霰母 砂粒 黄灰色 普通	80% P371 袖部内
		B 5.9				
		D 9.2				
		E 1.1				
15	蓋 須 恵 器	A [14.6]	口縁部からつまみの破片。扁平なボタン状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦で、中位に轡を持ち開く。口縁部は外反した後、屈曲して垂下する。	つまみ、天井部、口縁部内・外面クロコナダ。頂部回転へら削り。	長石 石英 霰母 砂粒 灰黄色 良好	50% P373 壁溝
		B 2.6				
		F 2.1				
		G 1.1				
16	蓋 須 恵 器	A [20.0]	口縁部からつまみの破片。鐘室球状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦で、緩やかに開く。口縁部は屈曲して、わずかに垂下する。	つまみ、天井部、口縁部内・外面クロコナダ。頂部回転へら削り。	砂粒 スコリア 砂粒 灰白色 普通	35% P374 P ₁ 内
		B 3.7				
		F 2.7				
		G 1.3				
第129図 17	甕 須 恵 器	A [23.0]	底部から口縁部の破片。無底式。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反し、端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面クロコナダ。体部外面平行削り、下位へら削り。内面ナダ、下位へら削り。	長石 砂粒 灰白色 普通	20% P376 覆土中層
		B 22.5				
		C [12.5]				

第139号住居跡 (第130図)

位置 調査区東部、C6j9区。

重複関係 本跡は、第22号溝、第126号住居跡と重複している。本跡は第22号溝に掘り込まれ、第126号住居跡を掘り込んでいることから、第22号溝より古く、第126号住居跡より新しい。

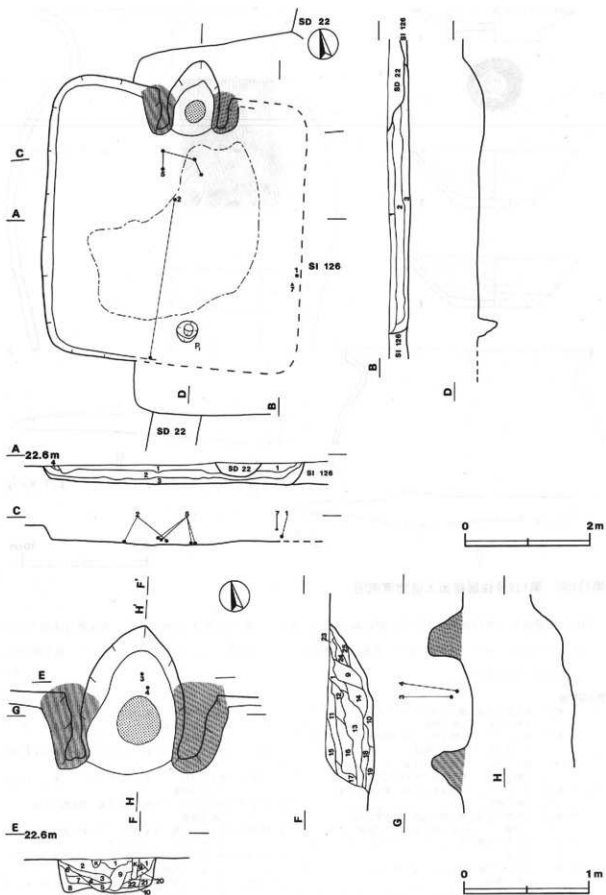
規模と平面形 長軸4.50m、短軸4.30mの方形である。

主軸方向 N-16'-E

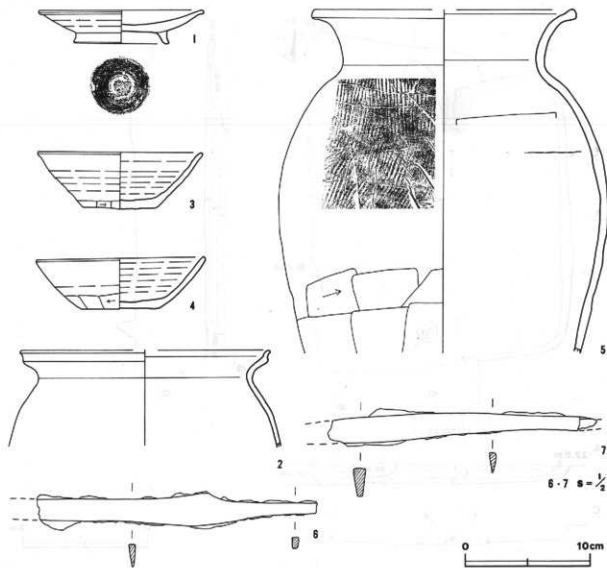
壁 壁高は23~33cmで、外傾して立ち上がる。

床 やや凹凸で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規



第130图 第139号住居跡実測図



第131図 第139号住居跡出土遺物実測図

椀は、煙道部から焚口部まで120cm、最大幅149cm、壁外への掘り込みは52cmである。火床部は床面を9cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、煙道部にかけて硬化している。煙道部は外傾し、最初緩やかで、のちに立ち上がる。

甑土層解説

- | | | | |
|--------|---|---------|--|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子中量、焼土中・小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土中ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量、粘土小ブロック微量 | 11 暗褐色 | 焼土小ブロック中量、焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量、粘土粒子微量 | 12 黒褐色 | 焼土小ブロック中量、焼土粒子・ローム粒子・粘土大ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 13 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子多量、焼土粒子・炭化物中量、焼土小ブロック少量、ローム粒子・粘土小ブロック微量 | 14 極暗褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量、焼土中ブロック微量 |
| 6 黒褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 15 極暗褐色 | 焼土大・小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | 炭化粒子・粘土粒子・砂少量、焼土小ブロック・ローム粒子微量 | 16 暗赤褐色 | 粘土粒子・砂多量、焼土中・小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 8 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック微量 | 17 暗赤褐色 | 焼土大・小ブロック中量、焼土中ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック・粘土粒子・砂中量 | | |

- 18 暗赤褐色 粘土粒子・砂少量, 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 19 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量
- 20 黒褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 21 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 22 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 23 黒褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
- 24 黒褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂少量
- 25 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, ローム粒子少量, 粘土粒子・砂微量

ピット 1か所 (P₁)。P₁は径33cmの円形で、深さ30cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 4層からなり、ロームブロックの堆積している状況から、人為堆積と思われる。

土層構成

- 1 暗赤褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子微量

遺物 土師器片479点, 須恵器片247点, 刀子2点, および混入した陶器片1点が出土している。1の土師器高台付皿が東壁寄りの覆土下層から, 2の土師器甕が中央部と南壁寄りの覆土下層から, 3, 4の須恵器が竈内から, 5の須恵器が竈手前の覆土中層・下層から, 6の刀子が覆土中から, 7の刀子が東壁寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 第22号溝の深さが本跡より浅く, 溝が掘り込んでいる範囲は, 土層から確認されている。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀中葉と考えられる。

第139号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第131図 1	高台付皿 土師器	A 13.1	体部、口縁部一部欠損。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ削り。高台部削り付け、クロコナデ。	長石 雲母 砂粒 黒褐色 普通	95% P377 覆土下層
		B 2.8				
		D 7.5				
		E 1.0				
2	甕 土師器	A [20.0]	体部から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がる。肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面傾ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	10% P378 覆土下層
		B (7.8)				
3	坏 須恵器	A 13.3	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	70% P380 竈内
		B 4.5				
		C 5.9				
4	坏 須恵器	A 13.5	体部、口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、一方の手持ちヘラ削り。	長石 石英 雲母 明赤褐色 普通	70% P381 二次焼成 竈内
		B 4.2				
		C 6.2				
5	甕 須恵器	A [20.8]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、肩部はくの字状に屈曲する。口縁部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面クロコナデ。体部外面平行印き、下位ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	40% P383 覆土中～下層
		B (27.8)				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
6	刀子	(14.9)	(1.7)	(0.4)	(30)	覆土中	M16
7	刀子	(14.3)	(1.5)	(0.4)	(21)	覆土上層	M17

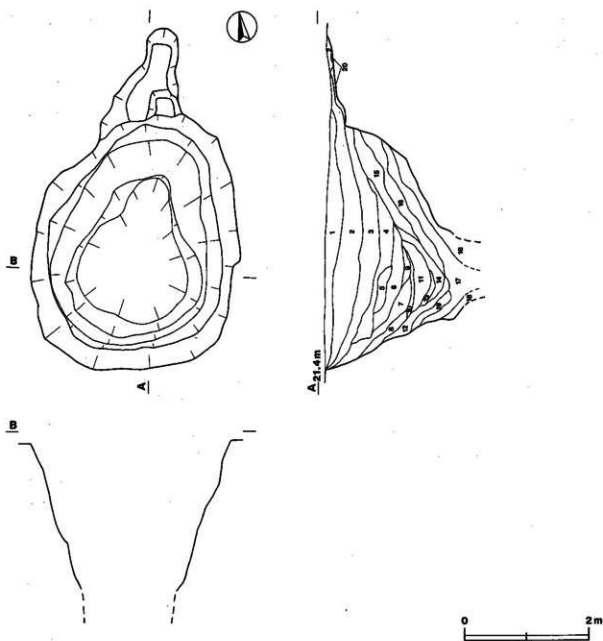
2 井戸

今回の調査で、井戸5基を検出した。調査区東部から1基、西部から3基、南部から1基である。以下、それぞれの井戸の特徴と出土遺物について記載する。

第8号井戸（第132図）

位置 調査区西部，C4es区。

規模と形状 平面形は不整形円形，断面形は確認面から2.35mの深さまで急傾斜を持った深めの槽鉢状をしており，そこから下は径1.20～1.56mの円筒形である。規模は上面径3.23～5.54mで，深さ2.60mまで掘り込んだところで，壁の崩落の危険があるために，それ以下の調査を打ち切った。また，北側の確認面に，不定形で深さ25cmほどの掘り込みがみられた。



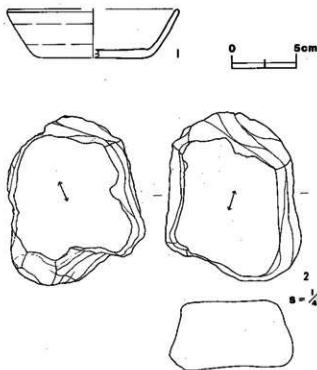
第132図 第8号井戸実測図

長径方向 N-18°-E

覆土 20層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
- 4 極暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化物・ローム粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック・ローム中ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・粘土大ブロック中量
- 6 暗褐色 ローム粒子・粘土中ブロック中量、焼土小ブロック・ローム小ブロック少量、焼土中ブロック・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子・粘土中ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量
- 9 極暗褐色 粘土中ブロック・粘土粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
- 10 褐色 粘土粒子少量、炭化粒子・ローム粒子微量
- 11 極暗褐色 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子微量
- 12 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 13 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子微量
- 14 黒褐色 粘土粒子少量、炭化粒子・ローム粒子微量
- 15 暗褐色 粘土小ブロック中量、焼土小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 16 黒褐色 粘土小ブロック中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 17 黒褐色 粘土粒子中量、焼土粒子・粘土小ブロック少量、ローム粒子微量
- 18 黒褐色 粘土粒子少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック少量、焼土粒子・ローム粒子微量
- 19 濃い黄褐色 粘土粒子少量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 20 暗褐色 ローム粒子少量



第133図 第8号井戸出土遺物実測図

遺物 覆土中から、土師器片137点、須恵器片37点、灰釉陶器片3点、陶器片5点、古銭1点、鉄滓1点、蟹母片岩を中心に礫26点、凹石1点、石鏝1点、1の須恵器環、2の砥石が出土している。

所見 本井戸は、調査区西部の中・近世の墓域の南側に構築されている。北側の不定形の掘り込みは、不明である。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代以降と考えられる。

第8号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色顔・焼成	備考
第133図 1	環 須恵器	A [13.6] B 3.9 C [8.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外周ロクロナデ。底部一方の手持ちへら削り。	黄土 黄母 砂粒 灰色 普通	25% P390 覆土中

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
2	砥石	(18.2)	(14.3)		(2910)	砂岩	覆土中	Q13

第9号井戸 (第134図)

位置 調査区西部、D4a区。

規模と形状 平面形は楕円形、断面形は確認面から0.82~1.25mの深さまで急傾斜を持った深めの掘削状をし

ており、そこから下は径1.30~1.95mの円筒形である。規模は上面径2.80~3.30mで、深さ2.40mまで掘り込んだところで、壁の崩落の危険があるために、それ以下の調査を打ち切った。

長径方向 N-90°-E

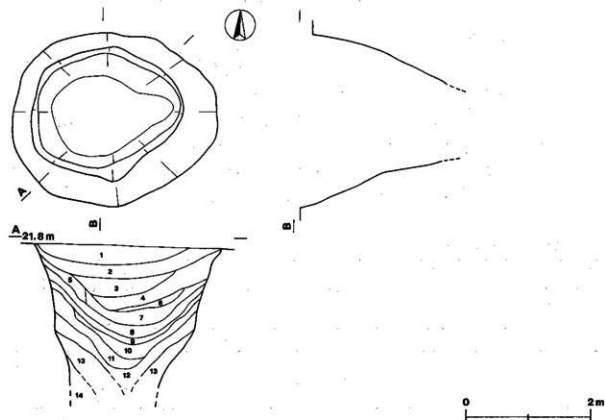
覆土 14層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|--|--------|--|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・砂・粘土粒子少量、炭化物・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子・ローム中ブロック・粘土小ブロック少量、焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量 | 9 褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子中量 |
| 4 極暗褐色 | 粘土小ブロック中量、炭化粒子・ローム大ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・ローム中ブロック微量 | 10 黒褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム大・中ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、炭化物微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |
| 6 黒褐色 | 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量 | 12 褐色 | ローム粒子中量 |
| | | 13 黒褐色 | 粘土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子微量 |
| | | 14 暗褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |

遺物 覆土中から、土師器片19点、須恵器片12点、灰釉陶器片1点、陶器片5点、要母片岩を中心に礫7点が出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代以降と考えられる。



第134図 第9号井戸実測図

第10号井戸 (第135図)

位置 調査区東部, C7j2区。

重複関係 本跡は第4号竪穴状遺構と重複している。本跡が、第4号竪穴状遺構を掘り込んでいることから、本跡が新しい。

規模と形状 平面形は不整楕円形、断面形は確認面から1.62mの深さまで急傾斜を持った深めの掘鉢状をしており、そこから下は径0.69~0.76mの円筒形である。規模は上面径5.00~(5.52)mで、深さ2.66mまで掘り込んだところで、壁の崩落の危険があるために、それ以下の調査を打ち切った。

長径方向 N-0°

覆土 8層からなり、人為堆積と考えられる。埋没していく過程で、焼土塊や炭化物を含む層が、数層に分かれて確認されている。

土層解説

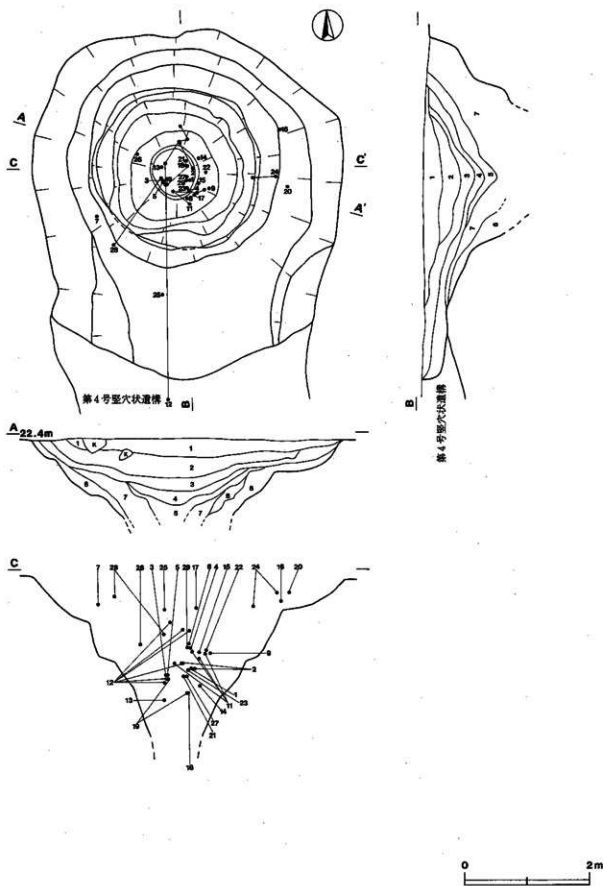
- | | |
|---|--|
| 1 黒褐色 焼土小ブロック中量、焼土粒子少量、焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量 | 5 黒色 炭化粒子多量、焼土粒子少量、炭化物・ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子・炭化物中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 6 暗褐色 粘土小ブロック少量、焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、炭化物・炭化粒子中量、ローム粒子微量 | 7 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、焼土小ブロック微量 | 8 黒褐色 粘土粒子多量、焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量 |

遺物 覆土中から、土師器片1772点、須恵器片855点、灰釉陶器片1点、陶器片43点、鉄滓2点が出土している。3, 5の土師器環, 13, 14の土師器小形壺, 18, 19, 21の須恵器環, 27の須恵器甕が覆土下層からそれぞれ出土している。

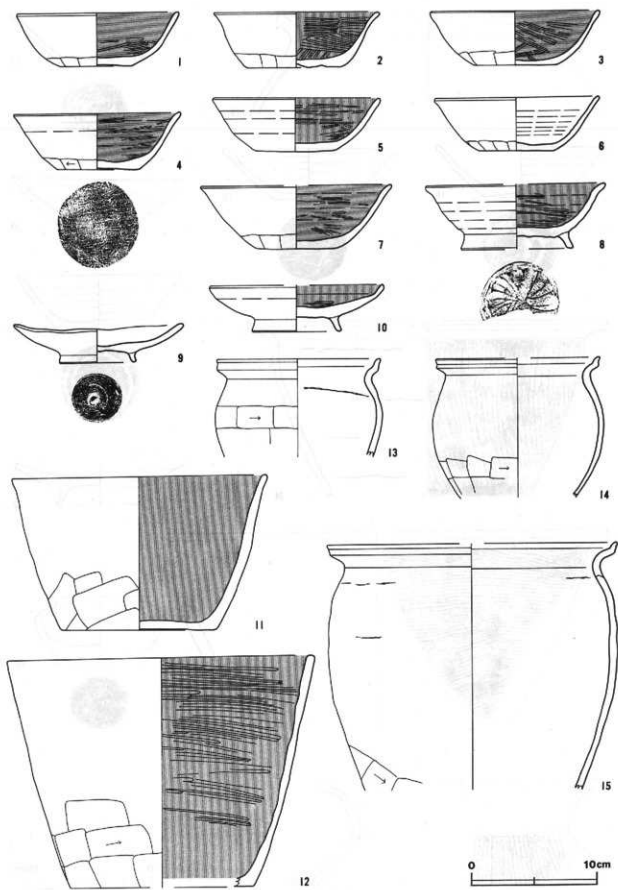
所見 出土遺物には、8世紀中葉から9世紀後葉と時期差があり、埋没していく過程で廃棄されていったものと思われる。本跡は重複する第4号竪穴状遺構の出土遺物とほとんど時期差がなく、同時期に存在した可能性が高いと思われる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の前期と考えられる。

第10号井戸出土遺物観察表

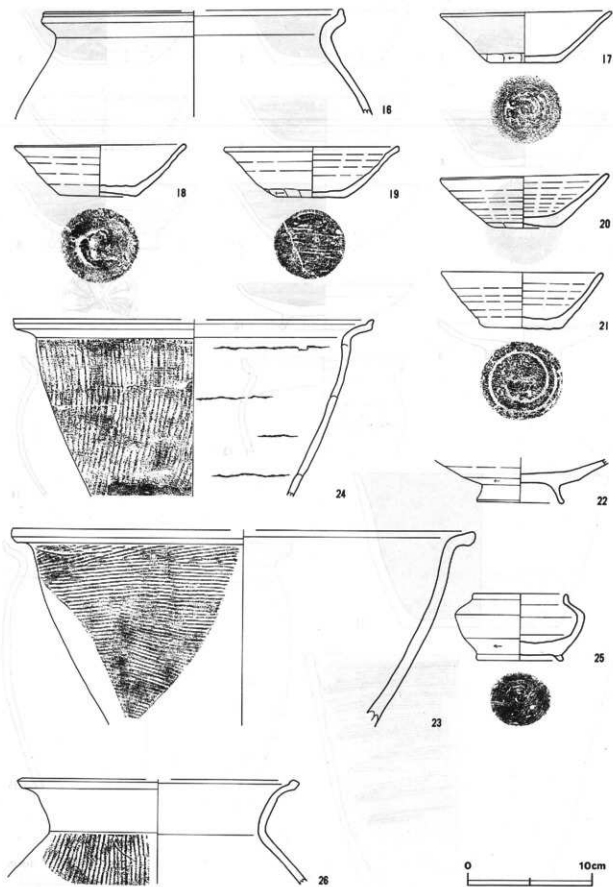
図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第136図 1	環 土師器	A 12.9	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。体部下端手持ちヘラ磨り。内面ヘラ磨き。底部一方方向の手持ちヘラ磨り。	雲母 砂粒 褐色 普通	95% P391 内面黒色処理 覆土中層
		B 4.3				
		C 5.7				
2	環 土師器	A 13.3	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。体部下端手持ちヘラ磨り。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後、ヘラナダ。	雲母 砂粒 よじり褐色 普通	85% P392 内面黒色処理 覆土中層
		B 4.5				
		C 7.5				
3	環 土師器	A 13.3	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。体部下端手持ちヘラ磨り。内面ヘラ磨き。底部手持ちヘラ磨り。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	70% P393 内面黒色処理 覆土下層
		B 4.4				
		C 6.5				
4	環 土師器	A 13.4	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。体部下端手持ちヘラ磨り。内面ヘラ磨き。底部一方方向の手持ちヘラ磨り。	雲母 砂粒 スコリア よじり褐色 普通	70% P394 内面黒色処理 覆土中層
		B 4.6				
		C 6.5				
5	環 土師器	A 13.3	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。内面ヘラ磨き。底部一方方向の手持ちヘラ磨り。	雲母 砂粒 よじり褐色 普通	65% P395 内面黒色処理 覆土下層
		B 4.3				
		C 6.5				
6	環 土師器	A 13.1	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナダ。体部下端手持ちヘラ磨り。底部一方方向の手持ちヘラ磨り。	長石 石英 砂粒 褐色 普通	60% P397 覆土中
		B 4.3				
		C 6.0				



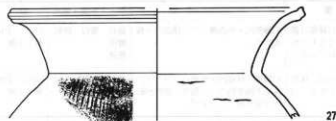
第135图 第10号井严实测图



第136图 第10号井戸出土遺物実測図(1)



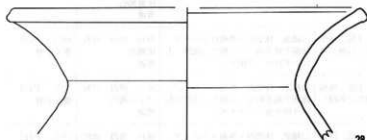
第137图 第10号井戸出土遺物実測図(2)



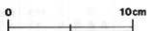
27



29



28



第138図 第10号井戸出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第136図 7	環 土器器	A [15.3]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部一方向の手持ちヘラ削り。	長石 砂粒 にふい橙色 普通	55% P398 内面黒色処理 覆土上層
		B 5.2				
		C 6.5				
8	高台付椀 土器器	A [14.2]	高台部から口縁部の破片。高台部は長く、ハの字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部菊花状調整痕。高台部貼り付け、ロクロナデ。	雲母 砂粒 明赤褐色 普通	50% P399 内面黒色処理 覆土中層
		B 5.3				
		D [8.8]				
		E 1.3				
9	高台付皿 土器器	A 13.7	体部、口縁部一部欠損。高台部は短く、直線的に開く。平底。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 黒褐色 普通	85% P400 覆土中層
		B 3.2				
		D 6.1				
		E 1.0				
10	盤 土器器	A [13.8]	体部、口縁部一部欠損。高台部はハの字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直線的に立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	雲母 砂粒 橙色 普通	75% P401 内面黒色処理 覆土中
		B 3.8				
		D 7.0				
		E 1.3				
11	鉢 土器器	A 20.5	体部、口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。内面横ナデ。	長石 雲母 砂粒 にふい橙色 普通	80% P402 内面黒色処理 覆土中層
		B 12.5				
		C 12.4				
12	鉢 土器器	A 24.8	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。内面ヘラ磨き。	長石 雲母 砂粒 明褐色 普通	65% P403 内面黒色処理 覆土中～上層
		B 18.6				
		C [14.7]				
13	小形 甕 土器器	A 13.1	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、箱部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。内面横ナデ。	長石 雲母 砂粒 にふい橙色 普通	35% P404 覆土下層
		B (8.0)				
14	小形 甕 土器器	A [13.2]	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、箱部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にふい橙色 普通	30% P405 二次焼成直 覆土下層
		B (11.2)				
15	甕 土器器	A [23.2]	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、箱部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。内面ナデ。輪模み痕有り。	長石 雲母 砂粒 赤褐色 普通	15% P407 覆土中層
		B (19.8)				

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第137図 16	壺 土器 甕	A [24.1] B (8.5)	体部から口縁部の破片。口縁部は器肉を押しながら、外反して立ち上がる。肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	灰石 雲母 砂粒 褐色 普通	10% P408 覆土上層
17	坏 須恵器	A 13.8 B 4.1 C 5.6	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ。	灰石 雲母 砂粒 暗灰黄色 普通	60% P396 覆土上層
18	坏 須恵器	A 13.8 B 4.4 C 6.2	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ切り後、外周ナデ。	灰石 石英 雲母 砂粒 灰黄褐色 普通	95% P409 覆土下層
19	坏 須恵器	A 14.0 B 4.4 C 5.5	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方方向の手持ちヘラ削り。	灰石 雲母 砂粒 灰褐色 普通	80% P410 覆土下層
20	坏 須恵器	A 13.6 B 4.4 C 5.0	体部、口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ。	灰石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	70% P411 覆土上層
21	坏 須恵器	A 12.9 B 4.5 C 6.3	体部、口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	灰石 雲母 砂粒 灰色 普通	70% P412 覆土下層
22	高台付皿 須恵器	B (3.6) D 1.4 E 6.8	高台部、口縁部一部欠損。高台部は長く、ハの字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、下位に壁を持つ。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、クロコナデ。	灰石 石英 雲母 砂粒 灰白色 普通	90% P413 覆土中層
23	鉢 須恵器	A [37.0] B (15.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面クロコナデ。体部外面平行印き。内面ナデ。	灰石 雲母 砂粒 黒褐色 普通	10% P414 覆土中層
24	鉢 須恵器	A [29.0] B (14.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面クロコナデ。体部外面菱格子印き。内面ナデ。輪襖み痕有り。	灰石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	15% P406 覆土上層
25	小形短頸 壺 須恵器	A 7.6 B 5.4 D 6.8	体部、口縁部一部欠損。高台部は短く、ハの字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、上位に最大径を有する。口縁部は直立する。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、クロコナデ。	灰石 砂粒 麻布 灰黄色 良好	70% P416 覆土上層
26	壺 須恵器	A [21.7] B (8.4)	体部から口縁部の破片。頸部はくの字状に屈曲して立ち上がる。口縁部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面クロコナデ。体部外面平行印き。内面ナデ。	灰石 石英 雲母 砂粒 灰色 普通	10% P417 覆土中層
第138図 27	壺 須恵器	A [23.4] B (8.7)	体部から口縁部の破片。頸部はくの字状に屈曲して立ち上がる。口縁部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面クロコナデ。体部外面平行印き。内面ナデ。	灰石 雲母 砂粒 灰褐色 普通	10% P418 覆土下層
28	壺 須恵器	A [27.9] B (10.6)	頸部から口縁部の破片。頸部はくの字状に屈曲して立ち上がる。	口縁部内・外面クロコナデ。内面ナデ。	灰石 雲母 砂粒 灰黄褐色 普通	10% P419 覆土上層
29	長頸瓶 灰陶軸器	B (3.0) D 8.8 E 1.0	高台部から体部の破片。高台部は短く、ハの字状に開く。平底。	口縁部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、クロコナデ。体部・高台部外面灰粘施施。	灰石 砂粒 麻布 灰黄色 良好	10% P420 井ヶ谷78号築式 覆土中層

第11号井戸 (第139図)

位置 調査区西部, C5is区。

規模と形状 平面形は円形, 断面形は確認面から1.25mの深さまで急傾斜を持った深めの槽鉢状をしており, そこから下は径0.54~0.75mの円筒形である。規模は上面径1.83mほどで、深さ2.38mまで掘り込んだところで、壁の崩落の危険があるために、それ以下の調査を打ち切った。

長径方向 N-25°-W

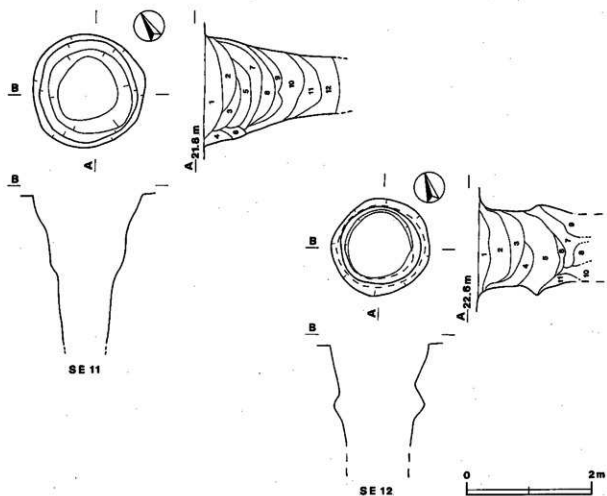
覆土 12層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------|-----------|----------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | 炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量 | 10 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子・粘土大ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 11 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 12 に近い黄褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子中量 |
| 5 暗褐色 | 粘土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 | | |
| 6 黒褐色 | 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量 | | |
| 7 黒褐色 | 粘土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | | |
| 8 黒褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子微量 | | |

遺物 覆土中から、土師器片19点、須恵器片14点、陶器片1点、鏝2点が出土している。

所見 本跡は、調査区西部の中・近世の墓域の南側に構築されている。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代以降と考えられる。



第139図 第11・12号井戸実測図

第12号井戸（第139図）

位置 調査区南部，D5j区。

規模と形状 平面形は円形，断面形は確認面から0.65～0.77mの深さまで急傾斜を持った深めの楕円状をしており，そこから下はオーバーハングしたあと，径0.98～1.03mの円筒形である。規模は上面径1.48～1.60mで，深さ2.70mまで掘り込んだところで，壁の崩落の危険があるために，それ以下の調査を打ち切った。

長径方向 N-73°-E

覆土 11層からなり，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・粘土小ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化粒子・粘土中ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量，炭化粒子中量，粘土中ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 極暗褐色 炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
- 6 黒色 炭化粒子多量，粘土粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 7 黒褐色 粘土粒子中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 8 黒褐色 粘土粒子多量，炭化粒子・ローム粒子少量，炭化物微量
- 9 にぶい黄褐色 粘土粒子多量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
- 10 黒褐色 粘土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
- 11 黒褐色 粘土粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子・ローム粒子微量



第140図 第12号井戸
出土遺物実測図

遺物 覆土中から，土師器片5点，須恵器片7点，鉄滓1点，礫2点，1の砥石が出土している。

所見 時期は，遺構の形態や出土遺物から，平安時代と考えられる。

第12号井戸出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第140図1	砥石	14.2	5.1	3.9	(470)	緑泥片岩	覆土中	Q14

3 大形竪穴状遺構

今回の調査で，調査区北部から大形竪穴状遺構1基を検出した。大形竪穴状遺構は，茨城県南部から千葉県北部にかけて検出される例が多く，これまで「井戸または井戸状遺構」として報告されてきた。ここでは「大形竪穴状遺構」という名称で扱うことにする。以下，その特徴と出土遺物について記載する。

第3号大形竪穴状遺構（第141図）

位置 調査区北部，A6h区。

規模と形状 平面形は不整形円形，断面形は深めの楕円状で，底面に一段の掘り込みをもつ。底面は平坦である。

規模は上面径2.74~3.25m, 底面径1.83~2.00m, 掘り込み面の径0.62~0.70mで, 深さ1.45mである。

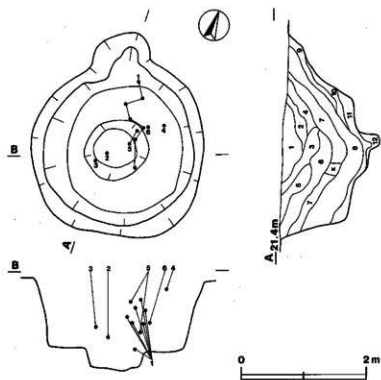
また, 北西側の確認面に, 深さ25cmほどの浅い掘り込みがみられる。

長径方向 N-17°-W

覆土 12層からなり, 人為堆積と考えられる。全体的に, 焼土粒子, 炭化粒子, 粘土ブロックを含んでおり, 底面部から, 多量の焼土塊が確認されている。下部の掘り込みは, 白色粘土層まで掘り込んでいる。

土層解説

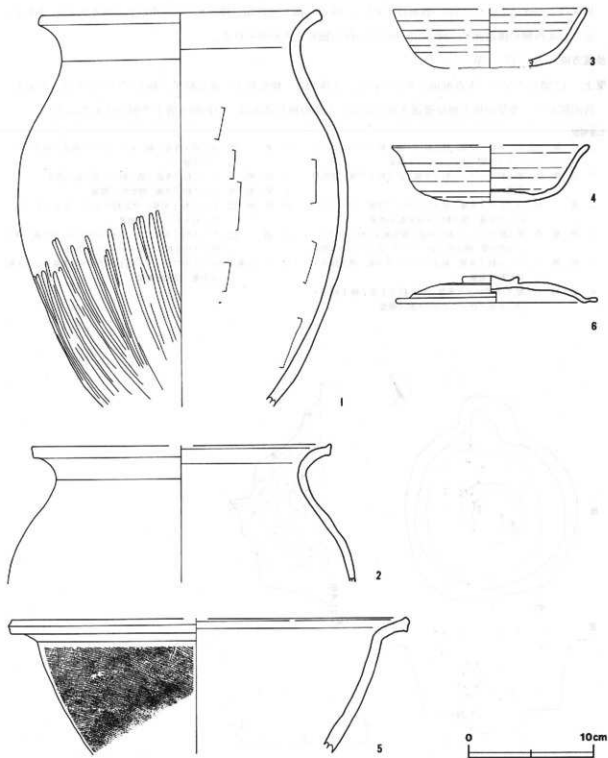
1 黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量	7 黒色	炭化粒子多量, 焼土粒子・ローム粒子・粘土小ブロック少量
2 暗褐色	焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 炭化材微量	8 暗褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐色	ローム粒子多量, 粘土小ブロック中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子微量
4 黒褐色	焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土小ブロック・砂少量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック微量	10 暗褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム大・小ブロック・粘土中ブロック微量
5 暗褐色	ローム粒子多量, 粘土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	11 褐色	ローム粒子多量, ローム中・小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土中ブロック微量
6 暗褐色	粘土中ブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量	12 Kよい青色	ローム中ブロック・粘土中ブロック多量, ローム粒子中量, 炭化材微量



第141図 第3号大形竪穴状遺構実測図

遺物 覆土中から, 土師器片109点, 須恵器片21点, 鉄滓3点, 礫3点が出土している。2の土師器壺, 3の須恵器坏, 6の須恵器蓋が覆土下層から出土している。

所見 本跡の性格や北西側の浅い掘り込みについては不明である。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 奈良時代と考えられる。



第142图 第3号大形整穴状遺構出土遺物実測図

第3号大形堅穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第142図 1	壺 土師器	A 22.3 B (31.8)	底平。体厚。口縁部一部欠損。体部は内灣し立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下半へラ磨き。内面へラナデ。	長石 雲母 砂粒 明黄褐色 普通	70% P384 二次焼成底 覆土中へ上層
2	壺 土師器	A [24.0] B (11.0)	体部から口縁部の破片。体部は内灣気味に立ち上がる。口縁部は器内を増しながら外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	10% P385 二次焼成底 覆土下層
3	坏 須恵器	A [15.5] B (4.2)	底平。口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内灣気味に立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底平手持ちへラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰黄色 普通	85% P386 覆土下層
4	坏 須恵器	A [15.7] B 4.5 C 7.8	底平。口縁部の破片。平底。体部は内灣気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底平回転へラ削り後、手持ちへラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 黄灰色 普通	50% P387 覆土上層
5	鉢 須恵器	A [31.6] B (10.8)	体部から口縁部の破片。体部は内灣気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部は上下にわずかにつまみ出されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ。	長石 砂粒 灰色 普通	10% P388 覆土中へ上層
6	蓋 須恵器	A 16.1 B 2.2	つまみから口縁部の破片。扁平なボタン状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦で、蓋やかに開く。口縁部は外反し、内側にかえりが付く。	つまみ、天井部、口縁部内・外面ロクロナデ。頂部回転へラ削り。	長石 雲母 砂粒 および褐色 普通	30% P389 覆土下層

4 堅穴状遺構

今回の調査で、調査区東部から2基の堅穴状遺構が確認された。当初、住居跡として調査したが、床面に踏み締められた硬化面が見られないこと、竈、貯蔵穴及び柱穴等の内部施設がないこと等のことから、堅穴住居跡と区別した。以下、それぞれの堅穴状遺構の特徴と出土遺物について記載する。

第3号堅穴状遺構 (第143図)

位置 調査区南東部、D6b₄区。

重複関係 本跡は、第128号住居跡と重複している。第128号住居跡が、本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と形状 平面形は、長軸3.12m、短軸2.64mの隅丸長方形で、深さ37cmと推定される。底面は平坦で、長方形を呈している。壁面は外傾して、立ち上がっている。

長軸方向 N-3°-E

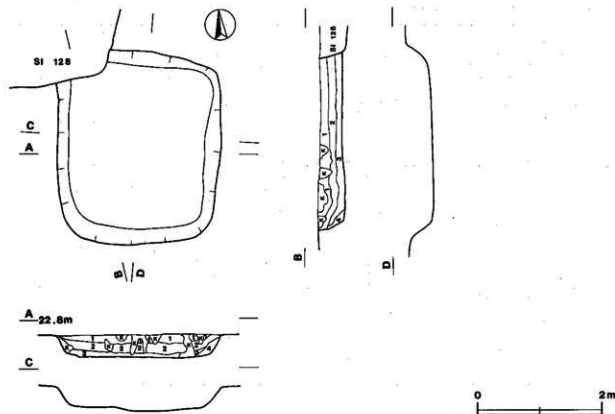
覆土 4層からなり、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|--|--|
| 1 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化
粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・
炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム中・小ブロック少
量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 |

遺物 覆土中から、土師器片71点、須恵器片34点が出土している。

所見 本跡の性格については不明であるが、出土遺物と9世紀中葉の第128号住居跡との重複から、時期は平安時代の9世紀中葉以前のものと考えられる。



第143図 第3号竪穴状遺構実測図

第4号竪穴状遺構 (第144図)

位置 調査区東部, D7b区。

重複関係 本跡は, 第10号井戸と重複している。第10号井戸が, 本跡を掘り込んでいることから, 本跡が古い。規模と形状 平面形は, 長径(5.40)m, 短径5.04mの不整楕円形で, 深さ100cmと推定される。底面は平坦で, 不整楕円形を呈している。壁面は緩やかに外傾して, 立ち上がっている。

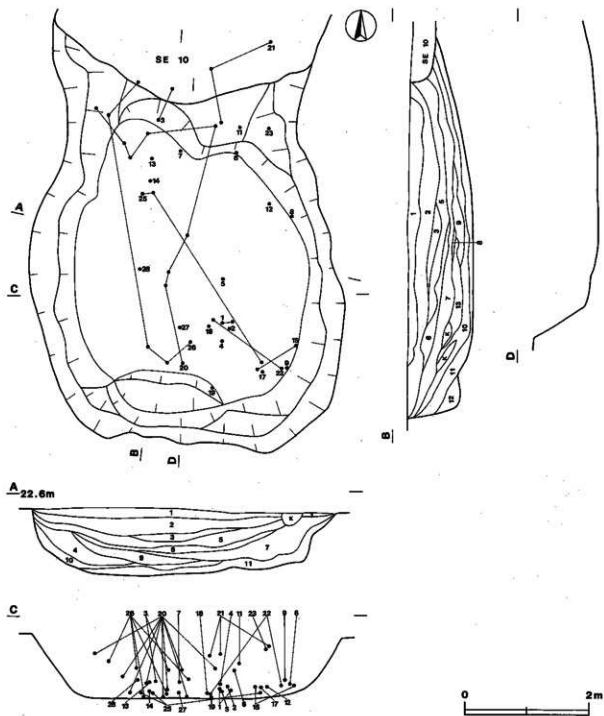
長径方向 N-0°

覆土 13層からなり, 人為堆積と考えられる。埋没していく過程で, 焼土塊や炭化物を含む層が, 数層に分かれて確認されている。

土層解説

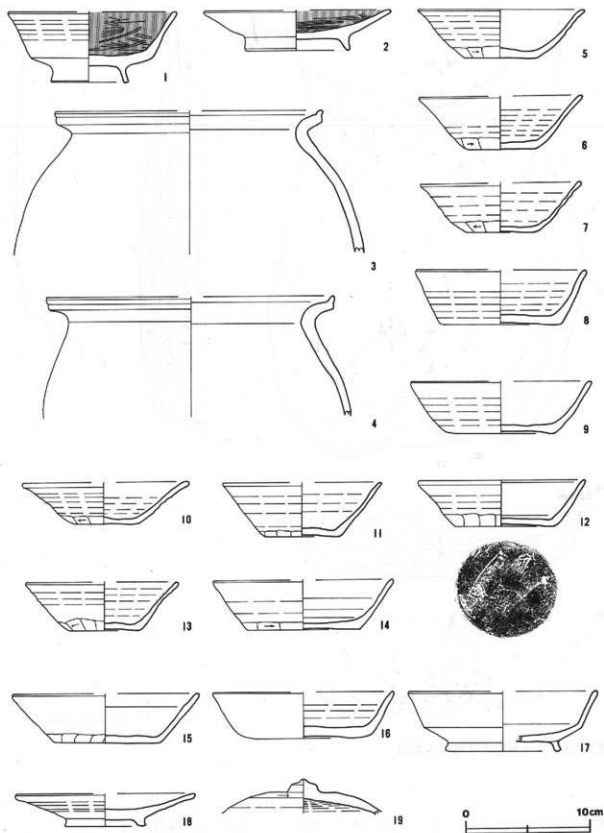
- | | |
|---|--|
| 1 黒褐色 焼土小ブロック中量, 焼土粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量 | 7 暗褐色 ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 焼土粒子・炭化物中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 8 暗赤褐色 ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 極暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量 | 9 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子中量, 焼土中ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 極暗赤褐色 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 粘土小ブロック少量, 焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 5 黒色 炭化粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量 | 11 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 | 12 暗褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量 |
| | 13 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量, 焼土大・中ブロック・炭化物・ローム粒子中量 |

遺物 覆土中から, 土師器片1438点, 須恵器片1409点, 陶器片28点, 鉄釘3点, 雲母片岩を中心に礫14点が出土している。14の須恵器環, 19の須恵器蓋, 20, 25の須恵器鉢, 26の須恵器甔が底面からそれぞれ出土している。

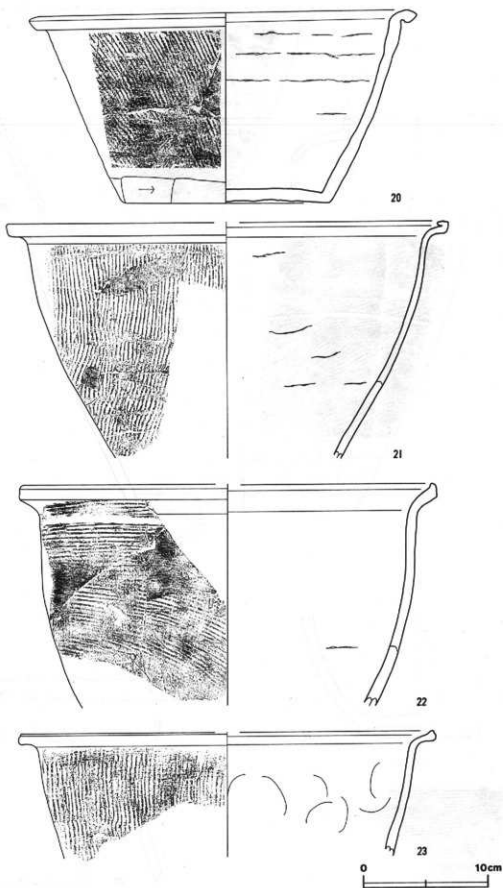


第144図 第4号竖穴状遺構実測図

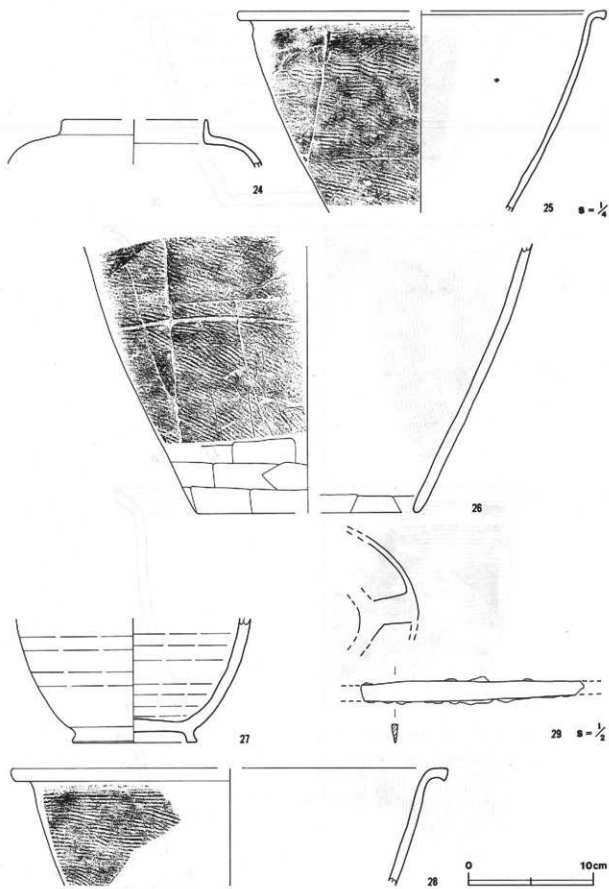
所見 出土遺物には、8世紀中葉から9世紀中葉と時期差があり、埋没していく過程で廃棄されていったものと思われる。本跡は重複する第10号井戸の出土遺物とほとんど時期差がなく、同時期に存在したことから、井戸と関連する施設の可能性があると思われる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の前期と考えられる。



第145图 第4号竖穴状遗构出土遗物实测图(1)



第146图 第4号竖穴状遺構出土遺物実測図(2)



第147图 第4号竖穴状遺構出土遺物実測図(3)

第4号型穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第145図	高台付 土器 壺	A [13.4]	高台部から口縁部の破片。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、下位に腹を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。底部回転へラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 にふい黄色 普通	60% P427 内面黒色処理 覆土下層
		B 5.7				
		D -6.2 E 1.3				
2	高台付皿 土器 器	A [14.8]	高台部から口縁部の破片。高台部はハの字状に開く。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。底部回転へラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	60% P428 内面黒色処理 覆土下層
		B 3.3				
		D 8.2 E 1.2				
3	壺 土器 器	A [21.4]	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にふい褐色 普通	20% P429 覆土中層
		B (11.5)				
4	壺 土器 器	A [28.0]	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反して立ち上がる。端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にふい褐色 普通	10% P430 覆土下層
		B (9.6)				
5	須恵器 器	A 13.3	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部手持ちへラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 赤褐色 普通	90% P424 覆土下層
		B 3.9				
		C 5.9				
6	須恵器 器	A [13.1]	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部回転へラ切り後、ナデ。	長石 砂粒 スクリップ 灰褐色 普通	70% P425 覆土中層
		B 4.3				
		C 5.6				
7	須恵器 器	A [12.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部回転へラ切り後、ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 スクリップ 明褐色 普通	40% P426 覆土中層
		B 4.1				
		C 5.5				
8	須恵器 器	A [13.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちへラ削り。	長石 砂粒 灰色 普通	50% P431 覆土下層
		B 4.4				
		C 9.7				
9	須恵器 器	A [14.6]	体部、口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ切り後、手持ちへラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	70% P432 覆土中層
		B 4.3				
		C 8.9				
10	須恵器 器	A [13.2]	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部一方の手持ちへラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	50% P433 覆土中
		B 3.4				
		C 5.4				
11	須恵器 器	A [12.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部回転へラ切り後、ヘラナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 黄灰色 普通	50% P434 覆土中層
		B 4.4				
		C 6.0				
12	須恵器 器	A 13.4	高部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部手持ちへラ削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	60% P435 覆土下層
		B 3.8				
		C 8.1				
13	須恵器 器	A [12.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部回転へラ切り後、ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	60% P436 覆土中層
		B 3.9				
		C 5.6				
14	須恵器 器	A [14.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部一方の手持ちへラ削り。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	45% P437 底面
		B 4.5				
		C 9.0				
15	須恵器 器	A [15.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部手持ちへラ削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	40% P438 覆土下層
		B 4.0				
		C 8.4				
16	須恵器 器	A [14.7]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。	長石 雲母 砂粒 にふい黄色 普通	40% P439 覆土中
		B 3.8				
		C 10.4				
17	高台付須 恵器 器	A [15.0]	高台部から口縁部の破片。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、下位に腹を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転へラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 灰白色 普通	30% P440 覆土下層
		B 4.8				
		D [8.8] E 0.8				

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第145図 18	高台付田 須恵器	A [14.4]	高台部から口縁部の破片。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	黒石 灰色 普通	30% P441 覆土下層
		B 2.6				
		D 6.5				
		E 0.6				
19	蓋 須恵器	B (2.9)	天井部からつまみの破片。麗宝珠状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦で、緩やかに開く。	つまみ、天井部内・外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	黒石 灰色 灰黄 灰好	65% P442 底面
		F 2.6				
		G 1.2				
第146図 20	鉢 須恵器	A 30.1	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は強く外反し、端部直下は突出している。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。下位ヘラ削り。内面ナデ、輪積み板有り。	黒石 砂粒 灰色 普通	70% P443 底面
		B 15.5				
		C 16.5				
21	鉢 須恵器	A [35.5]	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、端部は内側に折り返されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ、輪積み板有り。	黒石 雲母 砂粒 灰色 普通	15% P444 覆土上層
		B (19.0)				
22	鉢 須恵器	A [32.8]	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。頸部・体部外面平行叩き。内面ナデ、輪積み板有り。	黒石 雲母 砂粒 灰色 普通	10% P445 覆土下層
		B (17.8)				
23	鉢 須恵器	A [33.1]	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反して立ち上がる。端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面部分的に縦格子叩き。内面ナデ、当て具板有り。	黒石 雲母 砂粒 灰い 褐色 普通	10% P446 覆土上層
		B (10.0)				
第147図 24	短頸壺 須恵器	A [11.5]	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は直立する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	黒石 雲母 砂粒 灰色 普通	10% P447 覆土中
		B (3.7)				
25	鉢 須恵器	A [38.8]	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、端部は上下にわずかにつまみ出されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ。	黒石 石英 雲母 砂粒 砂灰色 白色 普通	20% P448 底面
		B (21.6)				
26	甌 須恵器	A (21.6)	底部から体部の破片。多孔式。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面平行叩き。下位ヘラ削り。内面ナデ、下端ヘラ削り。	黒石 雲母 砂粒 白色 普通	20% P449 底面
		C [17.6]				
27	長頸甌 須恵器	A (10.0)	高台部から口縁部の破片。高台部はハの字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	黒石 砂粒 灰色 普通	20% P450 外面自然釉 覆土下層
		D 9.8				
		E 0.9				
28	鉢 須恵器	A [35.1]	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反して立ち上がる。端部直下はつまみ出されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ。	黒石 雲母 砂粒 灰色 普通	5% P415 覆土中層
		B (9.4)				

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
29	刀 子	(11.9)	(1.1)	(0.3)	(19)	覆土中	M20

5 土坑

今回の調査で、土坑260基を検出した。性格や時期の違いについて検討した結果、次のように分類した。

- (1) 陥し穴…1基
- (2) 墓塚と考えられる土坑…3基
- (3) 墓塚の可能性のある土坑…19基
- (4) その他の土坑…237基

墓塚と考えられる土坑の判断基準は、土坑の覆土中に骨片等が含まれていること、副葬品と考えられる遺物が出土することを前提とした。しかし、実際には、土坑の出土遺物は細片が多く、全体的に数が少なかったことから、上記の条件を満たした墓塚と形状や覆土の堆積状況が類似している土坑、周辺に副葬品と考えられる

遺物が出土した土坑についても、総じて土墳墓と考えることとし、墓墳の可能性のある土坑とした。

以下、(1)~(3)について、形状のしっかりしたものや特徴のあるもの、遺物が多いものについて文章で記載し、その他のものは一覧表に掲載した。また、(4)については第163~176図と一覧表に掲載した。

(1) 陥し穴

第1号陥し穴 (SK-609) (第148図)

位置 調査区北部, A6c区。

規模と形状 平面形は、長径2.92m, 短径1.14mの長楕円形で、深さ135cmである。底面はU字状で、壁面は東西壁がオーバーハングしたあと、外傾して立ち上がっている。

長径方向 N-85°-W

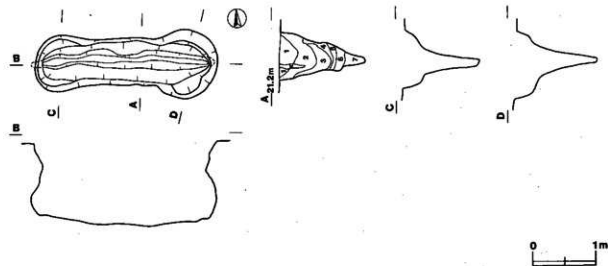
覆土 7層からなり、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量 | 6 灰褐色 粘土粒子・粘土小ブロック多量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 7 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | |
| 4 褐色 ローム粒子・粘土粒子・粘土小ブロック中量, 炭化粒子微量 | |
| 5 暗褐色 ローム粒子・砂・粘土粒子少量 | |

遺物 覆土中から、須恵器片2点が出土している。

所見 本跡の北側は傾斜面になっており、傾斜に対し直行するように構築されている。本跡は、遺構の形態等から縄文時代の陥し穴と考えられるが、詳しい時期については不明である。

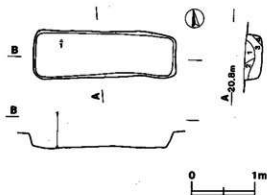


第148図 第1号陥し穴実測図

(2) 墓墳と考えられる土坑

第605号土坑 (第149図)

位置 調査区北部, A5g区。



第149図 第605号土坑実測図



第150図 第605号土坑出土遺物
実測図

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 4 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

規模と形状 平面形は、長軸2.27m、短軸0.55mの長方形で、深さ25cmである。底面は平坦で、長方形を呈している。壁面は外傾して、立ち上がっている。

長軸方向 N-82°-W

覆土 4層からなり、人為堆積と考えられる。

遺物 覆土中から、土師器片19点、須恵器片5点、底面近くから1の煙管の吸い口が出土している。

所見 調査区北部の墓域内に構築されており、墓墳の可能性が高く、1の煙管の吸い口は副葬品と考えられる。

時期は、遺構の形態や出土遺物から、近世と考えられる。

第605号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考	
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)			
第150図1	煙管吸い口	8.0	1.1	12	底面	M19	銅版 100%

第453号土坑 (第151図)

位置 調査区東部、D6b₉区。

規模と形状 平面形は、長径1.48m、短径0.77mの楕円形で、深さ31cmである。底面は平坦で、楕円形を呈している。壁面は外傾して、立ち上がっている。

長径方向 N-20°-W

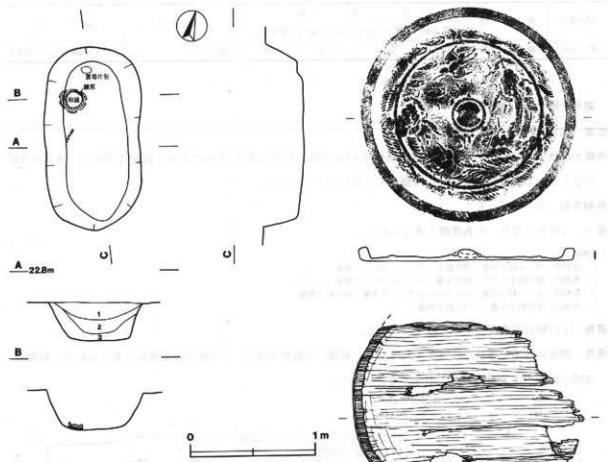
覆土 3層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・粘土・小ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片4点、須恵器片1点、和鏡1面、鏡筒1点、雲母片岩の礫1点が出土している。1の和鏡(松樹千鳥鏡)は北西部の底面近くから鏡面を下に向け、その下部から2の漆器鏡筒が張り付いて出土し、まわりには鏡筒が炭化した木片が確認されている。その北側の底面近くから、雲母片岩の礫が出土している。

所見 1の和鏡の鏡式については、縁は直角式中縁、圏は半縁で中縁、鈕は亀鈕で、鈕全体が亀の甲羅、頭、尾、足を象っている。図柄の特徴は、下辺に州浜を配し、圏に沿って松の生える岩山が描かれ、千鳥が1羽姿を飛



第151図 第453号土坑実測図

第152図 第453号土坑出土遺物実測図

び、もう1羽は州浜のすぐ上を舞っている。精美でヘラ使いが入念であり、質の良い鏡である。材質は白銅製で、鏡名は「松樹千鳥鏡」である。鏡の年代は、13世紀前半(1200～1250年の間)の鎌倉時代始め頃と考えられる。2の鏡宮については、色調及び粹部の立ち上がりや鏡面に残っていたロクロ目からも、一木をくりぬいて作った黒漆塗りの一木造りと思われる。共に副葬品と考えられる。時期は、遺構の形態や出土物から、鎌倉時代初期の13世紀前半と考えられる。

第453号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計 測 値						備 考	
		直径(cm)	縁高(cm)	厚さ(cm)	鏡座径(cm)	紐径(cm)	紐高(cm)		重量(g)
第152図 1	銅鏡 松樹千鳥鏡	11.4	0.7	0.2	2.0	1.7	0.45	179	M48 白銅製 底面 100%

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		直径 (cm)	厚さ (cm)	高さ (cm)	重量 (g)		
第152図2	甕	[12]	0.5	(0.8)	(15)	底面	W1 黒漆塗りの一木造り

第497号土坑 (第153図)

位置 調査区西部, C4c区。

規模と形状 平面形は、長軸1.73m、短軸0.87mの長方形で、深さ26cmである。底面は平坦で、隅丸長方形を呈している。壁面は緩やかに外傾して、立ち上がっている。

長軸方向 N-18°-E

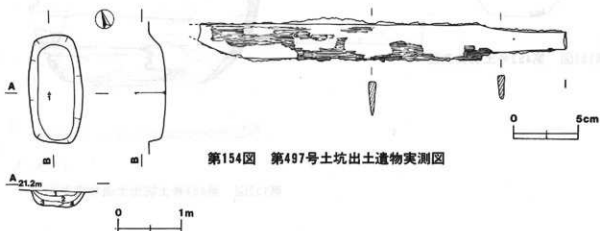
覆土 4層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量

遺物 1の短刀が底面近くから出土している。

所見 調査区西部の墓域内に構築されており、墓墳の可能性が高く、1の短刀は副葬品と考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、中世と考えられる。



第154図 第497号土坑出土遺物実測図

第153図 第497号土坑実測図

第497号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第154図1	短刀	(29.5)	(2.7)	(0.7)	(168)	底面	M22 90%

(3) 墓墳の可能性のある土坑 (文章で記載以外は第162図)

第589号土坑 (第155図)

位置 調査区北部, A6e区。

規模と形状 平面形は、長軸2.52m、短軸0.94mの長方形で、深さ67cmである。底面は平坦で、長方形を呈している。壁面は垂直に立ち上がっている。

長軸方向 N-16°-E

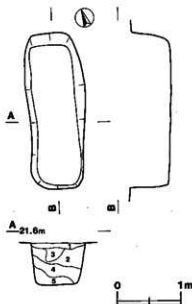
覆土 5層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 粘土小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 覆土中から、土師器片2点、須恵器片5点、陶器片3点が出土している。

所見 調査区北部の墓域内に構築されており、墓塚の可能性がある。時期は、遺構の形態や出土遺物から、中・近世と考えられる。



第155図 第589号土坑実測図

第590号土坑 (第156図)

位置 調査区北部、A6f区。

規模と形状 平面形は、長軸2.80m、短軸0.85mの長方形で、深さ53cmである。底面は平坦で、長方形を呈している。壁面は外傾して、立ち上がっている。

長軸方向 N-18°-E

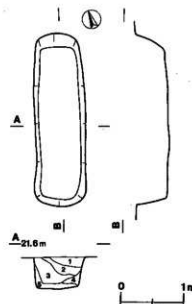
覆土 5層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック中量、炭化粒子少量

遺物 覆土中から、土師器片2点、須恵器片4点、陶器片3点が出土している。

所見 調査区北部の墓域内に構築されており、墓塚の可能性がある。時期は、遺構の形態や出土遺物から、中・近世と考えられる。



第156図 第590号土坑実測図

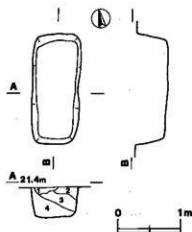
第591号土坑 (第157図)

位置 調査区北部、A6es区。

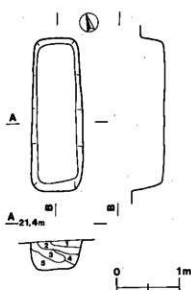
規模と形状 平面形は、長軸1.77m、短軸0.77mの長方形で、深さ50cmである。底面は平坦で、長方形を呈している。壁面は外傾して、立ち上がっている。

長軸方向 N-13°-E

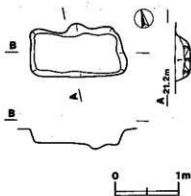
覆土 4層からなり、人為堆積と考えられる。



第157図 第591号土坑実測図



第158図 第597号土坑実測図



第159図 第600号土坑実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、炭土粒子・炭化粒子中量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック中量、ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック多量、ローム粒子中量、炭化物・ローム大ブロック少量

遺物 覆土中から、土師器片4点、須恵器片1点、陶器片1点が出土している。

所見 調査区北部の墓域内に構築されており、墓墳の可能性はある。時期は、遺構の形態や出土遺物から、中・近世と考えられる。

第597号土坑 (第158図)

位置 調査区北部、A6d6区。

規模と形状 平面形は、長軸2.45m、短軸0.82mの長方形で、深さ48cmである。底面は平坦で、長方形を呈している。壁面は外傾して、立ち上がっている。

長軸方向 N-17°-E

覆土 5層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、炭土粒子・粘土小ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、粘土小ブロック・ローム小ブロック中量
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭土粒子・粘土小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 極暗褐色 ローム粒子中量、炭土粒子・炭化物・ローム中ブロック・粘土小ブロック少量

遺物 覆土中から、土師器片7点、須恵器片2点、陶器片1点が出土している。

所見 調査区北部の墓域内に構築されており、墓墳の可能性はある。時期は、遺構の形態や出土遺物から、中・近世と考えられる。

第600号土坑 (第159図)

位置 調査区北部、A6g1区。

規模と形状 平面形は、長軸1.55m、短軸0.86mの不整長方形で、深さ20cmである。底面はやや凹凸で、長方形を呈している。壁面は外傾して、立ち上がっている。

長軸方向 N-18°-W

覆土 3層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、炭土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・粘土中ブロック少量、炭化粒子・ローム中・小ブロック微量

遺物 覆土中から、土師器片3点、須恵器片1点が出土している。

所見 調査区北部の墓域内に構築されており、墓墳の可能性はある。時期は、遺構の形態や出土遺物から、中・近世と考えられる。

第604号土坑 (第160図)

位置 調査区北部, A5g₉区。

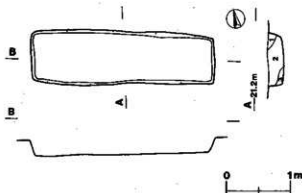
規模と形状 平面形は、長軸2.98m、短軸0.88mの長方形で、深さ26cmである。底面は平坦で、長方形を呈している。壁面は外傾して、立ち上がっている。

長軸方向 N-74°-W

覆土 3層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 極暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量



第160図 第604号土坑実測図

遺物 覆土中から、土師器片14点、須恵器片9点、陶器片1点、磁器片1点が出土している。

所見 調査区北部の墓域内に構築されており、墓墳の可能性はある。時期は、遺構の形態や出土遺物から、中・近世と考えられる。

第492号土坑 (第161図)

位置 調査区西部, C5c₄区。

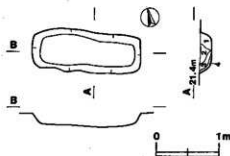
規模と形状 平面形は、長軸1.76m、短軸0.69mの長方形で、深さ22cmである。底面は平坦で、長方形を呈している。壁面は外傾して、立ち上がっている。

長軸方向 N-75°-W

覆土 4層からなり、人為堆積と考えられる。

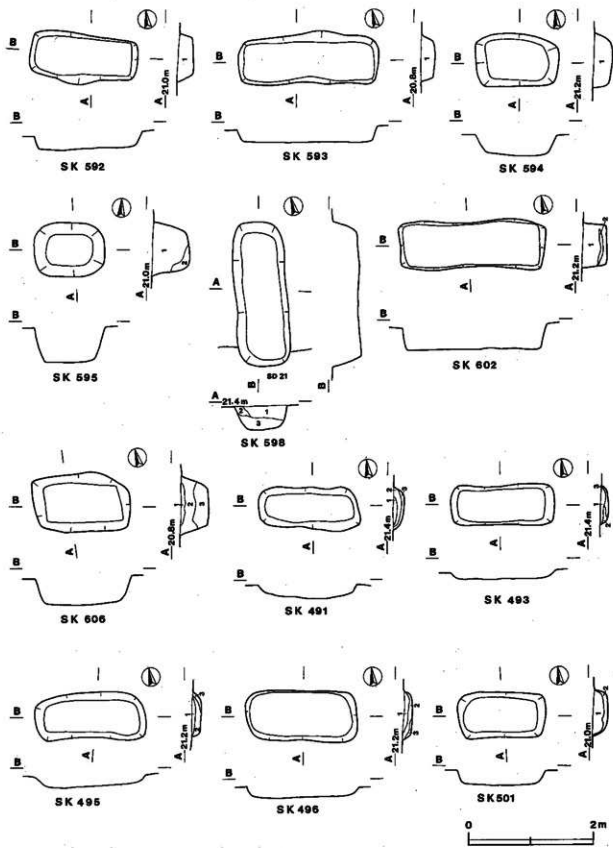
土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量



第161図 第492号土坑実測図

所見 調査区西部の墓域内に構築されており、墓墳の可能性はある。時期は、遺構の形態から、中・近世と考えられる。



第162図 墓墳の可能性のあるその他の土坑実測図

第382号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量

第393号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量

第394号土坑土層解説

- 1 暗褐色 粘土小ブロック多量, ローム小ブロック中量

第395号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック少量, ローム大ブロック・ローム粒子微量
- 2 褐色 粘土小ブロック中量

第398号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 極暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量

第402号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗赤灰色 焼土粒子中量, ローム中・小ブロック・ローム粒子微量

第404号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 3 黒色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量

第401号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第403号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量

第405号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量

第406号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

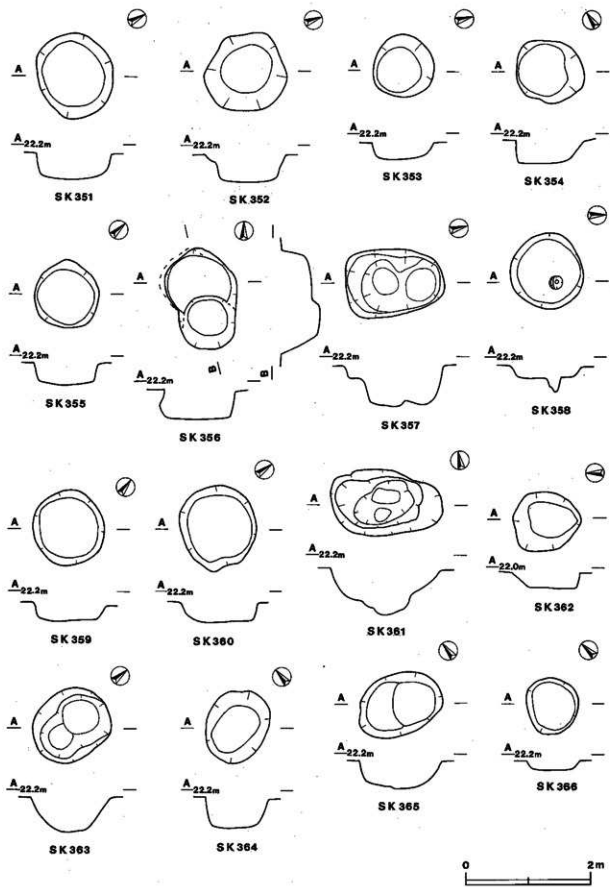
第401号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量

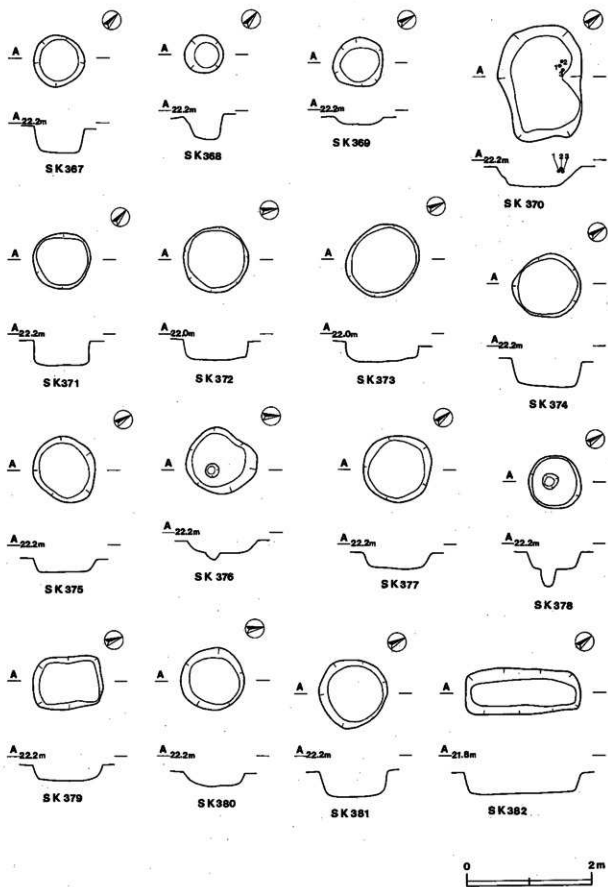
(4) その他の土坑 (第163~176図)

第370号土坑出土遺物観察表

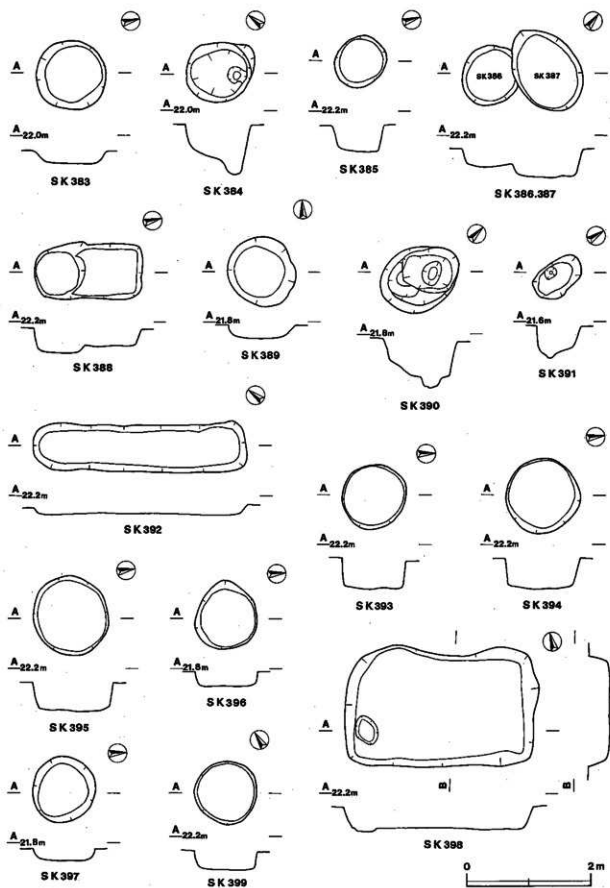
図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第177図 1	壺 土器部	A [17.0] B (6.9)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がる。端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 赤褐色 普通	5% P422 覆土上層
2	壺 土器部	A [18.2] B (9.5)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がる。端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘタナデ。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	5% P423 覆土上層
3	鉢 須恵部	A [30.7] B (17.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面クロコナデ。体部外面横ナデ。下位ヘタナデ。内面ナデ。輪襷み痕有り。	長石 石英 雲母 砂粒 灰褐色 普通	15% P421 覆土上層



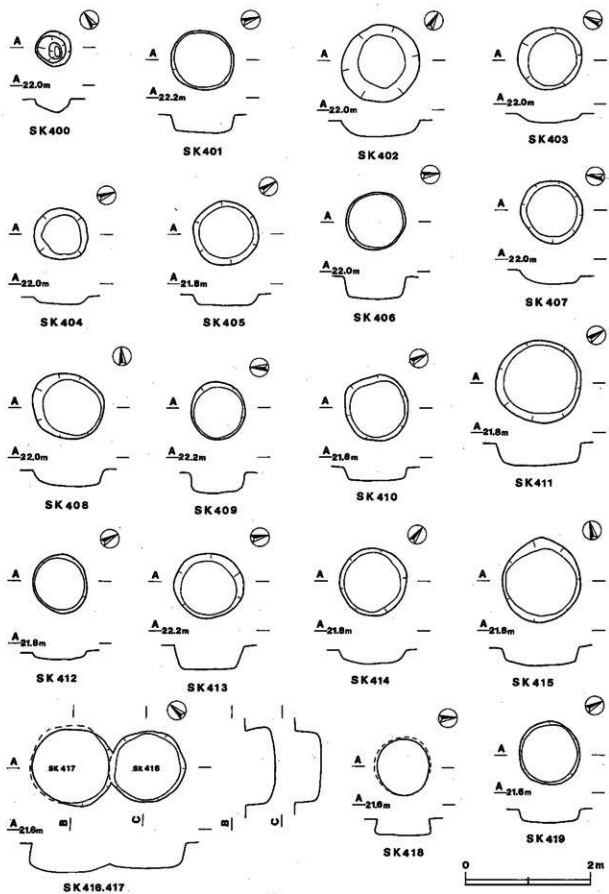
第163図 その他の土坑実測図(1)



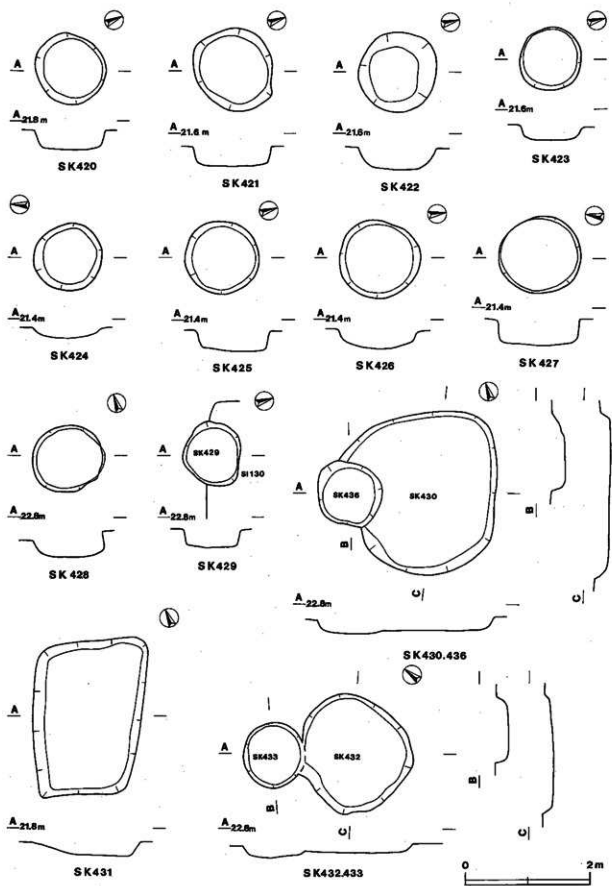
第184図 その他の土坑実測図(2)



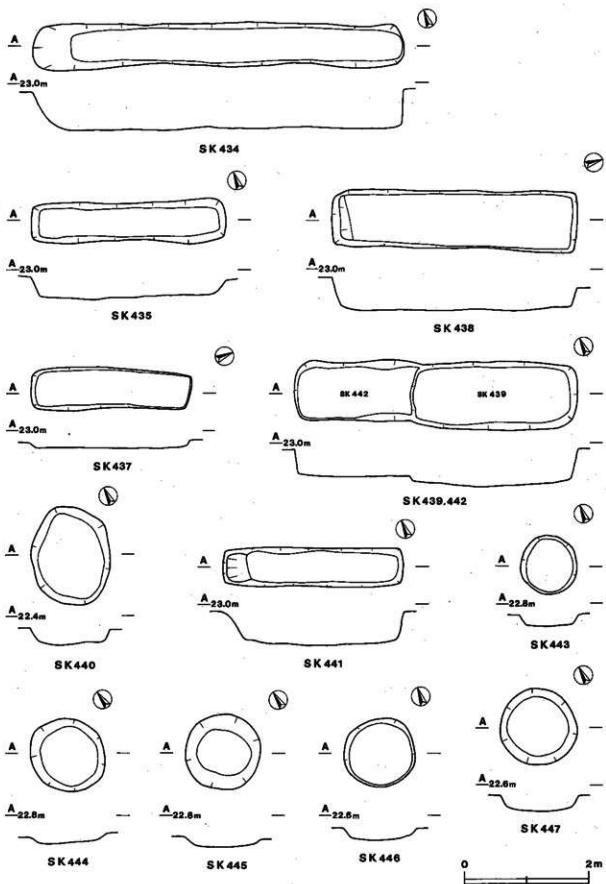
第165図 その他の土坑実測図(3)



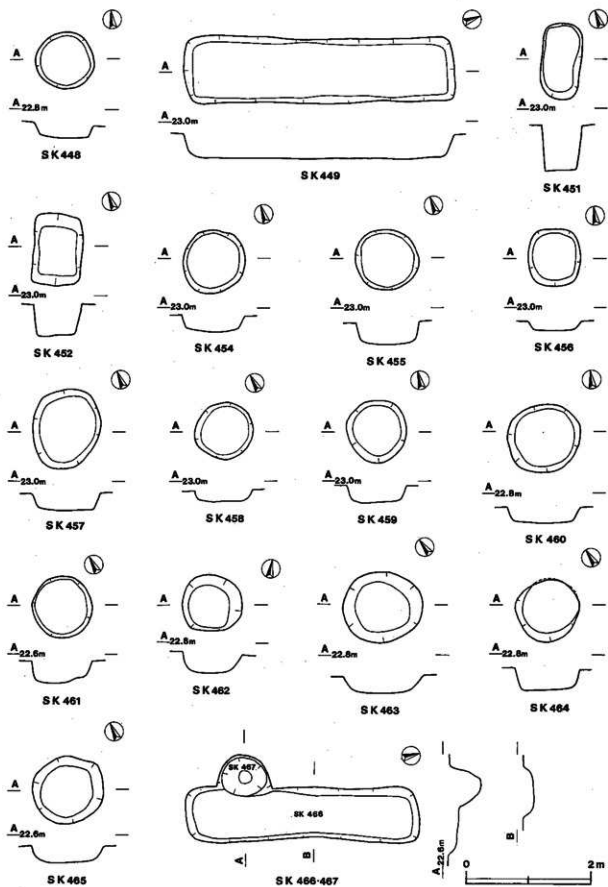
第166図 その他の土坑実測図(4)



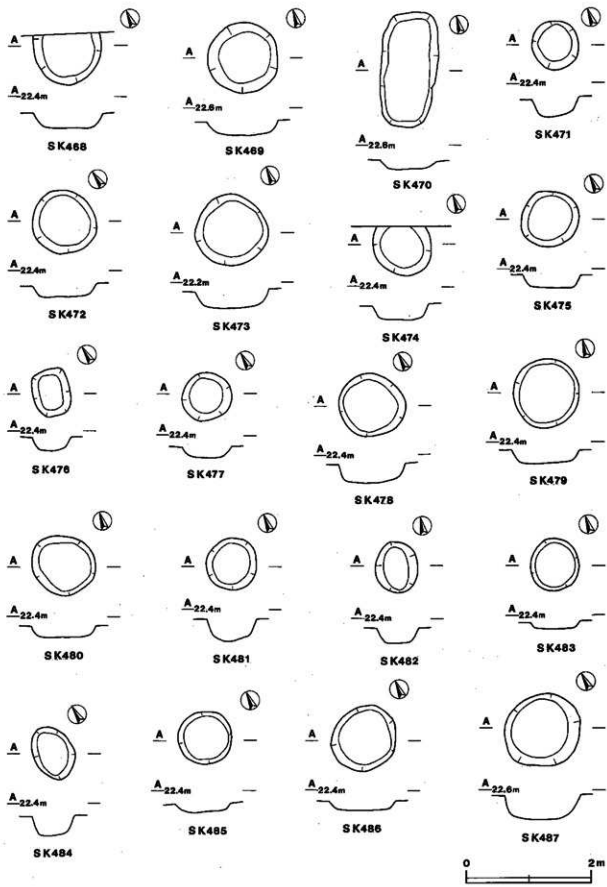
第167図 その他の土坑実測図(5)



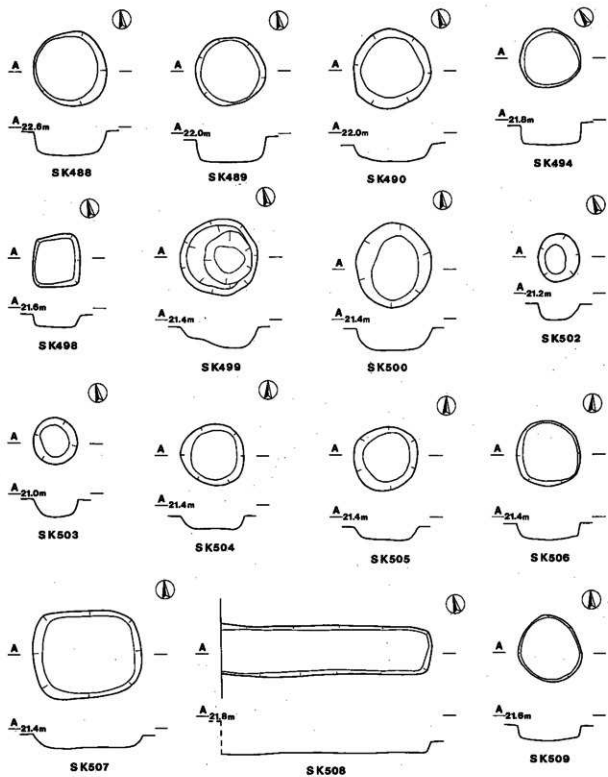
第168図 その他の土坑実測図(6)



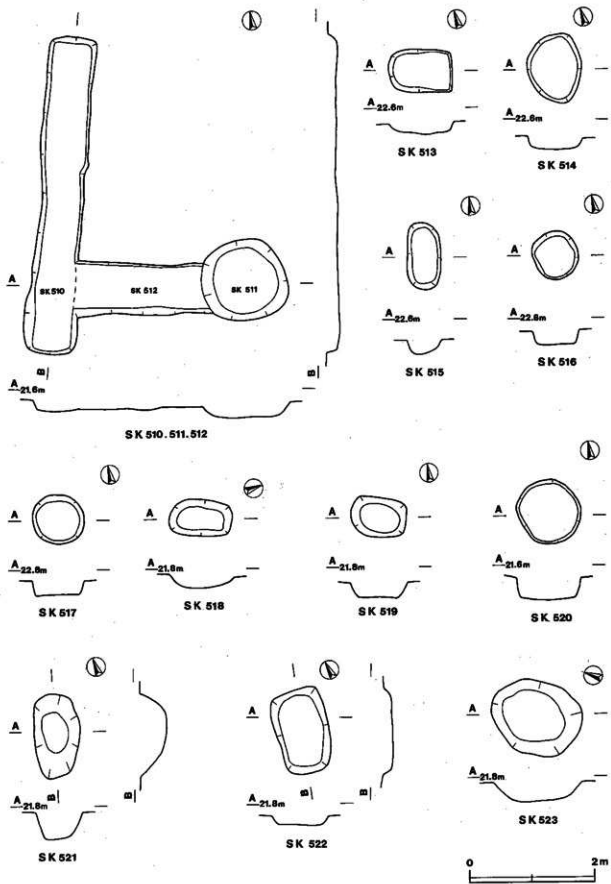
第169図 その他の土坑実測図(7)



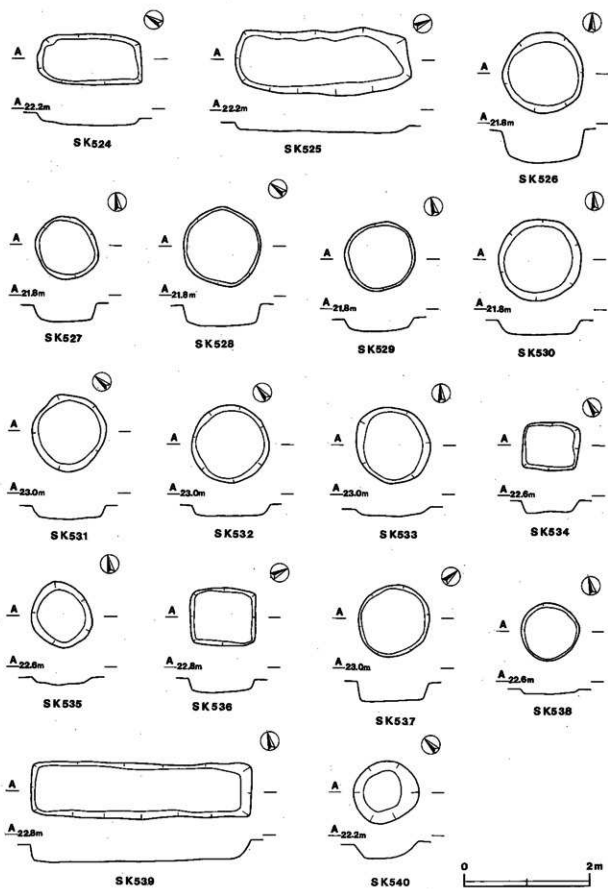
第170図 その他の土坑実測図(8)



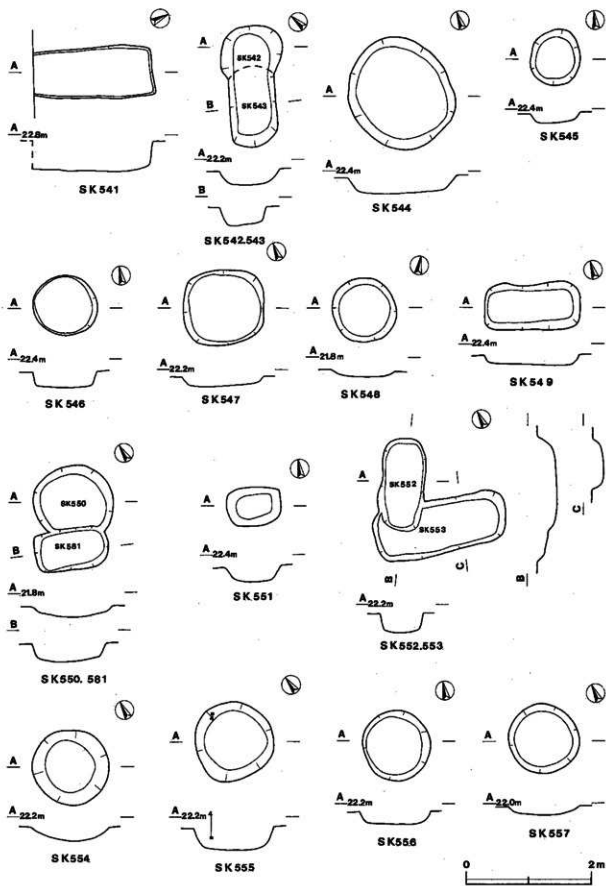
第171図 その他の土坑実測図(9)



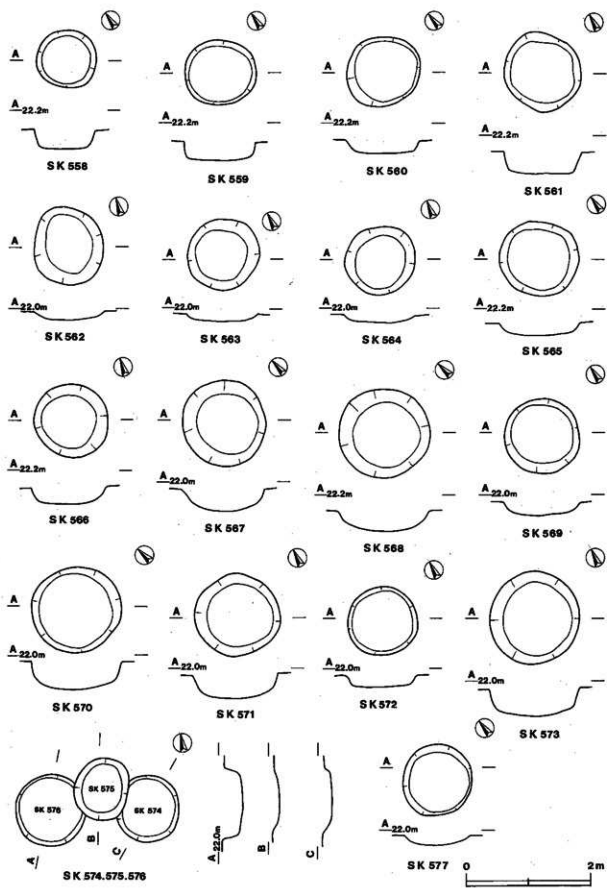
第172図 その他の土坑実測図⑩



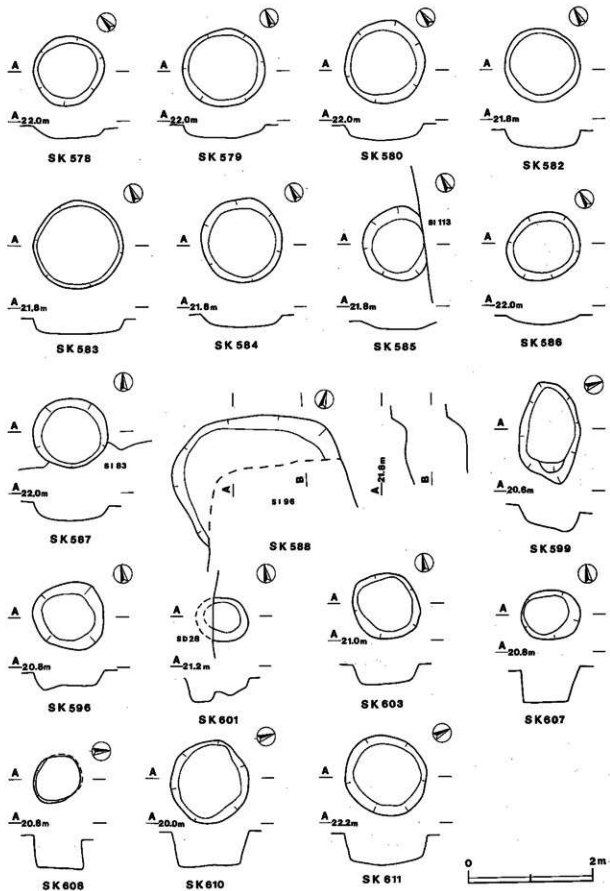
第173図 その他の土坑実測図(11)



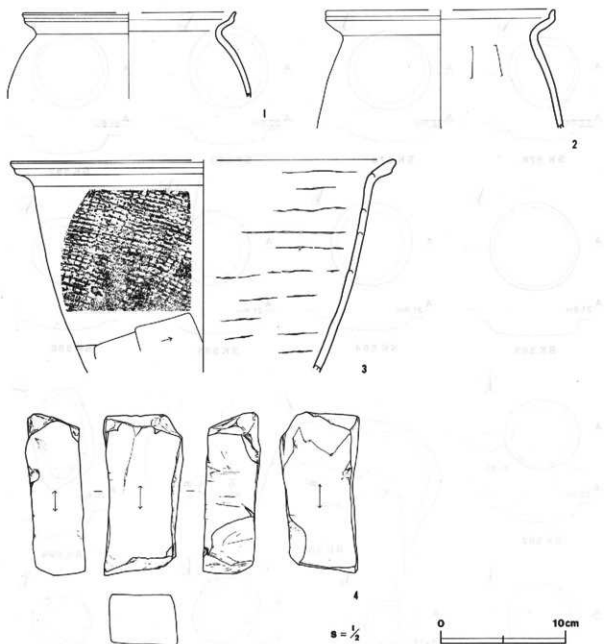
第174図 その他の土坑実測図(1)



第175図 その他の土坑実測図(13)



第176図 その他の土坑実測図(4)



第177図 第370・555号土坑出土遺物実測図

第555号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第177図4	砥石	(8.7)	(4.2)	(3.1)	(136)	凝灰岩	覆土中層	Q15

6 埋葬施設

今回の調査で、調査区北東部から1基の埋葬施設が確認された。以下、確認された第1号埋葬施設の特徴と出土遺物について記載する。

第1号埋葬施設（第178図）（M-1）

位置 調査区北東部，B7c4区。

重複関係 本跡は第84号住居跡と重複している。本跡が、第84号住居跡を掘り込んでいることから、本跡が新しい。

規模と形状 平面形は、長径0.5m、短径0.4mの楕円形で、深さ25cmである。底面は皿状で、円形を呈している。壁面は外傾して、立ち上がっている。

長径方向 N-0°

覆土 7層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------|--------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・骨粉微量 | 5 極暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 6 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子・ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 灰褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物 土師器片20点が出土している。1の土師器壺が中央部の底面から、正位に掘えられた状態で出土している。壺内の覆土上層からは、火葬されたと思われる骨粉が少量確認されている。

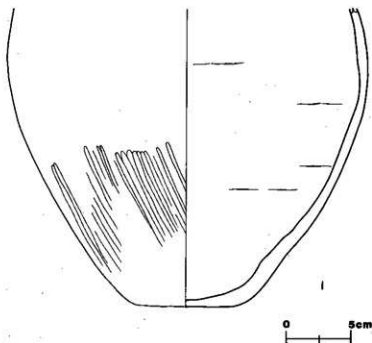
所見 本跡は、骨粉等の出土状況から、土師器壺を蔵骨器とした埋葬施設であると思われる。時期は、出土遺物と9世紀中葉の第84号住居跡との重複から、本跡は9世紀中葉以降の平安時代と考えられる。



第178図 第1号埋葬施設実測図

第1号埋葬施設出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第178図 1	壺 土師器	B (23.5) C 8.1	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面下位へラ磨き。内面ナデ、輪襖み痕有り。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	65% P451 底面



第179図 第1号埋葬施設出土遺物実測図

7 溝

今回の調査で、調査区北部から3条、東部から1条、南部から4条、計8条の溝が確認された。ほとんどの溝は、覆土が薄く、出土遺物がほとんどないことから、性格や時期は不明であるが、調査区東部や南部の溝は住居跡を掘り込んでいることから、奈良・平安時代の前期以降と考えられる。また、調査区北部では、墓墳と考えられる土坑群の中央部を、調査区西部ではその南側に溝が巡っていることから、墓域に関連した性格の可能性が考えられる。さらに、最近の地籍図の筆境と溝の位置がほぼ一致していることから、土地の区画溝的な役割にも利用されたものと考えられる。

確認された溝（第180図・付図）の特徴や遺物については、一覧表に記載する。

第21号溝土層解説

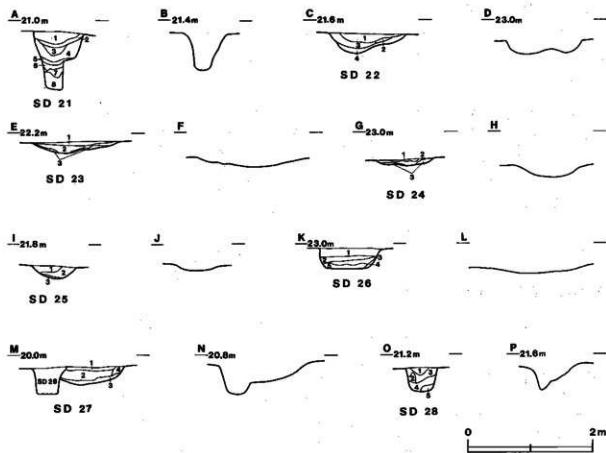
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・粘土小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック微量
- 2 暗褐色 粘土中・小ブロック中量、ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・粘土大・中・小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 灰褐色 粘土大・中ブロック多量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 6 暗褐色 粘土小ブロック・粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
- 8 黒褐色 粘土中・小ブロック中量、ローム粒子少量

第22号溝土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

第23号溝土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量



第180図 第21～28号溝土層断面図

第24号溝土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第25号溝土層解説

- 1 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

第26号溝土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量

第27号溝土層解説

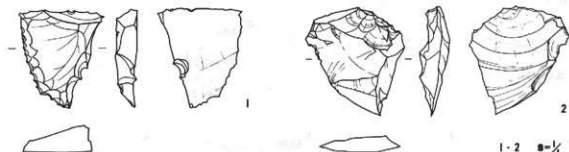
- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, ローム中・小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第28号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量

8 遺構外出土遺物

当遺跡からは、遺構に伴わない旧石器時代から近世までの土器片や土製品、石器等が出土している。ここでは、これらの出土遺物のうち特徴的なものについて掲載する。(第181～184図)



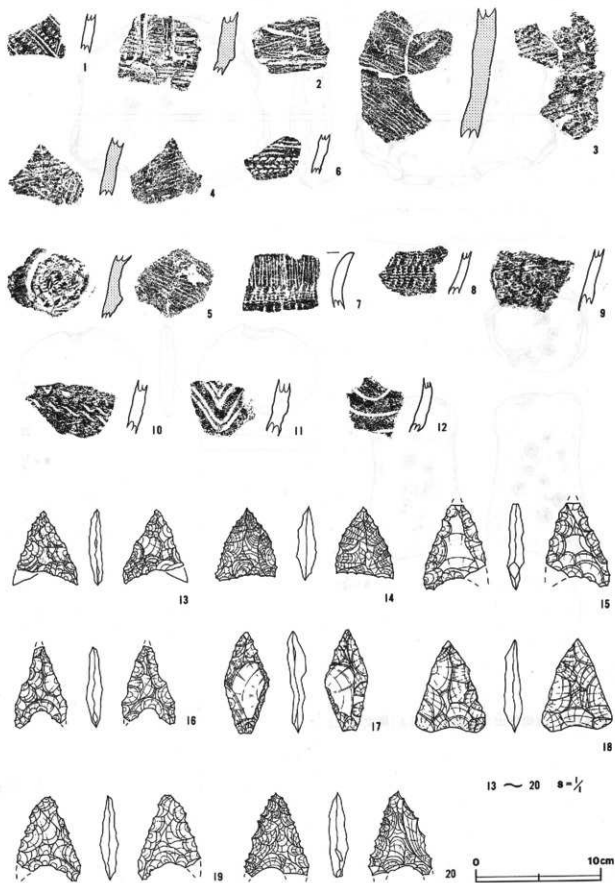
第181図 遺構外出土遺物実測図(1)

遺構外出土石器一覧表 (旧石器時代) (第181図)

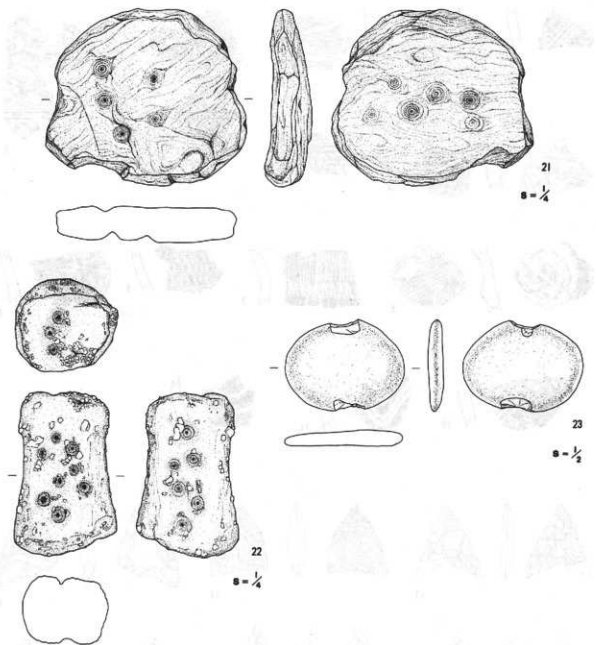
図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
1	ナイフ形石器	(2.7)	(2.2)	0.6	(3.58)	頁岩	表探	Q22 基部
2	剥片	3.0	2.5	0.7	3.64	頁岩	表探	Q18

遺構外出土遺物観察表 (縄文時代) (第182図)

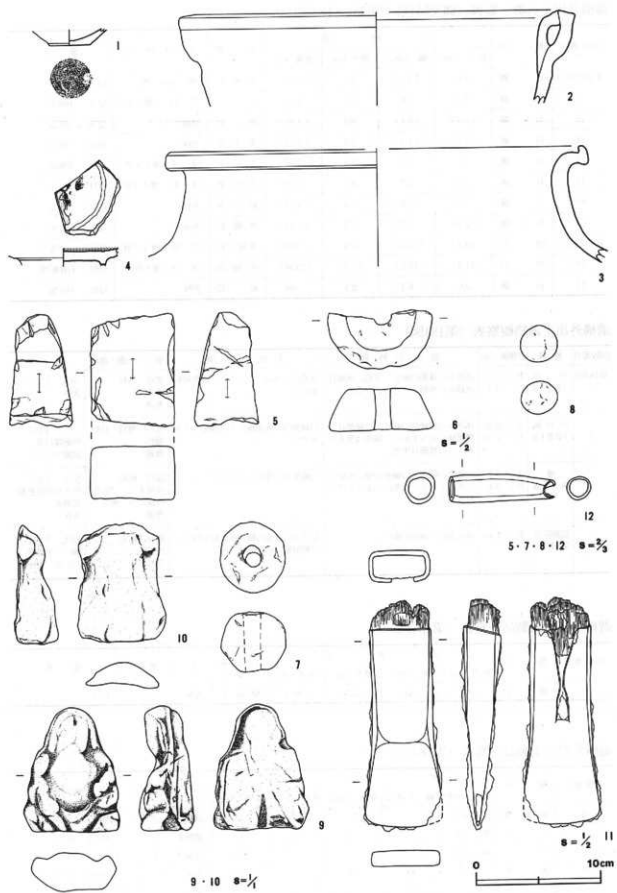
群	時期	型式	図版番号	器種・部分	器形及び文様の特徴	備考
I	早期 中葉	田戸下層	1	深鉢形土器剥片	半載竹管による平行沈線文と刺突文が施されている。	TP1 表探
		茅山下層	2, 3	深鉢形土器剥片	内・外面に条痕文が施されている。胎土に繊維が含まれる。	TP4, 5 表探
II	早期 後葉	茅山上層	4	深鉢形土器剥片	内・外面に条痕文が施されている。胎土に繊維が含まれる。	TP2 表探
			5	深鉢形土器口縁部片	外面は環状の粘付文に、櫛状工具による刺突文が、内面には条痕文が施されている。胎土に繊維が含まれる。	TP3 表探
III	前期	浮島II	6	深鉢形土器剥片	半載竹管による変形爪形文が施されている。	TP6 表探
		興津I	7	深鉢形土器口縁部片	口縁部直下に縦位条線が、胴部には筋のある貝による波状文が施されている。	TP7 表探
	後葉		8	深鉢形土器剥片	筋のある貝による波状文が施されている。	TP8 表探
		下小野	9, 10	深鉢形土器剥片	結節した無節縄文が施されている。	TP9, 10 試掘グリッド、表探
IV	中期 前葉	阿玉台	11	深鉢形土器剥片	隆帯の両端に、半載竹管による平行沈線が施されている。	TP11 表探
V	後期 前葉	熊名寺	12	深鉢形土器剥片	沈線文で文様を構成している。	TP12 表探



第182图 遺構外出土遺物実測図(2)



第183圖 遺構外出土遺物実測図(3)(縄文時代)



第184图 濠沟外出土遗物实测图(4)

遺構外出土石器一覧表 (縄文時代) (第182・183図)

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第182図13	石鏃	(2.0)	(1.6)	0.3	(0.63)	黒曜石	SK-607 覆土中	Q26 90%
14	石鏃	2.0	1.6	0.5	1.06	チャート	SI-117 覆土中	Q27 100%
15	石鏃	(2.3)	(1.7)	0.4	(1.34)	頁岩	試験グリッド	Q28 90%
16	石鏃	(2.1)	(1.4)	0.4	(0.78)	安山岩	表採	Q29 95%
17	石鏃	2.7	1.1	0.4	1.08	チャート	SE-8 覆土上層	Q30 未製品
18	石鏃	2.5	1.9	0.5	1.52	安山岩	SI-98 覆土中層	Q31 100%
19	石鏃	2.3	(1.6)	0.4	(0.98)	鉄石英	表採	Q32 95%
20	石鏃	(2.3)	(1.7)	0.5	(1.44)	黒曜石	表採	Q33 95%
第183図21	凹石	(18.9)	(21.3)	3.9	(2380)	雲母片岩	SI-98 覆土下層	Q38 90%
22	凹石	(17.3)	(10.8)	(7.3)	(2330)	花崗岩	SE-8 覆土中層	Q39 石神転用
23	石鏃	5.0	6.3	0.9	40	砂岩	表採	Q42 100%

遺構外出土遺物観察表 (第184図)

図版番号	種別	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第184図1	小皿 土質土器	B (1.3) C 3.3	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転未切り。	黄母 砂粒 褐色 普通	40% P452 表採
2	内耳鍋 土質土器	A [32.0] B (7.5)	体部から口縁部の破片。口縁部は内彎尖珠に立ち上がり、端部は厚みを増す。口唇部は平直。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 黄母 砂粒 褐色 普通	5% P453 外面縦付管 試験グリッド
3	壺 陶器	A [33.4] B (9.4)	口縁部の破片。口縁部は強く外反して立ち上がる。端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石 砂粒 外面オリープ灰色 内面にふい褐色 普通	5% P454 内・外面自然胎 黄褐色系 表採
4	施土瓦 灰胎土器	B (1.4)	高台部から底部の破片。	見込みには置お積み焼成痕が残る。灰胎施釉。高台部削り出し。	砂粒 緻密 灰白色 良好	10% P455 瀬戸・美濃系 17C初 表採

遺構外出土石製品一覧表 (第184図)

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
5	砥石	(4.6)	(3.4)	(2.2)	(60)	凝灰岩	表採	Q40

遺構外出土土製品一覧表 (第184図)

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
6	紡錘車	径 5.6	/	2.3	0.9	(39)	試験グリッド	DP11 50%
7	土玉	径 2.9	/	2.4	0.7	15	試験グリッド	DP12 100%
8	土玉	径 1.5	/	1.3	/	2.44	試験グリッド	DP13 100%
9	泥人形	3.3	2.6	1.1	/	7.85	表採	DP14 100%
10	泥人形	3.2	2.4	(0.6)	/	(5.10)	表採	DP15

遺構外出土金属製品一覧表 (第184図)

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
11	鉄 斧	10.6	(4.0)	1.7	(163)	表探	M24 木質付着 95%
12	煙 管	(4.3)	1.2	(1~1.5)	(6.9)	試掘グリッド	M43 銅製

神田遺跡遺構一覽表

表2 住居跡一覽表

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	高さ (cm)	床面	内部施設		壁土	出土遺物	備考 新田岡96 (古・新)				
							壁土	注1) 注2) 注3) 注4) 注5) 注6) 注7) 注8) 注9) 注10) 注11) 注12) 注13) 注14) 注15) 注16) 注17) 注18) 注19) 注20) 注21) 注22) 注23) 注24) 注25) 注26) 注27) 注28) 注29) 注30) 注31) 注32) 注33) 注34) 注35) 注36) 注37) 注38) 注39) 注40) 注41) 注42) 注43) 注44) 注45) 注46) 注47) 注48) 注49) 注50) 注51) 注52) 注53) 注54) 注55) 注56) 注57) 注58) 注59) 注60) 注61) 注62) 注63) 注64) 注65) 注66) 注67) 注68) 注69) 注70) 注71) 注72) 注73) 注74) 注75) 注76) 注77) 注78) 注79) 注80) 注81) 注82) 注83) 注84) 注85) 注86) 注87) 注88) 注89) 注90) 注91) 注92) 注93) 注94) 注95) 注96) 注97) 注98) 注99) 注100) 注101) 注102) 注103) 注104) 注105) 注106) 注107) 注108) 注109) 注110) 注111) 注112) 注113) 注114) 注115) 注116) 注117) 注118) 注119) 注120) 注121) 注122) 注123) 注124) 注125) 注126) 注127) 注128) 注129) 注130) 注131) 注132) 注133) 注134) 注135) 注136) 注137) 注138) 注139) 注140) 注141) 注142) 注143) 注144) 注145) 注146) 注147) 注148) 注149) 注150) 注151) 注152) 注153) 注154) 注155) 注156) 注157) 注158) 注159) 注160) 注161) 注162) 注163) 注164) 注165) 注166) 注167) 注168) 注169) 注170) 注171) 注172) 注173) 注174) 注175) 注176) 注177) 注178) 注179) 注180) 注181) 注182) 注183) 注184) 注185) 注186) 注187) 注188) 注189) 注190) 注191) 注192) 注193) 注194) 注195) 注196) 注197) 注198) 注199) 注200) 注201) 注202) 注203) 注204) 注205) 注206) 注207) 注208) 注209) 注210) 注211) 注212) 注213) 注214) 注215) 注216) 注217) 注218) 注219) 注220) 注221) 注222) 注223) 注224) 注225) 注226) 注227) 注228) 注229) 注230) 注231) 注232) 注233) 注234) 注235) 注236) 注237) 注238) 注239) 注240) 注241) 注242) 注243) 注244) 注245) 注246) 注247) 注248) 注249) 注250) 注251) 注252) 注253) 注254) 注255) 注256) 注257) 注258) 注259) 注260) 注261) 注262) 注263) 注264) 注265) 注266) 注267) 注268) 注269) 注270) 注271) 注272) 注273) 注274) 注275) 注276) 注277) 注278) 注279) 注280) 注281) 注282) 注283) 注284) 注285) 注286) 注287) 注288) 注289) 注290) 注291) 注292) 注293) 注294) 注295) 注296) 注297) 注298) 注299) 注300) 注301) 注302) 注303) 注304) 注305) 注306) 注307) 注308) 注309) 注310) 注311) 注312) 注313) 注314) 注315) 注316) 注317) 注318) 注319) 注320) 注321) 注322) 注323) 注324) 注325) 注326) 注327) 注328) 注329) 注330) 注331) 注332) 注333) 注334) 注335) 注336) 注337) 注338) 注339) 注340) 注341) 注342) 注343) 注344) 注345) 注346) 注347) 注348) 注349) 注350) 注351) 注352) 注353) 注354) 注355) 注356) 注357) 注358) 注359) 注360) 注361) 注362) 注363) 注364) 注365) 注366) 注367) 注368) 注369) 注370) 注371) 注372) 注373) 注374) 注375) 注376) 注377) 注378) 注379) 注380) 注381) 注382) 注383) 注384) 注385) 注386) 注387) 注388) 注389) 注390) 注391) 注392) 注393) 注394) 注395) 注396) 注397) 注398) 注399) 注400) 注401) 注402) 注403) 注404) 注405) 注406) 注407) 注408) 注409) 注410) 注411) 注412) 注413) 注414) 注415) 注416) 注417) 注418) 注419) 注420) 注421) 注422) 注423) 注424) 注425) 注426) 注427) 注428) 注429) 注430) 注431) 注432) 注433) 注434) 注435) 注436) 注437) 注438) 注439) 注440) 注441) 注442) 注443) 注444) 注445) 注446) 注447) 注448) 注449) 注450) 注451) 注452) 注453) 注454) 注455) 注456) 注457) 注458) 注459) 注460) 注461) 注462) 注463) 注464) 注465) 注466) 注467) 注468) 注469) 注470) 注471) 注472) 注473) 注474) 注475) 注476) 注477) 注478) 注479) 注480) 注481) 注482) 注483) 注484) 注485) 注486) 注487) 注488) 注489) 注490) 注491) 注492) 注493) 注494) 注495) 注496) 注497) 注498) 注499) 注500) 注501) 注502) 注503) 注504) 注505) 注506) 注507) 注508) 注509) 注510) 注511) 注512) 注513) 注514) 注515) 注516) 注517) 注518) 注519) 注520) 注521) 注522) 注523) 注524) 注525) 注526) 注527) 注528) 注529) 注530) 注531) 注532) 注533) 注534) 注535) 注536) 注537) 注538) 注539) 注540) 注541) 注542) 注543) 注544) 注545) 注546) 注547) 注548) 注549) 注550) 注551) 注552) 注553) 注554) 注555) 注556) 注557) 注558) 注559) 注560) 注561) 注562) 注563) 注564) 注565) 注566) 注567) 注568) 注569) 注570) 注571) 注572) 注573) 注574) 注575) 注576) 注577) 注578) 注579) 注580) 注581) 注582) 注583) 注584) 注585) 注586) 注587) 注588) 注589) 注590) 注591) 注592) 注593) 注594) 注595) 注596) 注597) 注598) 注599) 注600) 注601) 注602) 注603) 注604) 注605) 注606) 注607) 注608) 注609) 注610) 注611) 注612) 注613) 注614) 注615) 注616) 注617) 注618) 注619) 注620) 注621) 注622) 注623) 注624) 注625) 注626) 注627) 注628) 注629) 注630) 注631) 注632) 注633) 注634) 注635) 注636) 注637) 注638) 注639) 注640) 注641) 注642) 注643) 注644) 注645) 注646) 注647) 注648) 注649) 注650) 注651) 注652) 注653) 注654) 注655) 注656) 注657) 注658) 注659) 注660) 注661) 注662) 注663) 注664) 注665) 注666) 注667) 注668) 注669) 注670) 注671) 注672) 注673) 注674) 注675) 注676) 注677) 注678) 注679) 注680) 注681) 注682) 注683) 注684) 注685) 注686) 注687) 注688) 注689) 注690) 注691) 注692) 注693) 注694) 注695) 注696) 注697) 注698) 注699) 注700) 注701) 注702) 注703) 注704) 注705) 注706) 注707) 注708) 注709) 注710) 注711) 注712) 注713) 注714) 注715) 注716) 注717) 注718) 注719) 注720) 注721) 注722) 注723) 注724) 注725) 注726) 注727) 注728) 注729) 注730) 注731) 注732) 注733) 注734) 注735) 注736) 注737) 注738) 注739) 注740) 注741) 注742) 注743) 注744) 注745) 注746) 注747) 注748) 注749) 注750) 注751) 注752) 注753) 注754) 注755) 注756) 注757) 注758) 注759) 注760) 注761) 注762) 注763) 注764) 注765) 注766) 注767) 注768) 注769) 注770) 注771) 注772) 注773) 注774) 注775) 注776) 注777) 注778) 注779) 注780) 注781) 注782) 注783) 注784) 注785) 注786) 注787) 注788) 注789) 注790) 注791) 注792) 注793) 注794) 注795) 注796) 注797) 注798) 注799) 注800) 注801) 注802) 注803) 注804) 注805) 注806) 注807) 注808) 注809) 注810) 注811) 注812) 注813) 注814) 注815) 注816) 注817) 注818) 注819) 注820) 注821) 注822) 注823) 注824) 注825) 注826) 注827) 注828) 注829) 注830) 注831) 注832) 注833) 注834) 注835) 注836) 注837) 注838) 注839) 注840) 注841) 注842) 注843) 注844) 注845) 注846) 注847) 注848) 注849) 注850) 注851) 注852) 注853) 注854) 注855) 注856) 注857) 注858) 注859) 注860) 注861) 注862) 注863) 注864) 注865) 注866) 注867) 注868) 注869) 注870) 注871) 注872) 注873) 注874) 注875) 注876) 注877) 注878) 注879) 注880) 注881) 注882) 注883) 注884) 注885) 注886) 注887) 注888) 注889) 注890) 注891) 注892) 注893) 注894) 注895) 注896) 注897) 注898) 注899) 注900) 注901) 注902) 注903) 注904) 注905) 注906) 注907) 注908) 注909) 注910) 注911) 注912) 注913) 注914) 注915) 注916) 注917) 注918) 注919) 注920) 注921) 注922) 注923) 注924) 注925) 注926) 注927) 注928) 注929) 注930) 注931) 注932) 注933) 注934) 注935) 注936) 注937) 注938) 注939) 注940) 注941) 注942) 注943) 注944) 注945) 注946) 注947) 注948) 注949) 注950) 注951) 注952) 注953) 注954) 注955) 注956) 注957) 注958) 注959) 注960) 注961) 注962) 注963) 注964) 注965) 注966) 注967) 注968) 注969) 注970) 注971) 注972) 注973) 注974) 注975) 注976) 注977) 注978) 注979) 注980) 注981) 注982) 注983) 注984) 注985) 注986) 注987) 注988) 注989) 注990) 注991) 注992) 注993) 注994) 注995) 注996) 注997) 注998) 注999) 注1000)							
78	B7b7	N-0°	[長方形]	(2.37) × 2.25	8~12	平組	一部	-	2	1	竈	土師器 24, 須恵器 6	本跡→SI-11, K, SD-22		
79	B7h5	N-0°	[長方形]	2.85 × (1.50)	20	平組	一部	-	1	1	竈	土師器 166, 須恵器 78, 礎 1, 陶器 5	本跡→SI-11, SD-22		
80	B7h7	N-15°-W	方	3.95 × 3.87	10~14	平組	全面	-	-	3	1	竈	土師器 14, 須恵器 15, 刀子 1, 鉄釘 1, 土師器 1	SI-71, 72→本跡→SD-22	
81	B7j7	N-1°-E	方	3.55 × 3.38	4~6	平組	全面	-	1	1	竈	土師器 14, 須恵器 15			
82	C7a7	N-6°-E	長方形	3.10 × 2.74	2~8	平組	全面	-	1	1	竈	土師器 13, 須恵器 2			
83	B7h5	N-5°-W	方	3.85 × 2.82	26~30	平組	全面	4	-	1	竈	土師器 122, 須恵器 302	本跡→SK-587		
84	B7e4	N-4°-W	方	3.50 × 3.42	19~20	平組	全面	4	-	1	竈	土師器 254, 須恵器 23, 礎石 1, 鉄釘 1, 陶器 1	本跡→M-1		
85	B7a2	N-11°-W	長方形	2.90 × 2.50	22~28	平組	全面	4	-	1	竈	土師器 27, 須恵器 21			
86	B6b0	N-6°-W	方	4.90 × 4.62	42~46	平組	全面	4	-	1	竈	土師器 43, 須恵器 41, 礎石 1, 鉄釘 1, 土師器 2			
87	B7c1	N-17°-W	方	3.30 × 3.23	20~23	平組	全面	4	-	1	竈	土師器 119, 須恵器 51, 支脚 1	SI-88→本跡		
88	B7d1	N-1°-W	方	4.30 × 4.24	28~30	平組	全面	4	-	1	1	竈	土師器 220, 須恵器 48, 陶器 1	本跡→SI-87	
89	B6c9	N-7°-E	隅丸方形	3.90 × 3.58	49~54	平組	全面	4	-	1	竈	土師器 344, 須恵器 262			
90	B6i9	N-22°-E	隅丸方形	2.85 × 2.77	28~40	平組	-	-	4	-	1	竈	土師器 45, 須恵器 34		
91	B6h9	N-14°-W	不明	3.05 × (2.60)	14~16	平組	一部	-	1	1	竈	土師器 70, 須恵器 29, 陶器 1	本跡→SI-92		
92	B6h8	N-17°-W	不明	3.04 × (2.20)	29~35	平組	-	-	-	-	1	竈	土師器 84, 須恵器 14	SI-91→本跡	
93	A6g8	N-2°-W	[方形]	[3.12] × 2.90	1~3	凹凸	-	4	-	1	竈	不明	土師器 34, 須恵器 13		
94	A6h8	N-6°-E	長方形	4.56 × 4.03	8~12	平組	-	4	-	1	竈	不明	土師器 152, 須恵器 52, 礎石 1, 陶器 1		
95	B6a7	N-14°-W	長方形	4.76 × 4.30	21~23	平組	全面	4	-	1	竈	土師器 341, 須恵器 48, 礎石 1, 支脚 1	焼失家屋		
96	B7g6	N-77°-E	隅丸方形	2.81 × 2.53	30~36	平組	-	-	1	1	竈	土師器 67, 須恵器 42	SI-11, 12→本跡→SD-22		
97	A6i5	N-10°-E	長方形	3.14 × 2.80	12~18	平組	全面	4	-	1	竈	土師器 38, 須恵器 10			
98	B6a5	N-15°-E	隅丸方形	4.67 × 4.63	21~34	平組	全面	4	-	1	1	竈	土師器 642, 須恵器 329, 礎石 1, 石礎 1		
99	B6a4	N-14°-E	方	4.37 × 4.32	34~42	平組	全面	4	-	1	1	竈	土師器 119, 須恵器 19, 鉄釘 1		
100	B6b5	N-2°-W	隅丸方形	6.38 × 6.30	24~29	平組	全面	4	-	2	1	竈	土師器 134, 須恵器 305, 礎石 1, 支脚 1		
101	A6i2	N-15°-E	長方形	4.54 × 3.80	35~42	平組	全面	3	-	1	1	竈	土師器 214, 須恵器 124, 礎 1, 鉄釘 4, 陶器 5		
102	B6a1	N-5°-W	[長方形]	3.85 × (3.10)	10~16	平組	全面	4	-	1	竈	土師器 238, 須恵器 63, 鉄釘 1	本跡→SI-103, 104		
103	A6j2	N-5°-W	方	4.03 × 3.89	36	平組	全面	4	-	1	竈	土師器 46, 須恵器 12	SI-101→本跡→SI-104		
104	B6a2	N-0°	方	4.23 × 3.92	26~28	平組	一部	-	2	1	1	竈	土師器 188, 須恵器 161, 鉄釘 1	SI-102, 103→本跡	
105	B6d2	N-16°-E	隅丸方形	4.18 × 3.92	32~37	平組	全面	4	-	1	1	竈	土師器 182, 須恵器 76, 鉄釘 10, 陶器 1	SI-106→本跡	
106	B6d3	N-0°	長方形	3.22 × 2.61	48~62	平組	-	-	-	-	1	竈	土師器 70, 須恵器 23	本跡→SI-105	
107	B5b9	N-12°-W	方	3.44 × 3.25	10~16	平組	-	4	-	1	竈	土師器 72, 須恵器 24, 礎 1, 陶器 1			
108	A5g7	N-10°-E	隅丸方形	3.95 × 2.88	10~18	平組	-	1	-	2	1	竈	土師器 56, 須恵器 16		
109	B6h2	N-76°-E	隅丸方形	3.79 × 3.61	26	凹凸	-	3	-	1	1	竈	土師器 230, 須恵器 55, 鉄釘 1, 陶器 5		
110	C6b1	N-20°-E	不明	4.87 × (2.90)	22~37	平組	全面	1	-	1	1	竈	土師器 217, 須恵器 34, 鉄釘 1, 刀子 1, 陶器 2		
111	B5j9	N-15°-E	方	3.24 × 3.05	4~10	平組	-	-	1	1	1	竈	土師器 80, 須恵器 1, 鉄釘 1, 陶器 2		
112	C4a8	N-28°-E	方	3.76 × 3.72	22~30	凹凸	全面	4	-	1	1	竈	土師器 112, 須恵器 60, 鉄釘 2, 陶器 1		
113	D4e8	N-18°-E	長方形	4.60 × 4.15	不明	平組	全面	4	-	4	1	竈	不明	土師器 3, 須恵器 2	本跡→SK-585
114	C7i4	N-1°-W	方	6.50 × 5.70	32~40	平組	全面	4	-	1	竈	土師器 153, 須恵器 90, 刀子 1, 鉄釘 1, 礎石 1	焼失家屋		
115	C7h3	N-8°-E	長方形	3.18 × 2.86	17~24	平組	-	4	-	1	1	竈	土師器 182, 須恵器 66, 礎石 1, 陶器 4		
116	C7h1	N-5°-E	隅丸方形	5.57 × 5.44	6~10	平組	-	4	-	1	1	竈	土師器 202, 須恵器 102	SI-111→本跡→SD-22	
117	C6h9	N-17°-E	方	7.40 × 7.37	29~31	平組	全面	6	-	7	1	竈	土師器 43, 須恵器 12, 鉄釘 1, 鉄釘 1, 支脚 1, 石礎 1	本跡	

位置番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	高さ (m)	状態	内部施設			覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)		
							壁	扉	土					
121	CSh4	N-23°-E	方	3.46 × 3.25	25~29	全周	4	-	-	1	覆土	土師器 62, 須恵器 37, 釦1, 磁石1	本跡→SD-23	
122	D5f6	N-5°-E	方	3.72 × 3.55	17~20	西凸	全周	4	-	4	1	覆土	土師器 46, 須恵器 27	SI-123→本跡
123	D5f7	N-2°-E	長方形	3.61 × 2.93	48~50	平垣	-	-	-	-	1	覆土	土師器 49, 須恵器 9	本跡→SI-122
124	D5g8	N-6°-E	方	3.75 × 3.69	12~15	西凸	-	-	-	-	1	覆土	土師器 83, 須恵器 32, 鉄押2	本跡→SD-24
125	D5c9	N-26°-E	長方形	3.72 × 3.25	23~32	平垣	半周	-	-	-	1	覆土	土師器 211, 須恵器 48, 土師1, 陶器4	本跡→SD-23, 24
126	C6j9	N-16°-E	方	6.13 × 6.19	25~32	平垣	全周	3	-	-	1	人為	土師器 329, 須恵器 334	本跡→SI-135, SD-122
127	D6b8	N-24°-E	[法原長方形]	4.80 × (4.10)	18~24	平垣	半周	4	-	4	1	覆土	土師器 508, 須恵器 217, 釦1	本跡→SD-22
128	D6a3	N-3°-E	長方形	5.12 × 4.61	37~40	平垣	全周	4	-	2	1	覆土	土師器 465, 須恵器 222, 鉄押3	第3号竪穴遺構→本跡
130	D6b5	N-17°-W	方	2.93 × 2.47	37	西凸	-	-	-	-	-	人為	土師器 132, 須恵器 21, 陶器2	本跡→SK-435, 439
131	D6e9	N-21°-E	隅丸方形	3.54 × 3.46	10~19	平垣	半周	-	-	1	-	覆土	土師器 199, 須恵器 32, 灰陶器1	
132A	D6d4	N-23°-E	[方]形	3.75 × [3.63]	16~24	平垣	全周	4	-	-	2	覆土	土師器 466, 須恵器 183, 土玉2, 灰陶器7	本跡→SI-132B SI-132A→本跡
132B			隅丸長方形	4.77 × 3.80										
133	D6d4	N-13°-E	方	3.94 × 3.48	20~23	平垣	全周	4	-	-	1	人為	土師器 47, 須恵器 13, 灰陶器1, 支脚1, 陶器2	
134	D6d4	N-12°-E	隅丸方形	3.90 × 3.48	20~24	平垣	全周	4	-	-	1	覆土	土師器 22, 須恵器 10, 刀子1, 磁石1, 陶器1	本跡→SD-23
135	D7h1	N-1°-E	隅丸方形	3.92 × 3.35	2~10	西凸	全周	4	-	-	1	覆土	土師器 35, 須恵器 19, 土玉1	
136	D6e2	N-19°-E	隅丸方形	3.31 × 3.31	18	平垣	全周	4	-	-	1	覆土	土師器 126, 須恵器 221, 磁石1	
137	D6e1	N-21°-E	隅丸方形	5.11 × 4.76	26~30	平垣	全周	4	-	1	1	覆土	土師器 365, 須恵器 187, 灰陶器5, 鉄押1	
138	D6g2	N-10°-E	方	4.66 × 4.63	48	平垣	全周	4	-	-	1	覆土	土師器 279, 須恵器 221, 支脚1, 鉄押4	
139	C6j9	N-16°-E	方	4.90 × 4.30	23~33	西凸	-	-	-	-	1	人為	土師器 479, 須恵器 247, 刀子2, 陶器1	SI-135→本跡→SD-22

表3 井戸一覧表

井戸番号	位置	長径方向	平面形	規模			深さ(m)	断面	状態	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径(幅)×短径(幅)(単位12.5m)								
				上面	下面	掘り込面						
8	C4e8	N-18°-E	不整形円形	5.54 × 3.23	(1.56×1.20)		(2.60)	掘り込	-	人為	土師器 135, 須恵器 37, 須恵器 1, 磁石1	
9	D4a8	N-90°-E	楕円形	3.30 × 2.80	(1.95×1.30)		(2.40)	掘り込	-	人為	土師器 24, 須恵器 13, 灰陶器1, 陶器1	
10	C7j3	N-0°	[不整形円形]	(5.32) × 5.00	(0.76×0.69)		(2.66)	掘り込	-	人為	土師器 177, 須恵器 35, 灰陶器1, 陶器1	第4号竪穴遺構→本跡
11	C5i5	N-25°-W	円形	1.83 × 1.83	(0.75×0.54)		(2.38)	掘り込	-	人為	土師器 14, 須恵器 16, 陶器1, 釦1	
12	D5j1	N-73°-E	円形	1.90 × 1.48	(1.83×0.98)		(2.70)	掘り込	-	人為	土師器 5, 須恵器 7, 磁石1, 鉄押1, 釦2	

表4 大形竪穴遺構一覧表

大形竪穴番号	位置	長径方向	平面形	規模			深さ(m)	断面	状態	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径(幅)×短径(幅)(単位12.5m)								
				上面	下面	掘り込面						
3	A6h4	N-17°-W	不整形円形	3.25×2.74	2.00×1.83	0.70×0.62	1.45	掘り込	平垣	人為	土師器 108, 須恵器 21, 鉄押3, 釦3	

表5 竪穴遺構一覧表

竪穴番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	断面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径(幅)×短径(幅)(m)	深さ(m)					
3	D6b4	N-3°-E	隅丸長方形	3.12 × 2.64	37	外傾	平垣	自然	土師器 71, 須恵器 34	本跡→SI-128
4	D7b2	N-0°	[不整形円形]	(5.40) × 5.04	100	外傾	平垣	人為	土師器 143, 須恵器 140, 陶器 22, 鉄押3, 釦14	本跡→SE-10

表6 陥し穴一覧表

◎印は本文中に記述

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新田院係(古-新)
				長径(幅)×短径(幅)(m)	深さ(m)					
0609	A6ca	N-85°-W	長横円形	2.92 × 1.14	135	外傾	打字状	自然	須恵器2	

表7 墓墳と考えられる土坑一覧表 ◎印は本文中に記述

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新田院係(古-新)
				長径(幅)×短径(幅)(m)	深さ(m)					
0463	D6b ₁	N-20°-W	楕円形	1.48 × 0.77	31	外傾	平坦	人為	和服1, 鏡冢1, 器1, 土師器4, 須恵器1	
0467	C4ca	N-18°-E	長方形	1.73 × 0.87	26	傾斜	平坦	人為	短刀1	
0605	A5ga	N-82°-W	長方形	2.27 × 0.55	25	外傾	平坦	人為	煙管の破い口1, 土師器18, 須恵器5	

表8 墓墳の可能性のある土坑一覧表 ◎印は本文中に記述

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新田院係(古-新)
				長径(幅)×短径(幅)(m)	深さ(m)					
491	C5ca	N-82°-W	長方形	1.61 × 0.70	23	傾斜	起伏	人為		
0492	C5c ₄	N-75°-W	長方形	1.76 × 0.69	22	外傾	平坦	人為		
493	C5ca	N-80°-W	長方形	1.67 × 0.68	12	傾斜	平坦	人為	土師器5, 須恵器3	
495	C5b ₁	N-82°-W	楕円長方形	1.77 × 0.72	20	傾斜	平坦	人為	須恵器1, 陶器1	
496	C4b ₀	N-81°-W	楕円長方形	1.77 × 0.76	18	傾斜	平坦	人為		
501	C4a ₀	N-79°-W	長方形	1.40 × 0.75	24	外傾	平坦	人為		
0589	A6er	N-16°-E	長方形	2.52 × 0.94	67	垂直	平坦	人為	土師器2, 須恵器5, 陶器3	
0690	A6f7	N-18°-E	長方形	2.80 × 0.85	53	外傾	平坦	人為	土師器2, 須恵器4, 陶器3	
0591	A6es	N-13°-E	長方形	1.77 × 0.77	50	外傾	平坦	人為	土師器4, 須恵器1, 陶器1	
592	A6b ₃	N-76°-W	長方形	1.71 × 0.81	23	傾斜	平坦	人為	鏡1	
593	A6b ₄	N-75°-W	長方形	2.25 × 0.85	25	傾斜	平坦	人為	土師器2	
594	A6ce	N-81°-W	長方形	1.34 × 0.86	35	傾斜	平坦	人為	土師器2, 須恵器2, 陶器4, 磁器3	
595	A6ca	N-89°-W	楕円形	1.13 × 0.87	57	外傾	平坦	人為	土師器1	
0597	A6de	N-17°-E	長方形	2.45 × 0.82	48	外傾	平坦	人為	土師器7, 須恵器2, 陶器1	
598	A6fe	N-11°-E	長方形	2.34 × 0.85	46	外傾	平坦	人為	土師器10, 須恵器2	SD-21→本館
0600	A6g ₁	N-18°-W	不整形長方形	1.56 × 0.86	20	外傾	凹凸	人為	土師器3, 須恵器1	
602	A5ha	N-77°-W	長方形	2.38 × 0.50	39	外傾	平坦	人為	土師器11, 須恵器4, 陶器1	
0604	A5ga	N-74°-W	長方形	2.98 × 0.88	26	外傾	平坦	人為	土師器14, 須恵器3, 陶器1, 磁器1	
605	A5ga	N-77°-W	長方形	1.54 × 0.95	45	外傾	平坦	人為		

表9 その他の土坑一覧表 (第163~176図)

土坑番号	位置	方位方向 (真軸方向)	平面形	掘 削		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 新旧関係 (古-新)
				長(幅)×短(幅)(m)	深さ(m)					
351	C7a4	-	円形	1.36 × 1.30	40	外傾	凹状	自然		
352	B7j4	N-44°-W	不整円形	1.39 × 1.21	45	外傾	平垣	不明	土師器1	
353	B7j4	-	円形	5.02 × 5.00	27	外傾	凹状	自然	土師器3	
354	B7j3	N-38°-W	不整円形	1.14 × 0.98	37	垂直	平垣	自然	土師器6, 須恵器3	
355	B7i3	N-45°-W	不整円形	1.10 × 1.03	34	外傾	凹状	自然	須恵器1	
356	B7j3	N-10°-W	不整楕円形	1.56 × 1.02	61	外傾	平垣	人為	土師器8, 須恵器7, 瓦質土師1	
357	B7i3	N-14°-E	不整楕円形	1.57 × 1.10	64	外傾	平垣	自然	土師器13, 須恵器4	
358	B7i3	-	円形	1.20 × 1.20	19	外傾	平垣	人為	土師器2, 須恵器1	
359	B7i3	-	円形	1.16 × 1.02	29	外傾	平垣	人為	土師器13, 須恵器5	
360	B7h3	-	円形	1.30 × 1.35	32	外傾	平垣	人為	土師器1, 須恵器4	
361	B7i4	N-70°-W	楕円形	1.83 × 1.08	73	緩斜	凹状	自然	土師器11, 須恵器6	
362	B7h4	-	円形	1.10 × 0.93	26	外傾	平垣	自然	土師器3	
363	B7i2	N-0°	不整円形	1.29 × 1.06	55	緩斜	凹状	人為	土師器3	
364	B7j2	N-70°-E	楕円形	1.20 × 0.97	54	外傾	平垣	人為	土師器6, 須恵器2	
365	B7i1	N-72°-W	楕円形	1.42 × 0.99	44	外傾	平垣	人為	土師器3, 須恵器5	
366	B7i1	-	円形	0.90 × 0.89	16	外傾	平垣	自然		
367	B7i1	-	円形	0.83 × 0.81	41	外傾	平垣	人為		
368	B7i1	-	円形	0.63 × 0.60	39	外傾	平垣	自然	土師器3, 須恵器2	
369	B6i0	-	円形	0.87 × 0.81	13	緩斜	平垣	不明	土師器2, 須恵器1	
370	B6h0	N-59°-W	隅丸長方形	1.81 × 1.35	33	緩斜	平垣	人為	土師器33, 須恵器14, 罎1	
371	B7i2	-	円形	0.94 × 0.90	40	垂直	平垣	人為	土師器2	
372	B7g4	-	円形	1.65 × 1.05	30	垂直	平垣	人為	土師器16, 須恵器12, 罎2	
373	B7g4	-	円形	1.23 × 1.10	28	垂直	凹状	人為	土師器8, 須恵器5	
374	B7g4	-	円形	1.10 × 1.01	42	外傾	平垣	人為	土師器3	
375	B7f3	-	円形	1.10 × 0.96	22	外傾	平垣	自然	土師器2, 須恵器1	
376	B7g1	N-0°	不整円形	1.14 × 1.05	21	緩斜	凹状	自然		
377	B7g1	-	円形	1.14 × 1.09	26	外傾	平垣	人為	土師器5	
378	B6g0	-	円形	0.88 × 0.84	27	外傾	平垣	人為	土師器2, 須恵器1	
379	B6h0	N-12°-E	長方形	1.12 × 0.84	25	緩斜	平垣	自然		
380	B6g4	-	円形	1.01 × 0.99	23	緩斜	凹状	自然	土師器4, 須恵器4	
381	B6f4	-	円形	1.12 × 1.11	40	外傾	平垣	人為	土師器4	
382	B6j3	N-34°-E	長方形	1.85 × 0.72	35	外傾	平垣	自然		
383	B6f4	-	円形	1.13 × 1.13	20	緩斜	平垣	自然	土師器1	
384	B7h5	N-17°-W	不整円形	1.19 × 1.02	53	緩斜	凹状	人為		
385	B6g7	-	円形	0.87 × 0.77	44	緩斜	平垣	自然	須恵器1	
386	B6g5	-	円形	1.03 × 0.93	51	緩斜	平垣	自然	土師器9	SK-387
387	B6g4	N-75°-W	楕円形	1.45 × 1.10	65	緩斜	平垣	人為	土師器17, 須恵器7	SK-386
388	B7h1	N-12°-E	不整楕円形	1.75 × 0.90	30	外傾	平垣	人為	土師器3, 須恵器1	
389	B7h5	N-37°-W	不整円形	1.14 × 1.06	21	外傾	凹状	人為	土師器8, 須恵器2	
390	B7h6	N-12°-E	楕円形	1.33 × 1.02	76	外傾	凹状	人為	土師器12, 須恵器2	
391	B7j7	N-29°-W	不整楕円形	0.86 × 0.52	52	垂直	凹状	自然	土師器6, 須恵器11	
392	B6g9	N-34°-W	隅丸長方形	3.44 × 0.75	15	緩斜	平垣	不明	土師器3, 須恵器1	
393	B6d0	-	円形	1.79 × 1.20	49	垂直	平垣	自然	土師器7, 須恵器5	
394	B6d0	-	円形	1.21 × 1.20	50	垂直	平垣	自然		
395	B7d1	-	円形	0.65 × 0.60	45	垂直	平垣	人為	土師器9, 須恵器2	
396	B6d4	-	円形	1.11 × 1.10	24	緩斜	平垣	自然	土師器2, 須恵器2	

土坑 番号	位 置	長 在 方 向 (其他方向)	平 面 形	規 模		壁 底	覆 土	出 土 遺 物	備 考 新旧關係 (古-新)	
				長(幅)×短(幅)(m)	深(m)					
397	B6e4	-	円 形	1.07 × 1.00	20	外傾	平組	自然	土師器 11, 須惠器 2, 釦 1	
398	B6e9	N-75°-W	楕丸長方形	3.10 × 1.90	33	傾斜	平組	人為	土師器 27, 須惠器 13, 釦 2	
399	B6e0	-	円 形	1.10 × 1.02	30	垂直	平組	自然	土師器 8, 須惠器 3	
400	B6b2	-	円 形	0.58 × 0.57	21	傾斜	趾狀	自然	土師器 13, 須惠器 1, 釦 1	
401	B6e9	-	円 形	1.01 × 0.94	28	外傾	平組	自然	土師器 1, 須惠器 1	
402	B6e7	-	円 形	1.25 × 1.20	26	傾斜	平組	人為	土師器 14, 須惠器 7	
403	B6f7	-	円 形	1.04 × 1.00	14	傾斜	平組	自然	土師器 2, 須惠器 2	
404	B6f6	-	円 形	0.85 × 0.83	13	傾斜	平組	自然	土師器 2, 須惠器 2	
405	B6f4	-	円 形	1.04 × 1.03	16	傾斜	平組	自然	土師器 3, 須惠器 1	
406	B6f3	-	円 形	0.96 × 0.94	36	垂直	平組	自然	土師器 1, 須惠器 2	
407	B6e7	-	円 形	1.00 × 0.98	18	傾斜	平組	人為	土師器 4, 須惠器 2	
408	B6e7	-	円 形	1.17 × 1.05	26	外傾	平組	自然	土師器 4, 須惠器 2	
409	B6e9	-	円 形	0.92 × 0.86	32	垂直	平組	自然	土師器 4, 須惠器 2	
410	B6f4	-	円 形	1.06 × 1.05	20	外傾	平組	人為	土師器 6, 須惠器 6	
411	B6f3	-	円 形	1.40 × 1.33	36	垂直	平組	人為	土師器 11, 須惠器 12	
412	B6f4	-	円 形	0.95 × 0.87	12	外傾	平組	人為	土師器 1, 須惠器 2	
413	B6f0	-	円 形	1.10 × 1.02	38	垂直	平組	人為	土師器 10, 須惠器 5	
414	B6e2	-	円 形	1.08 × 1.06	22	外傾	平組	自然	須惠器 1	
415	B6e5	-	円 形	1.38 × 1.25	30	垂直	平組	人為	土師器 13, 須惠器 7	
416	B6c1	-	円 形	1.26 × 1.12	42	垂直	平組	人為	土師器 1, 須惠器 1	SK-417→本跡
417	B6c1	-	円 形	[1.34] × 1.20	48	内傾	平組	人為	土師器 9, 須惠器 7	本跡→SK-416
418	B5d9	-	円 形	0.90 × 0.85	26	内傾	平組	人為	土師器 5	
419	B5d9	-	円 形	1.00 × 1.00	20	外傾	平組	人為	土師器 6	
420	B6e4	-	円 形	1.18 × 1.06	30	外傾	平組	人為	土師器 8, 須惠器 8	
421	B5d9	N-54°-E	不 整 円 形	1.46 × 1.28	32	外傾	平組	人為	土師器 6, 須惠器 5	
422	B5c9	-	円 形	1.31 × 1.26	34	傾斜	趾狀	人為	土師器 9, 須惠器 1	
423	B5c9	-	円 形	1.03 × 1.00	23	外傾	平組	人為	土師器 7, 須惠器 9	
424	B5i7	-	円 形	1.11 × 1.08	17	傾斜	趾狀	人為		
425	B5i6	-	円 形	1.19 × 1.17	35	外傾	平組	人為	須惠器 1	
426	B5j6	-	円 形	1.30 × 1.30	30	外傾	趾狀	人為	土師器 1, 須惠器 2	
427	B5i7	-	円 形	1.32 × 1.24	40	垂直	平組	人為	土師器 12, 須惠器 7, 陶器 2	
428	D6b6	-	円 形	1.15 × 1.12	36	傾斜	趾狀	人為	土師器 9, 須惠器 5	SI-130→本跡
429	D6b3	-	円 形	1.09 × 0.95	29	垂直	平組	人為	土師器 10, 須惠器 6	SI-130→本跡
430	D5i4	N-57°-E	不 整 円 形	2.75 × 2.69	21	傾斜	平組	人為	土師器 2, 須惠器 2	本跡→SK-436
431	D4a9	N-38°-E	楕丸長方形	2.45 × 1.78	22	傾斜	平組	人為	須惠器 1	
432	D5i3	-	円 形	1.92 × (1.78)	16	傾斜	平組	自然		本跡→SK-433
433	D5i3	-	円 形	1.06 × [1.00]	20	外傾	平組	人為		SK-432→本跡
434	D5j0	N-66°-W	楕丸長方形	5.93 × 0.68	61	垂直	平組	人為	土師器 5, 須惠器 5	
435	D5i8	N-70°-W	長 方 形	3.13 × 0.65	34	外傾	平組	人為		
436	D5i4	N-34°-W	不 整 円 形	1.10 × 1.01	23	外傾	平組	人為		SK-430→本跡
437	D5i9	N-21°-E	長 方 形	2.56 × 0.63	10	傾斜	平組	人為		
438	E5d2	N-19°-E	長 方 形	6.94 × 3.96	46	外傾	平組	人為	鉄押 2	
439	D5i8	N-65°-W	長 方 形	2.69 × 1.12	61	外傾	平組	人為	鉄押 1	SK-442
440	D5c7	N-9°-E	楕 円 形	1.64 × 1.26	26	外傾	平組	人為		
441	D5i9	N-66°-W	長 方 形	2.92 × 0.63	55	外傾	平組	人為		
442	D5i9	N-65°-W	長 方 形	1.87 × 1.00	44	垂直	平組	不明		SK-439
443	D7c3	-	円 形	0.96 × 0.93	18	傾斜	平組	自然	須惠器 2	

土坑 番号	位置	長短方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新江副區 (古-新)
				長(幅)×短(徑)(m)	厚さ(m)					
444	D7e3	-	円 形	1.30 × 1.14	13	緩斜	平坦	自然	須磨器 2, 罐 1	
445	D7e3	-	円 形	1.23 × 1.23	14	緩斜	平坦	人爲	土師器 5, 須磨器 3	
446	D7c3	-	円 形	1.15 × 1.14	18	緩斜	平坦	人爲	土師器 1	
447	D7d2	-	円 形	1.34 × 1.18	24	外傾	凹状	自然	土師器 6, 須磨器 3	
448	D7d2	-	円 形	0.92 × 0.92	22	外傾	凹状	人爲	土師器 5, 須磨器 4, 罐 1	
449	D6i9	N-21'-E	長 方 形	4.35 × 1.04	40	外傾	平坦	人爲	須磨器 1	
451	D6g5	N-25'-E	隅丸長方形	1.20 × 0.94	74	垂直	平坦	人爲	陶器 2	
452	D6h8	N-26'-E	長 方 形	1.15 × 0.78	52	垂直	平坦	人爲		
454	DSi9	-	円 形	1.05 × 1.00	27	外傾	平坦	人爲		
455	D5g0	-	円 形	1.05 × 1.00	36	外傾	平坦	人爲	土師器 1, 須磨器 3	
456	D5h9	-	円 形	0.93 × 0.82	14	外傾	凹状	人爲	土師器 1	
457	D5h9	-	円 形	1.28 × 1.07	27	外傾	凹状	自然		
458	DSi9	-	円 形	0.95 × 0.90	17	緩斜	平坦	人爲		
459	DSi9	-	円 形	1.01 × 0.94	27	外傾	平坦	人爲		
460	D6ca	-	円 形	1.19 × 1.08	25	外傾	凹状	人爲	土師器 1, 須磨器 1	
461	C6j7	-	円 形	1.00 × 0.94	36	垂直	凹状	人爲		
462	D6b6	-	円 形	0.97 × 0.91	32	外傾	凹状	人爲	土師器 47, 須磨器 11, 陶器 2	
463	C6j6	-	円 形	1.25 × 1.16	29	緩斜	凹状	人爲	土師器 8, 須磨器 4	
464	D6aa	-	円 形	1.00 × 0.97	34	垂直	凹状	自然	土師器 8, 須磨器 8	
465	C6j5	-	円 形	1.18 × 1.05	28	外傾	凹状	人爲	須磨器 2, 灰陶器 1	
466	D6aa	N-19'-E	隅丸長方形	3.78 × 0.80	17	緩斜	平坦	人爲		SK-467
467	D6ba	-	円 形	0.78 × (0.83)	52	外傾	平坦	人爲		SK-466
468	C6es	-	[円形]	1.10 × (0.82)	22	緩斜	平坦	自然	須磨器 1	
469	C6i5	-	円 形	1.12 × 1.12	24	緩斜	平坦	人爲	土師器 2, 須磨器 3	
470	C6g7	N-16'-E	隅丸長方形	1.84 × 0.91	14	緩斜	平坦	自然		
471	C6es	-	円 形	0.78 × 0.76	28	外傾	平坦	人爲		
472	C6f5	-	円 形	1.04 × 1.00	20	緩斜	平坦	人爲	須磨器 1	
473	C6e4	-	円 形	1.18 × 1.14	28	緩斜	平坦	人爲	土師器 3, 須磨器 3	
474	C6d4	-	[円形]	1.00 × (0.82)	24	緩斜	平坦	自然		
475	C6h5	-	円 形	0.98 × 0.90	20	外傾	平坦	人爲	土師器 2, 須磨器 3	
476	C6i5	N-19'-E	隅丸長方形	0.75 × 0.58	22	外傾	凹状	自然	土師器 16, 須磨器 6	
477	C6g5	-	円 形	0.82 × 0.76	18	緩斜	平坦	自然	土師器 2	
478	C6h4	-	円 形	1.07 × 0.98	31	外傾	平坦	人爲	土師器 3	
479	C6i4	-	円 形	1.13 × 1.05	22	緩斜	平坦	人爲	土師器 2, 須磨器 1	
480	C6i4	-	円 形	1.05 × 0.96	18	外傾	平坦	人爲		
481	C6h4	-	円 形	0.84 × 0.80	36	外傾	凹状	自然	土師器 3	
482	C6i4	N-2'-E	楕円形	0.84 × 0.68	23	緩斜	平坦	人爲	土師器 2	
483	C6i4	-	円 形	0.84 × 0.78	11	緩斜	平坦	人爲		
484	C6g4	N-9'-E	楕円形	0.88 × 0.63	31	外傾	平坦	人爲	土師器 2	
485	C6h3	-	円 形	0.86 × 0.86	15	緩斜	平坦	自然	土師器 2, 須磨器 1	
486	C6h3	-	円 形	1.09 × 1.02	16	緩斜	平坦	人爲	土師器 4, 須磨器 1	
487	D6b5	-	円 形	1.28 × 1.18	40	外傾	平坦	人爲	土師器 2, 須磨器 2	
488	D6b4	-	円 形	1.23 × 1.16	39	外傾	平坦	人爲		
489	CSi9	-	円 形	1.10 × 1.07	40	垂直	凹状	人爲		
490	CSi8	-	円 形	1.30 × 1.23	27	外傾	凹状	人爲		
494	CSi6	-	円 形	0.97 × 0.97	34	垂直	平坦	人爲		
498	CSb4	N-16'-E	方 形	0.85 × 0.75	20	外傾	平坦	自然		

土坑 番号	位置	長径方向 (其他方向)	平面形	規 模		壁面	底面	葺土	出 土 遺 物	備 考 新田關係 (古一町)
				長径(距)×短径(距)(m)	厚S(m)					
499	C5f ₂	-	円 形	1.27 × 1.25	34	外傾	凹状	自然	土師器 10、須恵器 6	
500	C5e ₁	-	円 形	1.39 × 1.21	35	外傾	凹状	人為	須恵器 1	
502	C4a ₉	-	円 形	0.79 × 0.67	25	外傾	平直	自然		
503	C4a ₀	-	円 形	0.74 × 0.71	28	外傾	凹状	自然		
504	C4e ₀	-	円 形	1.05 × 0.96	20	傾斜	平直	人為	土師器 5、須恵器 4、鉄押 1、線 1	
505	C4d ₃	-	円 形	1.05 × 1.02	23	傾斜	平直	人為		
506	C4f ₀	-	円 形	1.05 × 1.00	26	外傾	平直	人為	須恵器 1	
507	C4e ₉	N-69°-W	楕丸長方形	1.74 × 1.42	22	傾斜	平直	人為		
508	C4f ₆	N-75°-W	[長方形]	(3.30) × 0.81	19	外傾	平直	自然	土師器 1、須恵器 1	
509	C4h ₄	-	円 形	1.12 × 0.97	24	外傾	平直	自然		
510	C4h ₃	N-17°-E	長 方 形	5.12 × 0.86	17	外傾	平直	自然		SK-512
511	C4i ₆	-	円 形	1.47 × 1.38	26	傾斜	平直	人為		SK-512
512	C4i ₅	N-75°-W	長 方 形	(2.25 × 0.90)	11	傾斜	平直	自然	土師器 2	SK-510, 511
513	D5c ₈	N-79°-W	不整長方形	1.03 × 0.69	19	外傾	平直	自然		
514	D5c ₈	N-0°	不整円形	1.10 × 0.86	20	外傾	平直	自然		
515	D5c ₇	N-5°-E	楕 円 形	1.08 × 0.56	23	傾斜	凹状	人為		
516	D5g ₇	-	円 形	0.76 × 0.76	24	外傾	平直	自然		
517	D5g ₆	-	円 形	0.84 × 0.77	23	外傾	平直	自然		
518	C5j ₄	N-25°-E	楕丸長方形	1.01 × 0.59	20	傾斜	凹状	人為		
519	C5i ₃	N-73°-W	楕丸長方形	0.89 × 0.65	25	傾斜	平直	自然		
520	D4a ₇	-	円 形	1.05 × 0.96	26	外傾	平直	人為	土師器 6、須恵器 2	
521	D5b ₁	N-19°-E	楕 円 形	1.33 × 0.72	42	傾斜	凹状	人為	土師器 2、須恵器 1	
522	D4a ₄	N-16°-E	長 方 形	1.26 × 0.86	17	傾斜	平直	自然		
523	D4a ₀	N-3°-W	楕 円 形	1.47 × 1.18	32	傾斜	凹状	人為	須恵器 1	
524	D5c ₄	N-29°-W	長 方 形	1.68 × 0.81	16	傾斜	平直	人為		
525	D5c ₃	N-23°-E	長 方 形	2.79 × 0.57	14	傾斜	平直	人為		
526	D4b ₇	-	円 形	1.32 × 1.30	52	外傾	凹状	人為	土師器 4、須恵器 1、鉄押 1	
527	D4b ₇	-	円 形	1.05 × 0.95	27	外傾	凹状	人為		
528	D4c ₇	-	円 形	1.25 × 1.21	35	外傾	凹状	人為		
529	D4c ₆	-	円 形	1.14 × 1.13	20	外傾	凹状	人為	土師器 1	
530	D4b ₅	-	円 形	1.33 × 1.33	25	傾斜	凹状	人為	土師器 3	
531	E5b ₇	-	円 形	1.26 × 1.19	23	外傾	凹状	自然		
532	E5b ₇	-	円 形	1.25 × 1.24	17	傾斜	平直	自然		
533	E5b ₆	-	円 形	1.29 × 1.15	14	傾斜	凹状	自然		
534	D5g ₅	N-66°-W	方 形	0.90 × 0.78	20	外傾	平直	自然		
535	D5g ₄	-	円 形	1.09 × 0.95	12	傾斜	凹状	人為		
536	D5h ₅	N-24°-E	長 方 形	1.05 × 0.90	22	外傾	平直	自然		
537	E5c ₆	-	円 形	1.17 × 1.10	31	外傾	平直	人為		
538	D5h ₄	-	円 形	0.92 × 0.92	8	傾斜	平直	人為		
539	D5j ₅	N-70°-W	長 方 形	3.54 × 0.89	30	外傾	平直	人為	土師器 4、陶器 1	
540	D5f ₅	-	円 形	1.03 × 0.99	24	傾斜	凹状	人為		
541	E5d ₄	N-20°-E	[長方形]	(1.90) × 0.80	48	垂直	平直	自然	土師器 4、陶器 1	
542	D5e ₂	-	[円形]	1.05 × (0.70)	24	傾斜	凹状	人為		本跡→SK-543
543	D5e ₂	N-30°-E	[楕円形]	(1.30) × 0.75	30	傾斜	凹状	人為		SK-542→本跡
544	D4i ₀	-	円 形	1.84 × 1.63	26	傾斜	凹状	人為	土師器 2、須恵器 1	
545	D4f ₀	-	円 形	0.90 × 0.80	16	傾斜	平直	自然		
546	D4h ₀	-	円 形	1.04 × 0.96	25	外傾	平直	人為		

土坑 编号	位置	方位方向 (坐标方向)	平面形	概 算		壁面	基底	覆土	出土 遺 物	備 考 新旧關係 (古→新)
				长(m)×短(m)	厚(m)					
547	D4h9	N-74'-W	圓 形	1.28 × 1.20	16	倾斜	平坦	人为		
548	D4c4	-	円 形	1.06 × 1.06	10	倾斜	凹状	人为		
549	E4a9	N-74'-W	長 方 形	1.53 × 0.78	16	外傾	平坦	自然		
550	D4c4	-	円 形	1.28 × 1.22	17	倾斜	凹状	人为 土層層3, 須惠層1		本跡→SK-581
551	D4j9	N-87'-W	長 方 形	0.89 × 0.63	24	倾斜	凹状	人为		
552	D4i8	N-30'-E	長 方 形	1.47 × 0.69	30	垂直	凹状	人为		SK-553→本跡
553	D4i8	N-70'-W	長 方 形	2.18 × 0.88	18	倾斜	凹状	人为		本跡→SK-552
554	D4j8	-	円 形	1.24 × 1.20	23	倾斜	凹状	人为		
555	D4j7	-	円 形	1.30 × 1.30	36	外傾	平垣	人为 土層層3, 砥石1		
556	E4a8	-	円 形	1.14 × 1.07	21	外傾	平垣	人为 須惠層1, 陶器1		
557	D4i7	-	円 形	1.15 × 1.09	12	倾斜	平垣	人为		
558	D4i5	-	円 形	0.90 × 0.95	32	外傾	平坦	人为 土層層2, 須惠層1		
559	D4i5	-	円 形	1.14 × 1.04	31	外傾	平垣	人为		
560	D4i5	-	円 形	1.23 × 1.12	21	倾斜	平垣	人为		
561	D4i5	-	円 形	1.30 × 1.22	36	外傾	平垣	人为		
562	D4i4	-	円 形	1.30 × 1.12	13	倾斜	凹状	人为 須惠層1		
563	D4g4	-	円 形	1.19 × 1.11	12	倾斜	凹状	人为		
564	D4b4	-	円 形	1.16 × 1.12	12	倾斜	凹状	人为		
565	D4i3	-	円 形	1.29 × 1.17	20	倾斜	凹状	人为 須惠層1		
566	D4g4	-	円 形	1.21 × 1.19	26	倾斜	凹状	人为 土層層2, 須惠層1		
567	D4b3	-	円 形	1.30 × 1.35	35	倾斜	凹状	人为		
568	D4b3	-	円 形	1.48 × 1.46	32	倾斜	凹状	人为 土層層4, 須惠層1		
569	D4g4	-	円 形	1.27 × 1.21	23	倾斜	凹状	人为 土層層2, 須惠層3, 陶器2		
570	D4h3	-	円 形	1.43 × 1.36	47	外傾	凹状	人为 土層層2		
571	D4b3	-	円 形	1.38 × 1.34	39	外傾	凹状	人为 土層層1		
572	D4g3	-	円 形	1.13 × 1.12	19	外傾	平垣	人为 土層層1, 須惠層1		
573	D4b3	-	円 形	1.46 × 1.44	45	外傾	凹状	人为		
574	D4g3	-	[円 形]	1.07 × (0.83)	14	倾斜	平垣	人为		本跡→SK-575
575	D4g3	-	円 形	1.00 × 0.88	11	倾斜	凹状	人为		SK-574, 576→本跡
576	D4g2	-	[円 形]	1.16 × 1.12	30	外傾	平坦	人为		本跡→SK-575
577	D4h2	-	円 形	1.20 × 1.10	16	倾斜	凹状	人为		
578	D4g2	-	円 形	1.15 × 1.12	19	倾斜	凹状	人为 土層層1, 須惠層1		
579	D4g2	-	円 形	1.34 × 1.24	20	外傾	凹状	人为 須惠層1		
580	D4g2	-	円 形	1.35 × 1.28	26	外傾	凹状	人为		
581	D4c4	N-62'-W	長 方 形	1.17 × 0.67	29	外傾	平垣	自然		SK-550→本跡
582	D4c4	-	円 形	1.25 × 1.17	30	外傾	凹状	人为		
583	D4d4	-	円 形	1.24 × 1.22	24	外傾	平垣	人为		
584	D4d3	-	円 形	1.36 × 1.30	19	倾斜	凹状	人为		
585	D4e2	-	[円 形]	1.20 × (1.00)	13	倾斜	凹状	人为		SI-113→本跡
586	D4f2	-	円 形	1.21 × 1.08	14	倾斜	凹状	人为 土層層3		
587	B7h5	-	円 形	1.30 × 1.11	28	倾斜	凹状	人为 土層層14, 須惠層6		SI-83→本跡
588	B7g6	N-60'-E	不 規 則 形	(2.70 × 0.80)	57	倾斜	平垣	自然 土層層50, 須惠層44, 礫1		本跡→SI-96
596	A6b4	-	円 形	1.16 × 1.14	24	倾斜	平垣	不明 土層層3, 陶器1		
599	A7d2	N-80'-W	不 規 則 形	1.67 × 0.96	35	倾斜	凹状	自然		
601	A6g2	-	円 形	0.86 × 0.70	29	倾斜	凹状	人为 須惠層1		SD-28→本跡
603	A5g5	-	円 形	1.18 × 1.05	32	倾斜	凹状	人为 土層層2, 須惠層1, 礫1		
607	A5f7	N-82'-W	橢 圓 形	0.94 × 0.79	54	垂直	平垣	自然 須惠層1		

土坑 番号	位置	長短方向 (長短方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(m)					
608	A5g7	N-44'-W	槽形	0.84 × 0.71	49	垂直	平底	自然		
610	A5d5	-	円形	1.34 × 1.25	56	外傾	平底	人為	土師器 28, 須恵器 2	
611	C7a4	-	円形	1.31 × 1.25	48	外傾	凹状	自然	土師器 6, 須恵器 1	

表10 埋葬施設一覽表

埋葬 施設 番号	位置	長短方向 (長短方向)	平面形	規模			壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)		深さ(m)					
				上面(m)	底面(m)						
1	B7c4	N-0'	槽形	0.50 × 0.40	0.16 × 0.13	25	外傾	凹状	人為	土師器 20	SI-84→本誌

表11 溝一覽表(付図, 第180図)

溝 番号	中心 位置	主軸方向	規模				壁面	断面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
			長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)					
21	A7g1	N-71'-W N-13'-E	(38.9)	0.4 ~ 0.9	0.1 ~ 0.3	22~88	垂直	□	人為	土師器 11, 須恵器 8, 陶器 2, 銅器 7, 鉄器 3	本誌→SK-598 SD-28
22	E5a1 D6c4	N-25'-E	(83.9)	(0.6 ~ 1.0)	(0.2 ~ 0.5)	22	傾斜	∪	不明	土師器 381, 須恵器 191, 陶器 1, 漆 2	SI-78, 79, 80, 95, 116, 117, 126, 127, 139→本誌
23	C5i5	N-60'-W	88.0	0.4 ~ 1.4	0.2 ~ 1.3	11	傾斜	∪	自然	土師器 9, 須恵器 16, 陶器 3, 漆 1	SI-121, 125, 134→本誌 SD-24
24	D5f5	N-22'-E	29.2	0.6 ~ 1.2	0.3 ~ 0.5	19	傾斜	∪	不明	土師器 8, 須恵器 2	SI-124, 125→本誌 SD-23
25	C4j9	N-80'-E	9.6	0.5 ~ 0.9	0.2 ~ 0.5	9	傾斜	∪	自然	土師器 1, 須恵器 2	
26	E5a2	N-9'-E	(14.8)	1.1 ~ 1.6	0.4 ~ 0.9	11	傾斜	∪	人為		
27	A6d2	N-7'-E	(21.0)	(1.0 ~ 1.4)	(0.5 ~ 0.8)	22~29	傾斜	∪	自然	土師器 2, 須恵器 6, 陶器 1	本誌→SD-28
28	A6h3	N-11'-E N-17'-E N-73'-W	(56.1)	0.4 ~ 0.7	0.2 ~ 0.3	30~42	外傾 垂直	∪ 	人為	土師器 66, 須恵器 47, 陶器 7, 銅器 6, 鉄器 3, 漆 9	SD-27→本誌→SK-601 SD-21

第4節 まとめ

当遺跡からは、今回の調査で旧石器時代から近世までの遺構と遺物が検出され、これまでの先人の生活の一端について少なからず解明することができた。ここでは、時代ごとに調査の結果を記述し、まとめとする。

1 旧石器時代から縄文時代までの遺構と遺物について

当遺跡からは、旧石器時代の石器（ナイフ形石器、剥片）、縄文時代の土器片と石器（石鏃、凹石、石錐）が出土していることから、当遺跡は長い時代を通じて、人々の生活と何らかのかかわりのあった場所であることがうかがえる。これらの遺物は、表層または他の時代の遺構に混入していたものである。

縄文時代の遺構は、調査区北部で陥し穴（第609号土坑）が確認されている。北側は傾斜面になっており、傾斜に対し直行するように構築されている。当遺跡から石鏃が多く出土していることから、遺跡付近は縄文時代は狩猟の場として利用されていたものとみられる。

縄文土器片は、縄文時代早期から後期までのものが出土している。⁹⁾ほとんどの土器片は表層である。住居跡が存在した可能性もあるが、耕作等による攪乱のため確認することができなかった。しかし、当時の人々の生活とのかかわりのあった場所であると考えられる。

2 古墳時代から平安時代までの集落変遷（第185・186図）

当遺跡からは、今回の調査で古墳時代の竪穴住居跡1軒、奈良時代の竪穴住居跡2軒、平安時代の竪穴住居跡40軒、奈良から平安時代と思われる竪穴住居跡1軒を検出した。そこで、出土遺物と住居跡との関係をもとに、時期の明確な52軒を3期に区分して、各期ごとの集落の変遷について検討することにする。

○I期 古墳時代後期（7世紀）

調査区北部の第95号竪穴住居跡の1軒が該当する。住居跡の主軸方向はN-14°-W、平面形は長方形で、規模は21㎡の中形の住居跡である。¹⁰⁾平成7年度の調査では、古墳時代後期（6～7世紀）の竪穴住居跡は調査A区から1軒、調査B区から8軒が検出されており、軒数は少ないものの、調査C区にも集落の範囲が及んでいたことがわかる。出土遺物には、土師器杯・甕、須恵器蓋などがある。内・外面黒色処理の土師器杯も出土している。

○II期 奈良時代（8世紀）

8世紀前半の第86・88・99・117・119・120・123号竪穴住居跡、中葉の第100・118・122・126・138号竪穴住居跡、後葉の第81・94・98・101・106・114・116号竪穴住居跡が該当する。前葉から中葉の住居跡は、調査区の全域から検出されているが、後葉になると東部から北部に集中している。住居跡の主軸方向はN-6°-W～N-17°-Eの範囲で、ほとんどが東寄りの主軸を持っている。特に、N-6°-W～N-10°-Eの範囲に主軸を持っている住居が13軒あることから、規則性が認められる。平面形は方形または隅丸方形がほとんどで、規模は53%が大・中形の住居跡で、小形の住居跡は47%を占めている。そのうち、8世紀前半の第117号竪穴住居跡（55㎡）や8世紀中葉の第100号竪穴住居跡（40㎡）のように、超大形の規模を有する住居跡が出現しているのも特徴である。

出土遺物には、土師器杯・甕、須恵器杯・高台付杯・盤・蓋・甕などがある。須恵器は胎土に白雲母を含み、

軟質ぎみの焼成の新治窯産須恵器が大部分を占めている。須恵器環は丸底から平底に変化し、底径が大きくなり、器高が低い様相を呈し、底部は回転ヘラ切り後、ヘラ削り調整を行っている。また、第120号住居跡等から出土している8世紀前葉の須恵器環には二次底部面をもつものも見られる。

○Ⅲ期 平安時代(9世紀)

9世紀前葉の第84・105号住居跡、中葉の第87・91・110・127・128・139号住居跡、後葉の第80・83・85・89・92・93・96・102～104・107・109・112・115・121・124・125・130～132-A・B、134～137号住居跡が該当する。前葉の住居跡は、調査区の北部で検出されているが、中葉になると北部から中央部に広がり、後葉には調査区の全域に広く分散している。人口の増加によって、住居の数も増加していったと考えられる。住居跡の主軸方向はN-17°-W～N-77°-Eの範囲で、東寄りの主軸を持っている住居跡が多い。特に、N-0°～N-28°-Eの範囲に主軸を持っている住居跡が18軒みられるが、主軸の幅は他の時期より広がりが見られる。平面形は方形または隅丸方形が67%で、規模は第137号竪穴住居跡の24㎡を最大とするが、94%が小形の住居跡である。前期よりも小形化が進んでいることがわかる。また、住居の東側やコーナー部に竈を持つ住居跡が見れる。

出土遺物には、土師器環・高台付環・高台付皿・甕、須恵器環・高台付環・高台付皿・甕・鉢、灰釉陶器などがある。須恵器環は、Ⅱ期より口径に対する底径の比が小さくなり、器高の増加がみられ、体部下端から底部にかけて、手持ちヘラ削り調整を行っている。また、十分な還元状態で焼き上げない土師質の須恵器環も多く出土している。後半になると、ロクロ成形の土師器環が増え、内面をヘラ磨きした後、黒色処理を施しているものが多くなる。その他に、第133号竪穴住居跡からは、黒径90号窯式と考えられる灰釉陶器長頸瓶が、第137号竪穴住居跡からは、黒径14号窯式と考えられる灰釉陶器高台付碗が出土している。

3 中世から近世までの変遷について

当遺跡は、中世から近世にかけては、主に墓域としての役割を担っていたと考えられる。墓域と考えられる土坑は、調査区北側の第28号溝付近と調査区西側に多く集中している。形態としては、楕円形を呈する土坑(1基)、長方形を呈する土坑(21基)である。土坑からは人骨は出土しておらず、遺物も少ないため、時期判断は困難である。しかし、第453号土坑から白銅製の和鏡「松樹千鳥鏡」と黒漆塗りの一本造りの漆器鏡が出土しており、中世初期の墓域と考えられる。また、第497号土坑からは短刀が、第605号土坑からは煙管の吸い口が出土しており、中世から近世の墓域の可能性が高く、ともに副葬品と考えられる。

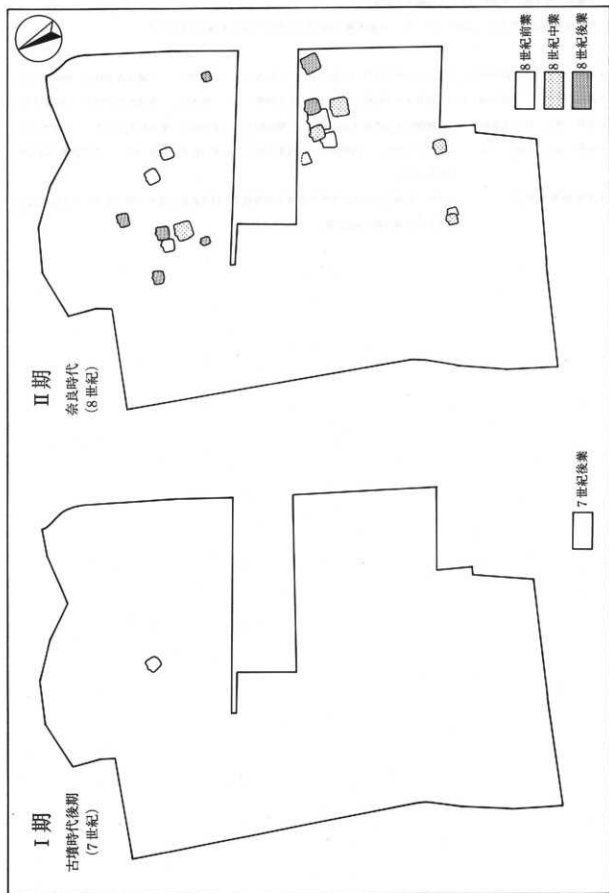
以上をまとめると、今回の調査で、神田遺跡においては、縄文時代から近世までの人々の生活の痕跡を確認することができた。遺跡付近は縄文時代は狩猟の場として利用され、7世紀後葉に集落が形成され、平安時代の9世紀にかけて、多数の住居が繰り返して構築され、9世紀後葉にそのピークを迎え、後に分散していく傾向がうかがえる。中世になると、この地は墓域として利用されるようになり、しばらくは住居も造られなかったと考えられる。当遺跡は、古墳時代から平安時代の集落跡と、中世から近世の墓域が中心の複合遺跡であることが明らかになった。

註・参考文献

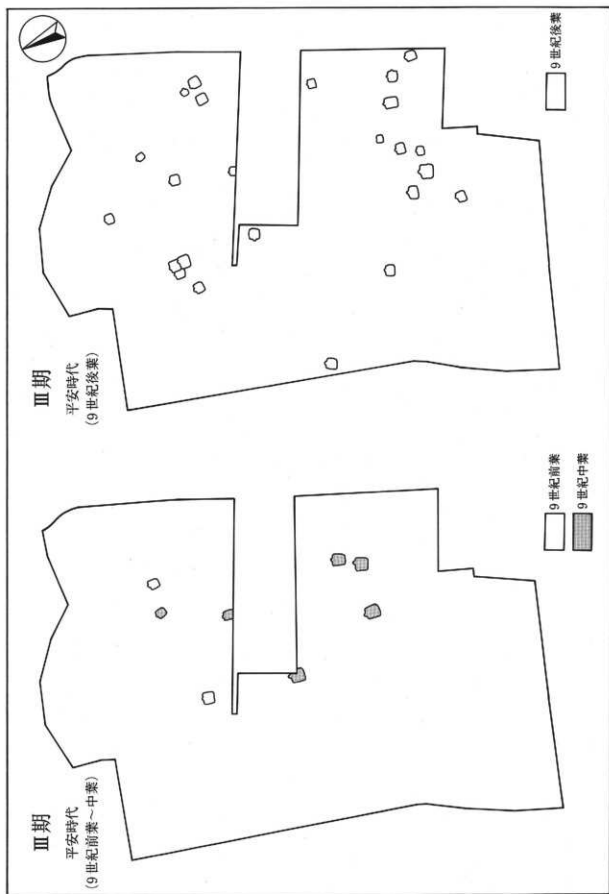
(1) 茨城県立歴史館の斎藤弘道氏の土器編年による。

(2) 竪穴住居跡の大きさは、30㎡以上を大形、30㎡未満20㎡以上を中形、20㎡未満を小形とした。

- ・ 浅井 哲也 「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅰ）」『研究ノート 創刊号』茨城県教育財団 1992年7月
- ・ 浅井 哲也 「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅱ）」『研究ノート 第2号』茨城県教育財団 1993年7月
- ・ 赤井 博之、佐々木義則 「新治窟跡群産須恵器環AIの変化」『婆良岐考古 第18号』婆良岐考古同人会 1996年5月
- ・ 赤井 博之、吉澤 悟 「茨城県千代田町一丁田窟跡出土須恵器の検討」『婆良岐考古 第19号』婆良岐考古同人会 1997年5月
- ・ 茨城県教育財団 「(仮称)葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 神田遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第121集』 1997年3月



第185圖 時期別住居跡配置図(1)



第186図 時期別住居跡配置図(2)